

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第503集

むかい なか の だて

向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

2007

独立行政法人都市再生機構
岩手県盛岡市
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

むかい なか の だて

向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところで。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡市新都市計画整備事業に関連して平成16年度に発掘調査された向中野館遺跡の第5次・第6次調査成果をまとめたものです。今回の調査では平安時代の土師器・須恵器の他、杯や皿などの木製品や木筒、墨書土器・刻書土器などの文字資料も多く出土した包含層や、第3・4次調査の罫跡の続きなどが見つかりました。このことから平安時代にはこれまで確認されている同時期の一般集落とは異なる場の利用が明らかとなりました。

県内ではこれまで低湿地の調査事例は非常に少なく、地域の歴史に新たな一頁を書き加えることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました盛岡市都市整備部、独立行政法人都市再生機構、盛岡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田 牧雄

例 言

1. 本報告書は、岩手県盛岡市飯岡新田第2地割171-3ほかにある向中野館遺跡において、平成16年度に実施した第5次・第6次発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調整を経て、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所と盛岡市の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 野外調査期間、調査面積、調査番号、同担当者、室内整理期間、同担当者は第I章第3節「調査要項」に記した。
4. 本書の執筆は第I章・第II章を早坂淳、第III章～第V章を北村忠昭、第VI章を石崎高臣が担当した。なお、木簡、墨書土器・刻書土器の文字の判読は石崎と北村が行った。
5. 出土遺物の鑑定・分析・保存処理は次の機関に委託した（敬称略）。昆虫同定、種実同定、土壌分析、樹種同定の報告は附編に収録している。
石質鑑定：花崗岩研究会、昆虫同定・種実同定・土壌分析：パリオ・サーヴェイ株式会社、
樹種同定・出土木製品保存処理・出土鉄製品保存処理：新日鐵釜石文化財処理センター
6. 野外調査、室内整理にあたり盛岡市開発部盛岡開発課、盛岡市教育委員会、独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所、近隣住民の方々の御理解と御協力をいただいた。
7. 発掘調査や整理・報告書の作成は以下の方々に御教示・御協力をいただいた。（順不同、敬称略）大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）、平川南（人間文化研究機構・国立歴史民俗博物館）、永嶋正春・坂本稔（国立歴史民俗博物館）、村本周三（総合研究大学大学院）、神原雄一郎（盛岡市教育委員会）、小保内裕之・小久保拓也（八戸市教育委員会）、木村淳一・設楽政健（青森市教育委員会）、木村高（青森県立郷土館）、赤沼英男・時出里志（岩手県立博物館）、廣瀬真理子（多賀城市埋蔵文化財センター）
8. 本報告書では、国土地理院発行「盛岡 1：50,000」及び「口詰 1：50,000」地形図を使用した。
9. 土層注記及び出土土器の色調の記載は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所「色票監修『新版 標準土色帖』2002年度版に準拠した。
10. 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。
11. 本報告書発行以前に現地公開資料、平成16年度発掘調査報告書等で調査成果を公表したが、本報告書を正とする。

目 次

I 調査経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 過去の調査	1
3 調査要項	2
II 遺跡の立地・環境	4
1 地理的環境	4
(1) 遺跡の位置と立地	4
(2) 遺跡周辺の地形と地質	6
(3) 基本層序	6
2 歴史的環境	9
III 野外調査と室内整理	15
1 野外調査	15
(1) 発掘調査の方法	15
(2) 調査経過	18
2 室内整理	19
(1) 整理作業の方法	19
(2) 作業経過	20
IV 検出遺構と出土遺物	25
1 土 坑	25
2 堀跡・溝跡	26
3 不明遺構	34
4 柱 穴 群	39
5 带状礫密集部	40
6 包含層・遺物集中部	40
7 遺構外出土遺物	97
(1) 土師器・須恵器	97
(2) 土 製 品	97
(3) 磁器・陶器・磁器製品	97
(4) 石器・石製品	98
(5) 金 属 製 品	100

(6) 古 銭	101
(7) 木 製品	101
(8) 自然遺物	104
8 文字資料	107
(1) 木 簡	107
(2) 封 緘木簡	109
(3) 墨書土器	109
(4) 刻 書土器	111
V ま と め	164
1 遺 構	164
(1) 古 代	164
(2) 中 世	164
2 遺 物	167
(1) 平安時代の土器	167
(2) 平安時代の木製品	183
(3) 中近世の遺物	184
3 総 括	184
VI 考 察	189
1 盛岡市向中野館遺跡出土「厨□」銘墨書土器について	189
2 向中野館遺跡第5次調査出土封緘木簡について	194
附編 I 向中野館遺跡の自然科学分析	197
1 種実遺体同定	197
2 昆虫化石同定	204
3 植物珪酸体分析	206
附編 II 向中野館遺跡出土木製品の樹種同定	208
1 第5次調査出土木製品の樹種同定	208
2 第6次調査出土木製品の樹種同定	209
報告書抄録	297

図 版 目 次

第1図	調査区位置図	3	第43図	R Z 007出土遺物 (3)	67
第2図	遺跡位置図	4	第44図	R Z 007出土遺物 (4)	68
第3図	調査区と遺跡周辺の地形	5	第45図	R Z 007出土遺物 (5)	69
第4図	地形分類図	7	第46図	R Z 007出土遺物 (6)	70
第5図	基本順序	8	第47図	R Z 007出土遺物 (7)	71
第6図	周辺の遺跡	11	第48図	R Z 007出土遺物 (8)	72
第7図	グリッド配置図	16	第49図	R Z 007出土遺物 (9)	73
第8図	トレンチ位置図	17	第50図	R Z 007出土遺物 (10)	75
第9図	凡例	20	第51図	R Z 007出土遺物 (11)	79
第10図	遺構配置図	23	第52図	R Z 007出土遺物 (12)	80
第11図	R D 010	25	第53図	R Z 007出土遺物 (13)	81
第12図	R D 010出土遺物	25	第54図	R Z 007出土遺物 (14)	82
第13図	R G 006 (1)	25	第55図	R Z 007出土遺物 (15)	83
第14図	R G 006 (2)	29	第56図	R Z 007出土遺物 (16)	84
第15図	R G 006 (3)	31	第57図	R Z 007出土遺物 (17)	85
第16図	R G 006出土遺物	32	第58図	R Z 007出土遺物 (18)	86
第17図	R G 009	33	第59図	R Z 007出土遺物 (19)	87
第18図	R Z 002・003	35	第60図	R Z 007出土遺物 (20)	88
第19図	R Z 002・003出土遺物	36	第61図	R Z 007出土遺物 (21)	89
第20図	R Z 004	37	第62図	R Z 007出土遺物 (22)	90
第21図	R Z 005	39	第63図	R Z 007出土遺物 (23)	91
第22図	R Z 009	41	第64図	R Z 008セクション図	92
第23図	R Z 006	42	第65図	R Z 008遺物分布図 (1)	93
第24図	R Z 006出土遺物	42	第66図	R Z 008遺物分布図 (2)	94
第25図	R Z 007セクション図 (1)	44	第67図	R Z 008出土遺物	95
第26図	R Z 007セクション図 (2)	45	第68図	遺構外出土遺物 (1)	99
第27図	R Z 007遺物出土状況 (1)	46	第69図	遺構外出土遺物 (2)	100
第28図	R Z 007遺物出土状況 (2)	47	第70図	遺構外出土遺物 (3)	105
第29図	R Z 007遺物出土状況 (3)	48	第71図	遺構外出土遺物 (4)	106
第30図	R Z 007遺物出土状況 (4)	49	第72図	文字資料 (1)	107
第31図	R Z 007遺物出土状況 (5)	50	第73図	文字資料 (2)	108
第32図	R Z 007遺物出土状況 (6)	51	第74図	文字資料 (3)	110
第33図	R Z 007遺物出土状況 (7)	52	第75図	文字資料 (4)	111
第34図	R Z 007遺物出土状況 (8)	53	第76図	R Z 007木製品出土状況図 (1)	165
第35図	R Z 007遺物出土状況 (9)	54	第77図	R Z 007木製品出土状況図 (2)	166
第36図	R Z 007遺物出土状況 (10)	55	第78図	R Z 007・008出土土壌集成図 (1)	168
第37図	R Z 007遺物出土状況 (11)	56	第79図	R Z 007・008出土土壌集成図 (2)	169
第38図	R Z 007遺物出土状況 (12)	57	第80図	向中野館遺跡出土土法量分布 (1)	170
第39図	R Z 007遺物出土状況 (13)	58	第81図	向中野館遺跡出土土法量分布 (2)	171
第40図	R Z 007遺物出土状況 (14)	59	第82図	R Z 007出土土壌組成	172
第41図	R Z 007出土遺物 (1)	65	第83図	墨書・刻書の部位と器種	174
第42図	R Z 007出土遺物 (2)	66			

第84図	盛南地区遺跡出土の主な黒書土器・ 刻書土器(1)……………176
第85図	盛南地区遺跡出土の主な黒書土器・ 刻書土器(2)……………177
第86図	盛南地区遺跡出土の主な黒書土器・ 刻書土器(3)……………178
第87図	盛南地区遺跡出土の主な黒書土器・ 刻書土器(4)……………179

第88図	向中野館遺跡出土の中世木簡と主な符笈礎 ……………184
第89図	主な盛南地区遺跡出土の土器組成……………185
第90図	「厨」銘黒書土器……………189
第91図	封滅木簡……………194

目 次

第1表	発掘調査結果一覧……………1
第2表	周辺の遺跡一覧(1)～(3)……………12～14
第3表	新旧遺構名比較表……………17
第4表	遺構・遺物図版凡例……………22
第5表	R Z 005柱穴計測値一覧……………39
第6表	R Z 007新旧層名対比表……………45
第7表	R Z 007出土木製品分類一覧……………75
第8表	R Z 008新山層名対比表……………94
第9表	遺構外出土木製品分類一覧……………101
第10表	墨書・刻書一覧(1)・(2)……………112・113
第11表	遺物出土量一覧(1)～(8)……………114～116
第12表	土師器・須恵器観察表(1)～(17) ……………117～133

第13表	磁器観察表……………134
第14表	陶器観察表……………135
第15表	石器・石製品観察表……………136
第16表	金属製品観察表……………137
第17表	窯道具・土製品・磁器製品観察表……………137
第18表	木製品観察表(1)～(10)……………138～147
第19表	木製品計測表(1)～(11)……………148～158
第20表	R Z 007出土土器一覧(1)～(5) ……………159～163
第21表	坏類の分類……………167
第22表	遺跡別文字の種類……………175
第23表	盛南地区遺跡出土の黒書土器・ 刻書土器一覧(1)～(3)……………180～182

写真図版目次

写真図版1	空撮(1)
写真図版2	空撮(2)・現況・現地公開
写真図版3	層序
写真図版4	R D 010・R G 009
写真図版5	R G 006(1)・R Z 005(1)
写真図版6	R G 006(2)
写真図版7	R Z 002・R Z 003
写真図版8	R Z 004・R Z 005(2)
写真図版9	R Z 006・R Z 008
写真図版10	R Z 007(1)
写真図版11	R Z 007(2)
写真図版12	R Z 007(3)
写真図版13	R Z 007(4)
写真図版14	R Z 007(5)
写真図版15	R Z 007(6)・R Z 009・作業風景
写真図版16	R D 010・R G 006・R Z 002出土

	土師器・須恵器
写真図版17	R Z 004・R Z 006出土土師器・須恵器
写真図版18	R Z 007出土土師器・須恵器(1)
写真図版19	R Z 007出土土師器・須恵器(2)
写真図版20	R Z 007出土土師器・須恵器(3)
写真図版21	R Z 007出土土師器・須恵器(4)
写真図版22	R Z 007出土土師器・須恵器(5)
写真図版23	R Z 007出土土師器・須恵器(6)
写真図版24	R Z 007出土土師器・須恵器(7)
写真図版25	R Z 007出土土師器・須恵器(8)
写真図版26	R Z 007出土土師器・須恵器(9)
写真図版27	R Z 007出土土師器・須恵器(10)
写真図版28	R Z 007出土土師器・須恵器(11)
写真図版29	R Z 007出土土師器・須恵器(12)
写真図版30	R Z 008出土土師器・須恵器(1)
写真図版31	R Z 008出土土師器・須恵器(2)

- 写真図版32 遺構外出土土師器・須恵器
 写真図版33 R G 006・R Z 004・遺構外出土陶磁器
 写真図版34 遺構外出土陶磁器
 写真図版35 出土土製品・石製品・磁器製品・石器
 写真図版36 出土石器
 写真図版37 出土金属製品
 写真図版38 R G 006・R Z 002出土木製品
 写真図版39 R Z 007出土木製品 (1)
 写真図版40 R Z 007出土木製品 (2)
 写真図版41 R Z 007出土木製品 (3)
 写真図版42 R Z 007出土木製品 (4)
 写真図版43 R Z 007出土木製品 (5)
 写真図版44 R Z 007出土木製品 (6)
 写真図版45 R Z 007出土木製品 (7)
 写真図版46 R Z 007出土木製品 (8)
 写真図版47 R Z 007出土木製品 (9)
 写真図版48 R Z 007出土木製品 (10)
 写真図版49 R Z 007出土木製品 (11)
 写真図版50 R Z 007出土木製品 (12)
 写真図版51 R Z 007出土木製品 (13)
 写真図版52 R Z 008・遺構外出土木製品 (1)
 写真図版53 遺構外出土木製品 (2)
 写真図版54 遺構外出土木製品 (3)
 写真図版55 遺構外出土木製品 (4)
 写真図版56 杭加工部位アップ (1)
 写真図版57 杭加工部位アップ (2)
 写真図版58 文字資料 (1)
 写真図版59 文字資料 (2)
 写真図版60 文字資料 (3)
 写真図版61 文字資料 (4)
 写真図版62 文字資料 (5)
 写真図版63 出土種子・獣骨
 写真図版64 土器底面 (1)
 写真図版65 土器底面 (2)
 写真図版66 土器底面 (3)
 写真図版67 種実遺体 (1)
 写真図版68 種実遺体 (2)
 写真図版69 種実遺体 (3)
 写真図版70 昆虫化石・植物珪酸体
 写真図版71 木材 (1)
 写真図版72 木材 (2)
 写真図版73 木材 (3)
 写真図版74 木材 (4)
 写真図版75 木材 (5)
 写真図版76 木材 (6)

I 調査経緯

1 調査に至る経過

盛岡南新都市開発事業は、経済・文化などに対する各機能を兼ね備えた北東北の拠点都市を目指して、現在の既成市街地の他に市域の南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都市を形成するために策定された土地区画整備事業である。平成3年度から平成17年度までの15年を事業予定期間として、対象面積313haに及ぶ土地区画整備事業が進められている。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取扱いについても協議が重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い、本調査を必要とする範囲を確定し、本調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業として実施することとなった。

本遺跡第5次・第6次調査については、岩手県教育委員会が盛岡市との協議の結果、平成16年度の事業として確定した。これを受け、平成16年4月1日に、財団法人岩手県文化振興事業団理事長と盛岡市長との間で委託契約を締結し発掘調査を実施する運びとなった。

2 過去の調査

向中野館遺跡は平成7年と平成8年に、遺跡の範囲を確定するために2次の試掘調査を行った。その結果を踏まえて、平成10年以降、第3次～第6次の本調査が行われた(第1図、第1表)。本調査分の調査面積は約7千4百㎡で、遺跡として確認されている範囲(約2万㎡)の約37%である。これまでの調査の結果、平安時代の竪穴住居跡や中世と考えられる堀跡が確認され、平安時代は集落として、中世には城館として利用されていたことが判明している。今回はそのうち第5次・第6次調査についての報告である。

なお、第3次調査の成果は「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第338集 向中野館跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書」、第4次調査の成果は「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第321集 向中野館跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書」に収録されている。

第1表 発掘調査結果一覧

回数	調査方法	所在地	面積 (㎡)	調査期間	調査原因	調査機関
1	試掘		991	950925～0929	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
2	試掘		110	961114～1115	盛南開発関連	盛岡市教育委員会
3	本調査	飯岡新田2地割地内	2,944	980519～0807	盛南開発関連	当埋文センター
4	本調査	飯岡新田2地割地内	911	980519～0807	盛南開発関連	当埋文センター
5	本調査	飯岡新田2地割地内	467	040715～1008	盛南開発関連	当埋文センター
6	本調査	飯岡新田2地割地内	3,074	040607～1008	盛南開発関連	当埋文センター

3 調査要項

- | | |
|------------|---|
| 1. 遺跡名・所在地 | 向中野館遺跡（岩手県遺跡台帳番号 L E 26-0205）
盛岡市飯岡新田第2地割171-3ほか |
| 2. 調査期間 | 第5次調査：平成16年（2004年）7月15日～10月8日
第6次調査：平成16年（2004年）6月7日～10月8日 |
| 3. 調査面積 | 第5次調査 467㎡
第6次調査 3,074㎡
（面積合計 3,541㎡） |
| 4. 調査番号 | 第5次調査 略号OMN-04-5
第6次調査 略号OMN-04-6 |
| 5. 調査委託者 | 第5次調査 独立行政法人都市再生機構岩手都市開発事務所
第6次調査 盛岡市 |
| 6. 調査担当機関 | 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター |
| 7. 調査協力機関 | 盛岡市教育委員会 |
| 8. 調査担当者 | 第5次調査 文化財調査員 早坂 淳
第6次調査 文化財調査員 北村忠昭 早坂 淳 |
| 9. 室内整理期間 | 第5次調査 平成17年（2005年）2月1日～3月31日
平成17年（2005年）7月1日～7月31日
第6次調査 平成16年（2004年）11月1日～平成17年（2005年）3月31日
平成17年（2005年）6月1日～6月30日 |
| 10. 整理担当者 | 第5次調査 文化財調査員 早坂 淳 北村忠昭
第6次調査 文化財調査員 北村忠昭 |



第1図 調査位置図

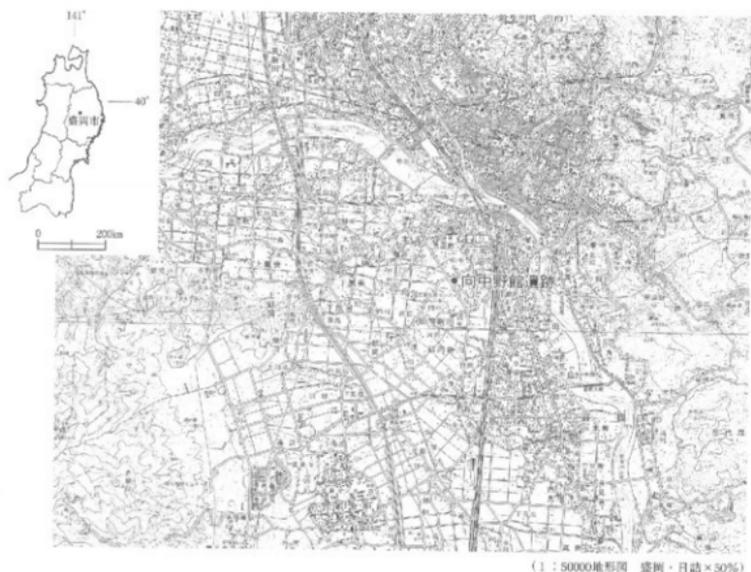
II 遺跡の立地・環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の位置と立地

向中野館遺跡の所在する盛岡市は、西の奥羽山脈と東の北上山地との間を南流する北上川が形成した北上盆地の北端に位置し、北は岩手郡滝沢村・玉山村、東は下閉伊郡岩泉町・川井村、南は紫波郡矢巾町・紫波町、裨貫郡大迫町、西は岩手郡雫石町の5町3村と接している（平成17年7月現在）。盛岡市の町造りは慶長2（1597）年に南部信直が盛岡城の築城に取りかかったことに始まる。明治22年には全国39都市の一つとして市制が施行され、現在は岩手県の県庁所在地であり、東西約37.7km、南北23.6km、総面積489.15km²、総人口約28万人の県最大の都市（平成17年7月現在）である。市域の西側を東北地方交通の大動脈である東日本旅客鉄道東北新幹線、と東北縦貫自動車道、国道4号が南北に縦貫し、東日本旅客鉄道秋田新幹線と国道46号が西の秋田県に通じている優位性を活かして、北部太平洋側における中核都市として発展を続けている。

向中野館遺跡は、東日本旅客鉄道仙北町駅から南西に約1.3kmに位置し、盛岡市飯岡新田地内に所在している。国土地理院発行の2万5千分の1地形図「盛岡」NJ-54-13-14-2（盛岡14号-2）、同5万分の1地形図「盛岡」NJ-54-13-14（盛岡14号）の図幅に含まれ、第5次調査区は北緯39度40分41秒、東経141度8分19秒、第6次調査区は北緯39度40分41秒、東経141度8分18~21秒に位置



第2図 遺跡位置図



第3図 調査区と遺跡周辺の地形

する(第2図)。

調査区は零石川右岸の低位段丘及び氾濫原旧河道上に立地し、旧向中野幼稚園の跡地にあたる。東西約100m、南北約42mの長方形で、第5次調査区の面積は467m²、第6次調査区は3,074m²である。平成10年に行われた第3・4次調査区が北側に隣接する。現況での標高は122m前後である(第3図)。

本遺跡の約20m西には飯岡才川遺跡が位置し、南側は隣接して細谷地遺跡が位置している。

(2) 遺跡周辺の地形と地質

盛岡市域の中央部を北上川が、支流の零石川・中津川・築川と合流して南流し、東西に迫る山々に挟まれた盛岡盆地を形成している。市街地はこの盆地の中心部に広がっており、市街地からは、北西側に「南部片富士」や「巖鷲山」と呼ばれる岩手山(標高2,038.2m)、北東側には姫神山(標高1,124.5m)、南東側には北上山地最高峰である早池峰山(標高1,913.5m)を望むことができる。

北上川は県北部の岩手町御堂観音境内にその源を発し、延長243km、流域面積10,720km²、支流数216を数える、東北地方最大の一級河川であり、北上川の西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を涵養し、宮城県石巻湾に注いでいる。この流域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禪寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、盛岡市は中流域の上部にあたる。北上川右岸には新第三紀層の砂岩・凝灰岩を基盤とする台地、扇状地の末端に侵食崖を形成している。

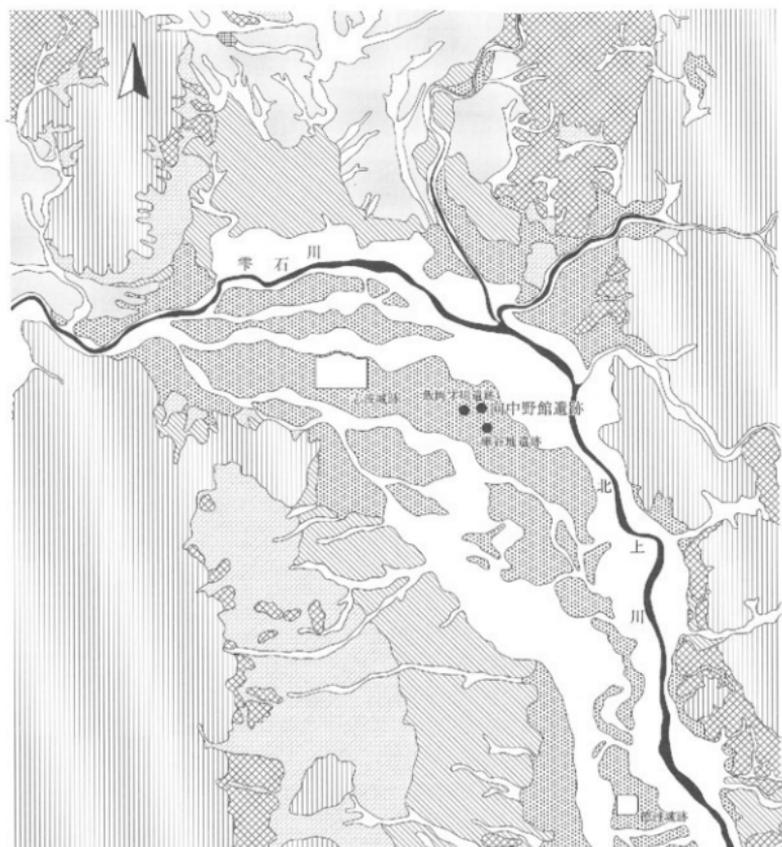
北上川中流域の地形は背後に控える山地構造の違いによって対照的な様相を呈している。新第三系及び火山岩類を主体とする褶曲山地である奥羽山脈は、北上川に注ぐ多くの支流を持ち、それぞれに多量の土砂を供給し、北上川右岸に大小の段丘や扇状地、河岸平野、起伏量の小さい丘陵地が複雑に入り組む扇状地状の広い平坦面を作り出している。これらの平坦面の大部分は更新世中・後期に形成されたもので、支流によって開析され段丘化したものである。これに対して、老年期山地がその後の地殻変動によって隆起準平化した北上山地側では、山地に続く丘陵部縁辺部に小規模な段丘と沖積地が認められるにすぎない。

北上川流域の第四系及び地形の研究を行っている中川久夫らは、中流域の段丘を上部から西根段丘、村崎野段丘、金ヶ崎段丘に分類し、中流域北部ではこれらに相当するものとして高位の石島谷段丘、中位の二枚橋段丘、低位の花巻段丘・都南段丘に区分している(中川ほか 1963)。

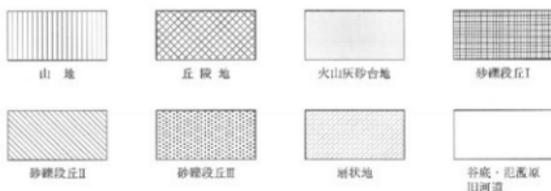
向中野館遺跡の所在する北上川中流域北部右岸では、大規模な平坦面と奥羽脊梁山脈から供給される多量の堆積物による扇状地が形成されており、零石川以南北上川以西には零石川の下刻・堆積作用により上位から、洪民火山灰層上部以上を載せる段丘「砂礫段丘Ⅰ」、分火山灰層を載せる段丘「砂礫段丘Ⅱ」、沖積段丘「砂礫段丘Ⅲ」が形成されている(第4図)。低位の「砂礫段丘Ⅲ」面には零石川の連続する大きな旧河道が4条確認されている。文献資料等によれば、志波城は零石川の水害が原因で廃絶されたとされており、発掘調査の結果からも志波城北辺部は零石川の旧河道により消失していることが確認されている。さらに小規模な旧河道が網目状に入り組んでおり、小規模な自然堤防状微高地を形成している。本遺跡を含めた、古代遺跡の多くは「砂礫段丘Ⅲ」面の微高地や扇状地の縁辺部に位置している。

(3) 基本層序(第5図、写真図版3)

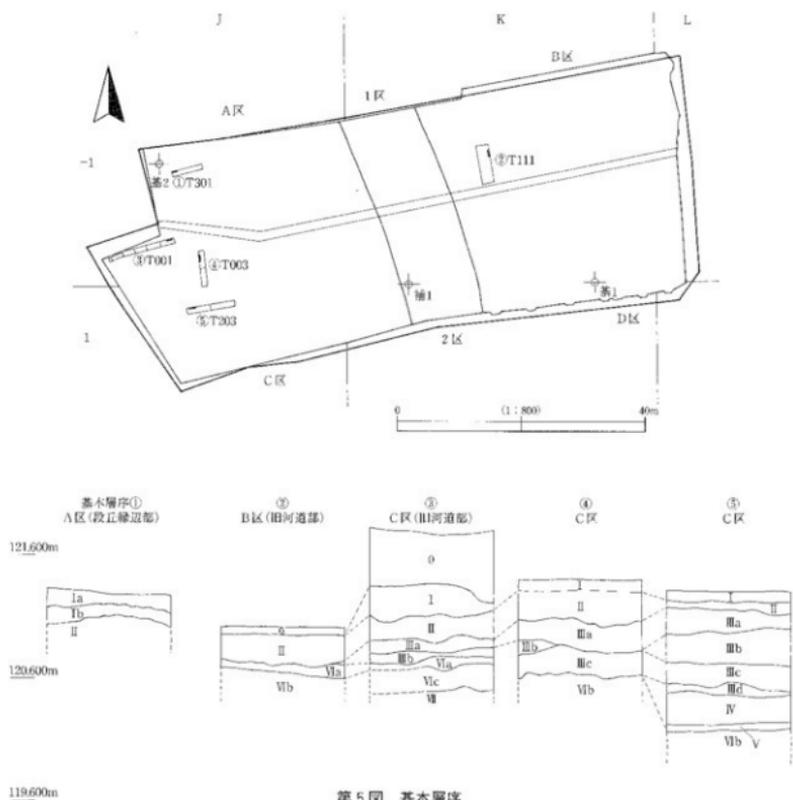
本調査区中央で、東北東方向から西南西方向に流れた零石川の旧河道が1条確認された。この旧河道はA区を除く他の区域に及んでおり、A区と堆積状況が大きく異なっている。



0 (1:100,000) 5km



第4図 地形分類図



第5図 基本層序

A区は平石川によって形成された低位段丘(砂礫段丘Ⅲ)の縁辺部に立地する。基本的には第3・4次調査区と同一地形環境にあり、層序の対比が可能な区域であるが、第3・4次調査の基本層序として記載されている内容が本調査区から一番離れた北面のみになっていることと、A区が幼稚圃造成によって著しい削平を受けていることにより対比するに至らなかった。

A区はT301の北面西端を基本層序とした。内容は以下のとおりである。

0層：盛土層。旧向中野幼稚圃造成時の盛土。主に湯沢方面から採掘された土をもとに構成される。

A区に限らず、調査区ほぼ全面で確認される。層厚80～120cm。

A I層：色調や土質により2層に細分される。上層(I a)は暗褐色土層(10Y R3/3)、下層(I b)は黒褐色土層(10Y R2/3)である。地山ブロックや黒色土粒が見られ、2次堆積層と考えられる。I b層のほうがI a層より粘土質で、しまっている。遺物は土師器・須恵器、陶磁器、木製品などが出土しているが、量は相対的に少ない。層厚約15～20cm。

AⅡ層：黄褐色砂質シルト（10Y R5/6）層である。いわゆる「地山」で、R G006堀跡やR Z005柱穴群の検出面である。粘性はなく、I b層よりはしまりない。部分的にグライ化している。層厚不明。

AⅢ層：砂層。水成堆積作用によるもので、砂礫層の上位に堆積している。主に黒色（10Y R2/1）を呈するが、場所によって褐色やオリーブ色などを呈し、色調が異なる。R G006堀跡の底面で確認される。層厚不明。

AⅣ層：砂礫層。水成堆積作用によるもので、本遺跡周辺の基盤となる層。R G006堀跡内の攪乱の底面で確認される。層厚不明。

1・2区、B～D区は礫石川の氾濫によって形成された旧河道が大部分を占めている。場所によって確認できる層序が異なるため、T111東壁北側（B区）、T001北壁東端、T003西壁北側、T203北壁西側（以上C区）の4箇所を基本層序として記録を行った。内容は以下のとおりである。

I層 黒褐色土（10Y R2/2～2/3）層。幼稚園造成以前の表土層。部分的に黒色土層が層となって見られる。遺物は土師器・須恵器、陶磁器、木製品などが出土しているが、量は少ない。層厚10～20cm。

Ⅱ層 黒色土（10Y R1.7/1～2/1）層。粘土質で、部分的に暗黄灰色のバミスを含む。主に近世以降の遺物を包含する層であるが、特に17世紀初頭～前半の陶磁器が多く確認される。R G009溝跡の検出面である。層厚10～20cm。

Ⅲ層 黒色～黒褐色土（10Y R1.7/1～2/2）層。主に平安時代の遺物を包含する層。色調や土質、混入物により4層（a～d）に細分される。Ⅲa層には灰白粘土ブロックが多量に含まれる。Ⅲc層にはヨシ属の植物が層状に堆積している。層厚0～70cm。

Ⅳ層 灰色粘土（5Y4/1）層。西側ほど堆積が厚くなる。場所によっては白みが増している。層厚0～20cm。

V層 黒褐色土（10Y R3/1）層。粘土質で、Ⅳ層とⅥ層の間に薄く堆積している。Ⅳ層の見られる部分のみで確認される。層厚0～10cm。

Ⅵ層 砂層。ほぼ調査区全面で確認される。色調によりⅥa層（10Y R2/1～5Y2/1）、Ⅵb層（5Y4/1～5/2）、Ⅵc層（10Y R4/3～4/4）の3層に細分される。層厚不明。

Ⅶ層 砂礫層。A区と同様、水成堆積作用によるもので、本遺跡の基盤となる層。層厚不明。

Ⅲ～Ⅴ層は南側（2区、C・D区）で見られ、特にⅢ層は旧河道の中心部（標高120.2m以下）で厚く堆積している。本調査区で確認された旧河道は細谷地遺跡で確認された旧河道のうちの1条である。

A区とA区以外の層序は、AⅢ層とⅥ層、AⅣ層とⅦ層がそれぞれ対応する。

2 歴史的環境

盛岡市に所在する遺跡は岩手県教育委員会が作成した2000年度版『岩手県遺跡情報検索システム（盛岡地方振興局管内南部）』によると516箇所が登録されている。第6図には礫石川右岸を中心とする範囲に所在する212箇所（275遺跡：矢巾町舎）の遺跡分布（註1）を示した。

これらの遺跡の分布状況を見ると、前述の地形の様相の違いに対応するかのよう、異なった様相を呈している。礫石川左岸（北岸）地域は、中位段丘が発達しており、大館遺跡群（第6図154）をはじめとした縄文時代（主に中期）の集落遺跡が数多く分布しているが、右岸（南岸）地域は本宮熊

堂A遺跡(第6図17)や台太郎遺跡(第6図41)で縄文時代晩期の堅穴住居跡や生活痕跡が確認されている以外、陥し穴状土坑など狩猟場を示す遺構が確認される程度で、居住遺跡が確認されていない。その一方で、右岸地域は古代以降になると、集落遺跡が多く分布するという特徴が見られる。古代城柵の一つである志波城跡(第6図7)は、雫石川より約2km南に位置する。803年に造営された志波城跡は、廃止時期の記事は文献には見られないが、征夷将軍文屋綿麻呂がたびたび水害を受けるので、便地に転移すべきであると奏言しているように、雫石川の水害が影響でその機能を814年までには徳丹城に移したと考えられている。

向中野館遺跡(第6図43)周辺は、平成3年以降の盛岡市新都市計画整備事業に伴う発掘調査によって、その様相が明らかになりつつある。この事業により調査された遺跡は、大宮北遺跡(第6図15)、小幡遺跡(第6図16)、宮沢遺跡(第6図16)、本宮熊堂A遺跡、本宮熊堂B遺跡(第6図17)、稲荷遺跡(第6図18)、鬼柳A遺跡(第6図19)、野古A遺跡(第6図40)、飯岡沢田遺跡(第6図40)、台太郎遺跡(第6図41)、飯岡才川遺跡(第6図42)、細谷地遺跡(第6図43)、矢盛遺跡(第6図44)が挙げられる。これらの遺跡は、志波城に先行する古墳から奈良時代の集落もしくは徳丹城へ城柵機能が移行した後の9世紀中頃以降の集落遺跡である。志波城存続期間と併行する時期の集落は非常に少なく、廃絶以降に大規模な集落を多く形成するという特徴がみられる。向中野館遺跡も後者の集落として営まれていたことは過年度の調査成果により判明している。また、今回の調査では志波城存続時期の遺物が出土しており、志波城との関係が注目される。

中世以降は認識されている遺跡数が少ないこともあるのか、古代までのような地域差は見られなくなり、市内に散在する程度に留まる。台太郎遺跡で中世の礎石を伴う建物跡、堀跡、土塋墓群などが確認されている以外は、ほとんどが城館跡である。

向中野館の記述は『南部叢書』第二冊や『新馬町』に附録として記載されている「志和軍戦記(小笠原謙吉校訂)」中に「高道(飯岡平九郎のこと)は飯岡の城に居住しけるは、…(省略)…、東野文七向中野館に居住して東の押へと承る、彼等四人は東西南北の押へと承る。…(以下省略)」とある。詳細な場所の記述がないため、場所の特定には至ってなかったが、この地域には、調査以前からも幅約6m、高さ約1.5mの土塁と考えられる土手が存在していたことや南館・北館・高見などの地名が残っていることなどがあり、向中野館と推定されていた。実際には、当埋蔵文化財センターが平成10年度に発掘調査を行った結果、記述にある向中野館の一部と考えられる堀跡が検出され、この地が向中野館であることが判明した。発掘調査の結果からは、出土遺物が非常に少ないため、向中野館の存続時期や館主などは特定できないものの、上幅約5mもの堀を構えた本格的な城館であることは疑いない。元龜三年(1572年)の飯岡館の戦争で、斯波氏によって滅亡に追いやられる飯岡氏であるが、向中野館の他、北に太田頼負が館主とされる太田館(第6図2)、南に杉山一学が館主とされる大館(第6図75)、そして西に本城である飯岡館(第6図30)と複数の城館を構えていたという。その領地の範囲からみて、仮に文献どおりであれば、中世において、この地域一帯に影響力をもった有力な豪族であったといえる。

近世の遺構・遺物は各遺跡でわずかながらみられるが、まとめて確認されているのは台太郎遺跡や小幡遺跡など限られている。両遺跡とも掘立柱建物などの遺構が検出されている。

註1 同一番号で異なる遺跡名が登録されている場合には、2000年度版『岩手県遺跡情報検索システム(盛岡地方振興局管内南部)』の地図から検索される遺跡名をそのまま、それ以外のものを()で表記した。



第6図 周辺の遺跡

(1:50000地形図 済開・日誌)

第2表 周辺の遺跡一覧(1)

No	遺跡名	時代	種別
1	餅田	古代(平安)	散布地
2	館(太田館)	古代 中世	集落跡・ 城館跡
(2)	松ノ木	古代(平安)	集落跡
3	八ッ口	古代	散布地
4	八掛	古代(奈良・平安)	集落跡
5	上野屋敷	古代	散布地
6	畑中	古代	集落跡
7	小沼	古代(平安)	集落跡
(7)	志波城	古代(平安)	城館跡
(7)	新羅端	縄文・古代(平安)	城館跡
(7)	林崎	古代(平安)	集落跡
(7)	竹花前	古代(平安)	集落跡
(7)	田具	古代	集落跡
8	五兵衛新田	古代	集落跡
9	大沼	古代	集落跡
10	竹鼻	古代	集落跡
11	石仏	古代	集落跡
(11)	上越場A	古代	集落跡
12	水門	古代	集落跡
13	小林	古代	集落跡
14	大所	古代・中世	集落跡
15	大宮北	古代	集落跡
(15)	鬼柳一里塚	近世	塚跡
16	小幡	古代	集落跡
(16)	宮沢	古代	集落跡
17	本宮熊堂 (熊堂A)	縄文・古代	集落跡
(17)	本宮熊堂 (熊堂B)	古代	集落跡
18	稲荷	古代	集落跡
19	鬼柳A	古代	集落跡
20	鬼柳C	古代	集落跡
21	鬼柳B	古代	集落跡
22	野古目	古代	散布地
23	上越場B	古代	集落跡
24	辻原敷	古代	集落跡
25	苑	縄文・古代	散布地
26	月見山	縄文・古代	散布地
27	山中	縄文・古代	散布地
(27)	へび盆	縄文・古代	散布地
(27)	オミ板	縄文・古代	散布地
(27)	蟹沢	縄文・古代	散布地
28	蟹沢下	古代	散布地
29	細盛	縄文	散布地
30	飯岡山館	中世	城館跡
(30)	飯岡館	中世	城館跡
31	高嶺古墳跡	奈良・平安	古墳
32	高嶺	縄文	散布地
33	大柳 I	古代	集落跡

No	遺跡名	時代	種別
(33)	大柳 II	古代?	散布地
(33)	藤野前	縄文	散布地
34	龜島 II	平安?	散布地
35	龜島	縄文(平安)	集落跡
36	二又	古代(平安)	散布地
37	西田A	古代	集落跡
(37)	中塚敷	古代	散布地
(37)	内村	古代(平安)	集落跡
38	西田B	古代	集落跡
39	栗田	古代	集落跡
40	野古A	古代(平安)	集落跡
(40)	飯岡沢田	古代	集落跡
41	台太郎	縄文・古代	集落跡
42	飯岡十川	古代	集落跡
43	藤谷地	古代	集落跡
(43)	向中野館	古代・中世	集落跡・ 城館跡
44	矢盛	古代	散布地
45	深淵 I	古代(平安)	集落跡
46	飯岡林崎 II	古代	集落跡
47	志波 II	平安?	散布地
48	飯岡赤坂	古代	散布地
49	いたご坂	近世	祭祀跡
50	小原(羽場館)	中世	城館跡
(50)	羽場百目木	縄文	散布地
51	跡子塚	古代	散布地
52	飯岡林崎 I	古代(平安)	集落跡
53	上新田	古代(平安)	集落跡
54	深淵 II	古代(平安)	集落跡
55	西	古代(平安)	集落跡
56	高屋敷 I	古代	散布地
57	高屋敷 II	古代(平安)	散布地
58	下久根 I	縄文・古代	散布地
59	熊堂 I	縄文・古代	集落跡
60	熊堂 II	古代(平安)	集落跡
61	熊堂 III	古代(平安)	集落跡
62	下久根 II	縄文・古代	散布地
63	石持	古代	散布地
64	松島	古代	集落跡
65	田中	古代(平安)	集落跡
66	南谷地	古代(平安)	集落跡
67	出穂	縄文・古代	散布地
(67)	新井田 I	古代	散布地
68	新井田 II	古代	散布地
69	木部	古代(平安)	集落跡
(69)	福千代	古代・奈良	集落跡
70	アイノ野	縄文	散布地
71	湯釜	縄文	散布地
(71)	湯釜経塚	中世	塚跡
72	後島	縄文	散布地

第2表 周辺の遺跡一覧(2)

No	遺跡名	時代	種別
73	小田Ⅰ	古代	散布地
74	新田	古代(平安)	集落跡
(74)	下羽場	古代(平安)	集落跡
(74)	下涌沢	古代	散布地
(74)	間渡Ⅰ	古代	散布地
(74)	間渡Ⅱ	古代	散布地
(74)	森子	古代	散布地
(74)	小田Ⅱ	平安	散布地
75	湯沢大塚	古代・中世	散布地・城跡
(75)	湯沢	古代	散布地
76	一本松	平安	散布地
77	大島	古代	散布地
78	間木	古代	散布地
79	塚田	古代	散布地
80	恵本	古代	散布地
81	陣当	古代	集落跡
(81)	津志田	古代	集落跡
(81)	長沼	古代	散布地
82	生野	古代	集落跡
(82)	横屋	古代	集落跡
83	夕覚	古代	散布地
84	向中野塚	古代	集落跡
85	南仙北	縄文・古代	散布地・集落跡
86	能塚	古代(奈良)	集落跡
87	四境波	古代	集落跡
88	百目本	縄文・古代	集落跡
89	坂のド	縄文	散布地
90	中島	古代	集落跡
91	三本塚	縄文・古代	集落跡
92	下永井	縄文・古代	散布地
93	いたこ塚	近世	祭祀跡
94	水井森塚		祭祀跡
95	水井前田	古代	散布地
(95)	水井館	中世	城跡
96	神田	古代	散布地
97	藤田塚	近世	祭祀跡
98	下永井	古代	散布地
99	荒屋	古代	集落跡
(99)	葛島田	古代	集落跡
100	高樫A	古代	集落跡
101	高樫B	古代	散布地
102	和野	古代	散布地
103	三百刈田	古代・中世	集落跡
104	吉領	中世	城跡
105	見前原	古代	集落跡・城跡
106	見前中島	古代	散布地
(106)	見前久保原	古代	集落跡

No	遺跡名	時代	種別
107	伊志田	古代	散布地
108	大塚前	古代	集落跡
109	石名坂	古代	集落跡
(109)	上畑	古代	集落跡
110	見前	古代	散布地
111	高田館(矢)	古代	散布地
112	下谷地前(矢)	縄文・古代	散布地
113	下谷地(矢)	古代	集落跡
114	上茂子(矢)	古代	散布地
115	大渡野Ⅰ(矢)	縄文・古代	散布地
116	大渡野Ⅱ(矢)	縄文	キャンプ地
117	赤井・黒塚(矢)	江戸	塚跡
118	島	不明	塚跡
119	湯沢	縄文	散布地
120	早稲原Ⅰ(矢)	縄文	散布地
121	早稲原Ⅱ(矢)	縄文	散布地
122	早稲原Ⅲ(矢)	縄文	散布地
123	彌木立(矢)	縄文	散布地
124	和田(矢)	古代	散布地
125	真明(矢)	縄文	集落跡
126	野田新田(矢)	縄文	散布地
127	天戸(矢)	平安	集落跡
128	菅田(矢)	古代	キャンプ地
129	南野(矢)	縄文	キャンプ地
130	下赤林Ⅱ(矢)	縄文	キャンプ地
131	下赤林Ⅳ(矢)	不明	散布地
132	下赤林Ⅱ(矢)	古代	集落跡
133	下赤林Ⅰ(矢)	古代	集落跡
134	赤林(矢)	縄文	散布地
135	矢塚(矢)	縄文	散布地
136	茨原(矢)	縄文・古代	集落跡
137	木代(矢)	平安	散布地
138	高畑(矢)	縄文・古代	散布地
139	高田(矢)	古代	散布地
140	高田館(矢)	古代・中世	城跡
141	鎌野川	縄文・古墳・奈良・平安	集落跡
142	高柳	縄文・古墳・古墳・奈良・平安	集落跡
143	塚塚	縄文・古代	散布地
144	鎌倉橋	縄文・古代	散布地
145	上空頭	縄文・古代	集落跡
146	赤妻	縄文・古代	散布地
147	長橋町	縄文・古代	散布地
148	水道	縄文・古代	散布地
149	横屋	古代	集落跡
(149)	上ノ代	古代	集落跡
150	堀Ⅱ	古代	集落跡
151	堀Ⅰ	古代(奈良)	集落跡
152	大塚	縄文・古代	集落跡

第2表 周辺の遺跡一覧(3)

No.	遺跡名	時代	種別
153	福尚町	縄文・古代～近世	集落跡
154	大新町	縄文・古代	集落跡
(154)	大原町	縄文・古代	集落跡
(154)	小堀塚	縄文・古代	集落跡
(154)	甲館	中世	城館跡
155	上堂	縄文・古代	散布地
156	安部館 (研川城)	縄文・中世	城館跡
(157)	船坂	田心部・縄文	散布地
157	長畑	縄文・古代	散布地
158	南九平	縄文	集落跡
(158)	前田	縄文・古代	散布地
159	宿山南	中世・近世	集落跡
160	箱清水	縄文・古代	散布地
161	古堂長根	縄文	散布地
162	八幡森	縄文	散布地
163	高松神社裏	縄文	散布地
164	高松	縄文・古代	散布地
165	上堤強	縄文	散布地
166	長根	縄文	散布地
167	宇斐坂	縄文	散布地
168	榎石	縄文	散布地
169	洞清水	縄文	散布地
170	福尚窪	縄文	散布地
171	上田山	縄文・古代	散布地
172	全比原窪	縄文	散布地
173	南部家恵所	近世	墳墓
174	久保屋敷A	縄文	散布地
175	岩清水	縄文	散布地
176	合間	縄文・古代	散布地
(176)	道上	縄文・古代	散布地
(176)	斎前	縄文	散布地
(177)	イタコ塚	縄文・弥生	散布地
177	新茶屋	縄文	散布地
178	森ノ神	縄文	散布地
179	新茶屋口	縄文	散布地
180	通下	縄文・古代	散布地
(180)	鉄神沢	縄文・古代	散布地
(180)	日向	縄文	散布地
181	甘石	縄文	散布地
(181)	落合	縄文・中世	集落跡・城館跡
(181)	永閑寺山	縄文～古墳	散布地
(181)	佐々木館	中世	城館跡
182	尾手塚	縄文・古代	散布地
183	横山田	縄文	散布地
184	愛宕山	近世	寺院跡

No.	遺跡名	時代	種別
185	四ッ家	古代	散布地
186	久保屋敷B	縄文	散布地
187	永祿院経塚	近世	経塚
188	殿泊町一里塚	近世	一里塚
189	盛岡城	中世・近世	城館跡
190	獅子が鼻	中世・近世	城館跡・寺院跡
191	鼻丁	縄文・弥生	散布地
192	新庄	縄文	散布地
193	瀬戸	縄文・弥生	散布地
194	花畑館 (花坂館)	中世	城館跡
195	山上山	縄文・古代	集落跡
196	砂田	縄文・古代	集落跡
(196)	小山	縄文・古代	集落跡
197	中野館	中世	城館跡
198	大慈寺	縄文	散布地
199	新山館	古代・中世・近世	集落跡・城館跡
200	金勢	縄文・古代	散布地
201	葛西館	縄文～古代	散布地・城館跡
(201)	貝石	縄文・古代	散布地
202	立石	縄文・古代	散布地・集落跡
(202)	安藤館	縄文～中世	散布地・城館跡
203	塚ヶ森	縄文～近世	散布地
204	鎌ヶ森館	中世	城館跡
205	門	縄文・古代	散布地
206	角下	縄文・古代	散布地
(206)	新山	縄文・弥生	散布地
(206)	新道Ⅰ	縄文・古代	散布地
(206)	新道Ⅱ	縄文	散布地
(206)	番道Ⅲ	縄文	散布地
(206)	都南学園	縄文	散布地
(206)	高寺Ⅰ	縄文	散布地
(206)	高寺Ⅱ	縄文	散布地
207	仁反田館	古代・中世	集落跡・城館跡
208	塚山	縄文	散布地
(208)	大久保	縄文	散布地
209	前野	古墳	集落跡
210	大塚	縄文・古代	集落跡
211	短久保	縄文	集落跡
212	沢田	縄文	散布地

遺跡名の後の(矢)は矢巾町内の遺跡を示す。

Ⅲ 野外調査と室内整理

1 野外調査

(1) 発掘調査の方法

グリッドの設定(第7図) 向中野館遺跡や細谷地遺跡・飯岡才川遺跡で用いられている調査座標は2種類存在する。南や西に隣接する細谷地遺跡や飯岡才川遺跡では調査区全域を網羅するグリッドの設定は盛岡市教育委員会の方法に準じ、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標を用いている。一方、第3次・第4次調査では後述するように独自のグリッドを用いている。第5次・第6次調査では周辺遺跡との対比など利便性を考慮して盛岡市教育委員会の方法に従ったが、同一遺跡内で2種類の調査座標になってしまった不便ができてしまったことをお断りしておく。

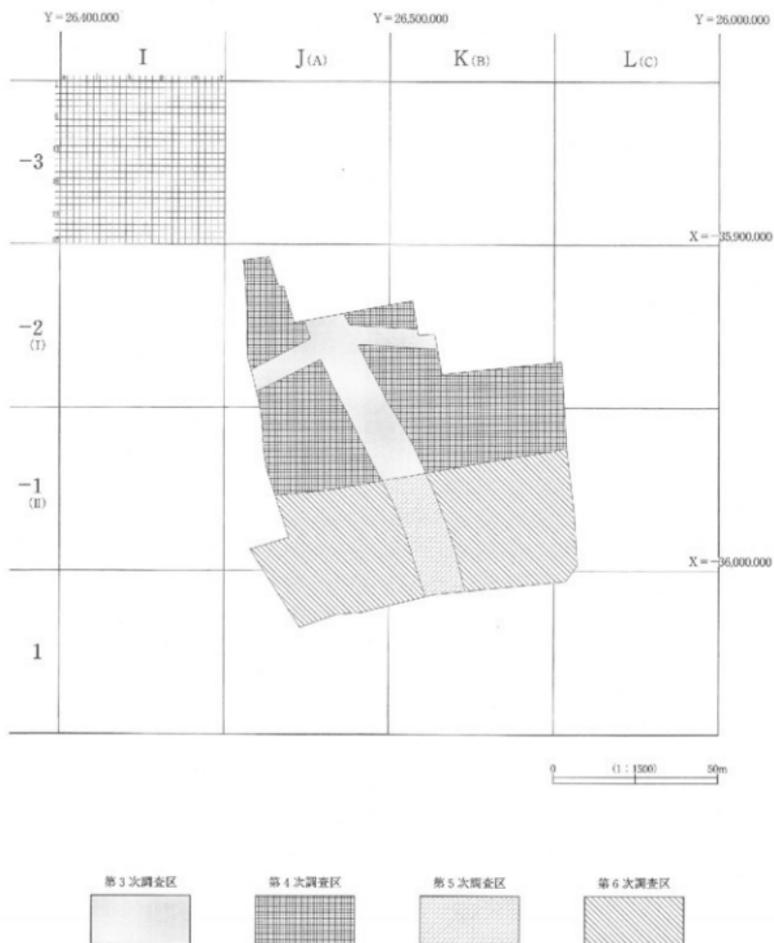
向中野館遺跡の調査座標原点は細谷地遺跡や飯岡才川遺跡と同じ $X = -35,000,000$ 、 $Y = 26,000,000$ (日本測地系)である。この座標原点を基点として、遺跡全体を一辺50mの大グリッドに区割りし、さらに大グリッドを一辺2mの小グリッドに25分割している。大グリッドは、東西方向にはアルファベットの英文字を用いて、原点から東にA・B・C……、西に-A・-B・-C……、南北方向には算用数字を用いて、原点から南に1・2・3……、北に-1・-2・-3……とし、これらを組み合わせて1A、1Bと表示した。また、小グリッドは、西から東方向にはアルファベットの英文字を用いて、a・b・c……・y、北から南方向には算用数字を用いて、1・2・3……・25とし、これらを組み合わせて1a、2bと表示した。実際のグリッドは大小グリッドの組み合わせにより、1A1aといった表示とし、グリッド杭の名称はグリッド北西隅の点に与えた。

第3次・第4次調査のグリッドは次のとおりである。座標原点を $X = -35,900,000$ 、 $Y = 26,450,000$ (日本測地系)に置き、これを基点に一辺50mの大グリッドに区割りし、東西方向にはアルファベットの英文字を用いて、東にA・B・C、南北方向はローマ数字を用いて、南にI・IIとしている(第6図大グリッドのカッコ内)。さらに大グリッドを一辺5mの小グリッドに10分割し、東西方向はアルファベットの英文字を用いて、東にa・b・c……・j、南北方向は算用数字を用いて、南に1・2・3……・10とし、これらを組み合わせてIA1aとしている。この原点IA1aは前述のグリッドでは-2J1aとなる。

試掘 調査区域のほぼ全面に、旧向中野幼稚園造成時の盛土(基本層序0層)が確認されたため、盛土の深さを確認するため、人力の試掘に先行して、重機による試掘を4箇所(第8図T101~T104)行った。盛土は平均すると100cm前後の厚であったので、そのまま、重機で掘削を行った。盛土層除去後、調査区の南側を中心に14本のトレンチ(第8図T001~T010・T301~T304)を設定し、層序の確認を行った。その結果、C区においては、遺構が確認できず、遺物量も少なかったため、第3・4次調査時に検出したRG006掘跡が南側に広がらないことを確認して終了することとなり、そのトレンチを16本(第8図T201~T216)設定し、人力により掘削を行った。

表土掘削 盛土層は前述のとおり、重機により掘削を行った。その後の試掘の結果、A区では遺構検出面まで約20cm、その他の地区では中世以降の遺物を包含する層(Ⅱ層)まで10~20cmであったが、調査期間と予算を勘案して重機を使用することにより、作業の効率化を図った。また、C区については、Ⅱ層の出土遺物が少ないことから、効率化を図るために、重機を使用して掘削を行った。な

1 野外調査



第7図 グリッド配置図

お、掘削の際には調査員の指示のもと、細心の注意を払って行った。

遺構検出・精査 検出作業は人力によって行った。鋤簾を使用して、遺構の確認を行った後に、移植ゴテを使用して掘削を行った。遺構埋土掘削は主に2分法や4分法を用いて行っている。堀跡や溝跡などの長大な遺構は適宜、土層観察用のベルトを残して掘削を行った。掘削の際には、適宜サブトレンチを設定し、堆積状況の把握を行っている。その後、極力上層から掘削を行ったが、単層と判断したものは底面まで掘削を行った。

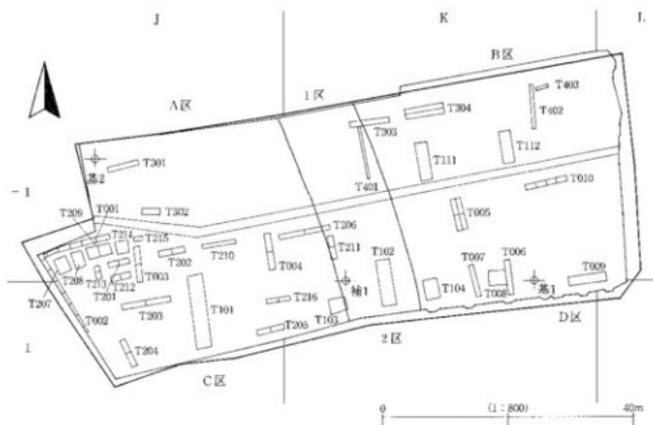
遺構の命名 遺構名称は盛岡市教育委員会の方針に準じ、向中野館遺跡全体での通し番号としている。遺構種類の略号はR A：堅穴住居跡、R B：掘立柱建物跡、R C：柱穴列、R D：土坑、R E：堅穴状遺構、R F：炉跡・焼土遺構、R G：溝跡・堀跡、R H：集石遺構、R I：井戸跡、R Z：その他、で、それぞれ3桁の数字と組み合わせて遺構名とした。今回の報告ではR A、R B、R C、R E、R F、R H、R Iの各遺構は検出されず、R Zとした遺構には不明遺構、柱穴群、遺物集中部、包含層、帯状精密集部が該当する。登録は精査と同時に行ったが、検出段階では仮番号による仮登録を行っている。また、R Z 004は登録の際にR Z 001としていたが、第3次・第4次調査において、R Z 01柱穴群が登録されていたため、登録後に変更を行った。遺構名の変更は以下のとおりである。

第3表 新旧遺構名対比表

新遺構名	旧遺構名	備考
R D 010	1号土坑	
R G 006	1号堀跡	南北方向部分
	3号溝跡	東西方向部分
R G 009	溝跡	

新遺構名	旧遺構名	備考
R Z 004	2号溝跡・R Z 001	
R Z 006	北側遺物集中部①	
R Z 007	包含層②	
R Z 008	遺物集中部③	

遺物取り上げ A I層及びI・II層出土の遺構外出土遺物は、主に大グリッド単位・基本層序単位で取り上げ、A II層、III層以下の遺物及びR Z 006～R Z 008周辺の遺物は小グリッド単位の取り上げ



第8図 トレンチ位置図

を基本とした。試掘段階での遺物はトレンチ名での取り上げとしている。遺構内の出土遺物は極力層位毎に取り上げるよう努めたが、徹底はできなかった。R Z006～R Z008の遺物については、出土地点の記録、写真撮影（適宜）の後、小グリッド単位・堆積層毎の取り上げを行った。

実測記録 遺構の実測は簡易遺り方測量とトータル・ステーションを併用した平面図の作成、及び断面図の作成を行った。縮尺は1/20を基本とし、溝跡や堀跡は1/40、1/50、1/100の縮尺を用いた。R Z006～R Z008の出土地点の記録には1/10を基本としている。

写真記録 野外調査の写真撮影にあたっては、35mm判カメラ2台（モノクロームとカラーズライド）、中判カメラ1台（モノクローム）、メモ用にデジタルカメラ1台を使用した。

（2）調査経過

平成16年6月7日に矢筈遺跡から器材を搬入し、第6次調査を開始した。調査区はほぼ中央を東西に走る水路によって南北に分かれており、更に第5次調査区が中央にあり、東西に分かれている。そのため、北西から西側調査区北（A区）、東側調査区北（B区）、西側調査区南（C区）、東側調査区南（D区）と命名した。

6月上旬 調査開始。盛土の除去を開始。

6月中旬 西側と南側が道路に面しているC区から試掘を開始した。T104において、砂礫層（R Z007：10層）上面で土師器・須恵器の小破片が多量に出土していることを確認。そのため、人力で北側に拡張したところ、古代の包含層が形成されていることが判明した。

6月下旬 22日は台風6号の影響で調査区の約2/3が冠水。25日にC区の部分終了確認実施。C区以外の無遺物層を重機により掘削開始。基準点設置。

7月上旬 R Z007（南側遺物包含層）の精査開始。

7月中旬 15日より第5次調査開始。R Z004の精査開始。R Z007の24jグリッド・6層から挽物杯が出土。これ以降木製品の出土が続く。

7月下旬 17～19日の降雨のために、調査区のほぼ全面が冠水。復旧作業に時間を要する。以降、降雨の度に調査区が冠水し、現場の復旧作業に時間を費やすこととなる。R G006堀跡の精査開始。R Z007の24・25n oグリッドで黒書土器の出土を確認。

8月上旬 6日1回目の終了確認実施。同日A区・B区・D区、1区・2区冠水。9日A区・B区、1区冠水。R Z007の4～6層の土壌分類・土壌洗浄を行う。動植物依存体多数確認。

8月中旬 時間的な制約からR Z007の2層までを重機で掘削開始。12～16日夏季休暇。

8月下旬 31日には台風16号の影響で調査区のほぼ全面が冠水。

9月上旬 2区、D区の調査再開。分析用の土壌サンプルを行う。9日に柄（白木）付の小刀が出土した。10日午前終了確認実施。

9月中旬 11日現地公開実施。参加者36名。調査の中心はR Z007に完全に移行する。17日R Z007の24f gグリッド周辺で枕もしくは杭状の木製品が1箇所ままとって出土。また、22pグリッドから回転ヘラ切りの須恵器が出土。底部外面に「野□」の墨書がなされている。

9月下旬 22日昨夜からの降雨により2区冠水。「野」の墨書土器出土地点の周囲から9世紀初頭前後の土師器製の破片が多量に出土。20lグリッドでは「玉」及び「王」の墨書土器が出土。

10月上旬 天候不良などがあったため、現場復旧に時間を費やしたが、8日に全ての作業を終了し、稲荷遺跡へ移動した。

2 室内整理

(1) 整理作業の方法

遺構 遺構実測図は必要に応じて合成等の編集作業を行い、第2原因を作成した。遺構図の縮尺は図版毎にスケールを付すと同時に縮尺を記載したので参照して頂きたい。遺構図に使用した記号等は第9図を参照して頂きたい。遺構の計測は実測図、第2原因をもとに次の方法で行った。①主軸方向は基本的に長軸または長辺方向である。②長径は長軸方向の最大距離を、短径は長径に直行する軸で最大径を計測した。③面積の算出にはエアーカーブメータを使用し、3回計測した値の平均値を記載した。④深さは上端で最も高い部分と底面の比高差で計算した。⑤溝跡などの長大な遺構の長さにはエアーカーブメータを使用し、3回計測した値の平均値を記載した。⑥堀跡と溝跡の幅は長軸方向に直交する場所で計測し、最大幅と最小幅を記載した。

遺物 出土遺物は水洗、大別仕分け、出土地点の確認を行い、種類毎に次のとおりにした。遺物図版に使用した表現方法及び網掛け等は第9図に示した。番号は選別時に種別毎に整理番号を付し、掲載遺物決定後に全遺物通しの掲載番号を付した。遺物観察表には両方の番号を記載した。また、表のみの掲載遺物は整理番号のみを記載した。

<土師器・須恵器> 土師器類は取り上げてきた袋毎に、第5次分は3桁の数字で、第6次分は4桁の数字で番号を付し、台帳を作成した。また、個別に出土状況図を作成した資料については数字の頭に「N」のを付し、区別した。第5次グリッド一括資料は001～、個別資料はN001～、第6次グリッド一括資料は1001～、個別資料はN1001～となっている。この作業と同時に袋毎に重量計測（g単位：少数第1位を四捨五入）、点数計上（1×1cm以上、非黒色処理土師器・内面黒色処理土師器・内外面黒色処理土師器・須恵器別）台帳に記載した。その後、遺跡の略号（OMN-04-5もしくはOMN-04-6）と袋の番号を注記し、遺構単位（R Z006・R Z007・R Z008は近接するグリッドや同一個体と認識できた資料についても）での接合作業と資料の選択・登録作業を行った。なお、選択にあたっては全ての個体を登録・分類する時間的余裕がないため、次の選定基準を設定し行った。①少なくとも口径もしくは底径が算出できる資料、②胴部破片で反転実測が可能な資料、③破片で反転実測が困難な資料。坏類は基本的に①から、それ以外は①～③の基準で一次選別を行った。その後、坏類を中心に、器形が類似する個体が複数ある場合は二次選別を行った。なお、墨書・刻書土師は②・③からでも積極的に採用した。実測は二次選別を行った資料から更に選別して行っている。

<陶磁器> 断片的で器種不明や産地不明の資料を除き登録を行い、口径もしくは底径の算出できる資料や代表的な資料を中心に実測し、それ以外の資料を極力写真掲載にした。

<土製品・磁器製品・石器・石製品> 全点登録し、素材剥片、素材陳等を除き、掲載資料としている。石材同定は肉眼による同定を委託した。

<金属製品> 全点登録し、全点掲載した。

<木製品> 野外調査と並行して、洗浄と大別仕分けを行った。平成16年度の段階では17年度以降に延長整理が行われるか不明であったため、大別したもののなかから、必要最低限の図化の必要な遺物と写真撮影の必要な遺物の選別を行い、それぞれ図化、写真撮影を行った。この中から容器、食器具、服飾具、杭などを中心に保存処理と同時に樹種同定を外部に委託した。その後、平成17年度に延長整理が行われることとなったため、16年度に観察のできなかった木製品の選別を行った。この中から選別したものは図化、写真撮影を行う時間的余裕がなかったため、計測表を提示するに止めた。R Z007

から出土した遺物のうち、位置データを記録した遺物については標高値の一覧を示した。

<文字資料> 木簡、封緘木簡、墨書、刻書がある。全点登録し、文字の判別できない墨書の一部を除いて掲載した。墨書・刻書土器に記されている文字もしくは記号一文字毎に番号を付した。なお、一個体に同文字と判断したものはa bを付した。

<自然遺物等> 炭化材、種実（炭化したもの含む）、獣歯がある。遺構内（包含層・遺物集中部含）から出土した種実の一部は、出土位置を記録して取り上げており、グリッド一括資料も含めて同定を委託した。

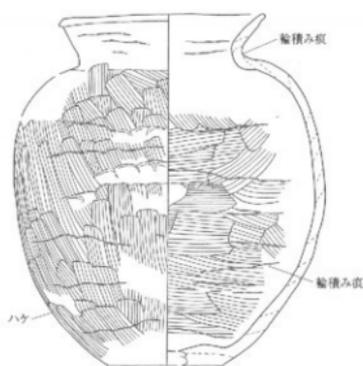
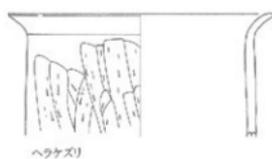
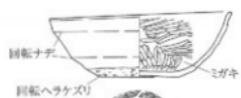
写真 野外調査時に撮影した遺構などの写真と室内整理時に撮影した遺物写真、当埋蔵文化財センターが保管している空撮で図版を作成した。写真に掲載した遺物の掲載番号は本文、観察表及び図版の掲載番号と一致している。また、遺構の断面写真は基本的には図版の断面図と同じ方向から撮影したものである。

(2) 作業経過

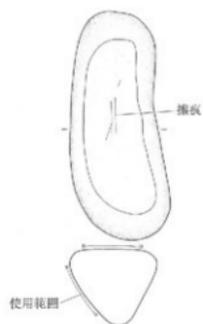
平成16年度（2004年度）11月～3月 第6次調査は11月1日より作業員3名体制で、第5次調査は2月1日より作業員2名体制で整理作業を行う。遺物記録整理、遺物整理を行うが、遺物仕分け及び遺物実測に時間を要したため、各種遺物トレース、各種図版作成に進むことができず、翌年度の夏期の延長整理となる。

平成17年度（2005年度）6月・7月 第6次調査は6月1日より、第5次調査は7月1日より、作業員5名体制で延長整理を行った。それぞれ、持ち越しとなった各種遺物のトレース、遺構図・遺物図版下作成、写真図版作成、原稿執筆を行った。7月29日に遺物・各図書類の収納を行い、整理作業を終了した。

土器

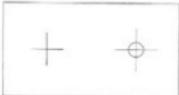
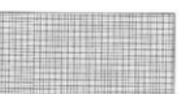


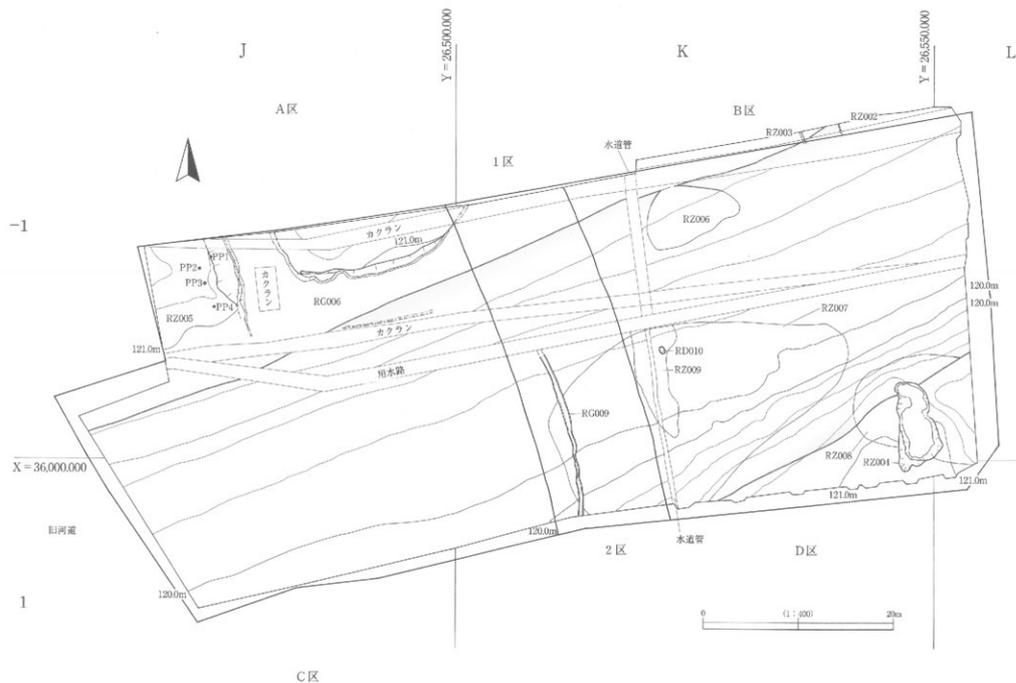
石器



第9図 凡例

第4表 遺構・遺物図版凡例

(遺構)			
	(平面図) 方位		(平面図) セクションポイント
	(平面図) グリッド		
	(断面図) 石部・壱		(断面図) 木製品・木
(遺物)			
	(土器) 黒色胎土		(土器) ス ス
	(土器) 使用範囲 (硯)		(石器) 使用範囲 (磨石)
	(石器) 使用範囲 (砥石)		(木製品) 漆
	(木製品) 黒漆		(木製品) 褐色漆
	(木製品) 黒く変色している部分		(木製品) 炭化している範囲



第10図 遺構配置図

IV 検出遺構と出土遺物

1 土 坑

R D 010土坑

遺構 (第11図、写真図版4)

〔位置・状況〕 D区の北西、-1 K区南中央に位置し、R Z 007包含層の範囲内に含まれる。また、その直下にはR Z 009帯状礫密集部が広がっている。

〔検出面〕 検出面は15層で、標高120.3m前後である。

〔覆土〕 黒色土の単層である。

〔平面形〕 隅丸長方形。長軸方向を主軸とすると、主軸は26°西偏する。

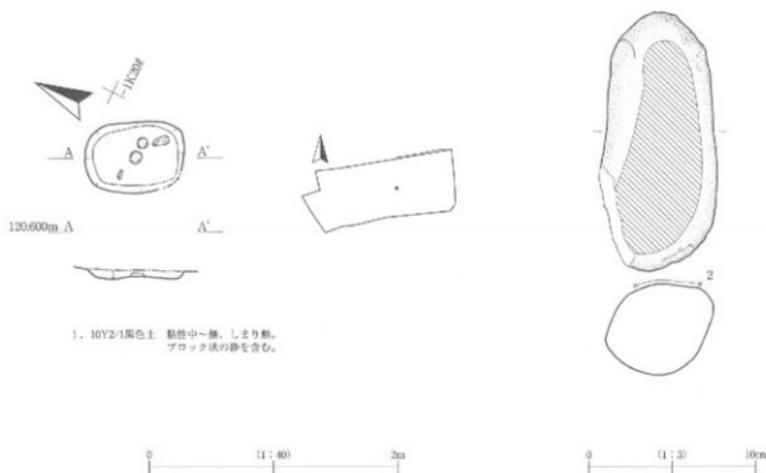
〔規模〕 開口部：79×58cm、底部：69×48cm。〔深さ〕 最大で8cm。

〔底面〕 15層を底面とし、概ね平坦である。

出土遺物 (第12図、写真図版16・35)

〔出土状況〕 土師器坏 (内面黒色処理・非黒色処理)、須恵器甕、磨石、素材礫、種子が出土し、土師器坏 (内面黒色処理) 1点、磨石1点、素材礫1点を掲載とした。3が底面から出土している以外は覆土からの出土である。遺物の出土量を第11表に示した。

〔土器〕 1は土師器坏の底部資料である。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部の調整は回転切り後回転ヘラケズリが施される。小破片であるため図化はしていない。



1. 10Y2/1黒色土 粘性中～強、しまり熟。ブロッタ状の跡を含む。

第11図 R D 010

第12図 R D 010出土遺物

〔石器〕2は磨石、3は素材礫である。2は片面に使用による平滑な面が観察される。3は明瞭な使用痕跡の見られない礫である。底面から出土したことに注目して報告する。

〔その他〕上記以外に種子が2点出土した。2点(907と不掲載)ともモモの核である。

時期 出土遺物、検出面から判断すると平安時代(9世紀後半期)の土坑と考えられる。

2 堀跡・溝跡

RG006堀跡

遺構(第13~15図、写真図版5・6)

〔位置・状況〕A区のはほぼ全面、-1J区東中央に位置し、第3次・第4次調査区(平成10年実施)の南側の続きである。そのため、同一名称(註1)を使用した。検出された部分は南西端部にあたる。16~19o-qグリッド部分で車に、そこからさらに車に約15mで北西に曲がっているのが確認された。図面上での確認になるが、RG007の南西隅にぶつかっているようである。南側は旧河道の一部を利用しているようで、明瞭な立ち上がりは確認できなかった。

〔検出面〕AⅡ層最上面で検出され、標高120.9m~121.3mである。

〔覆土〕8層に分層される。黒色土を主体とし、2~4層には他の層と比較すると、砂分が多く、5層以下にはアシ・ヨシなどの植物根が見られる。

〔規模〕上端幅805~510cm、下端幅495~420cm。〔深さ〕最大で47cm。〔全長〕約31.8m。

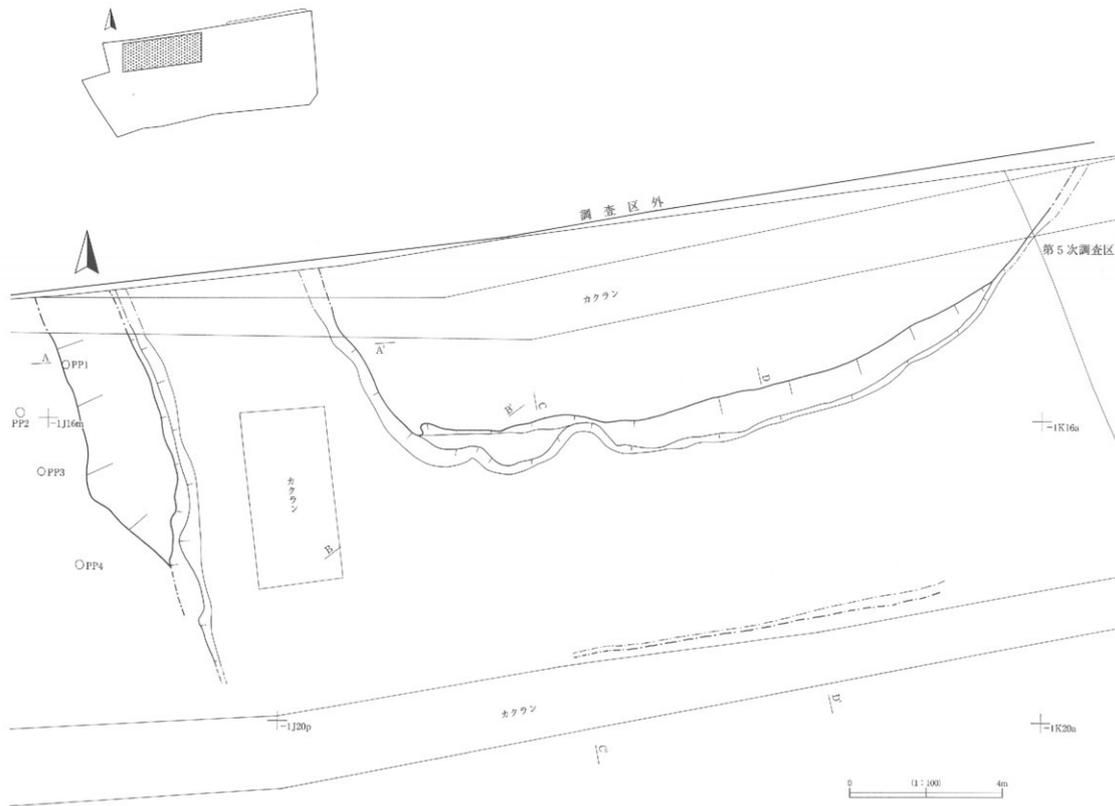
〔底面〕AⅢ層(VI a層~VII層)を底面とし、概ね平坦である。

出土遺物(第16図、写真図版16・33・38)

〔出土状況〕土師器坏(内面黒色処理・内外面黒色処理・非黒色処理)、土師器高台付坏(内面黒色処理)、土師器壺、須恵器坏、須恵器壺、磁器、陶器、素材礫、木製品(容器・発火具・土木材・その他)、木筒、種子が出土し、土師器坏4点(内面黒色処理1点・非黒色処理3点)、土師器高台付坏(内面黒色処理)1点、土師器壺1点、須恵器坏1点、須恵器壺1点、磁器1点、陶器2点、木製品15点を掲載とした。第15図に示した範囲内の5層内から杭などの木製品がまとめて出土し、底面直上層である6層から14が出土している。平安時代の土師器、須恵器が5層を中心とした覆土中位より、近世の陶磁器類は覆土上位より出土する傾向が窺える。遺物の出土量は第11表に示した。

〔土器〕出土した遺物は土師器、須恵器である。4~7は土師器坏である。4は体部上半から底部にかけて残存する資料である。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部は回転糸切り後無調整である。5は体部下半から底部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。6は体部下半から底部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。7は体部下半から底部の破片資料である。全体的に器面の摩滅が激しく判然としないが、内外面は回転ナデのみの調整で、底部は回転糸切り後無調整と考えられる。8は土師器高台付坏である。底部が良好に残存する資料である。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部切り離し後、高台が貼り付けられている。9は須恵器坏である。体部下半から底部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。10は土師器壺の体部資料である。内外面ともナデ調整のみである。小破片であるため図化していない。11は須恵器壺である。体部下半の破片資料である。外面は縦方向にハケの後横方向に回転ヘラケズリによる調整が施されている。内面は縦方向のハケが施されている。

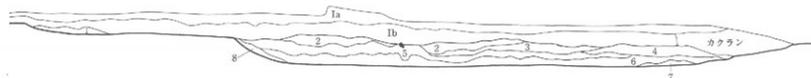
〔陶磁器〕12は肥前産の染付碗である。口縁部から体部の破片資料である。時期は17世紀後半と考えられる。13は製作地不明の陶器鉢である。体部の部分的な資料である。時期は近世後半以降と考えら



第13図 RG006(1)

121.600m A

A'



A-A'

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘粒中一量、しまり着、にびい黄褐色土ブロック少量含む。未酸化鉄混入。
2. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒中一量、しまり中、白色細砂少量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘粒中、しまり中一有、白色細砂少量含む。
4. 10YR2/2 黒色土 粘粒中一着、しまり中、細砂少量含む。
5. 10YR2/1 黒色土 粘粒・しまり中、灰色・黒色の砂多量、炭化砂少量含む。
6. 10YR2/1 黒色土 粘粒・しまり中、塊砂（砂少量）混、黒色砂含む。
7. 10YR2/1 黒色土 粘粒中一有、しまり中一有。
8. 10YR2/1 黒色砂 粘粒・しまり無。φ2-5cmの河原石混入。

121.600m B

B'

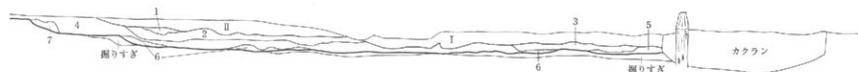


B-B'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒無、しまり中、灰色砂混入を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘粒無、しまり中一着、陶瓦砂ブロック、河原石少量含む。植物根含む。
3. 10YR2/1 黒色砂質シルト 粘粒中一量、しまり中、褐色土・凝灰粘土質土ブロック含む。下部に部分的に植物根が見られる。
4. 10YR2/1 黒色粘土 粘粒有、しまり中一有、下部には植物根が見られる。
5. 10YR2/1 黒色砂質シルト 粘粒中一着、しまり中、凝灰粘土質土少量含む。

121.600m C

C'



C-C'

1. 10YR2/2 黒褐色土 粘粒有、しまり中、黒色砂ブロック少量含む。
2. 10YR2/1 黒色土 粘粒中一着、しまり中、白色細砂少量含む。
3. 10YR2/1 黒色土 粘粒中、しまり中一有、白色細砂少量含む。
4. 10YR2/1.5 黒褐色一黒色土 粘粒中一有、しまり中、黒色砂、褐色砂ブロック含む。
5. 10YR2/1 褐色砂 粘粒無、しまり中一量、褐色砂少量含む。
6. 10YR2/1 黒色砂質土 粘粒中一着、しまり中一有、植物根を含む。
7. 10YR2/5 黄褐色土 粘粒・しまり無。

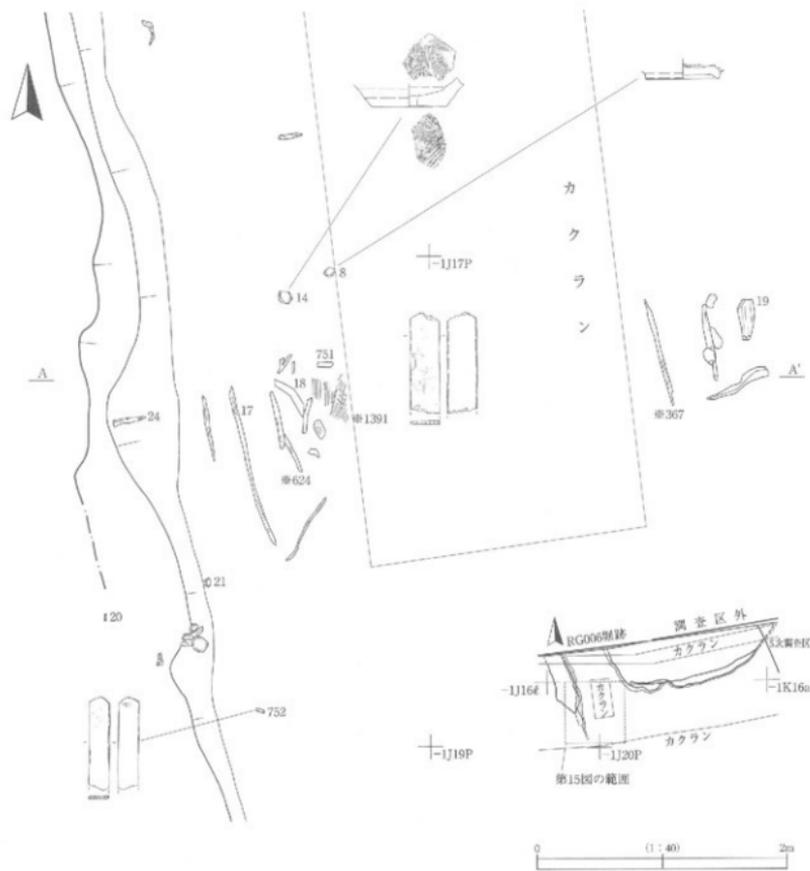
121.600m D

D'



D-D'

1. 10YR2/1 黒色土 粘粒中一着、しまり中、植物根を含む。



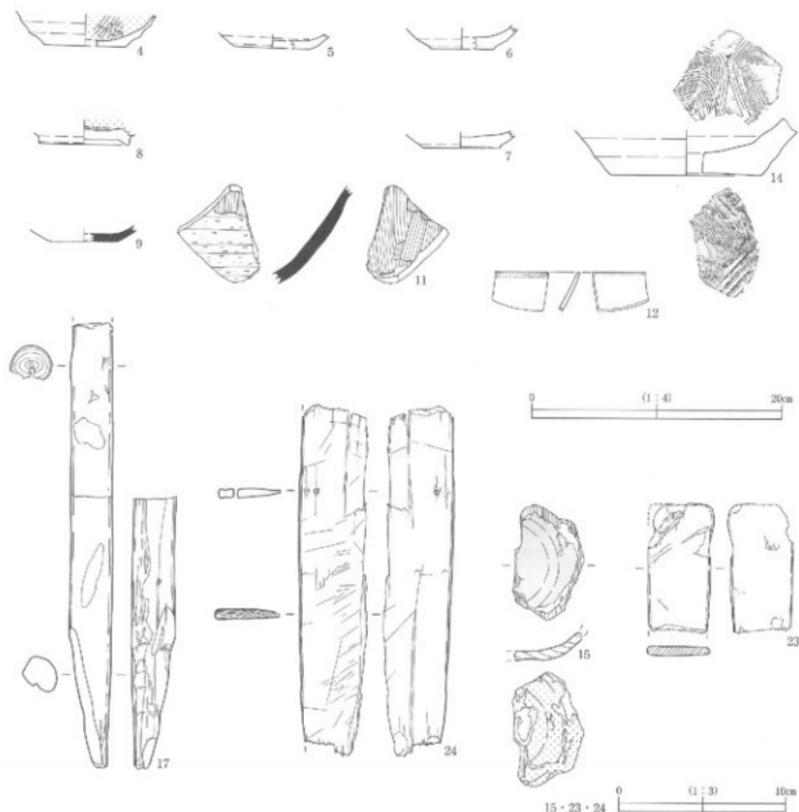
A L=121.600m

A'



- ・●：木・木製品
- ・■：土器
- △・▲：石・石器
- ※は整理No.

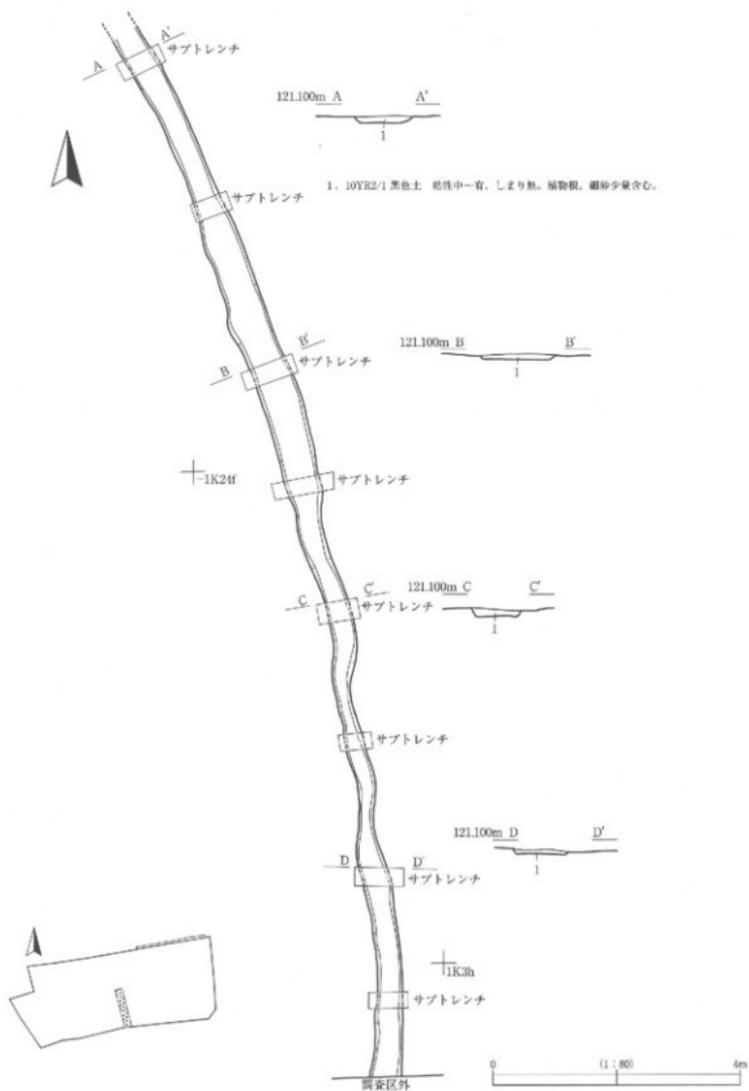
第15図 RG006(3)



第16図 R G006出土遺物

れる。I b層に接する西側5層の上面より出土した。14は底部の破片資料である。珠洲産と推定される櫓鉢で、卸目の調整は多方向から行われており、非常に粗い。時期は15世紀代と考えられる。

〔木製品〕15は挽物椀である。素地に下地を施し、内面には赤、外面には黒漆をかけている。底部はやや丸みを帯びており、口縁部に向かって緩やかに立ち上がる。16は付木である。不定形の材の端部が焦げ炭化した木片で、一時的な明り取りや火種の移動に使用された消耗品と考えられるものである。17・19a～22は一端もしくは両端が尖るもので、杭としたものである。17は芯持ち材の一端の約半分を斜めに削りようとして先端部を作出している。19a～19cも芯持ち材を使用している。一端を二方向から加工して先端部を作出している。20は芯持ち材の一端を一方から切断するように加工して先端部を作出している。21は柱目材を使用したもので、一端を一方から削るようして先端部を作出している。一面にはホゾがきられている。22は芯持ち材の一端を斜めに切断するように加工している。



第17図 RG009

上端は折損している部分を中心に炭化しており、最終的には付木として使用された可能性が考えられる。18・23～27は用途不明の木製品である。18は杭状の木製品である。23～25は板状の木製品である。23は全体的に整形が行われているが、粗い。24は両端、右側面欠損したものである。全体的にケズリによる整形が行われているが、粗い。実測図表面には斜めに走る刃痕が見られる。左側面よりの上部に貫通孔が1箇所見られる。25は一端を山形に加工したものである。全体の整形は粗い。26は棒状の木製品である。芯持ち材を数分割した割材を使用したもので、断面形は三角形を呈す。27は柱目材を使用したもので、片面の側面を斜めに削って薄く加工している。全体的に丁寧に整形している。一端は欠損している。

この他に木筒が西側5層より2点(751・752)出土しているが、詳細は8-(1)を参照して頂きたい。

〔その他〕上記以外に種子が1点出土した。ウリ科の種子(941)である。

時期 本遺構は第3次・第4次調査の見解によると、年代観を判断できる資料は出土していないものの、文献等に記載されている向中野館の一部と考えられている掘跡であるため、中世と報告されている。今回の調査では1点であるが、西側6層より珠洲産と考えられる摺鉢が出土している。この出土遺物から判断すると少なくとも本遺構は15世紀代には埋没が始まっていたと考えられる。

R G009溝跡

遺構 (第17図、写真図版4)

〔位置・状況〕2区のほぼ中央、-1K区南西から1K区北西に位置する。水路を挟んだ北側(1区側)では後世の削平を受けており確認できなかった。

〔検出面〕II層上面で検出され、標高120.9m前後である。

〔覆土〕黒色土の単層である。しまりがなくモソモソしている。

〔規模〕上端幅68～22cm、下端幅58～12cm。〔深さ〕最大で8cm。〔全長〕約17.8m。

〔底面〕II層を底面とする。

出土遺物 土師器坏(非黒色処理)が1点出土したが、小破片のため掲載しなかった。

時期 検出面から判断すると近世以降と考えられる。

3 不明遺構

R Z002不明遺構

遺構 (第18図、写真図版7)

〔位置・状況〕B区の北中央端、-1K区北西に位置する。北側は第3次調査区へ広がり、南側は調査区を横断する水路の影響で、東側も水路の影響で不明である。ちなみに、壁面の立ち上がりや検出状況はR G006堀跡の-1J13y周辺と類似する。

〔検出面〕II層直下のVI層上面で検出され、標高120.8m前後である。

〔覆土〕黒色土の単層である。アシ・ヨシなどの植物根が多く含まれる。

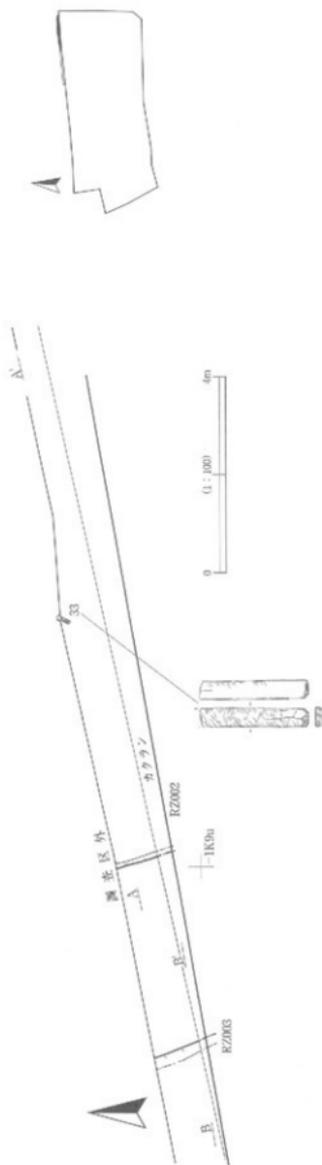
〔平面形〕西壁の一部のみであり、詳細は不明である。

〔規模〕不明。〔深さ〕最大で21cmである。

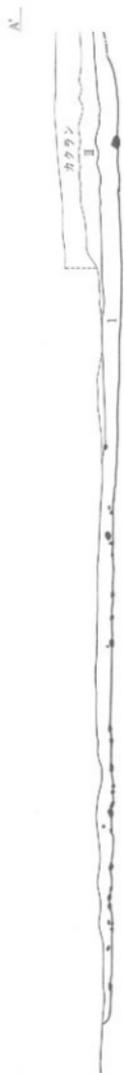
〔底面〕VI層を底面とする。

出土遺物 (第19図、写真図版16・35・38)

〔出土状況〕土師器坏(内面黒色処理・非黒色処理)、土師器甕、須恵器甕、窯道具、木製品(容器・



121.600m A



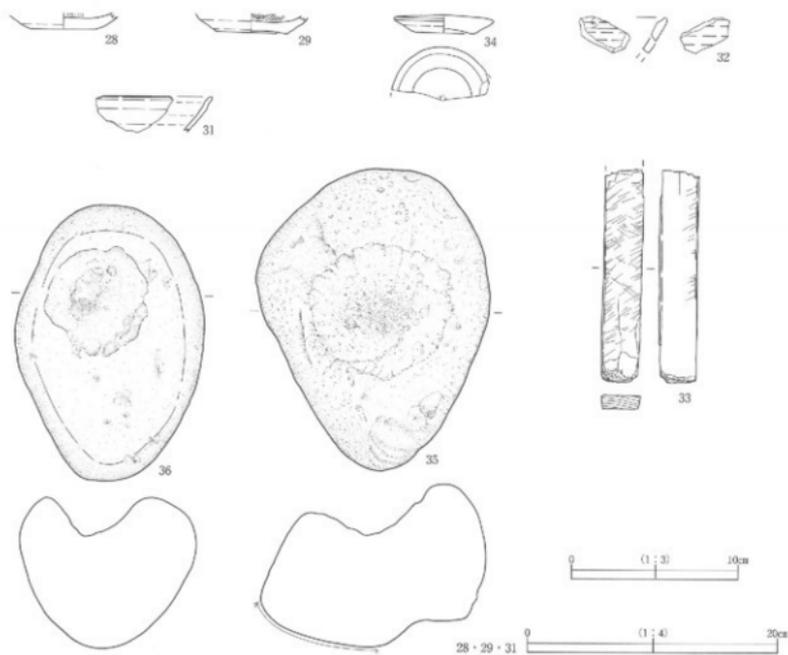
A-A'
1. 10Y22.1 黒色土、粘質・しまり中～粗、黒色の砂を多量含む。

121.600m B



B-B'
1. 10Y22.2 黒紫色土、粘質中～粗、しまり中～粗、粘質風含心。

第18図 R Z 002・003



第19図 R Z 002・R Z 003出土遺物

その他)、種子が出土し、土師器坏4点(内面黒色処理2点・非黒色処理2点)、木製品2点、その他1点を掲載とした。土師器や木製品の一部に底面や底面直上から出土するものがあるものの、多くは覆土中よりの出土である。遺物の出土量は第11表に示した。

〔土器〕出土した遺物は土師器坏、土師器亮、須恵器甕である。28～31は土師器坏である。28は体部下半から底部にかけて残存する資料である。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。外面は器面の摩滅により不鮮明である。29は底部の破片資料である。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部は回転糸切り後無調整である。30は底部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。部分的な資料であるため図化していない。31は口縁部から体部にかけて残存する資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。焼成は非常に良好でかたく締まっている。

〔木製品〕32は挽物椀で、口縁部の破片資料である。両面ともロクロ目が明瞭に残る。口縁部は角状を呈し、内殺ぎされている。全体的に火を受けたのか黒色を呈している。33は板状の木製品である。表裏両面とも丁寧な整形が行われている。両面、特に表面には細かい刃痕が残っている。下端は炭化しており、最終的には付木として使用された可能性が高い。

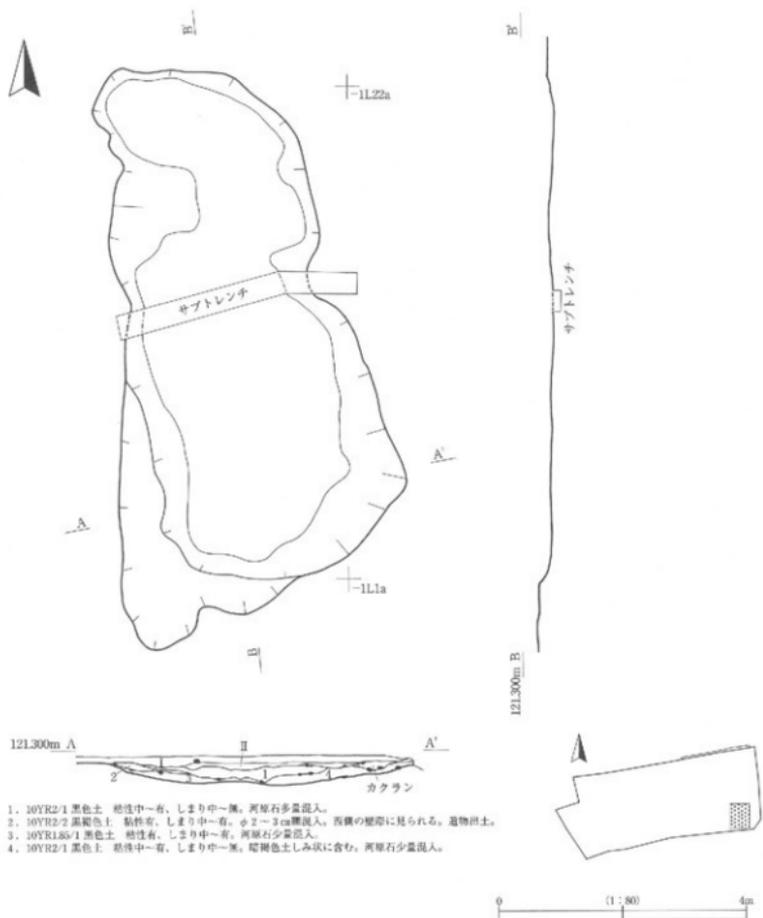
〔その他〕上記以外に竈道具であるハマ(34)が1点、種子(モモの核)2点出土した。

時期 わずかな部分の検出であることと、検出面、出土遺物とも時期を確定できる状況ではないことから平安時代以降の遺構とするに止める。

R Z 003不明遺構

遺構(第18図、写真図版7)

〔位置・状況〕B区の北中央端、-1K区北西に位置する。北側は第3次調査区へ広がり、南側は調査区を横断する用水路の影響で不明である。西側は明瞭な立ち上がりは確認できなかった。本遺構も



第20図 R Z 004

R Z002不明遺構と同様に、壁面の立ち上がりや検出状況はR G006堀跡の-1 J 13 y 周辺と類似する。
〔検出面〕Ⅱ層直下のⅥ層上面で検出され、標高120.9m前後である。

〔覆土〕黒色土の単層である。

〔平面形〕東壁の一部のみであり、詳細は不明である。

〔規模〕不明。〔深さ〕最大で12cmである。

〔底面〕Ⅵ層を底面とする。

出土遺物（第19図、写真図版35）

〔出土状況〕土師器（内面黒色処理）、土師器甕、須恵器甕、凹石が出土し、凹石2点を掲載とした。土師器・須恵器は底面より出土したが、小破片であるため出土量を提示するに止めた。遺物の出土量・点数は第11表のとおりである。

〔石器〕35は両面、36は片面にV字状の深くはみ部を有する石器である。ソフトボール大のやや大きめのもの、手持ちで使用するよりは床などに設置して使用された柄鉢のような道具と思われる。35は片面に使用により平滑になった面が観察される。

時期 R Z002と同じ理山から平安時代以降の遺構とするに止める。

R Z004不明遺構

遺構（第20図、写真図版8）

〔位置・状況〕D区南東端、-1 K区南東端に位置する。

〔検出面〕現代の盛土層（0層）除去後、Ⅵa層上面で検出された。標高は121.1～121.2mである。

〔覆土〕4層に分層される。主体は粘性のある黒色土で、上位ほど河原石を多く含む。層序はレンズ状を呈し、自然堆積と考えられる。

〔平面形〕不整形。長軸方向を主軸方向とすると、主軸はほぼ南北方向である。

〔規模〕開口部：928×496cm、底部：808×304cm。〔深さ〕最大で32cm。

〔底面〕皿状で、部分的に凹凸が見られる。

出土遺物（写真図版17・33）

〔出土状況〕土師器杯（内面黒色処理・非黒色処理）、土師器高台付杯（内面酸化）、土師器甕、須恵器杯、須恵器甕、陶器が出土し、土師器杯（非黒色処理）2点、土師器高台付杯1点、須恵器杯1点、須恵器甕1点、陶器2点を掲載とした。底面や覆土中から遺物は出土するものの、相対的に出土量は少ない。遺物の出土量は第11表に示した。

〔石器〕37・38は土師器杯、39は土師器高台付杯、40は須恵器杯、41は須恵器甕である。いずれも小破片や胴部の断片的な資料であるため図化は行っていない。

37は底部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整で、底部は回転切り後無調整である。覆土中位より出土した。38は体部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。覆土中位から出土した。39は底部の破片資料である。内面はミガキ整形の後黒色処理が施されたと考えられるが、二次焼成を受けて酸化してしまっている。底部切り離し後、高台が貼り付けられている。40は須恵器杯の胴部の破片資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。41は体部の破片資料である。内外面ナデの後、外面には縦方向にヘラケズリが施されている。

〔陶器〕42は瀬戸・美濃産の陶器である。体部の小破片であるため器種の特定には至らなかった。時期は不明である。43は肥前産の陶器皿で、体部の断片的な資料である。時期は1580～1610年である。

時期 出土遺物が少ないことと、上部が削平を受けていることから時期の特定に至らなかった。

4 柱 穴 群

R G006堀跡の西側に4個の柱穴状土坑が検出された。建物等にはならなかったが、一連の遺構と判断して、柱穴群として報告する。

R Z005柱穴群

遺構（第21図、写真版5・8）

〔位置・状況〕A区北西、-1 J区中央に位置する。P P 2～P P 4がR G006堀跡の西側に平行して配置され、P P 1がP P 2の北東方向に配置される。

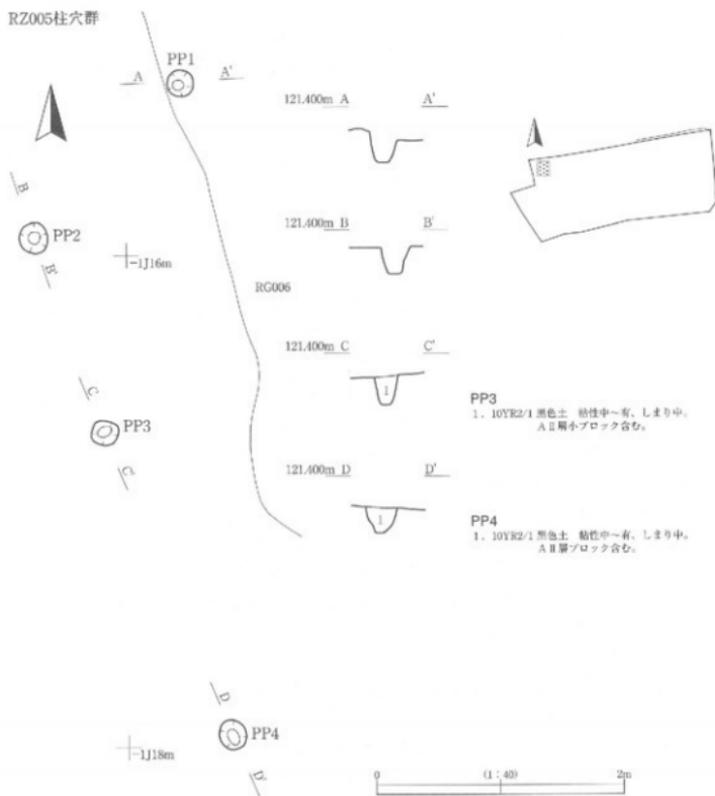
〔検出面〕A区のII層最上面で検出され、標高は121.1～121.2mである。

〔覆土〕柱穴群内の4基とも同一の覆土で、I b層に起因する黑色土の単層である。地山がブロックで見られ、人為的な堆積状況を呈している。明瞭な柱穴痕は確認できなかった。

第5表 R Z007柱穴計測値一覧

No	規模 (cm)	深さ (cm)
PP 1	22×22	25
PP 2	25×23	22
PP 3	23×22	24
PP 4	26×23	21

RZ005柱穴群



第21図 R Z005

〔平面形〕円形基調である。

〔規模・深さ〕第5表のとおりである。

出土遺物 出土しなかった。

時期 出土遺物がないことと、生活面が確定できないことから断定はできないが、R G 006堀跡と平行して配置されていることから、R G 006堀跡と同時期に存在していたと考えられる。

5 带状礫密集部

R Z 007の掘削中に拳大から卵大までの様々な河原石が密集して検出された。周囲にはほとんど礫が出土しておらず、人為的な痕跡と捉え、遺構として登録した。

R Z 009带状礫密集部

遺構 (第22図、写真図版15)

〔位置・状況〕D区北西、—1 K区南から1 K北に位置する。R Z 007の掘削中に当区域に拳大の河原石が密集して検出された。周囲にもわずかながら河原石は確認できるもの分布する密度がまったく異なっており、南側で多量に出土した材と関係があるものと判断して、遺構として登録した。

〔検出面〕検出面は13層の最下層で、標高は120.1m前後である。

〔平面形〕南向きの舌状を呈する。長辺を軸とすると、主軸は14°西偏する。

〔規模〕長辺11.9m、短辺4.6m、面積36.0㎡である。

遺物 出土しなかった。

時期 検出面から判断すると平安時代(9世紀後半期)と考えられる。

6 包含層・遺物集中部

R Z 006遺物集中部

遺構 (第23図、写真図版9)

B区北西、—1 K区中央に位置する。本遺跡中央で確認された旧河道の右岸で、比較的傾斜がゆるい部分にあたる。VI a層上面に土師器、須恵器が張り付くように密集して出土している部分を確認した。単層の面的な広がりで、後述の包含層と区別して、遺物集中部という名称を用いた。遺物確認面はII層除去後のVI a層上面である。VI a層はR Z 007の15層に対比される。遺物の出土する標高は120.700m～120.900mである。遺物の分布する範囲は、東西9.7m、南北6.8m、面積45.2㎡で、東西方向に長い楕円形状の範囲に密集している。長辺は旧河道の流路と並行している。

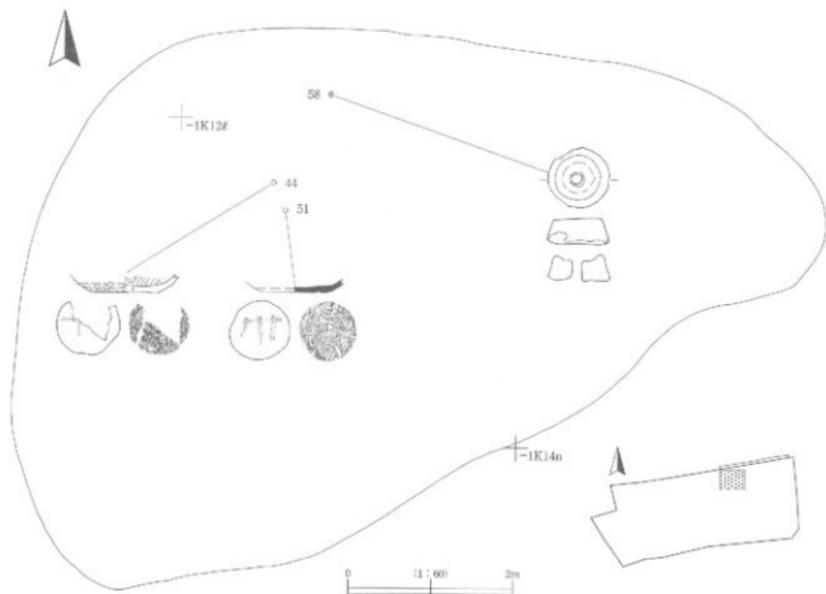
遺物 (第24図、写真図版17・35)

〔出土状況〕土師器坏(内面黒色処理・内外面黒色処理・非黒色処理)、土師器高台付坏(内面黒色処理)、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺、須恵器甕、紡錘車、素材礫、種子が出土し、土師器坏5点(内面黒色処理1点・非黒色処理4点)、土師器高台付坏(内面黒色処理)2点、土師器甕?1点、須恵器坏3点、須恵器短頸壺1点、須恵器甕1点、須恵器甕?1点、紡錘車1点を掲載とした。1層からもわずかながら遺物は出土しているが、主体となるのはVI a層上面の2層である。遺物の出土量・点数は第11表に示した。

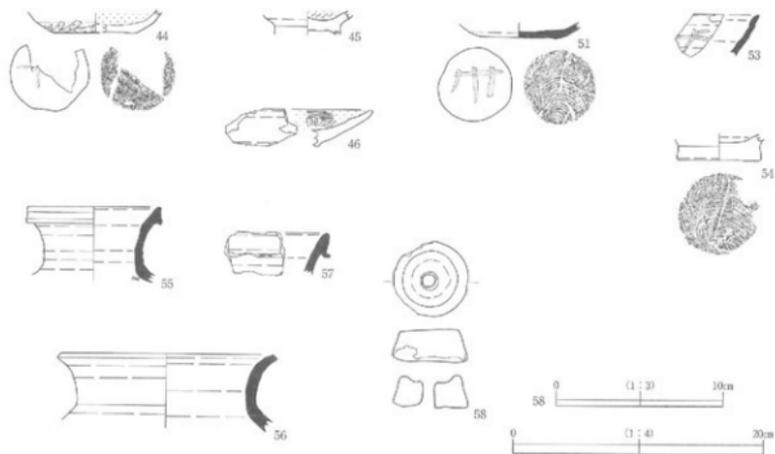
〔土器〕44・47～50は土師器坏、45・46は土師器高台付坏、51～53は須恵器坏、54は土師器甕?、55は須恵器短頸壺、56は須恵器甕、57は須恵器甕?である。44は体部下半から底部の資料である。内面はミガキ調整後黒色処理が施される。底部直上は手持ちによるヘラケズリが施される。底部の調整は切り離した後ヘラケズリが施されている。外底面には「十」と墨書されている。45は底部のみの資料で



第22図 R Z 009



第23図 R Z 006



第24図 R Z 006出土遺物

ある。内面はミガキ調整後黒色処理が施される。底部は切り離した後高台が貼り付けられている。46は口縁部から底部の資料である。非常に器高が低く、口縁部が外側に開くものである。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部は切り離した後高台が貼り付けられている。47～50は底部のみの資料である。4点とも内外面とも回転ナデのみの調整で、底部は回転糸切り後無調整である。51は底部が良好に残存する資料である。内外面とも回転ナデのみの調整で、底部は回転糸切り後無調整である。外底面には「卅」と墨書されている。52は底部のみの資料である。底部は回転糸切り後無調整である。外底面には墨痕が確認される。53は口縁部の資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。体部外面には正位で「大」と墨書されている。54は底部のみの資料である。内外面とも回転ナデのみの調整で、底部は回転糸切り後無調整である。本遺跡出土の土師器類のなかでは非常に厚手の底部である。55は口縁部から頸部が良好に残存する資料である。内外面とも回転ナデの調整が顕著であるが、外面はそれに先行してハケが施されている。口縁部から頸部には星状の降灰が見られる。56は口縁部から頸部が良好に残存する資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。57は口縁部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。

〔土製品〕58はほぼ完形の土製紡錘車である。断面形は台形で、上面の外周が一段高くなっている。

〔その他〕上記以外に種子が3点出土した。内訳はモモの核(910)1点、モモの核と考えられるもの(未同定：不掲載)、不明1点(未同定：不掲載)である。

時期 出土遺物から判断すると、9世紀後半から10世紀前半にかけて形成されたと考えられる。

R Z 007包含層

遺構(第25～40図・附図、写真図版10～15)

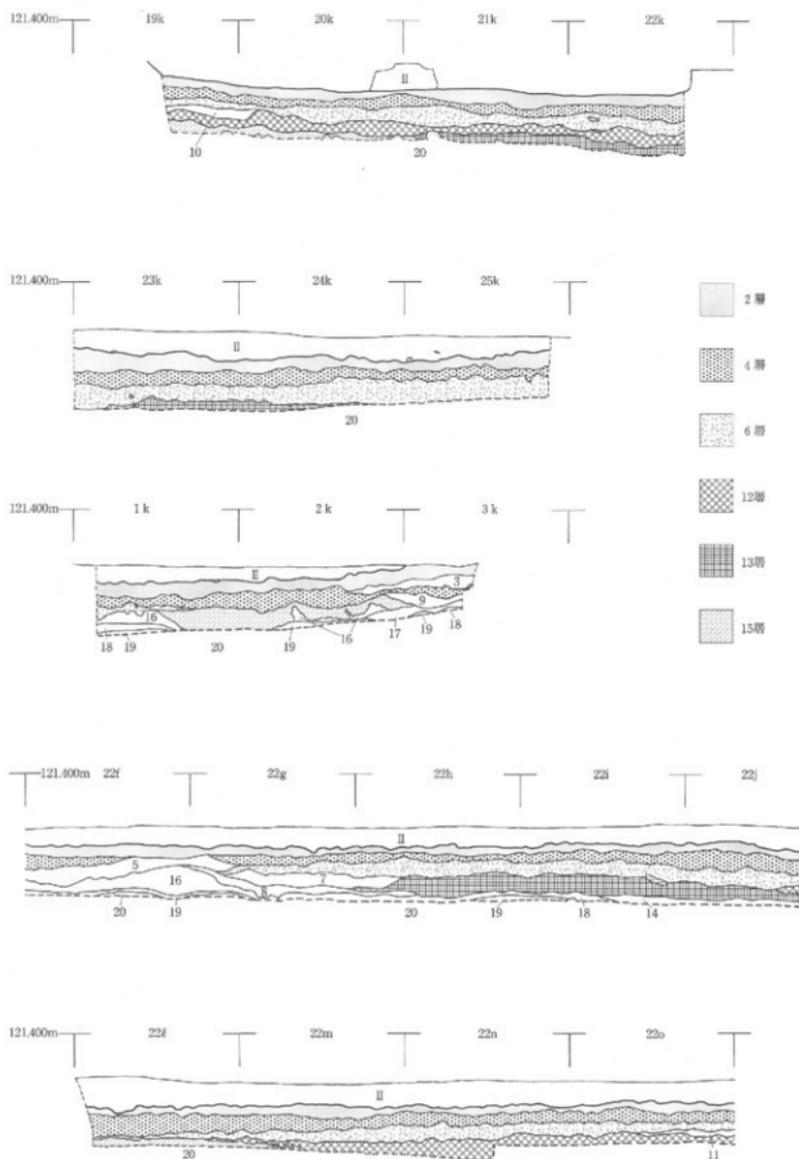
2区の東側約半分～D区の西側約半分、-1K区南から1K区西に遺物包含層(以下R Z 007包含層またはR Z 007)が形成されている。

現況及びII層除去段階ではほぼ平坦な地形であるが、旧地形は東北東から西南西方向に流れる零石川の旧河道の一部である。旧河道は右岸側の傾斜がゆるく、左岸側の傾斜がきつくなっている。6層ではヨシ属が層的に堆積しているのが確認され、少なくとも、6層堆積時は湿地状を呈したと考えられる。旧河道の底面には細粒の砂は顕著に見られるが、河原石はR Z 009周辺を除くと認められない。

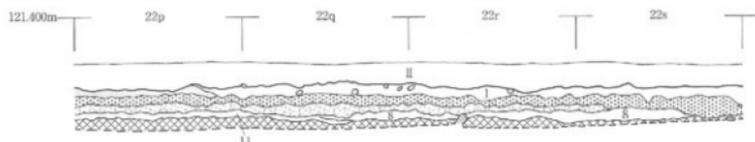
遺物の分布は、河道の両岸にまたがって広がっており、河道の中心部から傾斜のきつい左岸側の縁辺部のほうが右岸側と比較すると密に分布している。遺物の分布する範囲は東西約31.3m、南北約21.0m、面積437.9m²(第5次調査区分144.2m²)で、東西方向に長い楕円形状を呈す。遺物の出土する標高は119.800m～120.700mで、層厚は最大で80cmである。

R Z 007は基本層序のⅢ層に対比可能な層で、黒色もしくは黒褐色粘質土を主体とし、1層から20層まで細分される。野外調査の時点では色調と混合物で層名を示していたため、室内整理の際に算用数字の層名に変更した。新旧の層名対比表を第6表に示した。

本遺構の全ての層が一樣に堆積しているわけではない。旧河道中心部は河床面にあたる20層、砂層である15層の堆積後に、粘質土層である13層、12層、砂層である10層、粘質土層である6層、4層、2層が多少の上下があるものの、水平に堆積している。遺物は主に15層、13層、12層、10層、6層、4層から出土しているが、粘質土層の間にある砂層である10層を境にして遺物の出土傾向が若干異なっている。この10層より下位にあたる15層、12層では木製品が、上位の6層、4層では土師器・須恵器が多く出土する傾向が見られる。1K区北側中央の1～3k～o周辺では15層の堆積後に6層もしくは4層が堆積しており、13層、12層の堆積は見られない。一方で3層、9層の細粒砂を中心とした



第25図 R Z 007セクション図 (1)



- 1層 10YR2/1 黒色土 粘性有、しまり中～有、砂礫を多量含む。
- 2層 10YR1/1～2/1 黒色粘質土 粘性有、しまり中～有、ヨシ属の植物を少量含む。炭化物粒、植体残、細砂少量混入。乾燥すると非常に固くなる。
- 3層 10YR2/1 黒色砂質土 粘性有、しまり中、ヨシ属等の植物少量含む。φ1～10mmの礫少量混入。
- 4層 10YR1/1～2/1 黒色粘質土 粘性中～有、しまり中。最下層にヨシ属を多量含む。
- 5層 10YR2/1～2/2 黒～黒褐色粘質土 粘性有、しまり中、ヨシ属含む。20～25g付友に見られる。
- 6層 10YR2/2～2/3 黒褐色粘質土 粘性中～有、しまり中。ヨシ属を薄状に多量に含む。下位にはやや褐色の細砂を多く含む。
- 7層 10YR3/3 褐色粘質土 粘性有、しまり中～有、ヨシ属含む。黒色粘質土がしみ状に混入。
- 8層 10YR2/1～2/2 黒褐色粘質土 粘性有、しまり中～有、黄褐色土ブロック少量混入。白色砂子混入。下位には細砂含む。
- 9層 10YR2/1 黒色土 粘性中～有、しまり中、ヨシ属少量含む。灰色粘土ブロック部分位に見られる。
- 10層 10YR2/1～2/2 黒～黒褐色砂礫層 粘性無、しまり中～無。傘大の礫から細粒砂まで見られる。ヨシ属を含む。北壁ではやや褐色になっている。
- 11層 10YR2/2 黒褐色粘質土 粘性中～有、しまり中。灰白色バミヌブロック少量混入。ヨシ属少量含む。22pqグリッド周辺で厚く堆積している。
- 12層 10YR2/1 黒色粘質土 粘性有、しまり中～無。上位にはヨシ属含む。
- 13層 10YR2/1 黒色粘質土 粘性中～有、しまり中、ヨシ属含む。南壁ほど粘性がある。
- 14層 10YR2/1 黒色土 粘性中、しまり中。部分位に見られる。
- 15層 10YR1/1～2/1 黒色砂 粘性無、しまり中。礫から礫少量含む。
- 16層 N2/0 黒色粘質土 粘性、しまり有。灰白色粘土との混合層。一部酸化して褐色化している。
- 17層 10YR2/1 黒色粘質土 粘性中～有、しまり中。黒色砂を多量含む。継ぎ部で部分的に見られる。
- 18層 5Y4/1 灰色粘土 粘性有、しまり中。
- 19層 10YR2/1 黒色粘質土 粘性有、しまり中。
- 20層 5Y4/1 (10YR2/1) 灰(黒)色砂 粘性無、しまり中。

第26図 R Z 007セクション図(2)

第6表 R Z 007新旧層名対比表

新層名	旧層名	基本層序
1	砂礫層 0	—
2	黒 3 上	II b
3	黒色砂礫層	—
4	黒 3 中 a	—
5	黒色粘土	—
6	黒 3 中 b	III c
7	褐色粘土	—
8	黒色土 + 褐色土ブロック	—
9	黒 3 中 c	—
10	黒色砂礫層	—

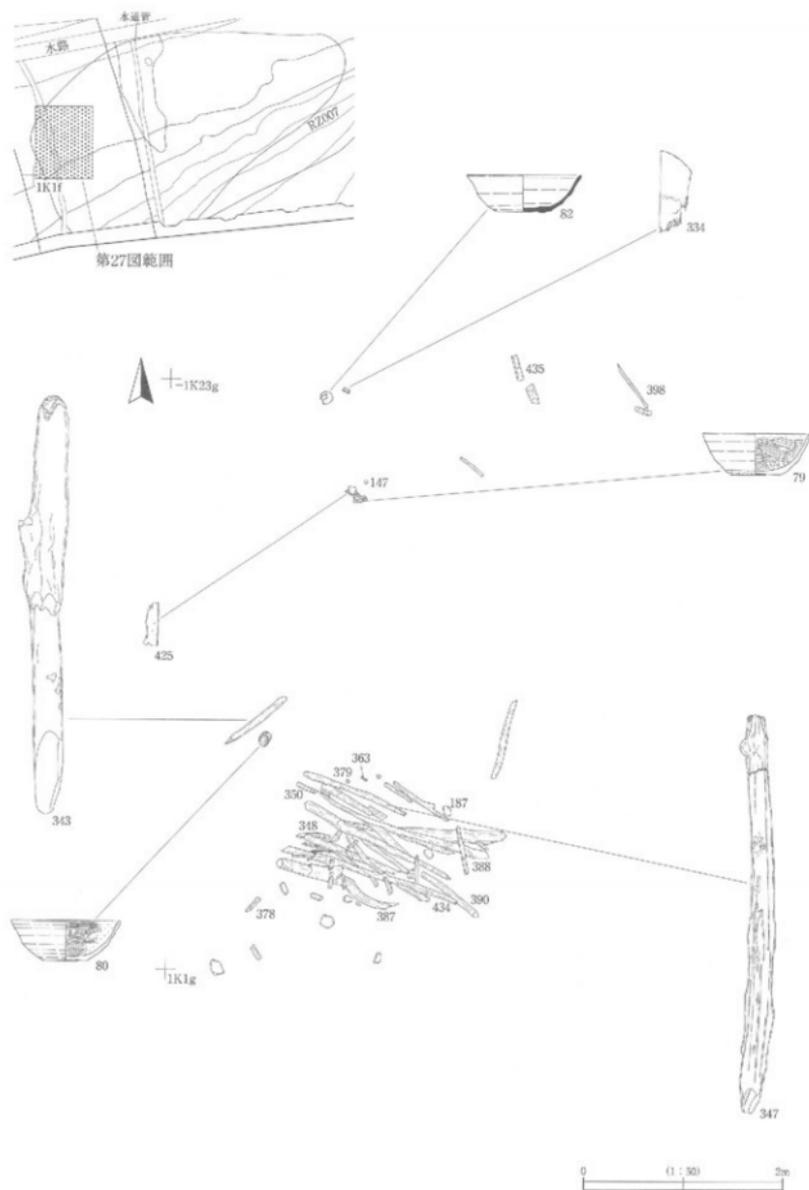
新層名	旧層名	基本層序
11	黒 5	—
12	黒 3 中 d	III d
13	黒 3 中 e	—
14	黒色土	—
15	黒色砂	—
16	黒色土 + 灰白粘土	—
17	黒色土 + 黒色砂	—
18	灰白粘土	IV
19	黒 4	V
20	灰(黒)色砂礫層	VI

堆積土や16層、17層は旧河道縁辺部にのみ見られる。河道縁辺部は浸食作用を受けやすく、その結果と考えられる。

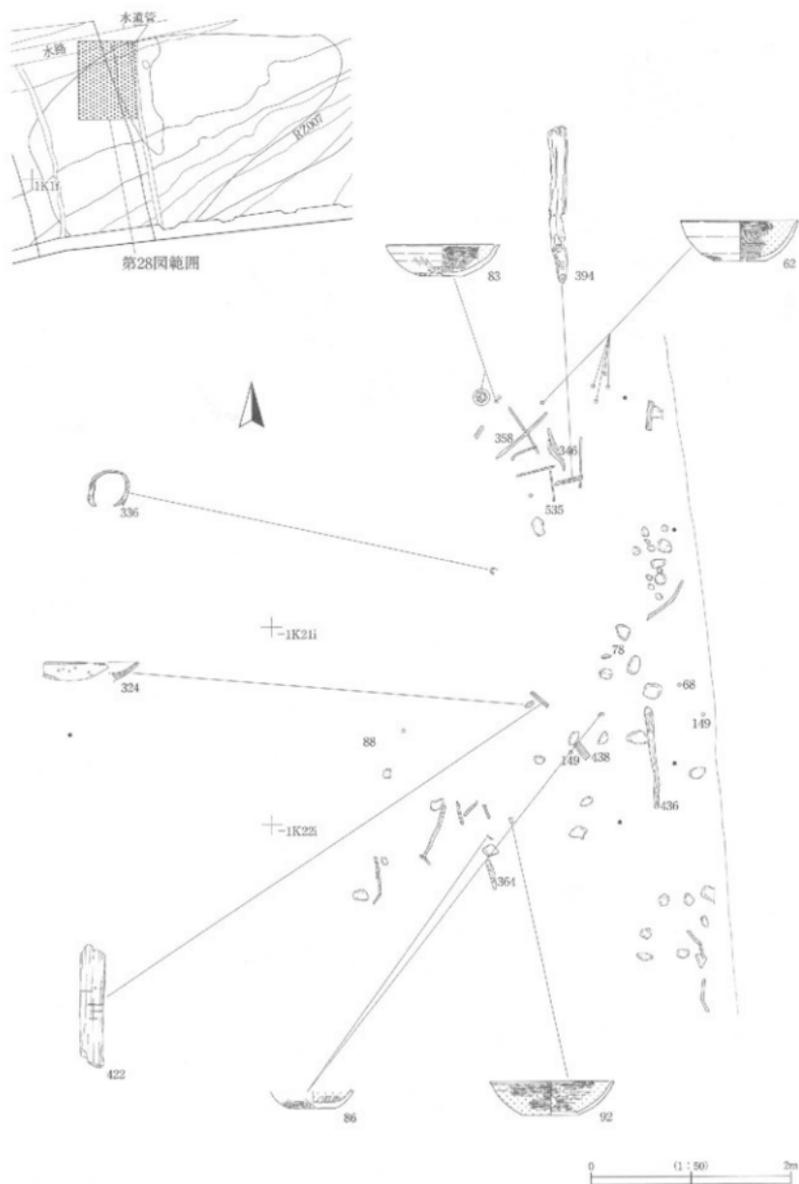
遺物

出土状況

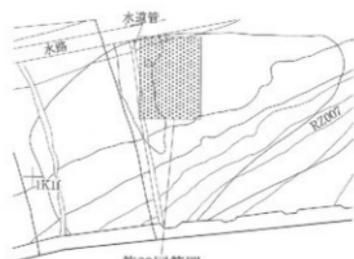
第27図から第40図及び附図に出土状況図を示した。図版内の「○」は登録した土器片、「●」は登録しなかった土器片である。全体の傾向としては11～20層では木製品が、1～10層では土師器・須恵器



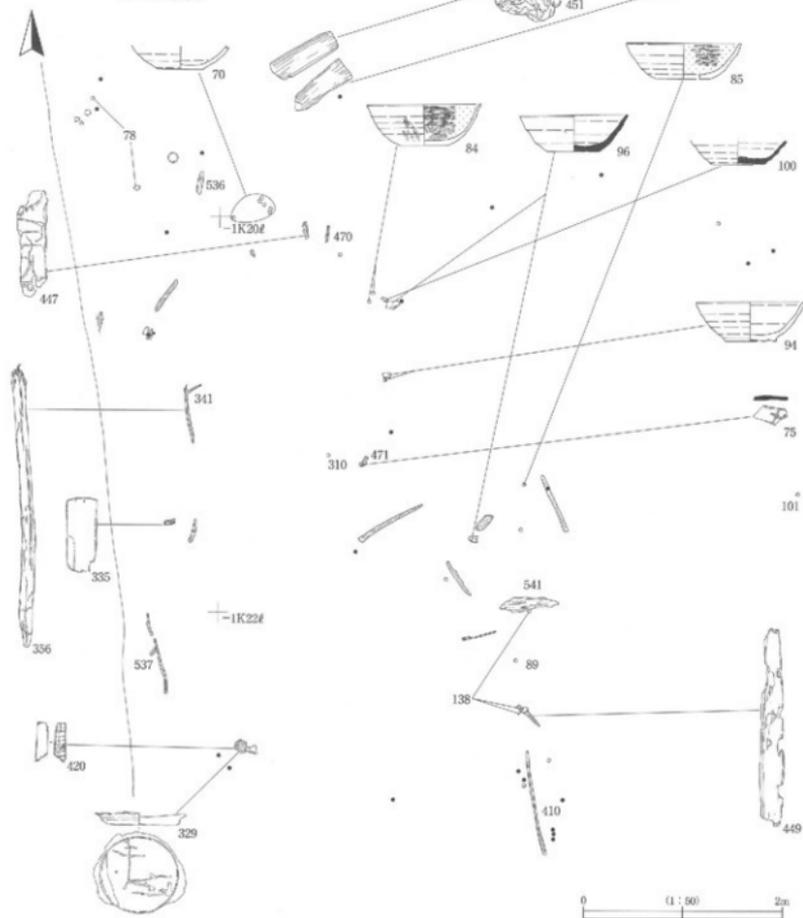
第27図 R Z 007遺物出土状況 (1)



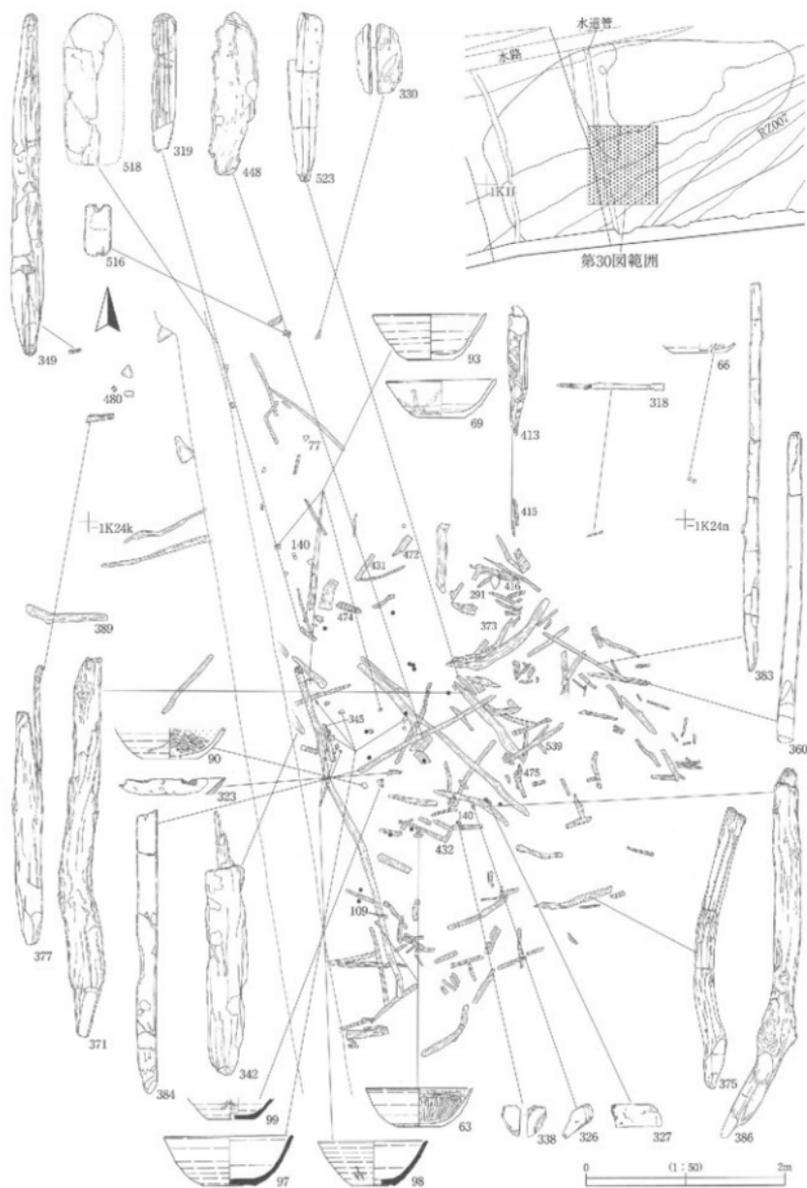
第28図 R Z 007遺物出土状況 (2)



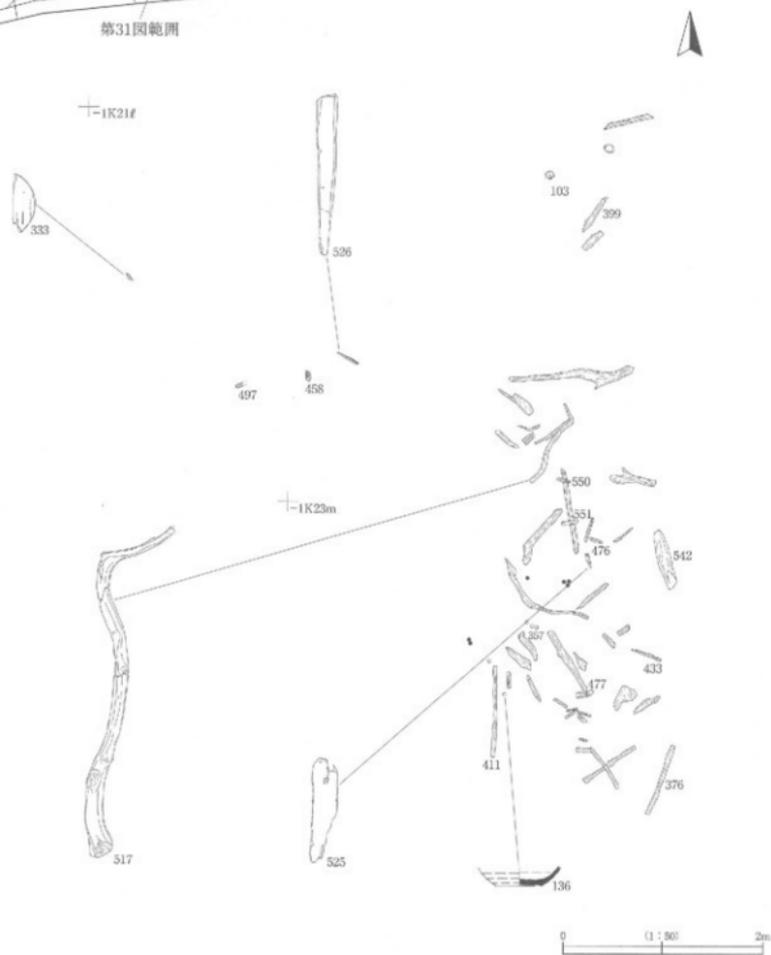
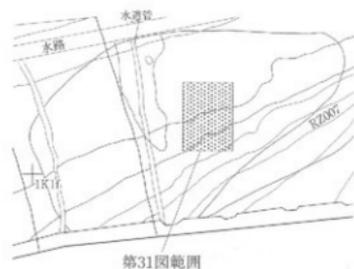
第29図範圍



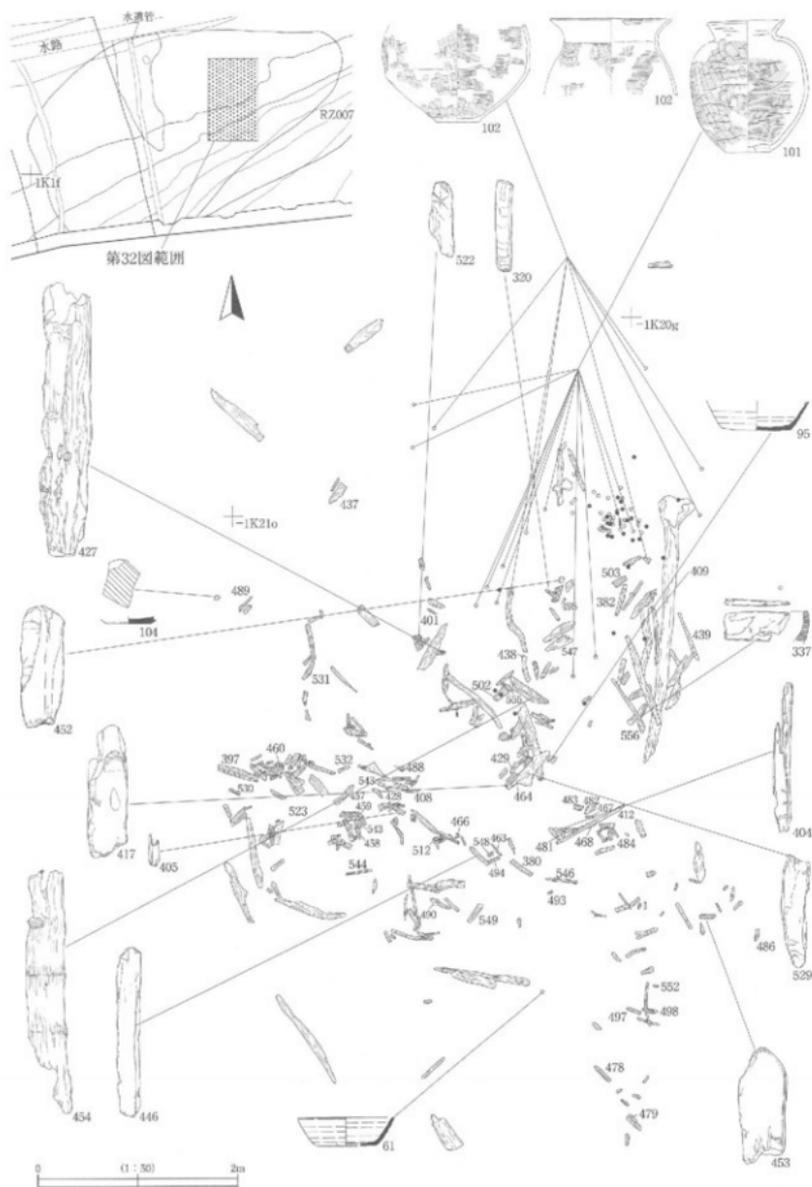
第29図 R Z 007遺物出土状況 (3)



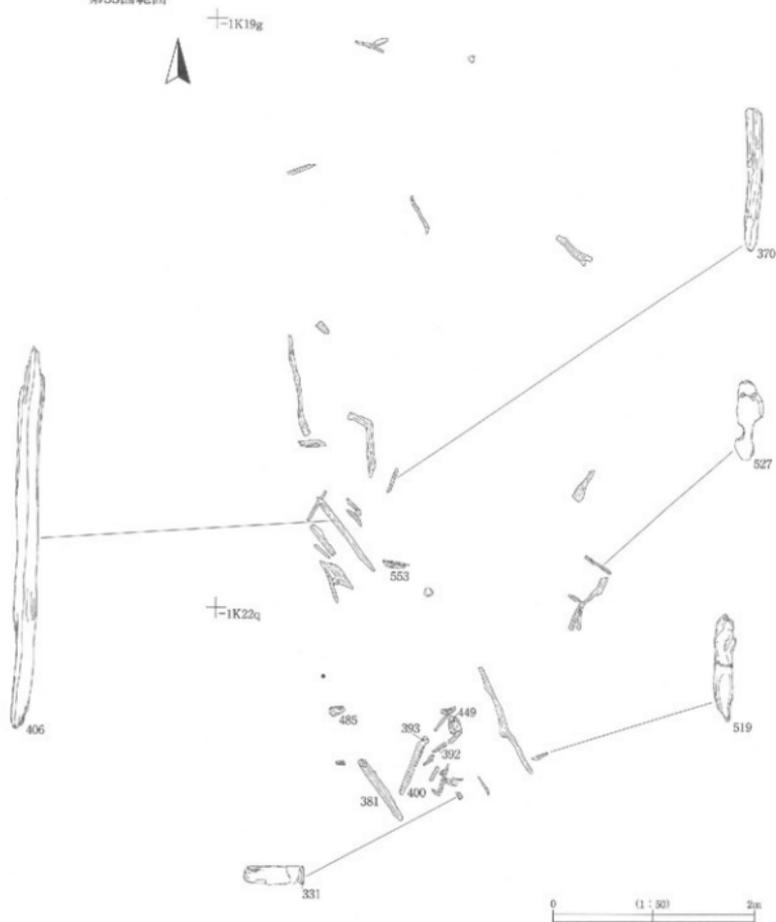
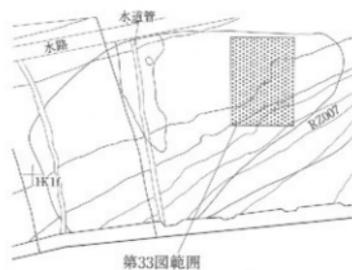
第30図 RZ007遺物出土状況(4)



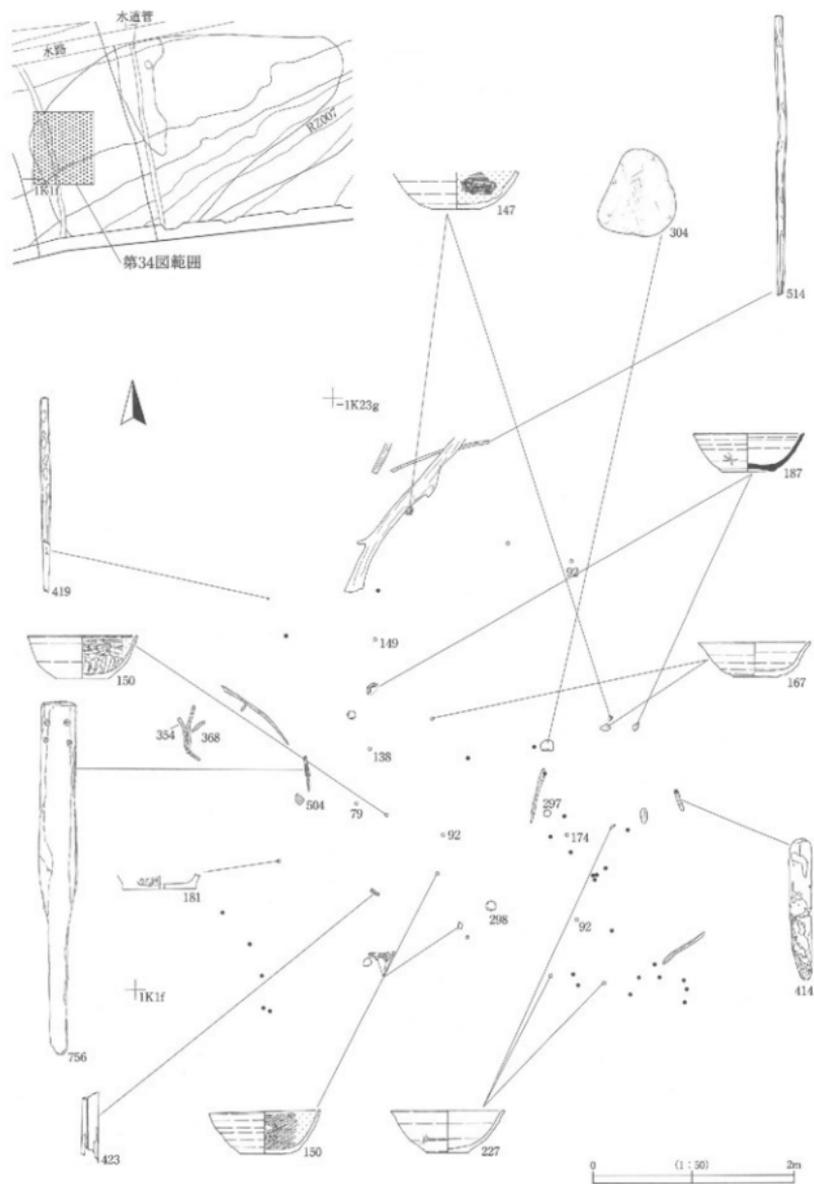
第31圖 R Z007遺物出土狀況 (5)



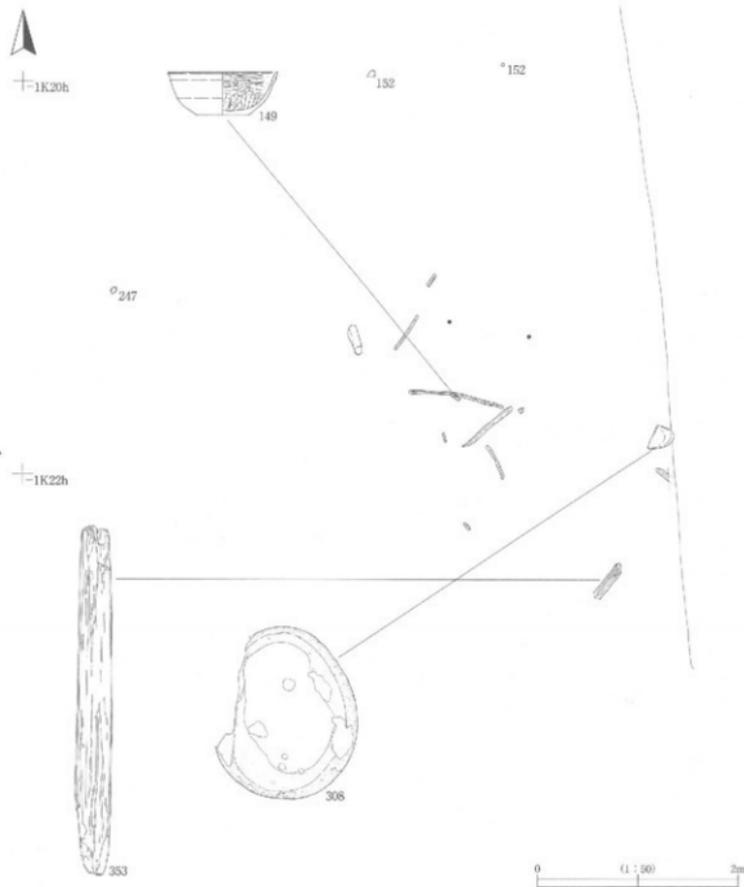
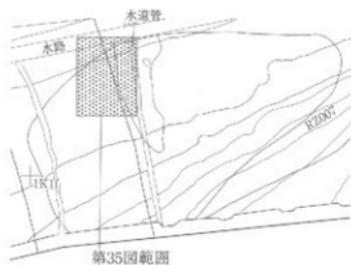
第32図 RZ007遺物出土状況(6)



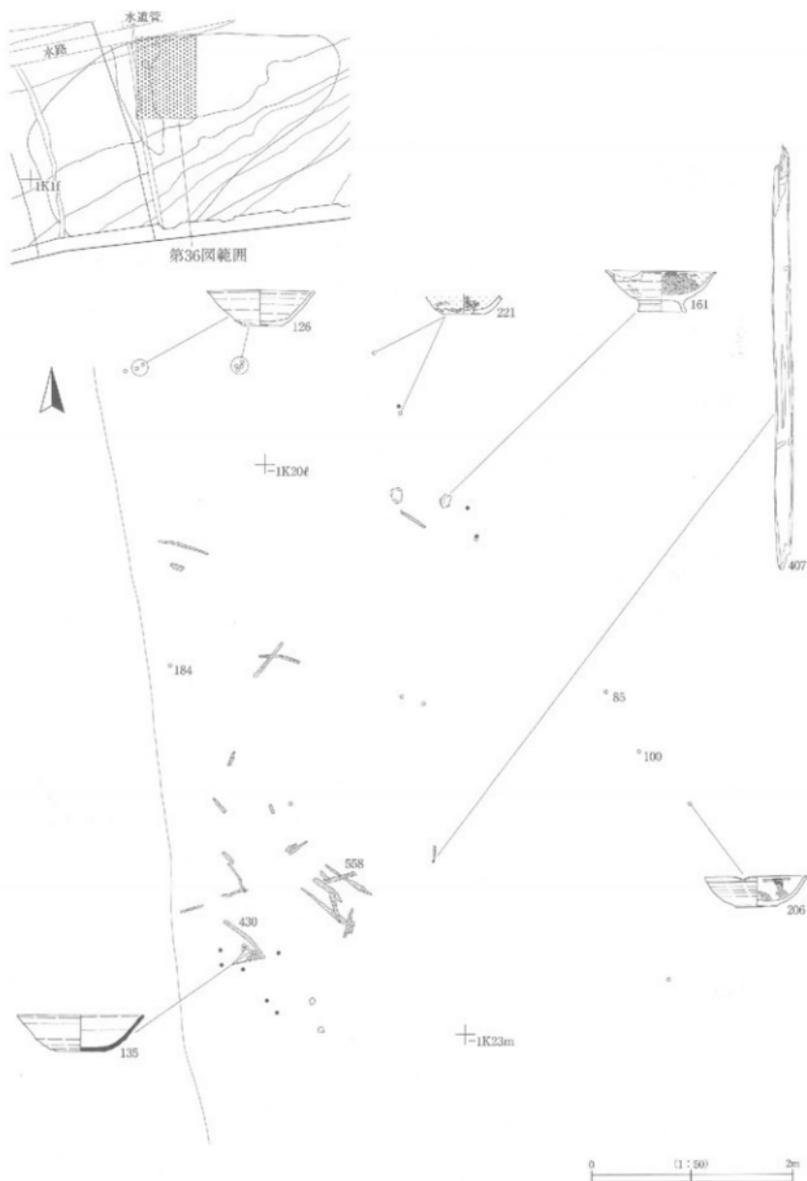
第33圖 R Z 007遺物出土狀況 (7)



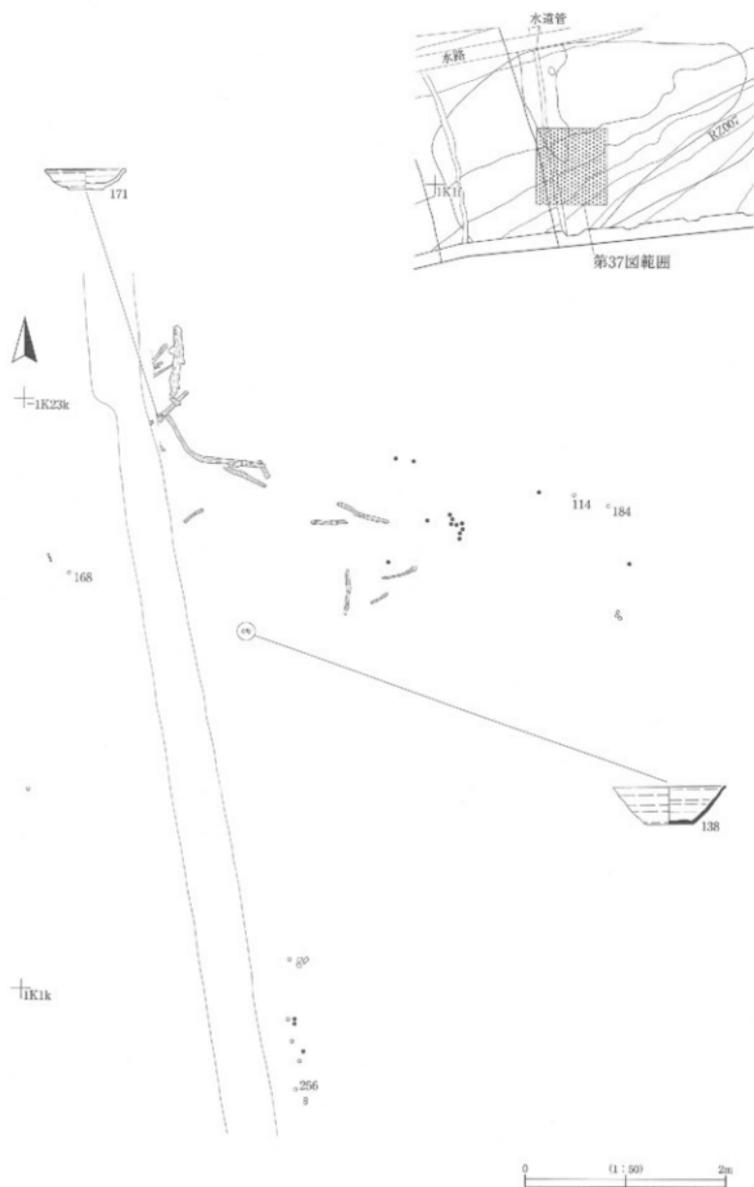
第34図 R Z 007遺物出土状況 (8)



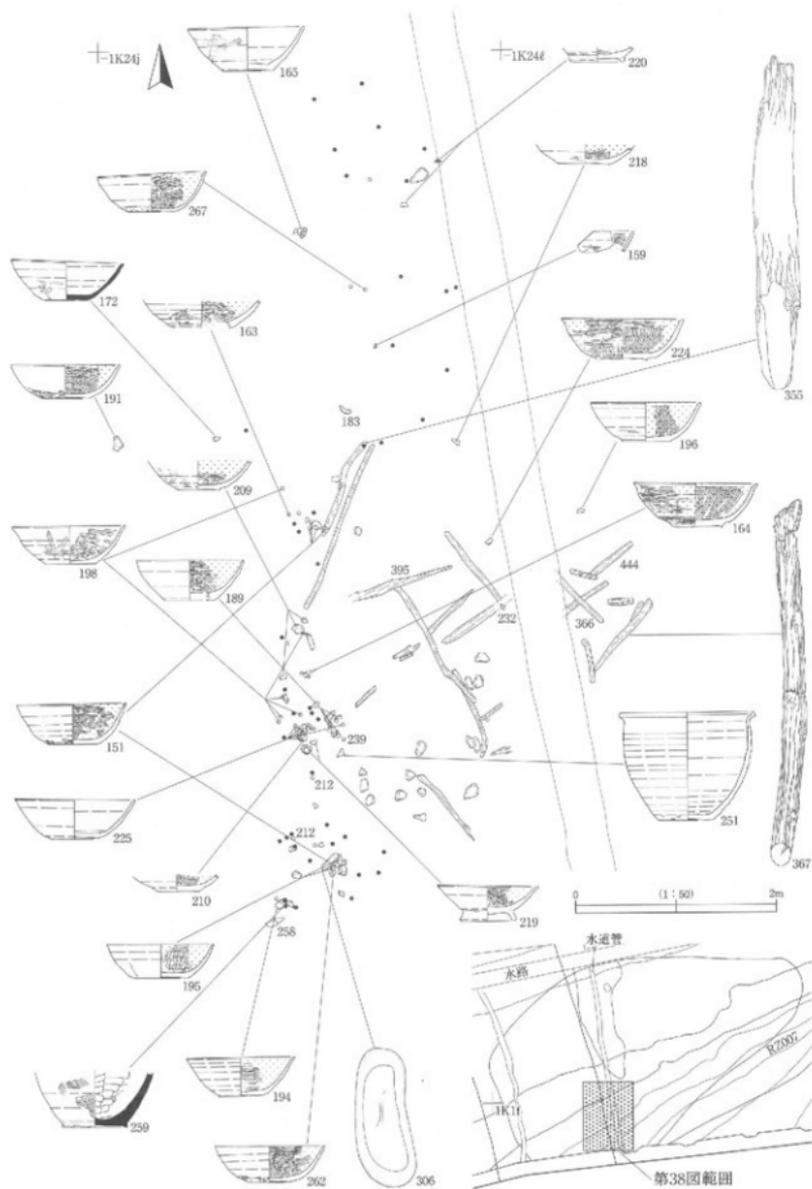
第35図 R Z 007遺物出土状況 (9)



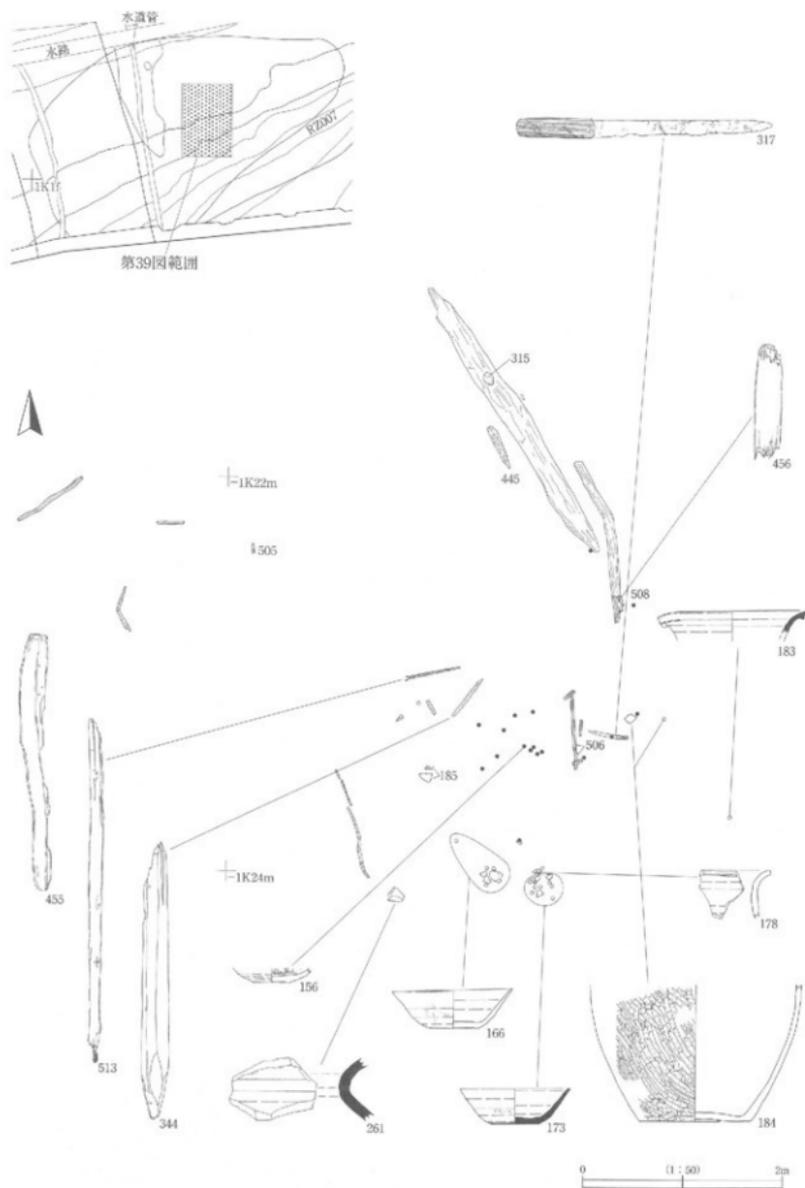
第36図 R Z 007遺物出土状況 (10)



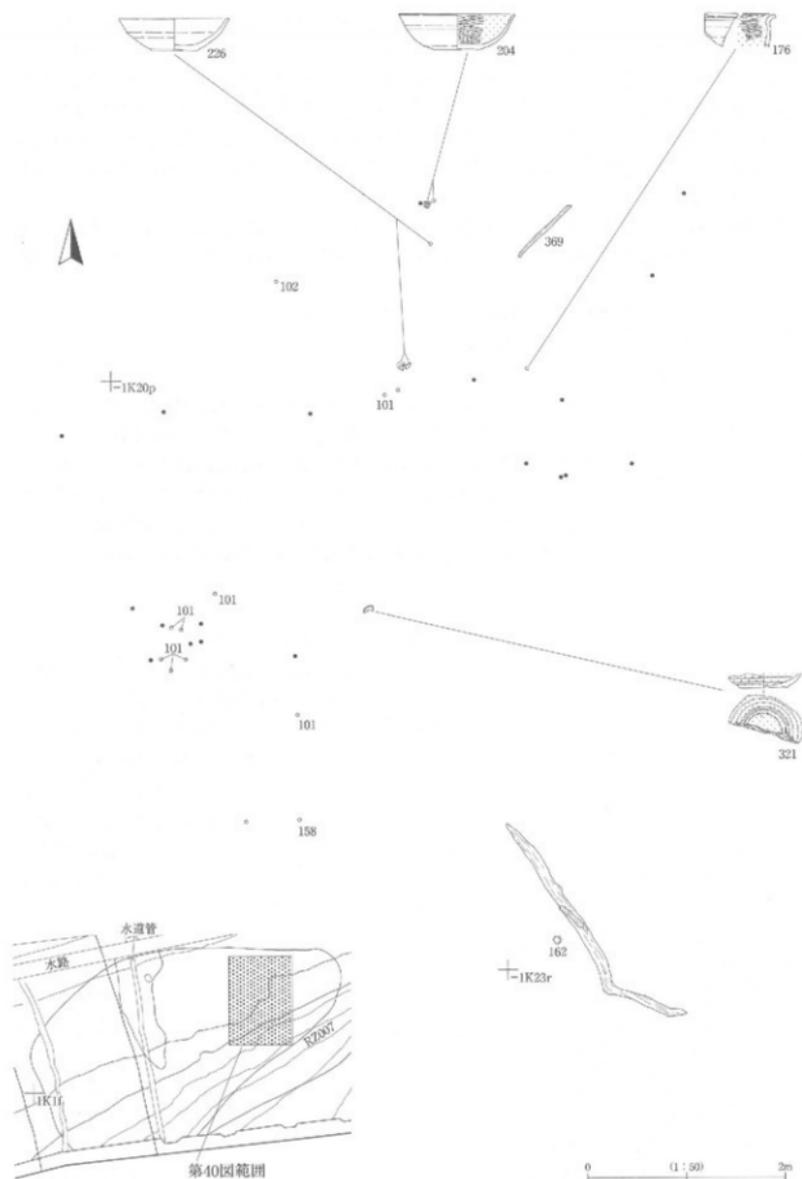
第37図 R Z 007遺物出土状況 (11)



第38図 R Z 007遺物出土状況 (12)



第39図 R Z 007遺物出土状況 (13)



第40図 R Z 007遺物出土状況 (14)

の出土量が多い。これらの遺物はある程度まとまりをもって出土しており、概要を述べる。第27図・第30図～第32図に示した範囲では杭や杭状木製品がまとめて出土した。第27図の範囲ではほぼ同一方向に折り重なるように出土する傾向が見られ、363・379・※807が約5寸間隔で立位の状態でも出土した。第29図の範囲では450と451の類似した材が同一方向を向いて出土した。420は倒位で出土した。第30図の範囲では、349が斜めに立った状態で、377が立位の状態でも出土した。2点の間隔は約2尺4寸である。第32図の範囲では他の木製品が集中する部分とは異なり、用途不明の細かい木製品が非常に多く出土した。

第38図に示した範囲では杭や杭状木製品がまとめて出土した。部分的ではあるが、これらの木製品はそれぞれが直交する状態でも出土した。第34図に示した範囲では木製品がまとめて出土する傾向は見られない。

土器では第38図・第39図に示した範囲でもまとめて出土した。

それぞれの遺物の出土量・点数は第11表に示した。

土器（第41～47図、写真図版18～29）

本遺跡で最も多くの遺物が出土している。土師器坏（内面黒色処理・内外面黒色処理・非黒色処理）、土師器高台付坏（内面黒色処理・内外面黒色処理・非黒色処理）、土師器壺（内外面黒色処理）、土師器鉢（内面黒色処理）、土師器壺、須恵器坏、須恵器壺、須恵器壺、須恵器長頸瓶が出土し、土師器坏141点（内面黒色処理90点・内外面黒色処理3点・非黒色処理48点）、土師器高台付坏12点（内面黒色処理8点・内外面黒色処理1点）、土師器壺1点、土師器鉢2点、土師器壺12点、須恵器坏38点、須恵器壺？4点、須恵器壺9点、須恵器壺？5点、須恵器長頸瓶4点を掲載とした。

<11層～20層出土土師器・須恵器>

62～72・79～81・83～94は土師器坏である。

62～67・79・80・83～91は内面にミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。特に記述していない遺物の底部の調整は切り離し後無調整である。62・63の底部は切り離し後回転ヘラケズリが施される。62には底部直上に連続した指オサエ状の圧痕が観察される。63は底部直上に回転ヘラケズリが一段施される。64の底部は切り離し後手持ちによるヘラケズリが施される。体部外面には刻書がなされている。65は体部外面に墨痕が確認される。66の外外面には墨書による一本線が確認される。67の底部は切り離し後ミガキ調整が行われている。体部外面に墨痕が確認される。79の底部は切り離し後回転ヘラケズリである。底部直上にも回転ヘラケズリが一段施される。底部外面には「九」と墨書されている。ほぼ同一箇所でもまとめており、倒位の状態でも上から圧力でつぶされたような状態でも出土した。80は倒位で、半分どうしが重なるようにして出土した。83の底部の調整は切り離し後手持ちによるヘラケズリが施される。体部外面には横位で「王」と墨書されている。非常にもろく、軽く洗浄するだけで欠損部は水に溶け出すほどである。正位の状態でも、上からつぶされたように出土した。84の体部外面には横位で「王□」と墨書されている。86の底部の調整は切り離し後ヘラケズリが施されているが、部分的である。底部直上にもヘラケズリが施されている。体部外面には正位で刻書がなされている。87の底部の調整は切り離し後回転ヘラケズリが施される。88の底部は切り離し後、主に外周にナデが施される。正位の状態でも出土した。90は体部外面に正位で墨書がなされている。62・84・85は口縁部から底部の残存する資料、63・79・80・83は口縁部から底部が良好に残存する資料、65は体部の断片的な資料、66は底部のみの資料、64・67・86～89は体部下半から底部の残存する資料、90は体部から底部の残存する資料、91は口縁部の断片的な資料である。

68・92は内外面ともにミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。92は非常に薄手のもので、

底部の調整は切り離し後ミガキ調整が施される。68は口縁部から体部の断片的な資料、92は口縁部から底部の残存する資料である。

69・72・81・93・94は内外面とも回転ナデのみの調整のものである。底部は回転糸切り後無調整である。69は体部外面に倒位で「木」と墨書されている。正位の状態出土した。72は底部外面に墨痕が確認される。81は体部外面に墨書による二本線が確認される。体部下半には広範囲にわたってススが附着している。内面には墨と考えられる黒色の附着物が観察される。69・93は口縁部から底部が良好に残存する資料、70は体部から底部の資料、71は底部のみの資料、72は底部の断片的な資料、81は体部下半から底部の資料、94は口縁部から底部の残存する資料である。

101・102は土師器甕である。

101は口縁部から底部が良好に残存する資料である。内外面とも口縁部の調整はヨコナデである。体部から底部の調整は外面が縦方向のハケ、内面の体部上半が縦方向、体部下半から底部が横方向のハケである。輪積みの痕跡が明瞭に観察される。体部径が最も大きい部分から体部上半には数段にわたって、輪積み上辺には偽口縁状の刻みが、下辺にはそれに対応する突起が見られる。102は口縁部から体部上半が残存する a と体部下半から底部が良好に残存する b がある。器形は体部径が最も大きい球胴状を呈する。内外面とも口縁部の調整はヨコナデである。体部から底部の調整は外面が縦方向のハケ、内面が横方向のハケである。101・102とも比較的小さい破片の状態でも多数出土し、その出土範囲は直径約 5 m である。

61・73～75・82・95～100・103・104は須恵器坏である。

61・95の底部の切り離しが回転ヘラ切りである以外はすべて底部の切り離しは回転糸切りであり、切り離し後は無調整である。また、内外面の調整は回転ナデのみである。61は体部外面に墨痕が確認される。73は底部外面に墨痕が確認される。74は体部外面に正位で墨書がなされている。244と書体が類似しており、「本」である可能性が高い。75は底部外面に「吉」と墨書されている。82は底部外面に「七」と墨書されている。墨書部分は削れて出土した。95は底部外面に「厨口」と墨書されている。墨書部分は削られており、外底面の墨書が上を向いた状態で出土した。96は内底面に広範囲にわたって墨の附着が認められる。また、凹凸の高い部分は使用により平滑になっており、硯として使用したことが明らかである。体部外面には点状の墨痕が確認される。98は体部外面に横位で「吉」と墨書されている。大きめの破片がやや散った状態で出土した。99は体部外面と底部外面に墨書がなされている。残存する部分から判断すると「米」と考えられる。出土の状態は倒位である。100は残存部位の異なる a と b の資料がある。100 b の体部外面には墨書がなされているが、一部しか残存しないため判読できない。104の内底面は広範囲にわたって平滑になっている。図では表現できないほどわずかであるが、墨の附着も認められ、96と同様に硯として使用されたと考えられる。61・73・97・98は口縁部から底部の残存する資料、74は体部の断片的な資料、75・104は底部の断片的な資料、82・96は口縁部から底部が良好に残存する資料、95は体部下半から底部が良好に残存する資料、99は体部か底部が残存する資料、103は底部が良好に残存する資料である。

76は須恵器壺？、78は須恵器甕、77は須恵器甕？である。

76は内外面とも回転ナデのみの調整である。77の内外面の調整は回転ナデが施されるが、外面はそれに先行してヘラケズリが行われる。78の外面にはタキの痕跡が明瞭に観察され、内面はナデが認められる。76は口縁部の断片的な資料である。77・78は体部の断片的な資料である。

< 1層～10層出土土師器・須恵器 >

105～120・122～134・147～160・165～171・188～218・262～272・274～276・284・285は土師器坏

である。

105～120・147・149～160・169・188～218・262～272は内面にミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。底部の調整は105・106・109～113・116・150・188～190・199・200・207・214・262・266・267・271が切り離し後回転ヘラケズリ、107・149・151が切り離し後ヘラケズリ、108・114・115・117・118・147・152～156・158・191～198・201～204・206・208～211・218・264・268・272が回転系切り後無調整、263が切り離し後ナデである。105・106は底部直上に回転ヘラケズリが一段施される。107は体部外面に墨痕が確認される。108は体部外面に墨痕が確認される。109・110・112・113は底部直上に回転ヘラケズリが一段施される。113は体部外面に墨痕が確認される。117は体部外面に横位で「方」と墨書されている。118の外底面外周には爪痕が明瞭に観察される。119・120は体部外面に墨痕が確認される。147は内面の剥落が著しい。倒位の状態で出土した。150は体部下半から底部が倒位の状態で出土した。151は底部直上にヘラケズリが施される。153は体部外面に正位で「十」と刻書がなされている。155は体部外面に正位で「王」と墨書されている。156は底部外面に「十」と刻書がなされている。157は体部外面に墨痕が確認される。159は体部外面に正位で「大」と刻書がなされている。160は体部外面に墨痕が確認される。169は内面が酸化している。底部直上にはヘラケズリが施される。188は底部直上に回転ヘラケズリが二段施される。189は正位の状態で出土したものと倒位の状態で出土したものが接合した。191は底部外面に墨書による二本線が確認される。墨書部分が下を向いた状態で出土した。192は底部直上にヘラケズリが施される。193は体部外面に正位で「大」と墨書されている。底部直上にはヘラケズリが施される。194の底部は正位の状態で出土し、その周辺から口縁部片や体部片が出土した。195は体部外面に墨書と刻書が確認される。墨書は上部を欠損しているため断定はできないが、正位で「大」と考えられる。196は体部外面に墨書による一本線が確認される。197は底部外面に墨書による二本線が確認される。198は体部外面に倒位で「木」と墨書されている。内面は酸化して黒色処理がとんでいる。墨書部分が下を向いた状態で出土した。199は体部外面に正位で「田」・「井」と墨書されている。二つの文字は線質が異なっており、二人の人物に記された可能性が高い。200は底部外面に墨書による二本線が確認される。204は倒位の状態で出土した。206の内面は酸化して黒色処理がとんでいる。口縁部は丸棒状の工具を押し当てて片口状にしている。口縁部には沈線が一条巡っている。207は底部直上にヘラケズリが施される。208は底部外面に「十」と墨書されている。209は体部外面に正位で「山」と考えられる文字が墨書されている。また、対となる外面にも墨痕が確認され、文字の特徴から「山」と考えられる。墨書部分は割られている。正位の状態で出土した。210は底部外面に「十」と墨書されている。墨書は完全な形で残存する。正位の状態で出土した。211は体部外面に正位で墨書がなされている。上部が欠損しているため文字は不明である。213は体部外面に墨痕が確認される。214は底部外面に墨書による一本線が確認される。217は体部外面に墨痕が確認される。218は体部外面に正位で「七」と墨書されている。262は底部直上にヘラケズリが施される。263は体部外面に正位で「二」と墨書されている。265は体部外面に正位で「大」と墨書されている。266・267は底部直上に回転ヘラケズリが一段施される。269は体部外面に倒位で墨書がなされている。270は体部外面に墨書による一本線が確認される。271は体部外面に倒位で墨書がなされている。字体から判断すると「生」と考えられる。底部直上に回転ヘラケズリが二段施される。272は底部外面に刻書がなされている。284は体部外面に墨痕が確認される。105～107・110・152・153・189・192・197・198・200～204・206・263・264・266・268は口縁部から底部が残存する資料、108・109・149～151・154・188・190・191・193～196・199・262・267は口縁部から底部が良好に残存する資料、111～116・118・158・207・208・211・212・214・218・271は体部から底部

が残存する資料、117・147・155・209・272は体部下半から底部が良好に残存する資料、119・120・157・160・213・217は体部の断片的な資料、156・169・210は底部の資料、159は口縁部の断片的な資料、205・215・216・265・269・270・284は口縁部から体部が残存する資料である。221は内外面ともにミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。底部は回転糸切り後無調整である。体部から底部が残存する。

122～134・165～168・170・171・225～240・274～276・285は内外面ともに回転ナデのみの調整のものである。底部は回転糸切り後無調整である。122は体部外面に墨痕が確認される。123は底部外面に「十」と墨書されている。124・125は体部外面に墨痕が確認される。127は体部外面に黒斑が観察される。128は体部外面に正位で「太」と墨書されている。129は非常に焼成が良好でたたくしまっている。底部外面には「今」と墨書されている。130は129と同様、焼成良好で、一部還元が認められる。体部外面には墨書がなされている。131は底部外面に墨書がなされている。文字の特徴から判断すると129と同じ「今」と考えられる。132～134は体部外面に墨痕が確認される資料である。165は体部外面に正位で「大」と墨書されている。墨書部分は数個の破片で出土した。166は体部外面に正位で「本」と、底部外面に「本」と墨書されている。底部は正位の状態出土し、口縁部及び体部はその周囲から圧力でつぶれたような状態で出土した。168は体部外面に倒位で墨書がなされている。確認できるのははらいのみである。171は小形のものである。体部には段が明瞭に見られる。正位の状態出土した。226は体部外面に墨痕が確認される。正位の状態出土した。227は体部外面に正位で墨書がなされている。文字の特徴から判断すると「大」の可能性が高い。230は体部外面に墨痕が確認される。231は体部外面に倒位で墨書がなされている。はらいのみ確認される。237は体部外面に正位で「天」と墨書されている。238は底部外面に墨書による一本線が確認される。275は内底面にわずかであるが、墨が付着しているとともに、平滑になっている部分が認められ、視として利用されたものと考えられる。122・123・126・165～167・171・225・274は口縁部から底部が良好に残存する資料、124・125・132～134は体部の断片的な資料、127・128・231・239は口縁部から体部の残存する資料、129～131・170・238は底部のみの資料、168・239は口縁部の断片的な資料、226～230・236・237は口縁部から底部の残存する資料、232～235・275・276・285は体部から底部が残存する資料である。

148は内外面ともハケ及びナデ調整が施される資料である。他の環類と比較すると厚手で、回転ナデの痕跡は認められない。口縁部から体部下半が残存する。

121・161～164・219・220・222・223・241・273・277は土師器高台付坏である。

121・161～163・219・220・273は内面ミガキ調整の後黒色処理が施される。底部は切り離し後高台が貼り付けられている。161は体部外面に横位で「玉」と墨書されている。墨書部分は完全な形で残存する。口縁部には打ち欠いた痕跡が認められる。正位の状態出土した。163は体部外面に正位で「太」と墨書されている。164は刻書の部分が数個の破片で出土した。220は他の高台付坏と異なり、高台貼り付け後無調整のもので、粗雑である。241は内面が酸化して黒色処理がとんでいる。273は体部外面に線刻がなされている。121は底部が良好に残存する資料、161・219は口縁部から底部が良好に残存する資料、162・220・241は底部のみの資料、163は体部下半のみの資料、273は体部下半から底部が残存する資料である。

164・222・223は内外面ともにミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。164は体部外面に正位で「大・×」と刻書がなされている。口縁部から底部が良好に残存する資料である。222は体部下半から底部が残存する資料である。223は体部下半から底部が良好に残存する資料である。高台部の外面にはナデの痕跡が明瞭に認められる。

277は内外面とも回転ナデのみの調整のものである。器高が低く、口縁部が直線的にひらく器形を呈する。

224は土師器甕である。

224は内外面ともミガキ調整の後黒色処理が施される。口縁部から底部が良好に残存するが、高台部を欠損する。体部外面には正位で「大」と刻書がなされている。

176・250は土師器鉢である。

176・250は口縁部の断片的な資料である。2点とも内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。

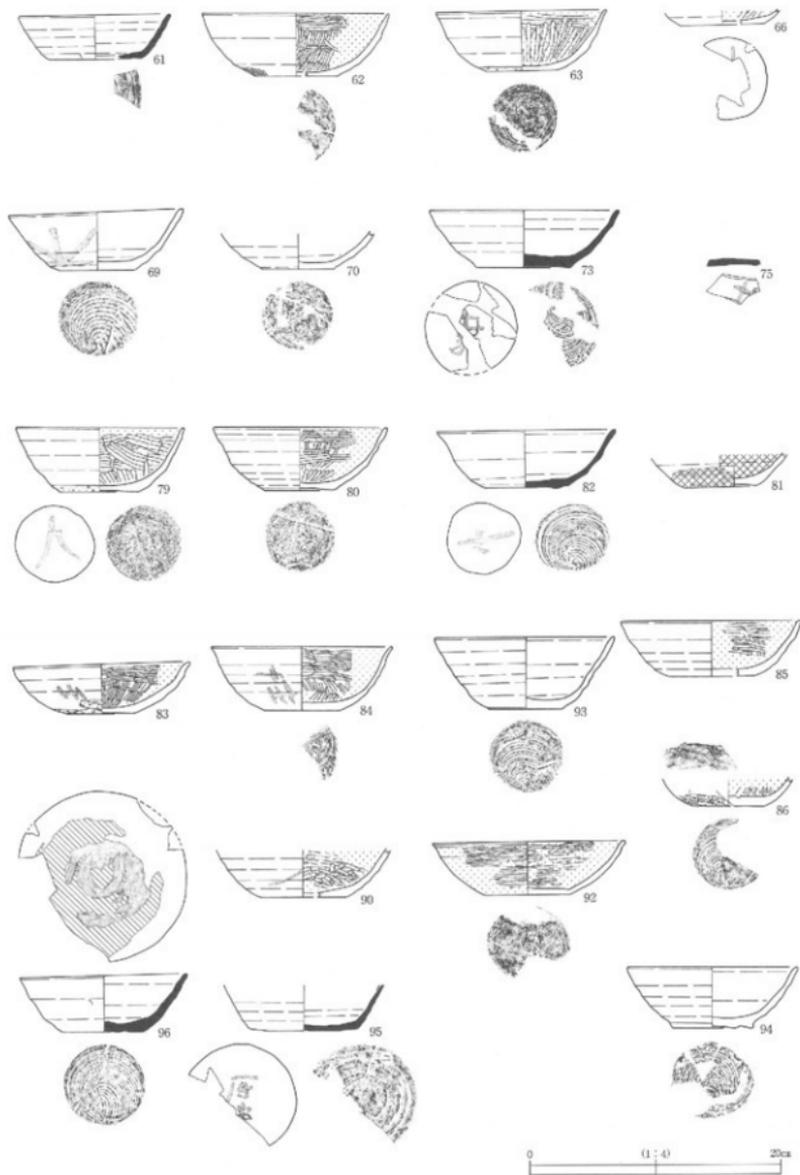
177～181・251～255は土師器甕である。

177は内外面とも回転ナデのみの調整である。178の調整は外面が回転ナデ、内面がナデである。179の調整は回転ナデを行い、外面には縦方向にヘラケズリが施される。180の調整は外面が縦方向のヘラケズリ、内面が横方向のハケが施される。外面の底部直上にはヘラナデが施される。181の調整は内外面ともナデ調整が施され、外面にはその後縦方向のヘラケズリが施される。251は内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。外面体部上半と内底面にススが付着している。252の調整は体部外面が縦方向、底部直上が横方向のヘラケズリ、内面が主に横方向のハケである。253・254の調整は外面が縦方向のヘラケズリ、内面が主に横方向のナデである。255の調整は外面が縦方向のハケ、内面が横方向のハケの後ナデが施される。口縁部はヨコナデが施される。177・178は口縁部の断片的な資料である。179・255は口縁部から体部上半の資料、180・181は底部の資料、251は口縁部から底部が良好に残存する資料、252～254は底部直上から底部が残存する資料である。

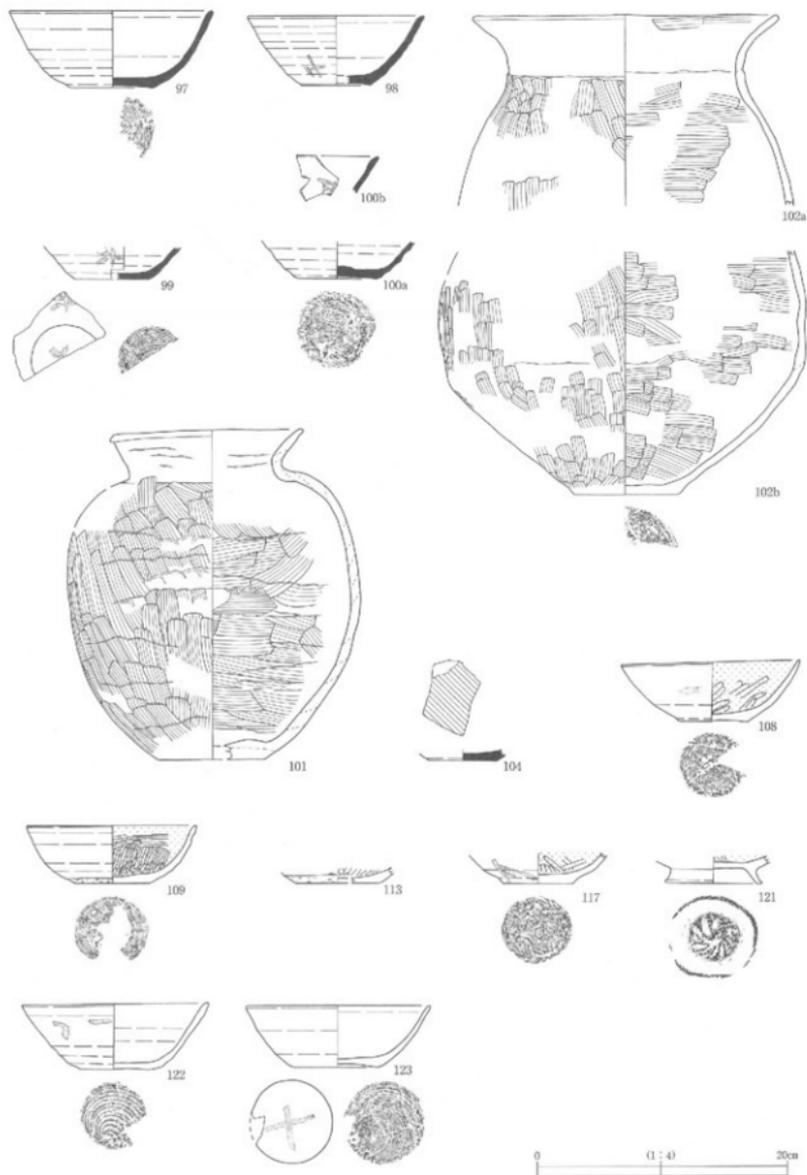
135～140・172～175・187・242～249・278～283は須恵器坏である。

すべて、底部の切り離しは回転糸切りで、無調整である。内外面の調整は回転ナデのみである。135は底部外面に「七」と墨書されている。136は底部外面に「今」と墨書されている。137は底部外面に墨痕が確認される。138は底部外面に墨書がなされている。139は体部外面に倒位で「吉」と墨書されている。140は底部外面に墨書がなされている。部分的に欠損しているため断定はできないが、文字の特徴から「土」と考えられる。172の体部外面には正位で「今」と墨書されている。墨書の一部を欠損する。墨書が下を向いた状態で出土した。173・174は体部外面に墨痕が確認される。173の墨書は完全な形で残存し、土器自体は一箇所で圧力によってつぶれたような状態で出土した。187は体部外面に倒位で「大」と墨書されている。ほぼ一箇体が横位の状態で出土した。242は体部外面に正位で「大」と墨書されている。244は体部外面に正位で「本」と墨書されている。底部外面には墨痕が確認される。245は体部外面に墨痕が確認される。246は体部外面に墨書がなされている。278は底部外面に「千」と墨書されている。279は体部外面に正位で「大」と墨書されている。280は口縁部から体部が残存するaと体部から底部が残存するbと2資料ある。体部外面には正位で墨書がなされている。字体から判断すると「大」の可能性が高い。281は体部外面に墨書と刻書がなされている資料である。墨書は正位で「目」と「二本線」である。刻書は正位で「十」である。282は底部外面に墨痕が確認される。283は内底面が非常に平滑になっている。墨の付着が若干であるが認められ、硯として転用されている。135・242～246は口縁部から底部が残存する資料、136・139・174は体部下半から底部が残存する資料、137は体部下半から底部の断片的な資料、138・140・172・173・187・278・279・281は口縁部から底部が良好に残存する資料、175は口縁部の資料、247は底部のみの資料、248・249は口縁部から体部が残存する資料、282・283は底部の断片的な資料である。

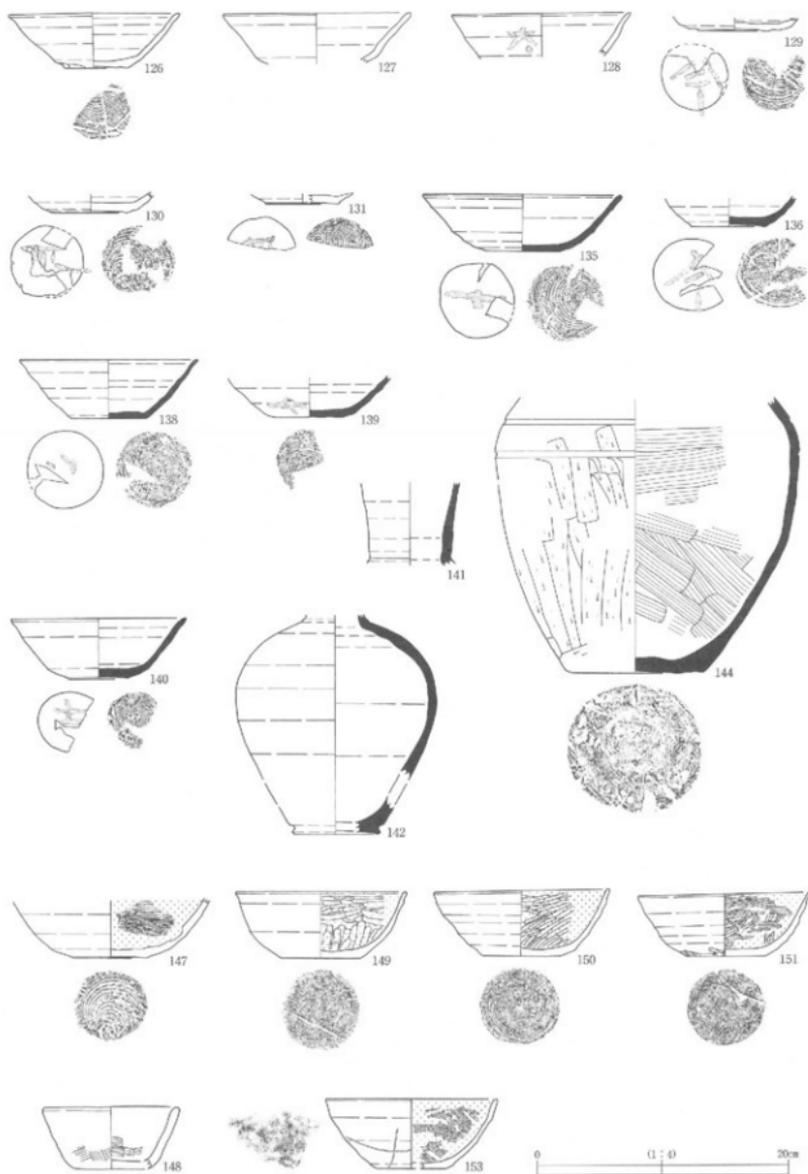
141・142・256・257は須恵器長頸瓶、143・182・258は須恵器壺？、144・145・184～186・260・286・287は須恵器甕、146・183・259・261は須恵器甕？である。



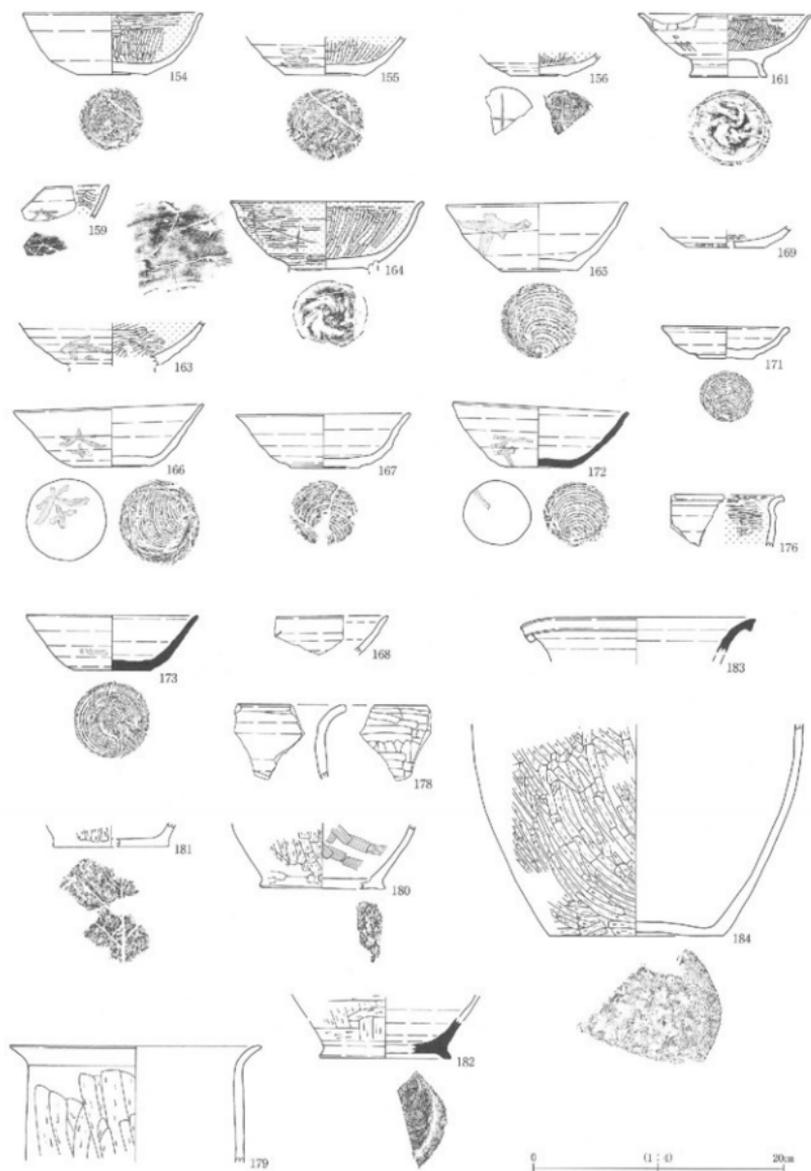
第41図 R Z 007出土遺物 (1)



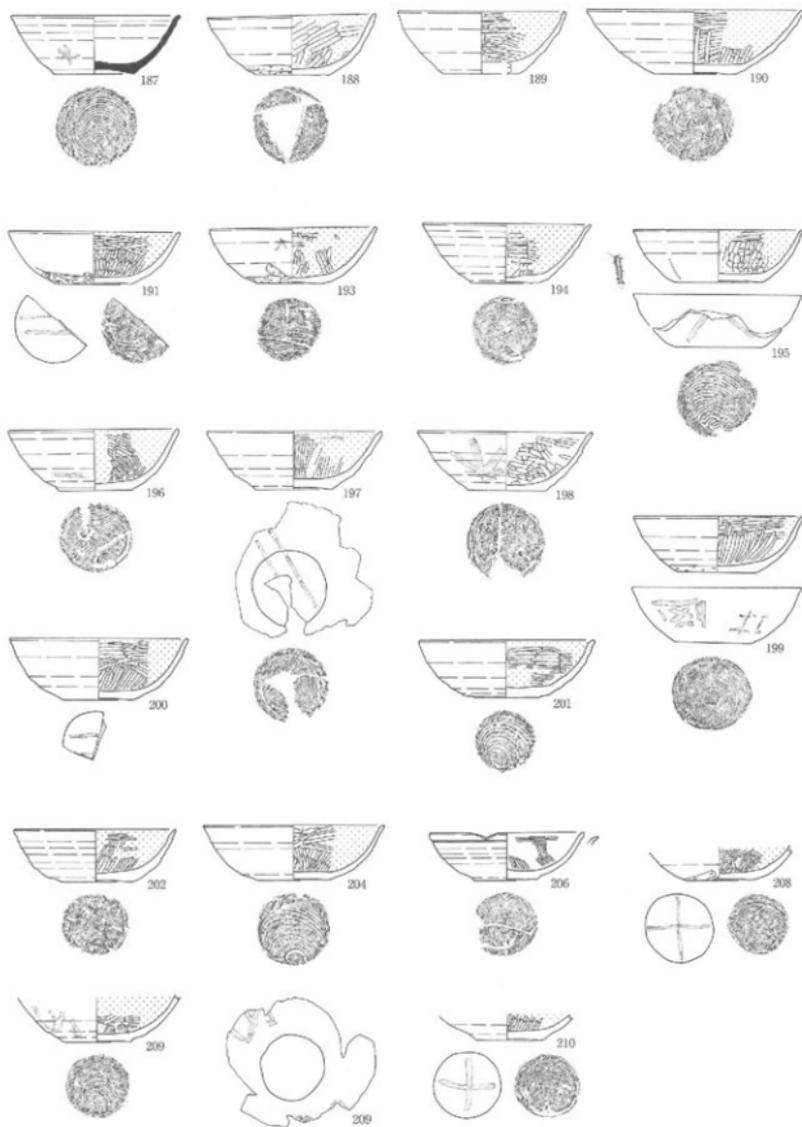
第42図 R Z 007出土遺物(2)



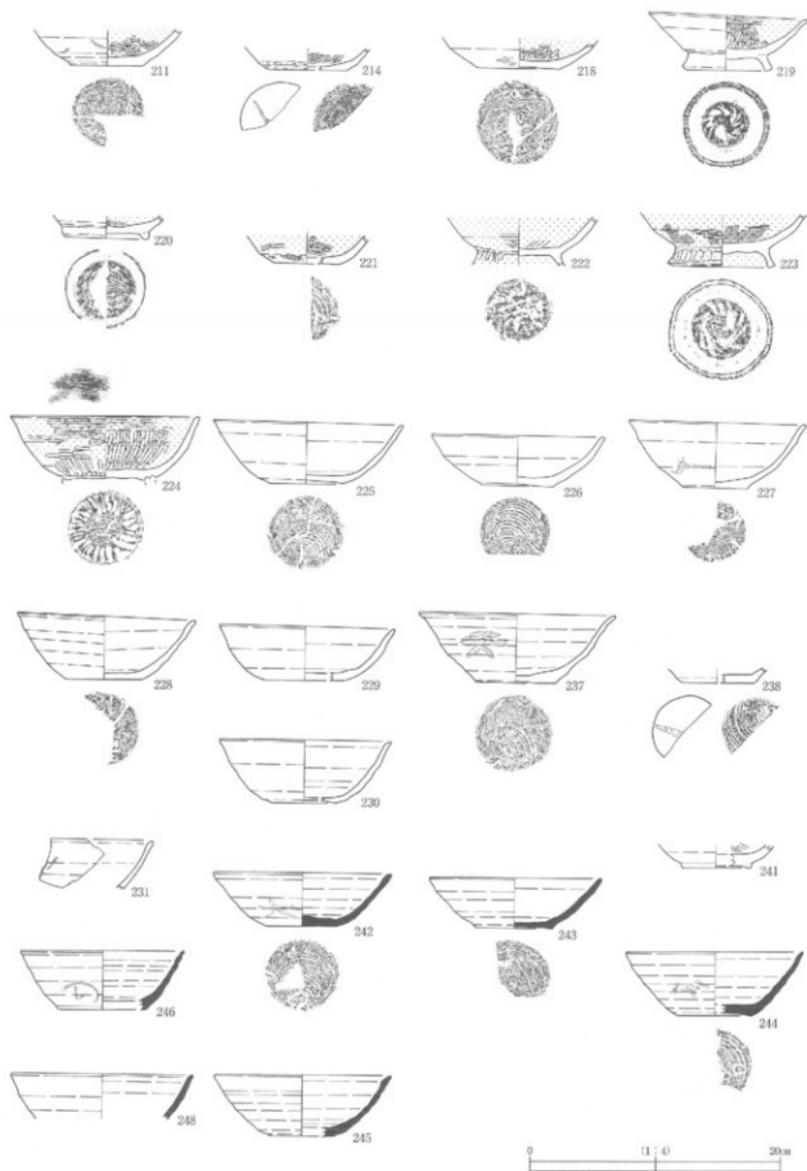
第43図 R Z 007出土遺物 (3)



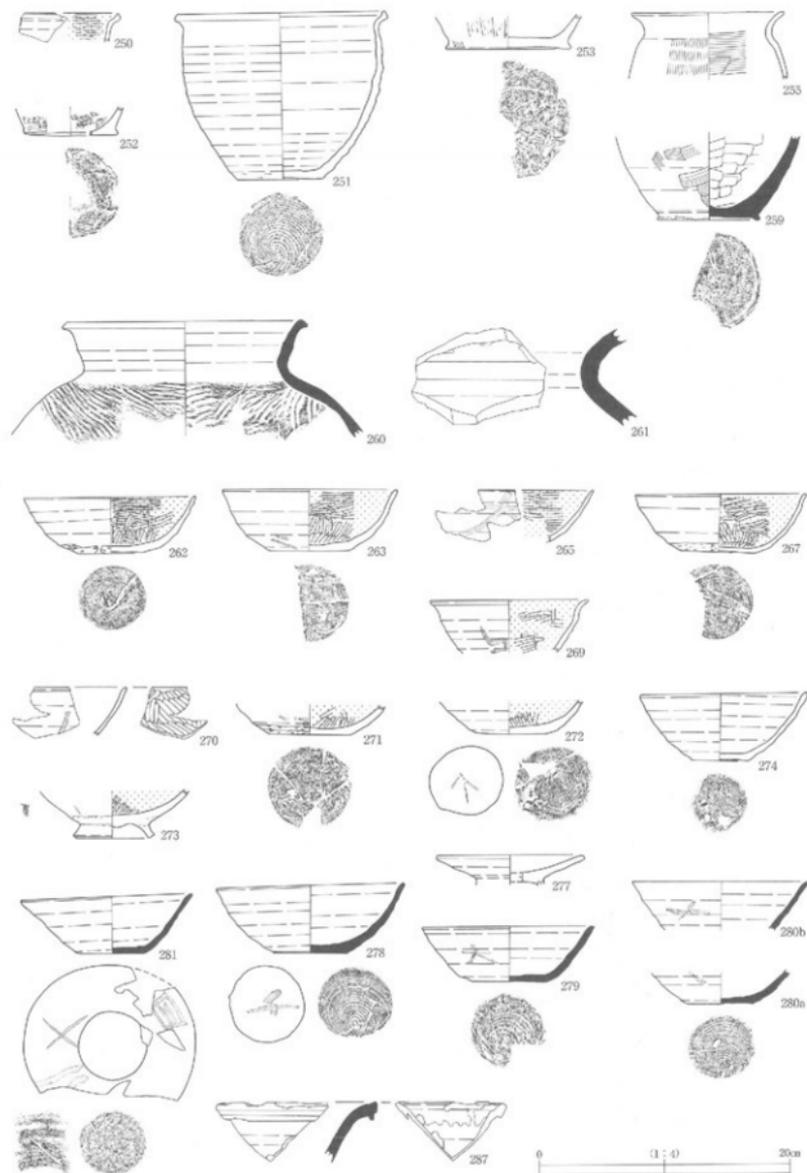
第44图 R Z 007出土遺物(4)



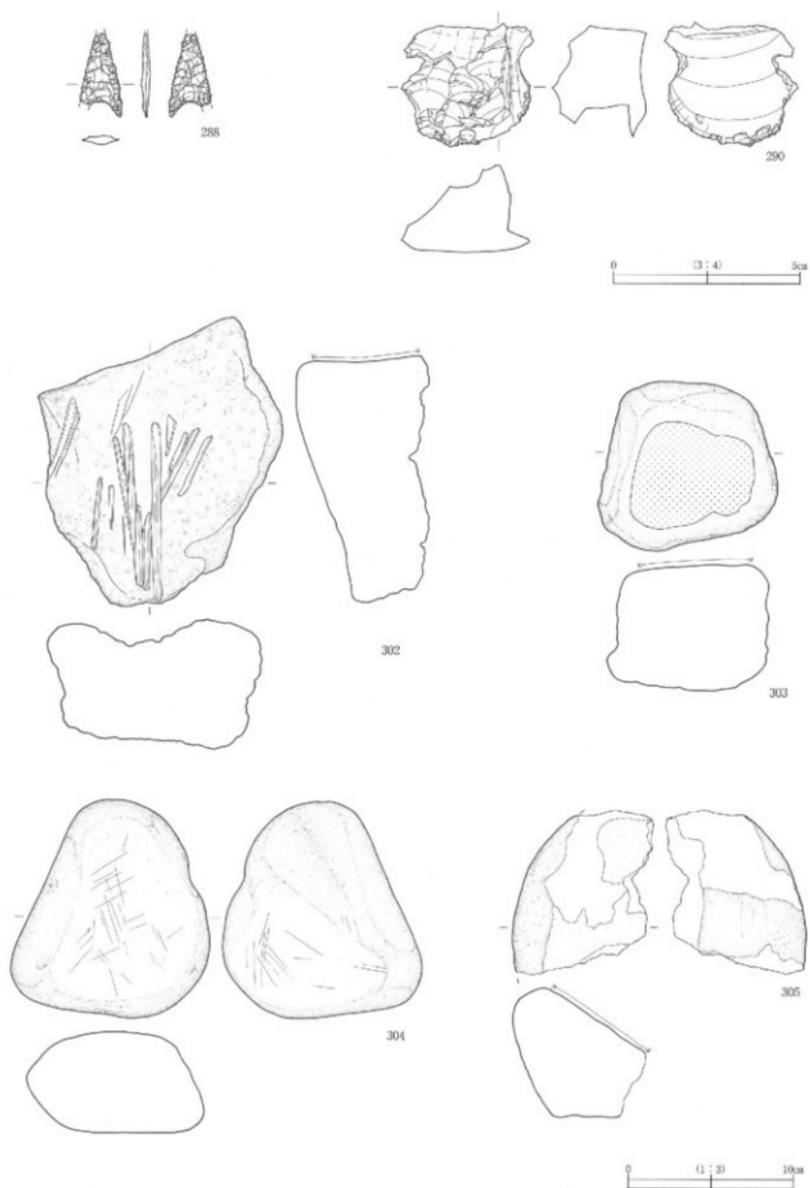
第45図 R Z 007出土遺物 (5)



第46図 R Z 007出土遺物 (6)



第47図 R Z 007出土遺物 (7)



第48図 R Z 007出土遺物 (8)



第49図 R Z 007出土遺物 (9)

141は頸部のみの資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。142は頸部から体部下半が残存する資料と底部が残存する資料が図上で復元できたものである。内外面の調整は回転ナデのみである。底部は切り離し後無調整である。頸部から体部上半には星状の降灰が認められる。143は口縁部のみの資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。144は体部上半から底部が残存する資料である。外面の調整は縦方向のヘラケズリ、内面の調整は横方向のハケである。底部は切り離し後無調整である。145は口縁部から頸部の断片的な資料である。外面にはタタキの痕跡が明瞭に観察され、

内面には当具痕が認められる。146は体部の断片的な資料である。外面の調整は回転力を利用し、ハケ状の工具を当てて行っている。その後部分的に縦方向にヘラケズリが施される。内面は回転ナデのみである。182は体部下半から底部の資料である。内外面とも回転ナデによる調整が行われ、その後外面にはヘラケズリが施される。底部は切り離し後無調整である。183は口縁部の資料である。内外面とも回転ナデが施される。184は体部下半から底部が残存する資料である。外面の調整は縦方向のヘラケズリが施される。内面はナデ調整のみである。底部は砂底で、再調整は行われない。185・186は体部の断片的な資料である。185の外面は主に縦方向のヘラケズリが施される。内面はナデ調整のみである。186の外面にはタタキの痕跡が見られ、内面には当具痕が認められる。256・257は頸部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデが施される。258は体部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデの痕跡が顕著である。259は体部下半から底部の残存する資料である。外面は回転ナデの後横方向のハケが施され、内面は横方向のヘラナデが施される。260は口縁部から頸部の残存する資料である。口縁部の調整は内外面とも回転ナデである。体部の外面にはタタキの痕跡が明瞭に観察され、内面には当具痕が認められる。261は頸部のみの断片的な資料である。外面は回転ナデ、内面はナデ調整が施される。286は底部直上から底部の資料である。外面の調整は体部が縦方向のヘラケズリ、底部直上が回転ヘラケズリである。内面の調整はナデである。287は口縁部の断片的な資料である。硬質で焼成良好な資料である。内外向とも回転ナデのみの調整である。内面には自然袖が見られる。

石器 (第48・49図、写真図版35・36)

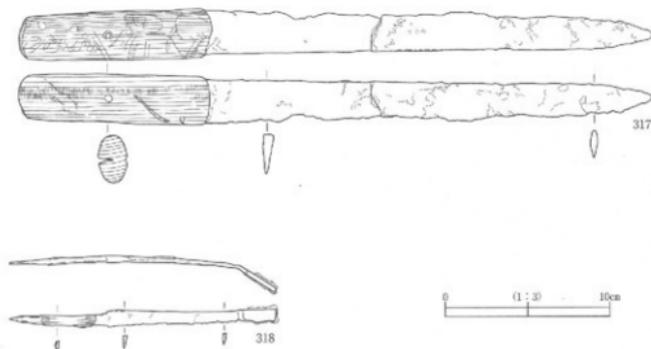
石鏃、調整痕のある剥片、剥片、原石、磨石、砥石、台石、素材礫、棒状礫が出土し、石鏃1点、調整痕のある剥片1点、剥片1点、原石2点、磨石9点、砥石5点、台石3点、素材礫2点、棒状礫2点を掲載とした。288は凹基無茎の石鏃である。先端部と脚部が欠損している。両面とも入念な調整が施されている。289は両面とも稜が摩滅した礫を素材とし、片面の一個縁に連続した調整痕が観察されるものである。290は剥片である。明瞭な調整痕は見られない。291・292は原石である。293～301は磨石である。平面形は楕円形・円形・方形などがある。掌に収まる程度の大きさのもので、使用面は一面のものが多く、302～306は砥石である。302は有溝の砥石である。304や306には線条痕が明瞭に観察される。307～309は台石である。308は本遺跡では大形のものである。中央が浅くくぼんでいる。310・311は素材礫である。310は火を受けて赤化するとともに、非常にもろくなっている。312・313は棒状礫である。312は火を受けて、片面の一部が黒化している。また、部分的にタール状の付着物が観察される。314～316は礫である。314は63の内部に堆積土とともに包含されていたものである。315は火を受けて赤化している。316は片面全面の後は磨耗している。

金属製品 (第50図、写真図版37)

鉄製品は小刀が1点、刀子が1点出土した。2点とも刀身部から基部までほぼ残存しており、317は柄付きのもの、318は柄の一部と思われる木質部が残存するものである。317は刀身部から基部までほぼ残存する小刀である。柄はほぼ中央1箇所、木釘で止めている。刀身部は平棟・平造りである。刀身部は2分割になって出土した。横位の状態で出土し、埋納した痕跡は認められなかった。318は刀身の先端部を欠損するが、ほぼ基部まで残存する刀子である。基部にはわずかであるが、柄の一部と思われる木質部が残存している。

木製品

分類項目は奈良国立文化財研究所編『水器集成図録—近畿古代編』(1984)を基本とし、一部、秋田県教育委員会編『中谷地遺跡』(2001)の「木製品」と(財)長野県文化振興事業団長野県埋蔵文化財センター編『更埴条里遺跡・屋代遺跡群—古代1編—』(1999)の「木製品の分類」、宮城県教育



第50図 R Z 007出土遺物 (10)

委員会編『山王遺跡Ⅲ』(1996)の「木製品」、佐助ヶ谷遺跡発掘調査団編『佐助ヶ谷遺跡(鎌倉税務署用地)発掘調査報告書—第2分冊—』(1993)の「出土木製品の集成」を参考にした。各分類は次の第7表のとおりである。

本遺跡では用途不明の木製品が多量に出土しており、それらについては、大項目は「その他」とし、小項目で形状の特徴に応じて〇〇状木製品とした。

第7表 R Z 007出土木製品分類一覧

図版	大項目	小項目
第51図	工具	楔 (319・320)
第51・52図	容器	挽物 (321~329)、刺物 (330~332)、円形曲物 (333~336)、箱 (337・338)
第52図	食器具	箸 (339)
第52図	発火具	付木 (340・341)
第52~58図	土木具	枕 (342~402)、角状材 (403~412)、枕状材 (413~416)
第58~63図	その他	盤状 (417)、匙状 (418)、串状 (419)、木札状 (420~426)、枕状 (427~445)、板状 (446~511)、棒状 (512~514)、柱状、不明 (515~560)

i. 工具 (第51図、写真図版39)

工具は楔が出土した。

楔 (319・320)

木を割り裂いたり、器物などにはめる簾などを強固にしめつけたりするときに用いるものである。3点出土し、2点図化した。3点とも角棒状の材の一端を片面から削って片刃状にしている。刃部や頭頂部には顕著な使用痕跡は見られない。

ii. 容器 (第51・52図、写真図版39)

容器は製作技法によって挽物、刺物、曲物に区分した。また、複数の部品を組み合わせて作られる箱もここに含めた。

①挽物 (321~329)

ロクロを使用して整形した容器である。321・322が漆器、323~329が白木作りである。体部や底部直上にロクロ目が観察できる資料があるが、爪痕の残る資料は1点も見られない。杯5点、皿4点出土し、全て図化した。321~325は杯である。321は体部下半~底部の資料である。底部は高台状を呈する。内外面ともロクロ目が顕著に見られる。正位の状態で出土した。322は口縁部から底部の資料で、aは4点が接合したものである。底部はやや丸底状を呈し、体部よりも薄く整形されている。323・324は口縁部資料である。323は口縁部を薄く挽き出しており、端部は線状である。324は他の資料と比較すると厚手で、口縁端部が角状になるよう整形している。325は部分的な体部資料である。326~329は皿である。326は口縁部~底部、327は体部~底部の資料である。2点とも底部がほぼ平坦で、低い口縁部がつくものである。328は体部下半~底部の資料である。口縁部が残存していないため断定はできないが、上記2点と同様、低い口縁部がつくと思われる。329は体部~底部の資料である。底部は非常に厚く、高台状を呈する。外底面の整形は行われていない。

②刳物 (330~332)

材を削りぬいてつくる容器である。すべて白木作りである。3点出土し、全て図化した。330は口縁部から胴部の部分的な資料である。平面形は長方形もしくは方形と思われる。底部からやや内湾気味に立ち上がる。器面の傷みはひどく整形の痕跡は不明瞭である。ロクロ使用の痕跡が見られないため、刳物の容器と判断したが、他の器種の可能性も否定できない。331は部分的な資料である。器高の浅い容器で盤と考えられる。底部から内湾気味に立ち上がり、口縁部は丸みを帯びている。332は部分的なもので、詳細は不明である。内外面とも丁寧な整形を行っている。外面は内面と比較するとやや黒くなっており、漆を塗っていた可能性が考えられる。

③円形曲物 (333~336)

薄板を円筒形に曲げて、両端の重合せ部分を樺皮紐で綴合せて側板とし、これに蓋板ないし底板を接合した容器の総称である。底板が3点、皮紐が1点出土し、全て図化した。333~335は底板である。すべて部分的な資料であり、推定直径は約10~16cmである。335には木釘の痕と考えられる未貫通の孔が2箇所観察される。336は樺皮紐である。

④箱 (337・338)

板材を方形に組み合わせ、木釘等で結合、固定したと考えられるもので、2点出土し、全て図化した。337は部分的な資料である。上端には木釘及び木釘孔が2箇所あり、天板を組み合わせるものと考えられる。338は底部のみの資料で、欠損著しい。底部は低い高台状を呈しており、弧状の部分が残存する。

iii. 食事具 (第52図、写真図版39)

食事具は箸が出土した。

箸 (339)

1点出土した。上端が欠損している。整形はあまり丁寧ではなく、断面形は多角形である。

iv. 発火具 (第52図、写真図版39)

発火具は付木が出土した。

付木 (340・341)

前述の『山王遺跡Ⅲ』で報告されている資料である。不定形の材の端部が焦げ炭化した木片で、一時的な明り取りや火種の移動に使用された消耗品と考えられるものである。本遺跡では、長さ10cm前後、幅1~2cmに粗削りされ、端部が焦げて炭化した木片を本類とした。2点出土し、1点図化、1点を

写真掲載とした。

v. 上木材 (第52~58図、写真図版40~44)

上木材としたものには杭と角状材、杭状材がある。

①杭 (342~402)

一端もしくは両端が尖るものを杭とした。92点出土し、21点を図化、40点を写真掲載とした。先端部の加工には鉛筆状のもの (342~354)、片面を切断するもの (355~370)、片面を数回けずるもの (371~382)、山形にするもの (383~393)、三角形にするもの (394~396)、その他 (397~402) がある。多くのものは芯持ち材をそのままもしくは樹皮を除去して利用している。一方で断面形が三角形や四角形を呈するものは材を6分割や8分割等にした割材を利用しているものが多い。344は断面形が三角形基調のものである。上部には長さ約11cm、幅約5mmの切り込みがあり、板状の材を挟む部分と考えられる。また、左側面には長さ2cmほどのくぼみがあり、上部のものと合わせて、複数の材を組み合わせたものの一部と考えられる。器面の整形は全体的に丁寧である。370は断面形が四角形基調のものである。先端部は大きく2回、斜めに切断するように加工している。384の断面形は三角形基調のものである。下端を山形に整形している。中央部の左側面に浅い凹部があり、板状の材を組み合わせるものと考えられる。391は先端部のみ資料である。角棒状の一端に両側面からの加工により先端部を山形にしている。表裏面も先端部に向かって薄くなるように整形している。裏面には弧状の刃痕が見られる。392は角棒状の一端を表裏2面から尖らせ、両刃状にしている。

②角状材 (403~412)

断面形が四角形もしくは三角形を呈するもので、端部が欠損により加工の有無を判断できないものを一括した。本類の中には杭と形状が類似するものも多く、完形品は少なくとも一端が尖っているものと考えられる。20点出土し、5点図化、5点を写真掲載とした。403は材を縦割りしたものを素材としている。上部に貫通する孔が1箇所と表面上部にホゾ状の孔が1箇所見られ、少なくとも直角に組み合わせる部材の柱部分と思われる。404の断面形は四角形基調である。上部に少なくとも長さ4.5cm、幅4mmの切り込みがあり、板状の材を挟む用途を有していると思われる。405は一部欠けるが、ホゾと考えられる孔があり、その内部には加工痕が観察される。406の断面形は三角形基調である。上部に少なくとも長さ37cm以上、幅約3~8mmの切り込みがあり、板材を挟む用途を持っていたと考えられる。三面は丁寧に整形されている。407は板目材を数個に分割し、四面全体を整形し、一端もしくは両端を削って先端部を作り出している。408の断面形は四角形基調である。角状のホゾを切った痕跡が両端に見られる。

③杭状材 (413~416)

長さ20~30cm、端部が尖るものである。杭と考えるには長さが短いため本類を設定し、一括した。4点出土し、2点図化した。413は両端を一方から切断するように加工している。下部の整形面は黒く変色している。414の断面形はやや扁平な円形である。尖端部は二方向から両刃状に加工しており、その部分は炭化している。また、もう一端も一方から切断するように加工されている。

vi. その他 (第58~63図、写真図版45~51)

用途の決定できないものや他の部材と組み合わせさせて製品を構成すると考えられるものをここに集めた。

①勸状木製品 (417)

417の1点のみである。長方形の平坦な部分と角棒状の柄を持つ木製品である。全体的に整形は粗い。柄及び先端部の一部が欠損している。

②匙状木製品 (418)

2点出土し、1点を写真掲載とした。418は一端を幅広に、もう一端を細くし、幅広の一端を弧状に整形している。全体的に整形は粗い。両端を部分的に欠損している。

③串状木製品 (419)

419の1点のみである。地面に刺さるように出土したが、掘り方は確認されなかった。左右両側面はワリの後、四方からケズリ整形を行い、結果断面形は楕円状を呈す。上端は四方からケズリ整形されやや細くなっているが、1cm程の平坦面を有している。下端はオレにより不明。表裏両面は丁寧に整形されている。表面の中央部に線刻が1本見られる。

④木札状木製品 (420~426)

短冊形の木製品である。7点出土し、6点図化した。両端が折れているものが多い。側面はケズリによる整形が丁寧にされているものが多く、形状、整形方法など木簡に類似する。全点赤外線を通したが、墨痕は確認されなかった。特徴としては、片面はケズリによる整形によって平滑になっているが、片面は凹凸の見られるものが多い。一端が残っているものはすべて方頭である。図化に際しては、便宜的に整形の丁寧な面を表面とした。

⑤杭状木製品 (427~445)

形状は杭に類似するが、両端が欠損しているため、判別のつけられないものを一括した。一箇所もしくは複数個所に貫通孔を持つものも多く見られ、複数の部材を組み合わせて使用していたと考えられる。R Z007出土の木製品の約1/3にあたる262点出土しており、そのうち19点を掲載した。429は一面に、長辺にまっすぐ切り込みを入れ、上下から挟り取るようにしてホゾを作りだしている。

⑥板状木製品 (446~511)

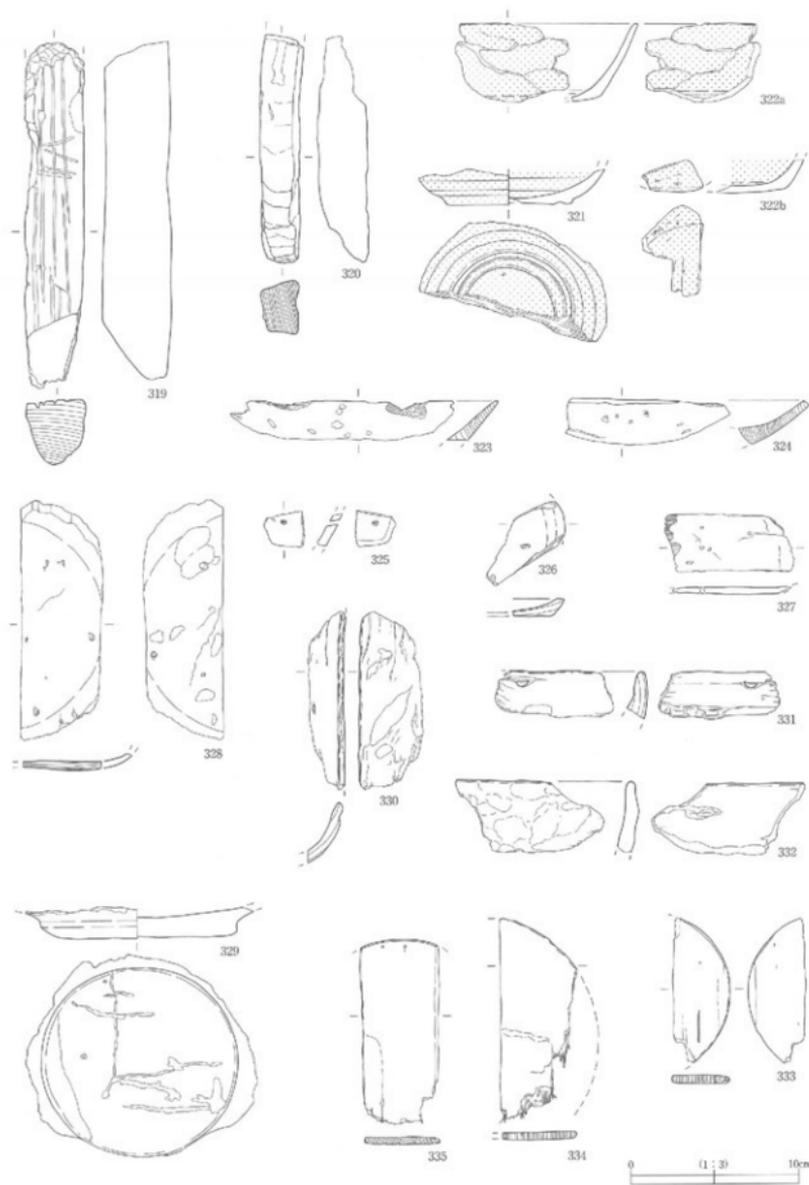
薄い板状の木製品のうち、木札状以外のものを一括した。90点出土し、66点掲載した。446は片面の広い範囲が植物根によって損傷している。上端の一部と左右側面の一部に整形面が残っている。447は片面に短辺に並行する幅1mm程のスジ(線刻)が見られるものである。表裏両面とも整形されているが、全体的にあまり丁寧ではない。448は左右側面には横走する刃痕が残っている。器形はやや内側に湾曲している。中央には貫通する孔が1箇所見られる。449は貫通する孔が3箇所、途中でとまる孔が1箇所見られる。左側面側には少なくとも2箇所以上C状の孔が見られる。火踏板と考えられる。454は右側面に2箇所木釘が打ち込まれており、他の材と組み合わせる部材の一部と考えられる。木釘の間隔は約2寸8分である。455は下部にコの字状に挟れる部分があり、他の材と組み合わせて使用されたものと思われる。杭にも同じような加工をしているものがあり、それらと組み合わせたものと考えられる。456は両側面に整形面が観察される。表面下部には細い線条痕が見られる。459は一端を表面に切り込みを入れ、折っている。整形面が明瞭に残るのは表面のみである。465・476は断面形がかまぼこ状を呈すものである。465は下部が左右側面から細くなるように整形されている。507は楕円形の貫通孔が1箇所見られる。

⑦棒状木製品 (512~514)

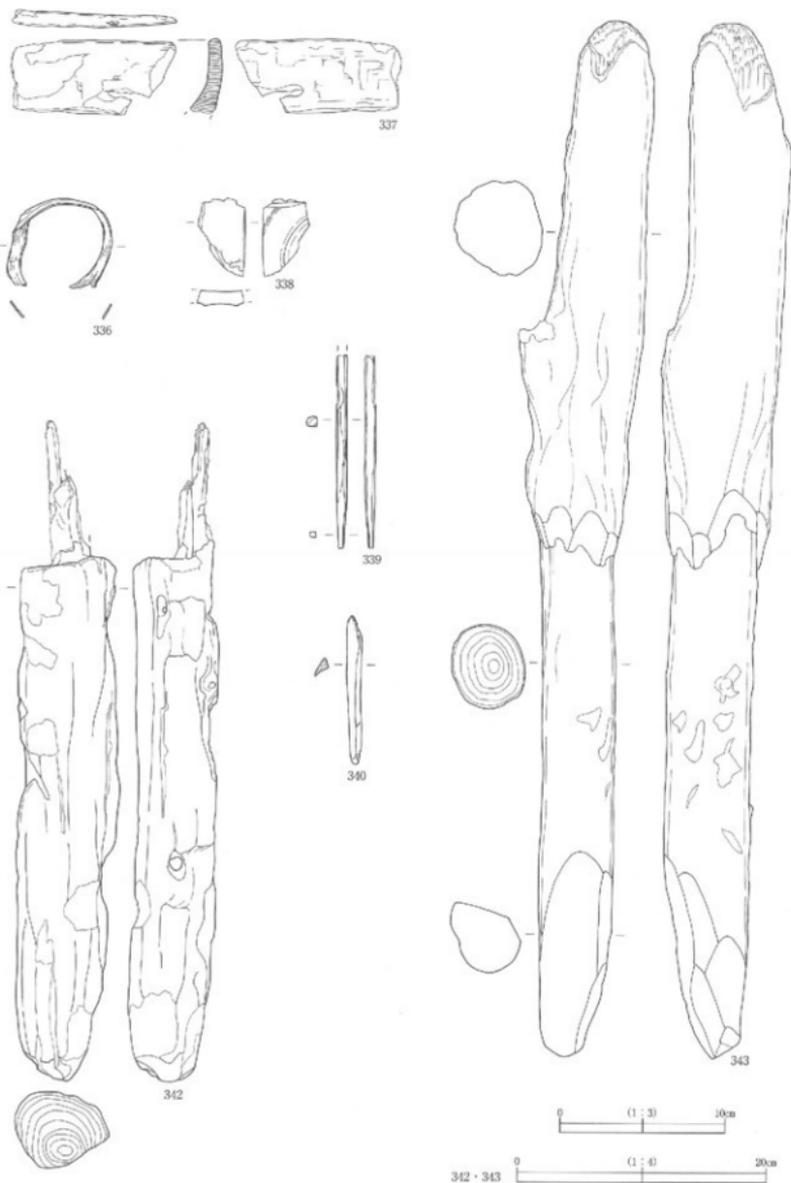
直径が2cm前後の棒状の木製品を一括した。両端が欠損しているものが多い。79点出土し、3点掲載した。514は一端が欠損した資料である。断面形は上部・下部で異なっており、上部は四角形、下部は円形に近い多角形である。全体的に丁寧に整形している。上端はそれぞれの面をメンドリしている。法量の違いはあるが、食器の箸に形状や整形が類似している。

⑧柱状木製品

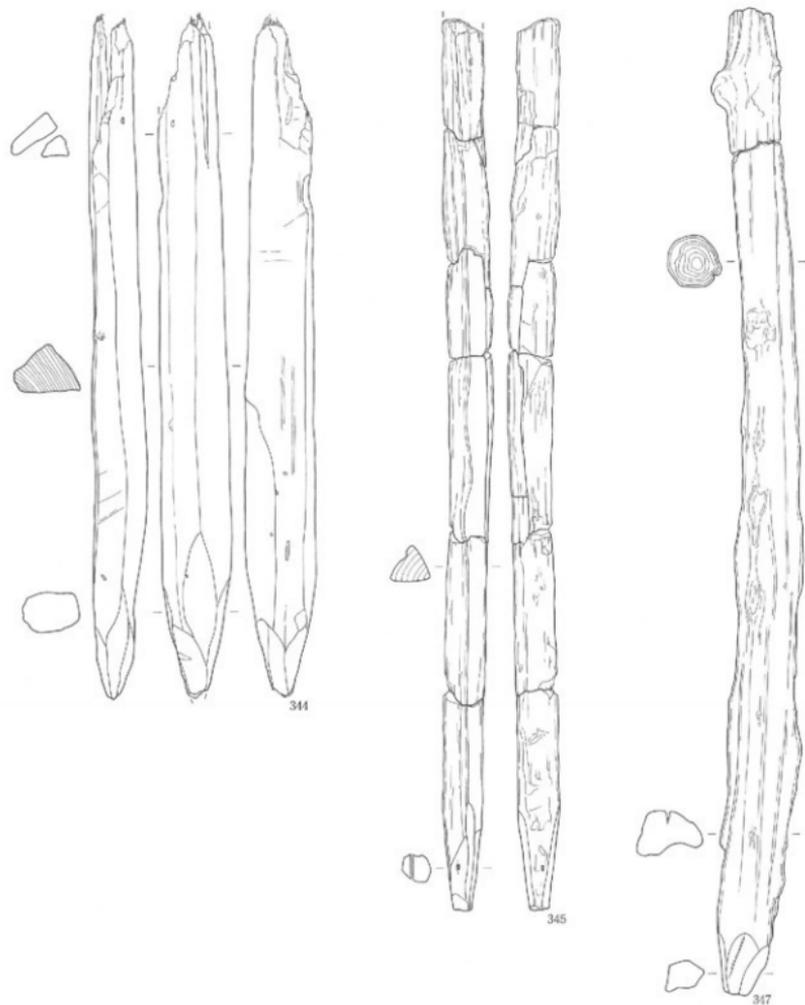
直径が10cm以上の太い棒状の木製品を柱状木製品とした。両端もしくは一端が欠損しており、実際



第51図 R Z 007出土遺物 (11)



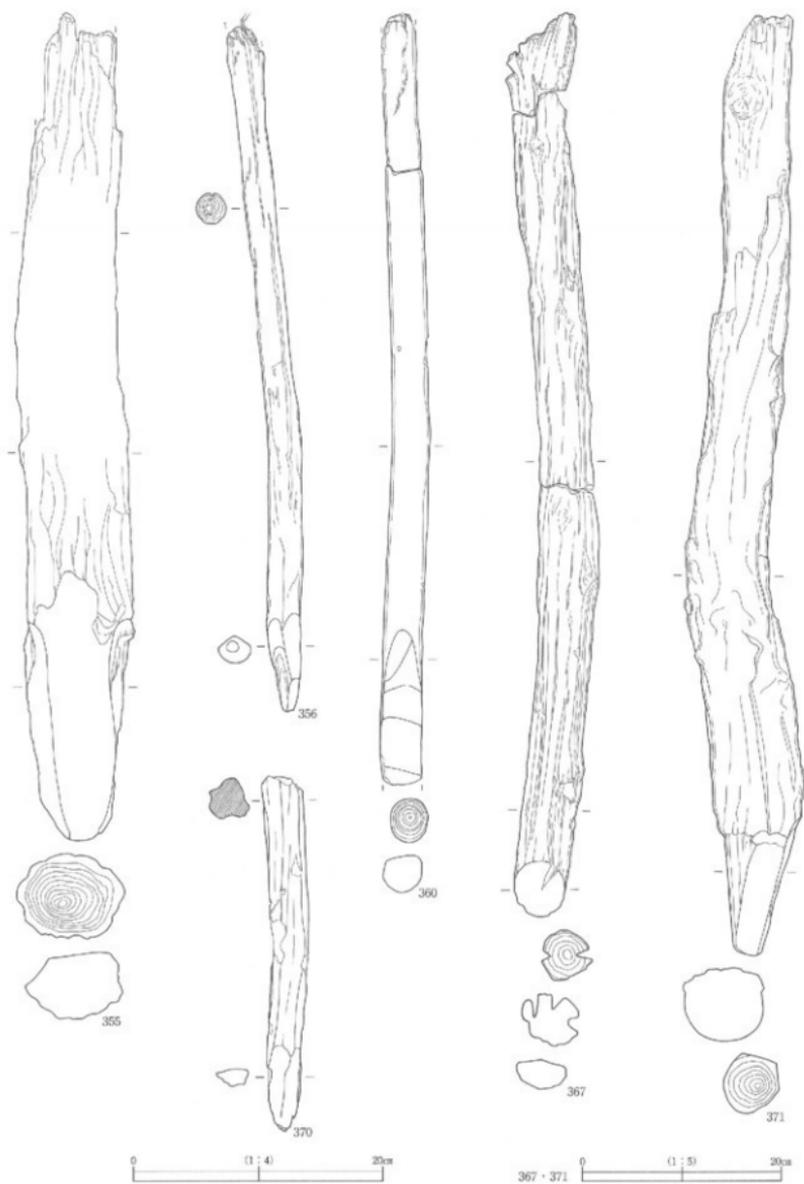
第52図 R Z 007出土遺物 (12)



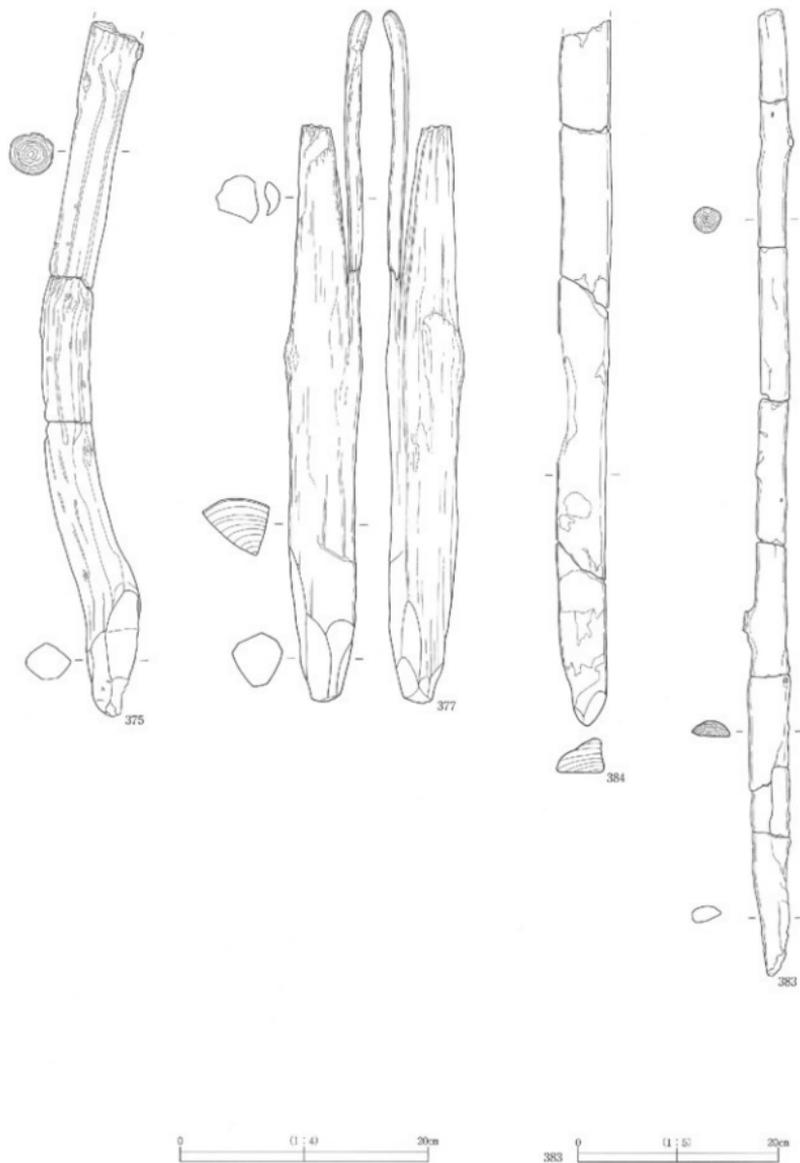
第53図 R Z 007出土遺物 (13)



第54図 R Z 007出土遺物 (14)



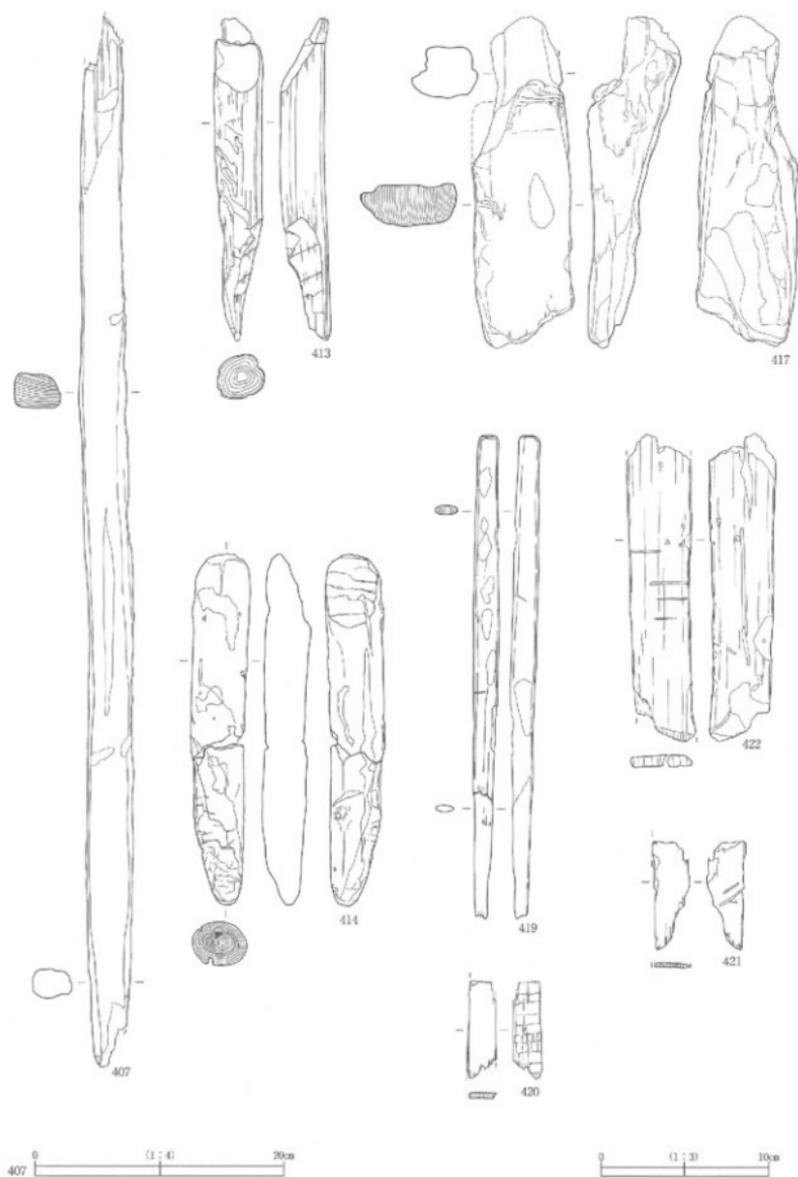
第55図 R Z 007出土遺物 (15)



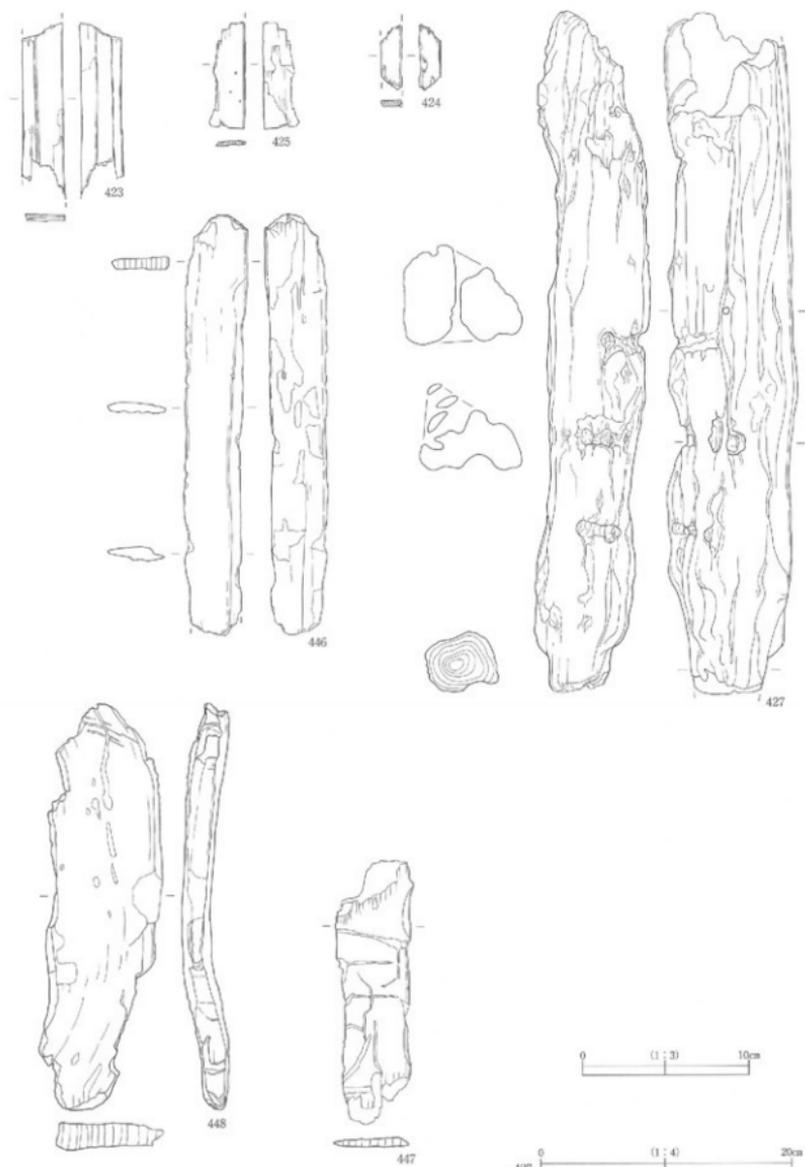
第56図 R Z 007出土遺物 (16)



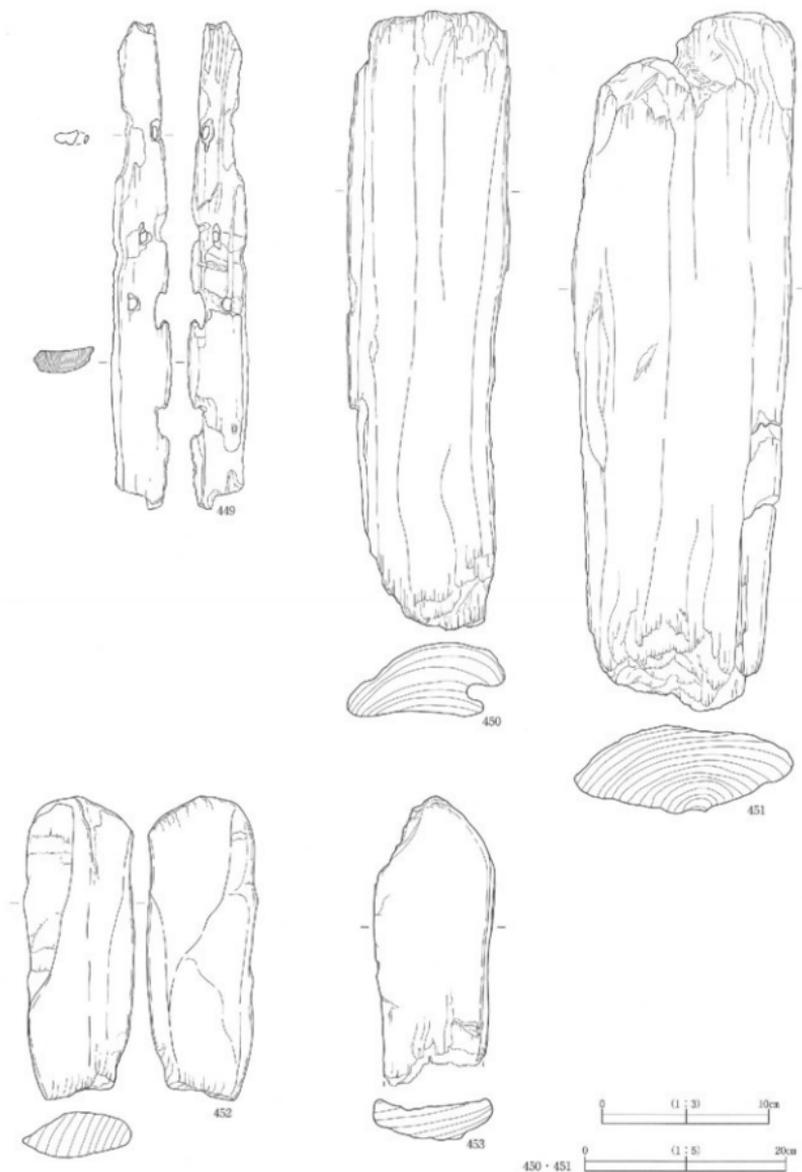
第57図 R Z 007出土遺物 (17)



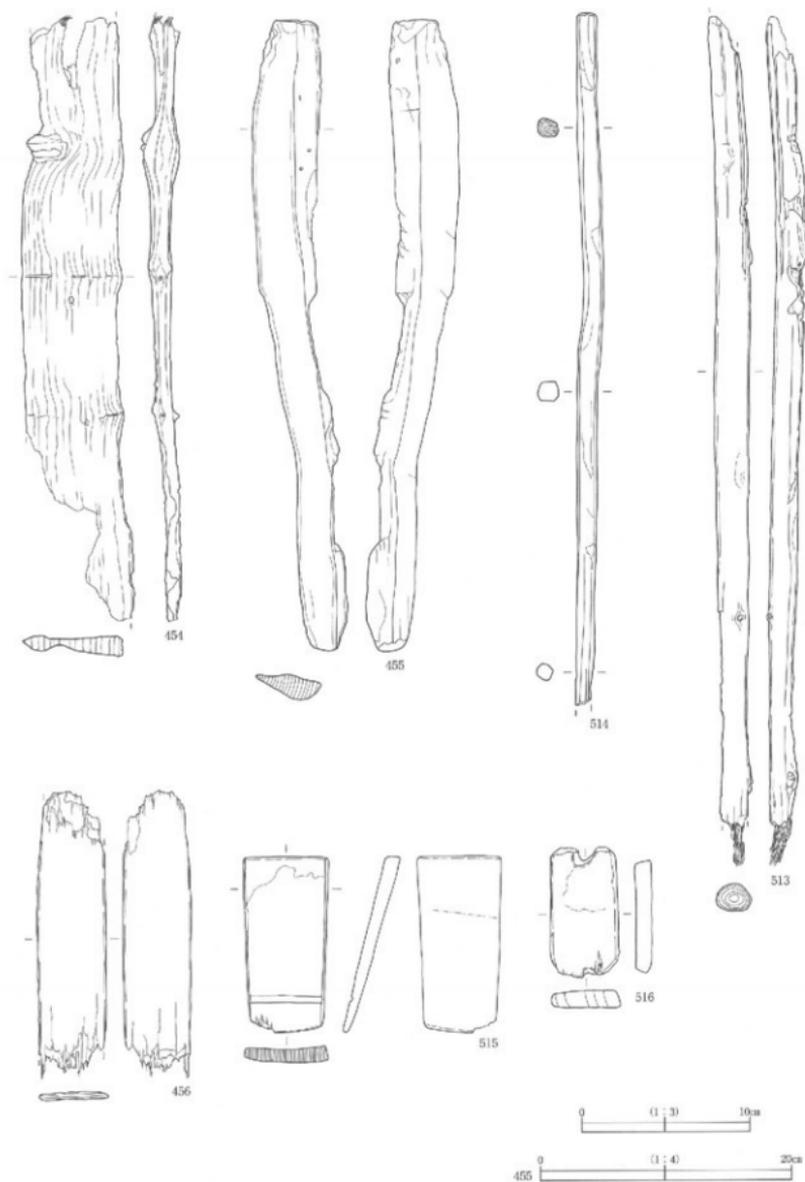
第58図 R Z 007出土遺物 (18)



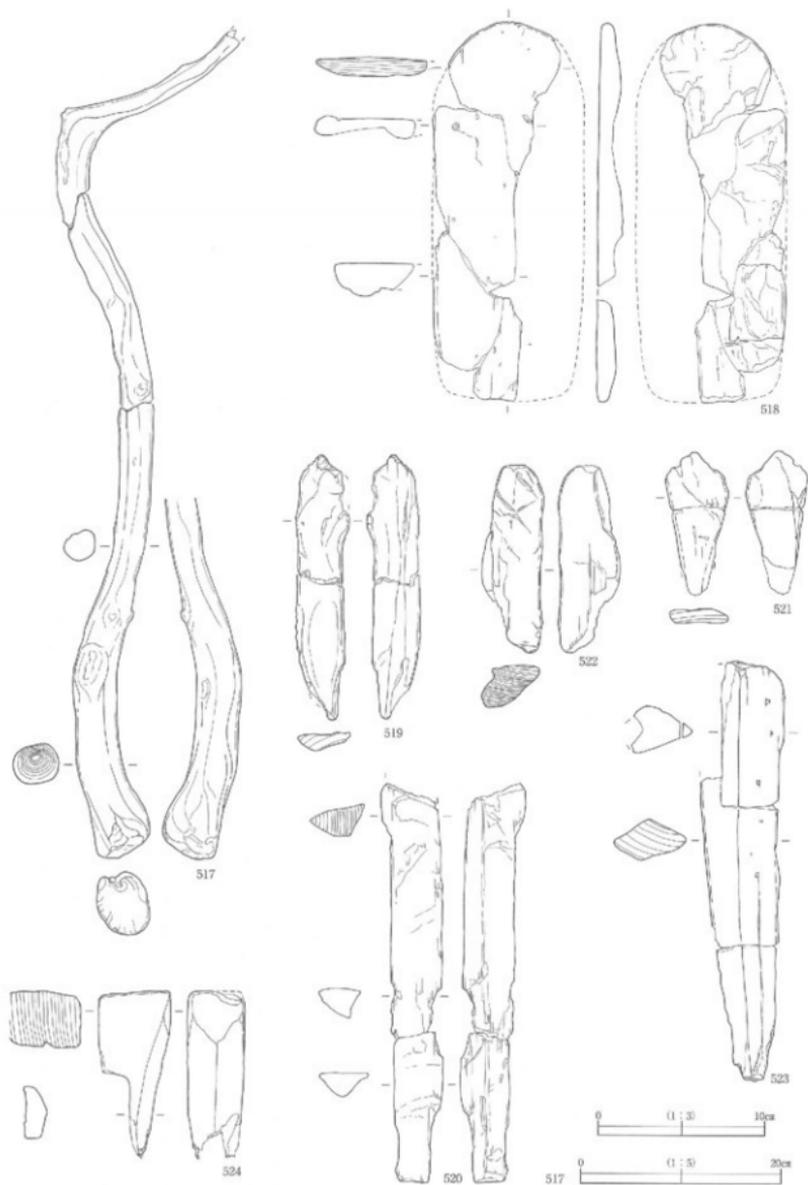
第59図 R Z 007出土遺物 (19)



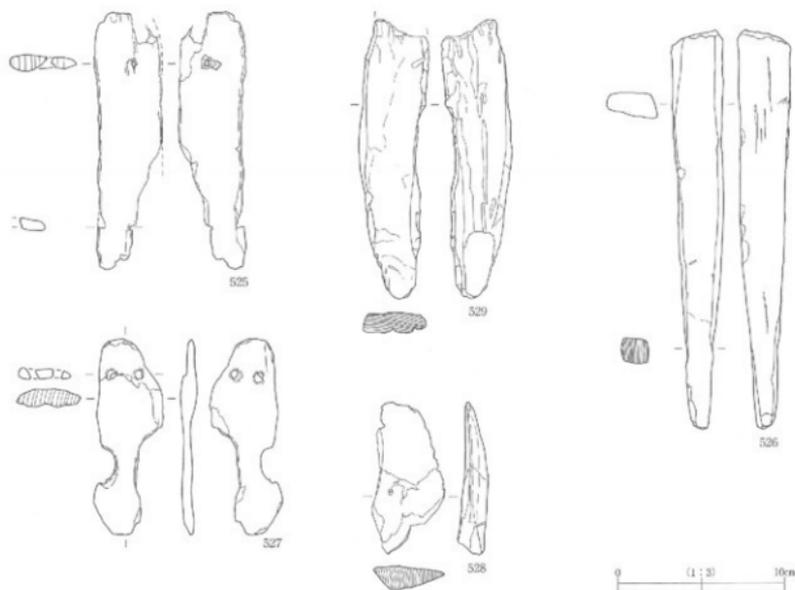
第60図 R Z 007出土遺物 (20)



第61図 R Z 007出土遺物 (21)



第62図 R Z 007出土遺物 (22)



第63図 R Z 007出土遺物 (23)

に柱として使用されたものかわからないものが多い。平成17年度に確認したもので図化、写真撮影は行っていない。7点出土した。

⑨不明木製品 (515～560)

上記以外のものを一括した。本遺跡では部分的に加工痕跡が認められるものの、形状の特定できない木製品が多く、枕状木製品の次に多い出土量である。R Z 007出土木製品の約1/5にあたる171点が出土し、そのうち46点を掲載した。515は上部がやや広くっており、内面下部には明瞭なくほみが見られる。板状のものでも当てていた痕跡と考えられる。くほみより上部は黒く変色している。各面とも丁寧に整形されており、特に上下端はケズリにより面取りされている。516は平面形が隅丸長方形を呈し、両端の中央には半円状のくほみが作られている。両端の両角は面取りを行っている。全体的に丁寧な整形をしている。517は棒状の一端が平坦になっているものである。518は右側半分を大きく欠損している資料である。残存する部分から判断すると、平面形は上端が弧状に張り出した長方形基調である。上端・下端・左側面・表面は丁寧な整形が行われている。裏面は一部に整形の痕跡が見られるものの、他の面と比較すると、かなり粗雑である。下部に歯状に突出した部分の作りだしが見られ、連歯下駄の未成品とも考えられる。519は断面形が三角形もしくは台形状を呈する。下方は左右両縁から材を削って斜めに細くしているが、先端部は尖ることなく、平坦部を残している。両面とも比較的丁寧に整形している。522は不定形の材の平坦な一面に「×」状の線刻が見られる。上端は両側縁から材を削って弧状に整形している。523は一端を先端状に整形し、もう一端をやや丸く整形し

ている。直径1.5mmの貫通孔が1箇所見られる。524は右側面を大きく2回の加工によって下部が細くなるように整形し、左側面下部は左側面側と下部から切り込みを入れ、切り取るように整形している。525は少なくとも上部と下部のほぼ中央部に貫通孔が資料である。下部のものは不明であるが、上部は裏面側から穿孔されている。全体的に丁寧に整形されている。527は上部側に二個一対の貫通孔がある資料である。上端側はドーム状に整形されている。全体的に整形は粗い。534は貫通孔のある資料である。非常に断片的な資料である。538は丸棒状の材の一端を筒状に薄く加工している資料である。545は一端をケズリにより半球状に整形している資料である。546には縦長の貫通孔が1箇所見られる。560は一端側に貫通孔が見られる。

この他に木筒が4層より2点(753・754)、封緘木筒が5層より1点(756)出土しているが、詳細は8-(1)を参照して頂きたい。

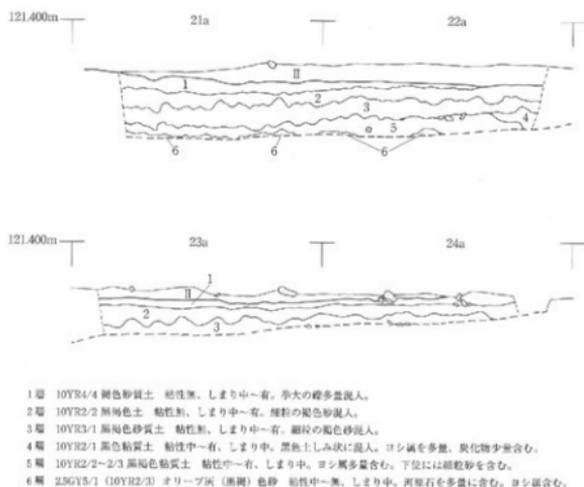
〔その他〕上記以外に種子が多数出土した。多種多様な種子が確認されたが、単体として取り上げたものではモモの核が多い。1点とわずかであるが、炭化したイネの胚乳も出土しており、注目される。詳細は附編I-1を参照して頂きたい。

時期 出土遺物から9世紀初頭から10世紀前半にかけて形成されたと考えられるが、主体は9世紀後半である。

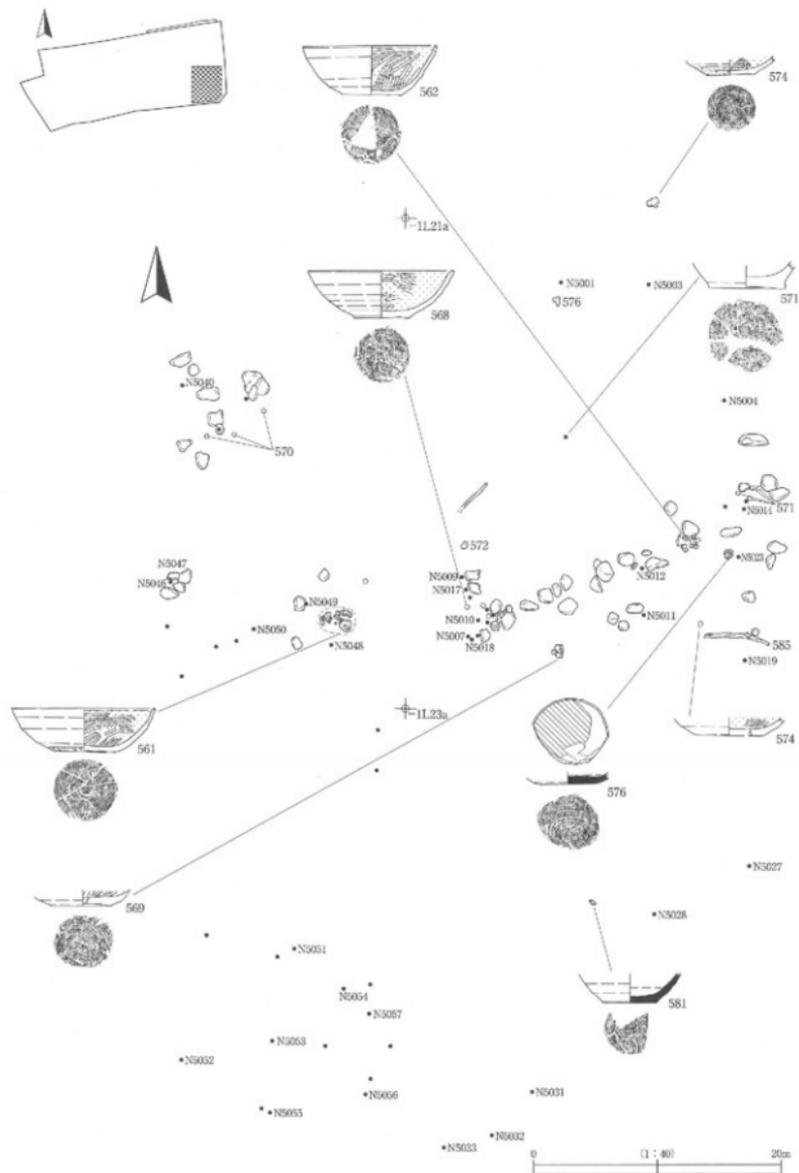
R Z 008遺物集中部

遺構(第64~66図、写真図版9)

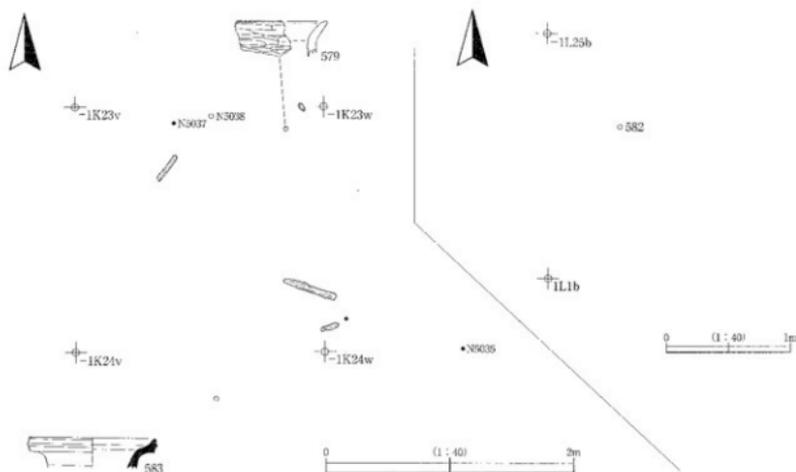
D区東、-1 K区東から-1 L区西に位置する。現況及びII層面ではほぼ平坦な面であるが、旧地



第64図 R Z 008セクション図



第65図 R Z 008遺物分布図(1)



第66図 R Z 008遺物分布図(2)

形は零石川の旧河道の一部である。遺物の集中する範囲は旧河道の左岸の縁辺部にあたり、南側から北側へと傾斜している。東側は部分的であるが、調査区外に向かって傾斜している。遺物の分布する範囲は東西12.9m、南北11.7m、面積にすると115.9 m^2 である。遺物の出土する標高は120.400m～120.900mで、層厚は最大で50cmである。

遺物の出土する層はⅡ層除去後の1層から6層であるが、主に5層から6層上面である。5層は黒褐色の粘質土で基本層序のⅢc層に対比可能である。6層は基本層序のⅥ層に対比可能な層であり、遺物の出土する状況はR Z 006と類似する。R Z 006と比較すると堆積層の残りが良好であるため、やや多層的に遺物が出土する。

野外調査の時点では色調と混合物で層名を示していたため、室内整理の際に算用数字の層名に変更した。新旧の層名対比表を第8表に示した。

遺物 (第67図、写真図版30・31・52)

〔出土状況〕土師器坏 (内面黒色処理・内外面黒色処理・非黒色処理)、土師器高台付坏 (内面黒色処理)、土師器甕、須恵器坏、須恵器甕、素材礫、枕状木製品、不明木製品、種子が出土し、土師器坏9点 (内面黒色処理7点・内外面黒色処理1点・非黒色処理1点)、土師器高台付坏 (内面黒色処理) 1点、土師器甕9点、須恵器坏2点、須恵器甕2点、須恵器甕? 1点、枕状木製品2点、不明木製品1点、種子4点を掲載とした。遺物量は第11表に示したが、それほど多くはない。微細な土器片を含めると1層から6層まで出土しているが、掲載に耐える土器は2層から3層と5層から6層を中心に出土した。

第8表 R Z 008新旧層名対比表

新層名	旧層名	基本層序
1	褐色土+礫層	—
2	黒色土	—
3	褐色砂質土0	—
4	黒3中a相当	—
5	黒3中b相当	Ⅲc
6	灰(黒)色砂礫層	Ⅵ



第67図 R Z 008出土遺物

〔土器〕 561～564・566・568～570・574は土師器坏である。561～564・568・569は内面ミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。561は口縁部から底部が良好に残存する。底面直上には回転ヘラケズリが一段、底面は切り離し後回転ヘラケズリが施される。562は口縁部から底部が良好に残存する。底面は回転糸切り後無調整である。体部外面に墨痕が確認される。563は体部下半から底部が残

存する。底部は回転糸切り後無調整である。全体的に器面の摩滅が著しい。564は体部下半から底部が残存する。底部は切り離し後ヘラケズリが施される。568は口縁部から底部が残存する。底部は回転糸切り後無調整である。569は底部のみの資料である。回転糸切り後は無調整である。574は体部下半から底部が残存する。底部は切り離し後回転ヘラケズリが施される。底部直上には回転ヘラケズリが二段施される。

566は内外面ともにミガキ調整の後黒色処理が施されるものである。口縁部から体部下半が残存する。

570は内外面とも回転ナデのみの調整のもので、口縁部の断片的な資料である。

565は土師器高台付坏で、底部のみ残存する。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底面は切り離し後高台が貼り付けられている。

567・571～573・575・577～579・582は土師器甕である。567は底部のみ残存する。内外面とも調整は縦方向のハケである。底部はヘラケズリが施される。571は体部下半から底部が残存する。内外面ともナデ調整が施される。底部は切り離し後の無調整は見られない。572は底部直上の断片的な資料である。外面は縦方向のヘラケズリ、内面は横方向のナデ調整が施される。573は口縁部が残存する。内外面とも回転ナデのみの調整である。575は底部のみ残存する資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切りで切り離し後は無調整である。577は底部の残存する資料である。外面は縦及び横方向のヘラケズリ、内面は横方向のハケ調整が施される。底部の再調整は認められない。578は体部下半から底部が残存する。外面は縦方向のヘラケズリ、内面は主に横方向のナデ調整が施される。底面の再調整は認められない。579は口縁部の断片的な資料である。外面は横方向のヘラナデ、内面は回転ナデによる調整が施される。582は口縁部～頸部の断片的な資料である。口縁部は内外面ともヨコナデ、頸部はとも縦方向のハケである。

576・581は須恵器坏である。内外面とも回転ナデのみの調整で、底部は切り離し後無調整である。576は底部のみ残存する資料である。内底面の広い範囲にわたって平滑な面が認められ、硯に転用されたものと考えられる。581は体部から底部が残存する資料である。内面には平滑な面が認められるが、部分的であるため、断定はできないが、硯として利用された可能性が考えられる。

580・584は須恵器甕である。580は口縁部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。584は体部の断片的な資料である。外面は縦方向のヘラケズリ、内面は回転ナデ調整が施される。明るい青みがかった灰色を呈しており、かたくしまっている。

583は須恵器甕であろうか。口縁部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。〔木製品〕585・589は枕状木製品である。2点とも両端が欠損している。585にはホゾ状の切り込みが認められ、他の部材と組み合わせて使用されたと考えられる。部分的な資料であるため図化はしていない。590の平面形はハケ状を呈する。上端の一部と下端が欠損している。全体的に加工の凹凸が残るが、整形は丁寧である。表面の上部は先端が薄くなるように整形し、下部は羽子板状に整形している。

〔その他〕上記以外に種子が17点出土した。同定を行ったのはそのうち3点で、すべてモモの核であった。

時期 出土遺物から判断すると、9世紀後半から10世紀前半にかけて形成されたと考えられる。

7 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は土師器、須恵器、土製品、磁器、陶器、磁器製品、石器、石製品、金属製品、木製品、木簡、自然遺物が挙げられる。それぞれの出土量は第11表に示した。以下概要を記述する。

(1) 土師器・須恵器 (第68図、写真図版32)

遺構外から出土した土師器・須恵器は遺物量の多いR Z007と比較すると残存状態の良好な資料は少なく、遺構内出土遺物と器種器形が類似するものが多い。土師器坏8点(内面黒色処理4点、非黒色処理4点)、土師器高台付坏(内面黒色処理)1点、土師器瓶1点、土師器壺3点、土師器甕?1点、須恵器坏2点、須恵器長頸瓶?1点、須恵器壺?1点、須恵器甕?2点を掲載とした。以下図化したものを中心に概要を記述する。

591・593・595・596・598～601は土師器坏である。596は体部下半から底部が残存する資料である。体部外面には墨痕が確認される。598は体部から底部が残存する資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。底部は回転糸切り後無調整である。600は底部の残存する資料である。底部外面に墨痕が確認される。601は体部の断片的な資料である。内外面とも回転ナデのみの調整である。体部外面には正位で墨書がなされている。字体から判断すると「廿」と考えられる。

597は土師器高台付坏である。底部のみ残存する。内面はミガキ調整の後黒色処理が施される。底部は切り差し後高台が貼り付けられる。

606は土師器瓶である。底部の断片的な資料である。今回の調査では唯一の資料である。調整は内外面ともハケである。

607は土師器甕と考えられる資料である。底部のみの断片的なもので図化は行っていない。608～610は土師器甕である。609は口縁部から体部上半が残存する資料である。内外面とも回転ナデ及びナデ調整のみである。器面の摩滅が著しい。610は体部の断片的な資料である。外面はミガキ調整、内面はヘラナデ調整である。609と同様、器面の摩滅が著しい。

602・603は須恵器坏である。図化は行っていない。603の内面には墨の付着が認められる。

604は須恵器の壺、605は須恵器の長頸瓶と考えられる資料である。604は口縁部から頸部、605は頸部から体部上半が残存する資料である。2点とも内外面の調整は回転ナデである。

592・594は須恵器の甕と考えられる資料である。断片的な資料であり、遺構内出土遺物に類似する資料があるため図化は省略した。

(2) 土製品 (写真図版35)

D区より1点出土した。土人形の一部と考えられるが、部分的な資料で詳細は不明である。

(3) 磁器・陶器・磁器製品

磁器・陶器の製作地や製作年代については佐賀県立九州陶磁文化館副館長である大橋康二先生に御指導・御教授を賜った。

i. 磁器 (第68図、カラー写真図版4・写真図版33・34)

遺構外から出土した磁器である。中世から近代のものまで出土しているが、出土量が少ないため

括して取り扱う。全体の器形が窺える資料は少なく、断片的な資料が多い。25点掲載した。612～623・626・627・629は肥前産の染付である。612～614・616・617は碗、615は小碗、618～623・626・627・629は皿である。624は中国産（景德鎮）の染付で、器種は碗である。625は東北産の染付で、器種は端反碗である。628は在地産と考えられる碗である。630～635・650は青磁である。630・631・633・634は肥前産の資料で、630は碗と考えられるもの、631・633は皿、634は灰落しまたは火入れである。633は型作りのもので、口縁部には辰砂により縁取りがなされている。632は中国産の碗と考えられる資料、650は中国産の碗である。635は製作地不明で器種不明の資料である。時期については、612・613は18世紀第2四半期から第3四半期、614は18世紀後半、615・618・622・627・629・633は1630～40年、616は17世紀第3四半期、617は1610～30年、619は18世紀前半、620は1610～40年、621は17世紀中葉、623は19世紀代、624・632は16世紀代、625は1820～60年、626は1650～60年、628は19世紀以降、630・631は17世紀代、634は18世紀代、635は明治以降、650は12世紀～13世紀？である。

ii. 陶器（第68図、写真図版34）

遺構外から出土した陶器である。中世から近代のものまで出土しているが、出土量が少ないため一括して取り扱う。磁器と同様断片的な資料が多い。26点掲載した。636・637・639は相馬産の資料である。636・637は碗、639は器種不明である。638・643・644・661は瀬戸・美濃産の資料である。638は輪花皿、643・644は碗、661は鉄絵皿である。640～642は肥前産の資料である。640～642は兵器手碗である。645・646は瀬戸産と考えられる資料である。645は碗、646は火鉢である。647～649は唐津産の資料で、すべて皿である。651・652は碗、654～656は鉢、657は急須、658は搦鉢である。653は畿内産と考えられる土瓶である。659は県内産の素焼きの搦鉢である。660・662は製作地不明の資料である。時期については、636・637・639・643・644は18世紀代、638・640は17世紀代、641は17世紀後半、642は17世紀末～18世紀前半、645は19世紀代、646・660は不明、647～649は1590～1610年、651～658・662は19世紀以降、659は18世紀～19世紀初頭、661は17世紀前葉～中葉である。

iii. 磁器製品（第68図、写真図版35）

663の1点のみである。磁器製の型作りの人形で、騎兵を模ったものと考えられる。人物の上半身と馬の頭部・前脚を欠損している。時期は近世以降である。

（4）石器・石製品

i. 石器（写真図版36）

剥片4点、磨石2点、原石1点、素材礫4点が出土し、剥片2点と磨石2点を掲載した。664・665は剥片である。2点とも調整痕や使用痕は観察されない。666・667は磨石である。2点とも擦痕の観察される礫破砕片である。使用面は一面である。

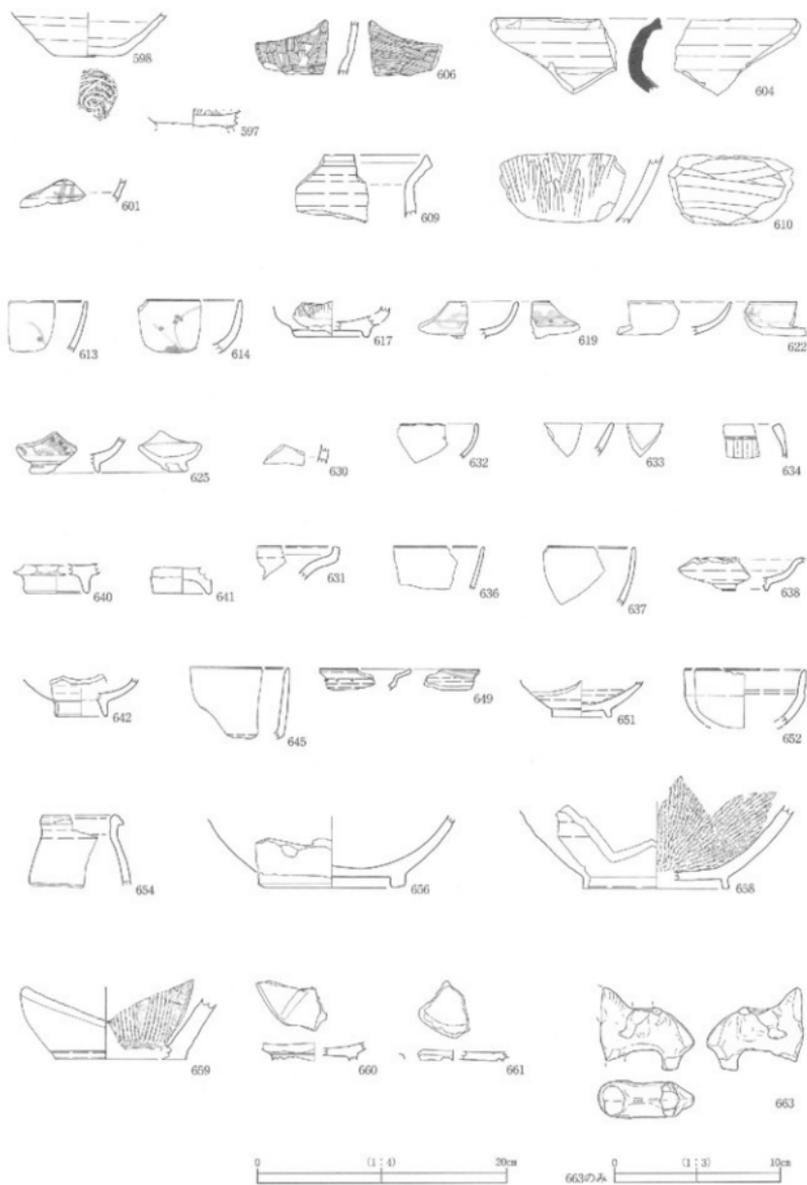
ii. 石製品（写真図版35）

668の1点のみである。円形の石製品で、両面とも研磨により平滑になっている。

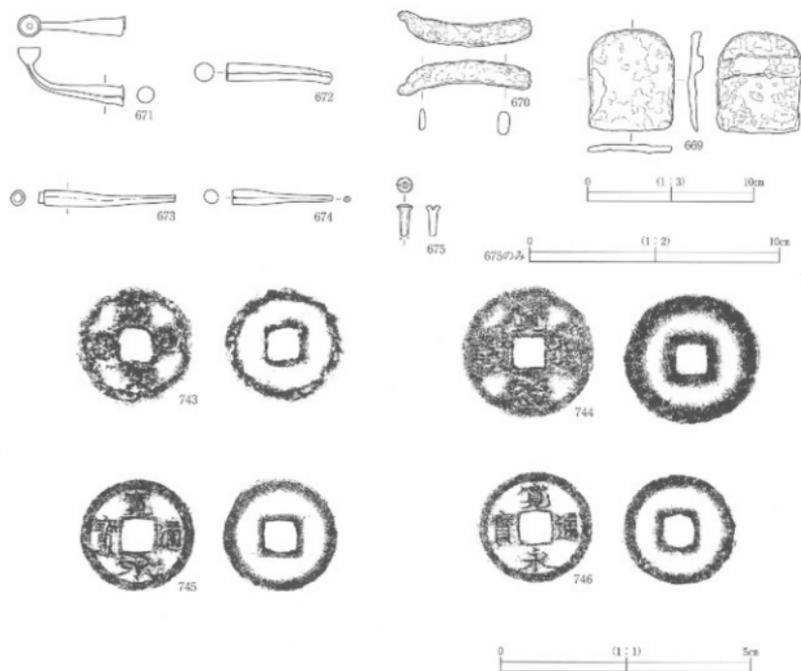
（5）金属製品

i. 鉄製品（第69図、写真図版37）

2点出土し、2点とも図化した。669は鉄製の鉈である。平面形は一辺が弧状を呈した方形で、刃部は片刃である。670は不明鉄製品である。断面形が四角形を呈し、平面形はやや弧状を呈する。一端を薄くしているが、刃部は形成されていない。



第68回 遺構外出土遺物(1)



第69図 遺構外出土遺物(2)

ii. 銅製品(第69図、写真図版37)

4点出土し、4点とも凶化した。671煙管の雁首部である。0.5mmほどの薄い銅版を丸めている。接合部が側面に筋状に見られる。672~674は煙管の吸口部である。672も671と同様、0.5mmほどの薄い銅版を丸めているが、一端は厚みを持ち、一端は先が尖るほど薄くなっている。673は木質部がわずかであるが残存している。

iii. その他(第69図、写真図版37)

675は頭部がマイナスのネジである。

(6) 古銭(第69図、写真図版37)

A区より1点、D区より3点出土した。743は文字が摩滅しており、判然としないが、寛永通寶と考えられるものである。744~746は寛永通寶で、744は古寛永、745・746は新寛永である。4点とも材質は銅である。

(7) 木製品

木製品の分類は次のとおりである。

第9表 遺構外出土木製品分類一覧

図版	大項目	小項目
第70図	工具	楔 (676)
第70図	服飾具	下駄 (677)
第70図	容器	挽物 (678-681)、円形曲物、蓋 (682-683)
第70図	食器具	箸 (684-692)
第70図	発火具	付木 (693-695)
第70図	土木材	枕、角状材 (696)、枕状材
第70・71図	その他	木針状 (697-698)、匙状 (699)、箸状、木札状 (700-711)、円形 (712)、枕状 (713-714)、板状 (715-723)、棒状 (724-727)、不明 (728-742)

i. 工具 (第70図、写真図版52)

工具には楔がある。

楔 (676)

木を割り裂いたり、器物などにはめる簀などを強固にしめつけたりするときに用いるものである。3点出土し、1点図化した。676は板状の材の一端を片面から削って片刃状にしている。刃部や頭頂部には顕著な使用痕跡は見られない。

ii. 服飾具 (第70図、写真図版52)

服飾具には下駄がある。

下駄 (677)

台と歯を組み合わせる差歯下駄である。歯の部分は出土しなかった。平面形は隅丸長方形である。前歯の前に前壺をほぼ中央にあげ、後壺は後歯の後にあく。右足のもので、前壺の左側に親指によるくぼみが見られ、右側にはそれよりやや小さい人差し指のくぼみが見られる。かかとの部分は不明瞭であるが、長さから判断すると子供用と考えられる。

iii. 容器 (第70図、写真図版52)

容器は製作技法によって挽物、曲物に区分した。また、容器類の付属品と考えられる蓋もここに含めた。

①挽物 (678-681)

ロクロを使用して整形した容器である。すべて漆器である。柄2点、皿2点出土し、柄1点、皿2点の計3点を図化した。678-679は柄である。678は下地塗りを行わず、黒漆をかけている。内面には本来更に赤漆が塗られていたようで、点状に残存している。部分的な資料である。679は非常に小さな破片で部分的な資料である。下地塗りを行い、外面は黒漆、内面は赤漆を塗っている。680・681は皿である。680は下地塗りを行わず、赤漆をかけている。内外面とも口縁部には体部より赤い漆を塗って、装飾性を出している。器厚は薄手で、口縁部は内湾気味に立ち上がる。681は表裏両面とも下地塗りを行い、内面には赤漆を、外面には黒漆をかけている。表裏とも傷みが激しく、漆膜の剥離が著しい。

②円形曲物

薄板を円筒形に曲げて、両端の重ねせ部分を櫛皮紐で綴合せて側板とし、これに蓋板ないし底板を接合した容器の総称である。底板が1点出土した。平成17年度の整理期間中の再点検の際に確認され

たもので、図化や写真撮影は行っていない。

③蓋 (682・683)

土器類などの容器の蓋として使用されたと想定されるものである。2点出土し、1点図化した。682は中心に近い椀目材を使用している。円板状のもので、ほぼ中央に孔をあけ、紐もしくは棒材を固定して把手をつけたと考えられる。表面の側面側は全周メンドリされている。683は側面の損傷がひどく、平面形は不明である。ほぼ中央部に金属製のつまみがつけられている。つまみの周囲にのみ漆の皮膜が残っており、本来は全体に漆が塗られていたと考えられる。

iv. 食器具 (第70図、写真図版52)

食器具には箸がある。

箸 (684～692)

11点出土し、9点を掲載とした。完形品は1点もなく、必ず一端が欠損している。そのため、本来の長さがどの位であったのか不明である。幅は0.5～0.65cmと近似しており、規格性が高い。全般的に整形は粗く、角を有する六角形や八角形の断面形を呈するものが多い。頭部の残存するものでは平坦なものも多く、先端は細く尖るものや丸くなるものなどが見られる。素材は板目材や椀目材の木片を小割にしたものをしようしている。690は縦割れしているため、断面はできないが、断面形は円形もしくは扇張方形であると思われる。ケズリによる整形は他の箸よりは丁寧である。692は先端部を欠損している。断面形は多角形だが、円形に近い。上部は剥落が著しいが、全体に黒漆が塗られていたと考えられる。

v. 発火具 (第70図、写真図版52)

発火具には付木がある。

付木 (693～695)

不定形の材の端部が焦げ炭化した木片で、一時的な明り取りや火種の移動に使用された消耗品と考えられるものである。本遺跡では、長さ10cm前後、幅1～2cmに粗割りされ、端部が焦げて炭化した木片を本類とした。10点出土し、3点を掲載とした。694は両端と片面のほぼ全面が炭化している。695は一端が炭化している。他の付木とは異なり、細くて薄い材を用い、丁寧に整形されている。

vi. 土木材 (第70図、写真図版52)

土木材としたものには杭と角状材、杭状材がある。

①杭

一端もしくは両端が尖るものである。2点出土したが、平成17年度に整理期間中に確認したもので図化、写真撮影は行っていない。

②角状材 (696)

断面形が四角形もしくは三角形を呈するもので、端部が欠損により加工の有無を判断できないものを一括した。本類の中には杭と形状が類似するものも多く、完形品は少なくとも一端が尖っているものと考えられる。4点出土し、1点掲載とした。

③杭状材

長さ20～30cmの、端部が尖るものである。杭と考えるには長さが短いため本類を設定し、一括した。1点出土したが、平成17年度に整理期間中に確認したもので図化、写真撮影は行っていない。

vii. その他 (第70・71図、写真図版52～55)

用途の決定できないものや他の部材と組み合わせさせて製品を構成すると考えられるものをここに集めた。

①木針状木製品 (697・698)

端部を鋭く尖るように整形しているものを本類とした。9点出土し、2点を掲載した。697は角状材の一端を2方向から削って先端部を作りだしている。対向する2辺はケズリ整形が行われている。

②匙状木製品 (699)

1点出土した。上端は欠損している。全体的に整形は粗く、下端を丸くするように整形し、表面側がややくぼむようにしている。

③箸状木製品

形状は食器の箸に類似するが、両端が欠損しているため、判断しきれない資料を本類とした。2点出土したが、平成17年度中の整理作業で確認したため、図化、写真撮影は行っていない。

④木札状木製品 (700~711)

短冊形の木製品である。30点出土し、12点掲載した。両端が折れているものが多い。側面はケズリによる整形が丁寧に行われているものが多く、形状、整形方法など木簡に類似する。全点赤外線を通したが、墨痕は確認されなかった。両面ともケズリによる整形が丁寧に行われているものが多く、整形面は木簡よりも平滑に見える。一端が残っているものはすべて方頭である。図化に際しては、便宜的に整形の丁寧な面を表面とした。703は二つ折りになって出土した。705や707のように切り込みを入れて折り取っている資料も見られる。これらの資料は札状の木製品を札のままではなく、数個に分割して廃棄している行為が介在していることを物語るものである。710は上部に1箇所、下部の左側面側に2箇所貫通孔がある。また、表面には無数の刃痕が顕著に見られる。711は右側面中央部に凹状の切り込みが1箇所見られる。

⑤円形木製品 (712)

円形の木製品である。1点出土した。本来の形状が円形と仮定すると、残存する側面は約1/4である。側面に木釘孔の痕跡は見られないが、割れ口側(図左側面)には2箇所の木釘が残存する。組み合わせる板材の一部の可能性も考えられる。

⑥杭状木製品 (713・714)

形状は杭に類似するが、両端が欠損しているため、判別のつけられないものを一括した。1箇所もしくは複数箇所に貫通孔を持つものが多く見られ、複数の部材を組み合わせて使用していたと考えられる。7点出土しており、そのうち2点を掲載した。

⑦板状木製品 (715~723)

薄い板状の木製品のうち、木札状以外のものを一括した。41点出土し、9点掲載した。ケズリによる整形が行われているが、全般的に傷みが激しく、整形面が部分的にしか確認できない資料が多い。広い範囲に整形面が残る資料でも整形は木札状のものと比較すると非常に粗い。721のように、切り込みを入れて切断している資料も見られ、分割して廃棄する行為が窺える。

⑧棒状木製品 (724~727)

直径が2cm前後の棒状の木製品を一括した。両端が欠損しているものが多い。断面は円形もしくは方形である。13点出土し、4点掲載した。726は断面形が四角形を呈するものである。下端欠損している。上部は平坦に整形されている。一面の上部には未貫通の孔、その下部には幅約1mmの切り込みが2箇所見られる。その裏面には長さ1.3cm、深さ5mmのホゾが切られている。

⑨不明木製品 (728~742)

上記以外のものを一括した。本遺跡では部分的に加工痕跡が認められるものの、形状の特定できない木製品が多く出土している。25点が出土し、そのうち15点を掲載した。728は細長い板状の木

製品である。素地に下地を行い、片面には黒漆、もう一面には赤漆をかけている。両端とも欠損している。髪飾り等の装飾品か。729は表裏面に黒漆が塗られている。下地が行われているかは不明である。裏面は漆膜の剥落が著しく、木胎部が露出している。730はかまぼこ状を呈した木製品である。側面はケズリ整形が行われ、その一部は表裏両面から加工を行い、両刃状にしている。全体的に丁寧な整形を行っている。上部には円形の貫通孔がある。731は実測図右半分が欠損している資料である。上端は方頭状に整形している。下部は斜めに削って細くしている。全体的に整形は丁寧である。表面の下部には5条の線刻が見られる。中央部及び上部には円形を呈すると思われる貫通孔が見られる。732は平面形が楕円形を呈する木製品である。中央を四角形に削り取っている。工具の一部であろうか。733は平面形が羽子板状、断面形は三角形状を呈する資料である。角状の割木の一端をケズリにより持ち手状に整形している。幅広の一面は非常に丁寧に整形されている。右側面側の一面はケズリ痕が顕著に見られるが、それとは別に器体の長軸方向と直交する幅1mmほどの刻みが5.5cm(約1.8寸)間隔で3条見られる。両端が欠損しているため、両端に同様の刻みがあるか不明だが、物差しのような機能を有していたと考えられる。735は片面には木釘?を打ち込んである箇所が2箇所あり、この木釘が把手の役目を担うなら蓋となる。もう片面は平坦に整形されており、加工痕が明瞭に観察される。736は非常に細長い札状の木製品である。上端はオレ、下端は主に尚側縁から材を削って斜めに細くしている。表面側からも整形されている。断面形はかまぼこ状で、表面は丁寧に整形されている。裏面の整形はやや粗い。737は平面形が小判形の木製品である。上部に切り込みのある貫通孔が作られている。全体的に、ケズリによる整形が行われている。両端は損傷が激しく、整形の有無は判別できない。740は全体的に丁寧に整形されている。やや丸みを帯びており、容器の可能性もある。広い範囲が炭化している。741は一端をケズリにより尖らせている。裏面には半円状の溝が掘られている。

この他に木筒がT003のⅢc層よりより1点(755)出土しているが、詳細は8-(1)を参照して頂きたい。

(8) 自然遺物

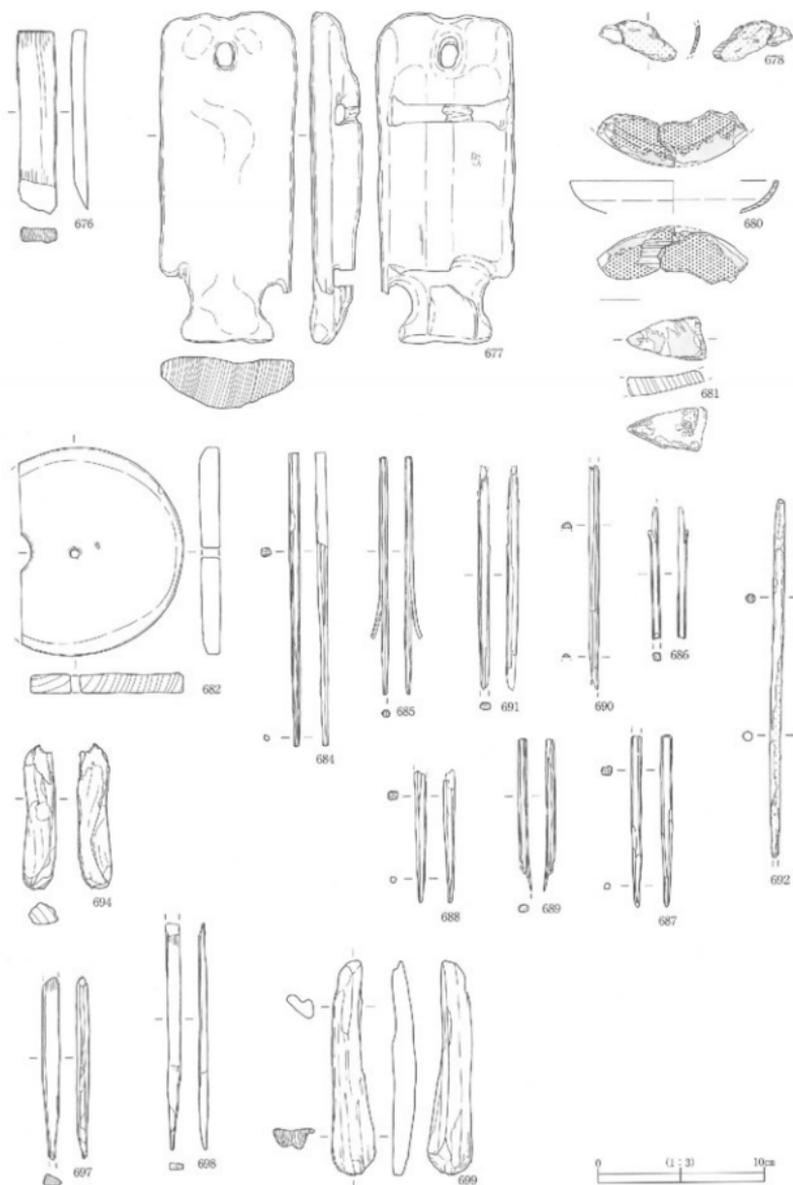
自然遺物には種実と獣歯がある。

i. 獣歯 (写真図版63)

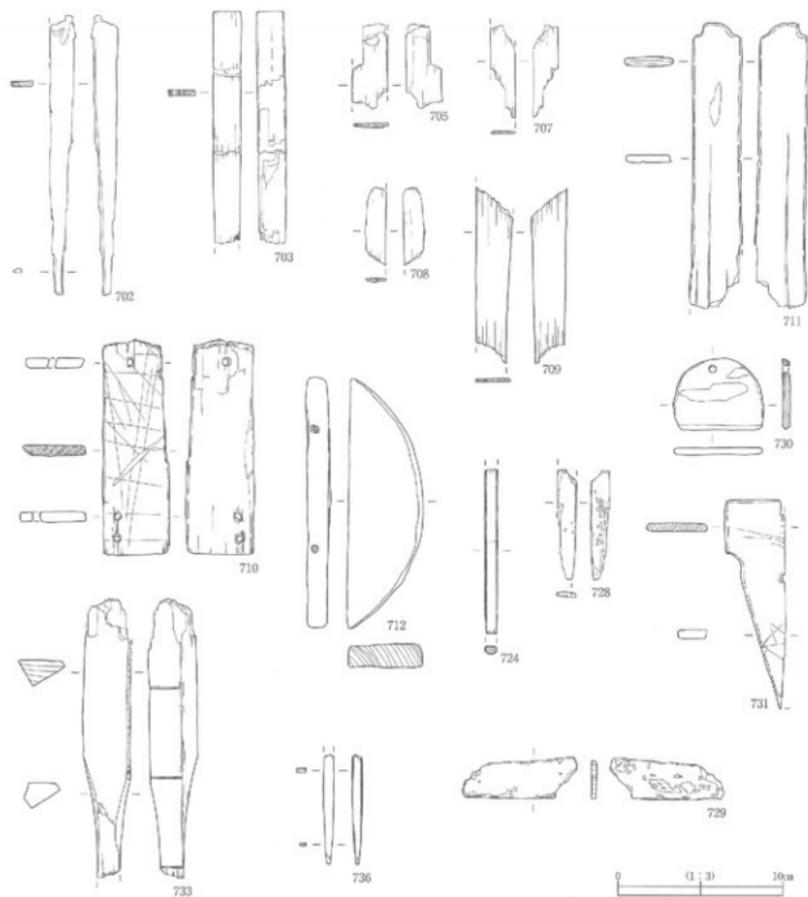
747は獣歯である。同定は行っていないため詳細は不明である。

ii. 種実

遺構外からも多数の種実が出土した。単体で取り上げた種実ではモモの核が最も多い。野外調査の時点でB区のⅥa層上面からウリ科の種子と判断したものが1点出土し、後日同定を行った。その結果、メロン類の種子であった。



第70圖 遺構外出土遺物 (3)



第71図 遺構外出土遺物(4)

8 文字資料

(1) 木 簡

今回の調査で木簡が5点出土した。これらの木簡は野外調査時の肉眼観察では墨書が確認できなかったが、平成16年度の室内整理作業時に赤外線透過を行った結果、墨書が確認されたものである。R G006から2点、R Z007から2点、遺構外から1点出土した。

以下、釈文の記載方法及び符号、形式番号、法量などは木簡学会の記載方法に、調整技法は山中幸氏の呼称を参考に記述を行う。

掲載No751 (第72図、写真図版58・59)

(8.2)・2.4・0.3 019 スギ 柾目

上端は一部欠損しているが、圭頭状に整形していると考えられる。下端はオレである。両側面はワリの後、ケズリ整形を行っている。両面とも丁寧な整形されているが、表面は裏面よりも凹凸が目立つ。裏面には墨痕は確認できない。表面の墨書のうち南は明瞭である。

掲載No752 (第72図、写真図版58・59)

(7.5)・1.7・0.25 019 スギ 柾目

上端は圭頭状に整形している。下端は表面側右側面から水平に刀子で切り込みを入れ、下部を折っている。両側面はワリの後、丁寧に整形されている。裏面は上部に2条の線刻が認められるが、墨痕は確認できない。表面の墨書は1字であることは疑いないが不鮮明である。

掲載No753 (第73図、写真図版58・59)

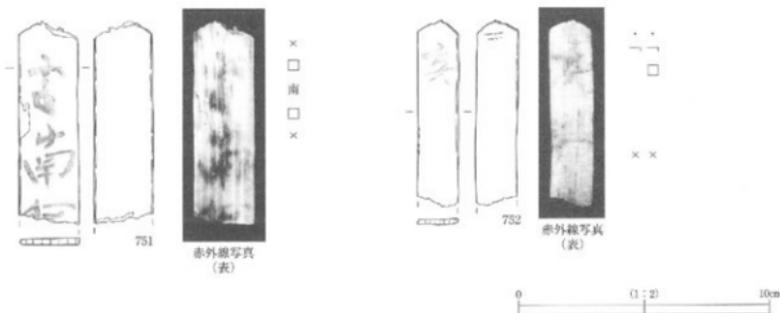
(6.5)・2.0・0.2 081 未同定 柾目

両端は裏面側の右斜め上から切り込みを入れ、それぞれ上部・下部を折っている。裏面の上半部にも同様の切り込みが見られる。中央部には裏面側からほぼ水平に切り込みを入れ、折っている。文字の部分の切っていることなどから廃棄作業に伴うものである可能性が高い。両側面はワリの後、ケズリ整形を行っている。両面とも丁寧に整形されているが、裏面のほうがより平滑である。裏面には墨痕は確認できない。表面の墨書のうち家の一部は肉眼でも確認できるほど明瞭である。

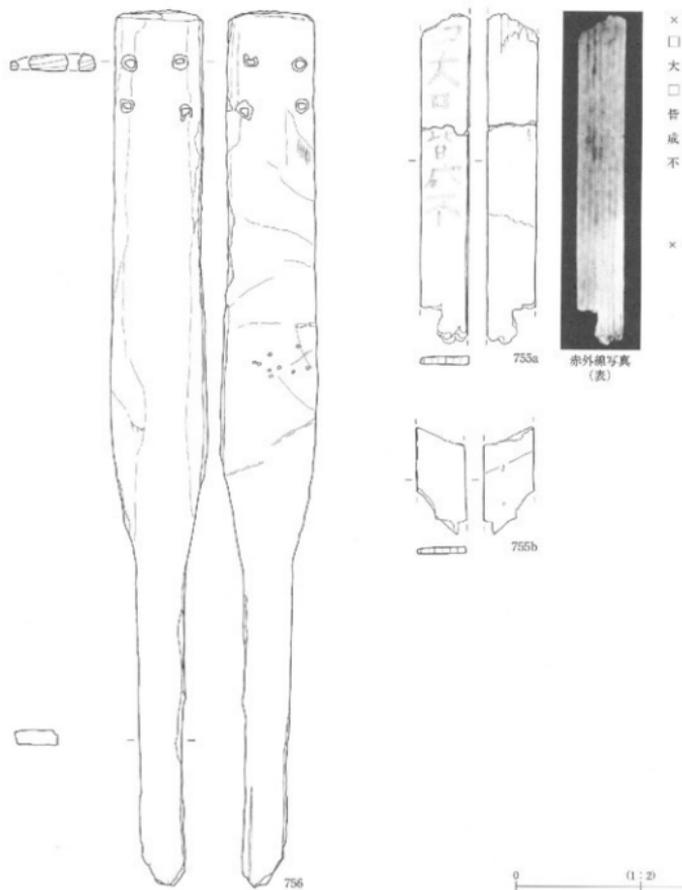
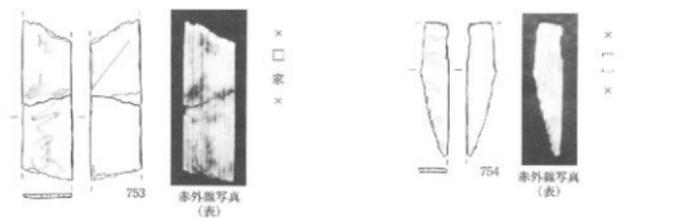
掲載No754 (第73図、写真図版58・59)

(5.4)・(1.2)・0.15 081 未同定 柾目

右側面はワリの後、ケズリによる整形を行っている。上端はオレ、左側面から下端はワレである。



第72図 文字資料(1)



第73図 文字資料 (2)

文字を切っていることなどから廃棄作業に伴う可能性が高い。材の厚さはほぼ一定で、表裏に整形の差異はみられない。裏面には墨痕は確認できない。表面の墨書は非常に薄く、赤外線を通してははっきりとしない。

掲載No755 (第73図、写真図版58・59)

(13.4)・1.9・0.35 081 スギ 柵目

両側面はワリの後、ケズリ整形を行っている。上端はオレ、中央部及び下端は左側面より水平に切り込みを入れ、折っている。文字を切っていることなどから廃棄作業に伴うものと考えられる。材の厚さはほぼ一定で、両面とも丁寧に整形されているが、表面のほうが墨痕の見られない裏面より凹凸が目立つ。裏面には墨痕は確認できない。

(2) 封緘木簡 (第73図、写真図版58)

封緘木簡は封書を持ち運ぶ際に使用される道具である。封緘木簡には大きく分けて、ヨコから切り込みを入れて封書をはさむものと同形の2枚のもので封書をはさむものの二種類があり、本遺跡から出土したものは後者にあたる。R Z007から1点出土した。表面がやや上を向き、やや横位に立った状態で出土した。

平面形は羽子板状、断面形はかまほこ状を呈している。上端はオリ取り後、表面側を側面ケズリによってメンドリを行っている。下端は左右側から側面ケズリで主頭状に整形しているが中心は右側にずれている。両側面はワリの後、ケズリによる整形を行っている。表裏両面は丁寧に整形されている。表面の左右両側面側は薄くなっている。上部に貫通孔が左右2対、計4個ある。また、表面には直径1mm程の小孔(非貫通)が9個認められる。表裏両面とも赤外線をあてたが、墨痕は確認できない。

(3) 墨書土器

墨書土器は墨付や墨痕のある土器を含めると107点(墨書数109点)出土した。107点のうち4点は他の資料の同一個体資料と考えられ、最小個体数は103点である。内容は数字、文字、記号、不明、墨付・墨痕の大きく5種類である。

i. 数字 (第74図、写真図版60)

数字に係するものは6種11点(761~771)である。内訳は次のとおりである。

「二」1点、「七」3点、「十」4点、「廿カ」1点、「卅」1点、「千」1点である。なお、「十」に関しては数字に含めたが、記号のものも含んでいる可能性を含んでいる。

ii. 文字 (第74・75図、写真図版60・61)

文字としたものは18種37点(772~807・809)である。「厨□」の施設名、「王」のウジ名、「日」の役職名、「吉」・「万」などの吉祥句、主に台太郎遺跡で見られる「木」、主に細谷地遺跡、飯岡才川遺跡で見られる「大」といった墨書が見られる。内訳は次のとおりである。

「厨□」1点、「王」3点、「日」1点、「大」7点、「大カ」3点、「木」2点、「今」3点、「今カ」1点、「本」2点、「太」2点、「吉」3点、「万」1点、「田」1点、「天」1点、「玉」1点、「山カ」1点、「生カ」1点、「土カ」1点、「井カ」1点、「九」(則天文字)1点である。

iii. 記号 (第75図、写真図版62)

記号としたものには「一(一本線)」と「二(二本線)」がある。前者が5点(820~824)、後者が5点(825~829)である。うち1点は「目」と刻書「目」と同一個体に見られる。

iv. 不明 (第75図、写真図版61・62)



第74圖 文字資料(3)



第75図 文字資料(4)

字数は確定できるが、文字として認識できないもの若しくは文字が確定できないものである。11点(808・810~819)である。

v. 墨付・墨痕(第74図、写真図版62)

何かしら墨が確認できるものを一括した。内訳は次のとおりである。

「墨付」26点(830~854・862)、「墨痕」4点(855~857・864)、「不明」10点(858~861・863)である。

(4) 刻書土器(第75図、写真図版62)

体部や底部に線刻による文字の刻まれた資料が3種10点出土した。内訳は次のとおりである。「十」3点(881~883)、「大」3点(884~886)、「不明」4点(887~890)である。

註1 第321集・第338集ではRG06として報告されているが、盛岡市教育委員会の基準に従って、RG006とした。

第10表 墨書·刻書一覽(1)

漢數 治	出土地點	種類	器類	地埋		作 價	帛書		刻書		上器 同數	備考	同版	寫真
				內面	外面		條部	底面	條部	底面				
761	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	二				263		74	60
762	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	七				218		74	60
763	R Z007	環	環	—	—	—	—	七			135		74	60
764	R Z007	環	環	—	—	—	—	七			82		74	60
765	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	十			208		74	60
766	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	十			123		74	60
767	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	十			210		74	60
768	R Z006	土	環	非黑	非黑	—	—	十			44		74	60
769	D區	土	環	非黑	非黑	正	廿*				601		74	60
770	R Z006	環	環	—	—	—	—	卅			51		74	60
771	R Z007	環	環	—	—	—	—	卅			278		74	60
772	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	卅			117		74	60
773	P Z007	環	環	—	—	—	—	卅			95		74	60
774	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	王				153		74	60
775	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	王			83		74	60
776	R Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	王			84		74	60
777	R Z007	環	環	—	—	正	日				281		74	60
778	R Z007	環	環	—	—	正	大				279		74	60
779	R Z007	環	環	—	—	正	大				242		74	60
780	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	大				193		74	60
781	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	大				165		74	60
782	R Z007	環	環	—	—	何	大				187		74	60
783	R Z006	環	環	—	—	正	大				33		74	60
784	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	大				265		74	60
785	R Z007	環	環	—	—	正	大+口				280b		74	60
786	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	大+				227		74	60
787	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	大+				198		74	60
788	R Z007	土	環	非黑	非黑	倒	本				69		74	61
789	R Z007	土	環	非黑	非黑	倒	本				198		74	61
790	R Z007	環	環	—	—	正	今				172		74	61
791	K Z007	環	環	—	—	—	—	今			136		74	61
792	K Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	今			129		74	61
793	K Z007	土	環	(海泥)	非黑	—	—	今*			131		74	61
794	K Z007	土	環	非黑	非黑	正	本				166		74	61
795	K Z007	環	環	—	—	正	本				244		74	61
796	R Z007	土	內台 付環	非黑	非黑	正	大				163		74	61
797	R Z007	土	環	非黑	非黑	止	大				428		74	61
798	R Z007	環	環	—	—	—	—	吉			130 a		74	61
799	R Z007	環	環	—	—	—	—	吉			58		74	61
800	R Z007	環	環	—	—	—	—	—			75		74	61
801	R Z007	土	環	非黑	非黑	止	田				199		74	61
802	R Z007	土	環	非黑	非黑	止	天				237		74	61
803	R Z007	土	高內 付環	非黑	非黑	橫	王				161		74	61
804	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	山+				209		74	61
805	R Z007	土	環	非黑	非黑	倒	車+				271		74	61
806	K Z007	環	環	—	—	—	—	土*			140		74	61
807	K Z007	土	環	非黑	非黑	正	王				199		74	61
808	K Z007	環	環	—	—	正	口				246		75	61
809	K Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	九			79	則天文字?	75	61
810	K Z007	土	環	非黑	非黑	—	—	口			130	所*	75	61
811	K Z007	環	環	—	—	—	—	口			73		75	61
812	R Z007	環	環	—	—	?	口	100 c					75	61
813	R Z007	環	環	—	—	?	口	口			99		75	61
814	R Z007	環	環	—	—	—	—	口			138		75	61
815	R Z007	土	環	非黑	非黑	倒	口				269		75	61
816	R Z007	環	環	—	—	?	口				173	尤?	75	62
817	R Z007	土	環	非黑	非黑	正	口				90		75	62
818	R Z007	土	環	非黑	非黑	?	口				122		75	62
819	R Z007	土	環	非黑	非黑	止	口				67 b		—	62
820	R Z007	土	環	非黑	非黑	?	口				196		75	62

第10表 墨書・刻書一覽(2)

検出 No	出土地点	種別	容積	形態		体位	墨書		刻書		土器 号数等	備考	図版	写真
				内面	外面		体起	底面	体前	底面				
821	R 2 007	土	不	赤黒	赤黒	■1					270			62
822	R 2 007	土	環	酸化	赤黒	—		■1			214		75	62
823	R 2 007	土	環	赤黒	赤黒	—		■1			238		75	62
824	R 2 007	土	環	黒	赤黒	—		■1			66		75	62
825	R 2 007	土	不	赤黒	赤黒	■2					81		75	62
826	R 2 007	土	環	—	—	■2					281		75	62
827	R 2 007	土	環	赤	赤黒	■2		■2			197		75	62
828	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—		■2			200		75	62
829	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—		■2			191		75	62
830	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				168		75	62
831	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					211		75	
832	R 2 007	土	環	—	—	—	▼				61			
833	R 2 007	土	環	赤黒	赤黒	倒	▼				231			62
834	R 2 007	土	環	赤黒	赤黒	倒	▼				168			62
835	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				65			
836	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				107			
837	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				113			
838	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				119			
839	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				120			
840	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				124			
841	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				125			
842	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				132			
843	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				133			
844	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				134			
845	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				157			
846	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				160			
847	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				213			
848	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				217			
849	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				284			62
850	K 2 006	土	環	—	—	—	▼				52			
851	K 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				72			
852	K 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				137			
853	K 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				282			
854	C 区	土	環	赤	赤黒	—	▼				600			
855	K 2 007	土	環	—	—	—	▼				96			
856	K 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				226			
857	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				230			
858	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—	▼				112			62
859	R 2 008	土	環	赤	赤黒	—	▼				562			
860	D 区	土	環	赤	赤黒	—	▼				566			
861	R 2 007	土	環	—	—	—	▼				104			
862	R 2 007	土	環	—	—	正	▼				71	795と同一少		
863	R 2 007	土	環	—	—	—	▼				174	799と同一少		
864	K 2 007	土	環	—	—	—	▼				245			
881	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					153		75	62
882	K 2 007	土	環	—	—	—					281		75	62
883	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—					156		75	62
884	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					224		75	62
885	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					139		75	62
886	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					164		75	62
887	R 2 007	土	環	赤	赤黒	正					86		75	62
888	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—					64			62
889	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—					195		75	62
890	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—					272		75	
	R 2 007	土	環	—	—	—					(305)			
	R 2 007	土	環	赤	赤黒	—					(10059)			
	R 2 007	土	環	—	—	—					(10313)	245と同一少		
	R 2 007	土	環	—	—	—					(10322)	139と同一少		
	R 2 007	土	環	—	—	—					(10705)	静岡製成		

【検出】土：土器号 線：原形器 【印位】正：正位 倒：倒位 横：横位 【地相】黒：黒色地相 赤黒：赤黒色地相

【墨書・刻書】「」：字数のみ刻書 ■1：一本線 ■2：二本線 ▼：墨有 赤：赤色 ?：不明 【土器号】()：付録番号

第11表 遺物出土量 (1)

種 別	RD010		RG006		RG009		R Z002		R Z003		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
土師器	坏 (内黒)	1	6.0	21	155.0	0	0.0	3	78.0	1	4.0
	坏 (内黒)	0	0.0	1	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	坏 (非黒色)	3	2.0	48	191.0	1	12.0	7	27.0	0	0.0
	高台付坏 (内黒)	0	0.0	1	59.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	高台付坏 (内黒)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	高台付坏 (非黒)	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	36	228.0	0	0.0	1	10.0	2	14.0
須恵器	坏	0	0.0	5	39.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	1	25.0	32	647.0	0	0.0	3	65.0	2	29.0

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量 (2)

種 別	R Z004		R Z006		R Z007		R Z008		遺構外		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
土師器	坏 (内黒)	3	5.0	138	494.0	1406	9,008.0	163	836.0	122	602.0
	坏 (内黒)	0	0.0	3	3.0	74	475.0	8	30.0	1	1.0
	坏 (非黒色)	14	45.0	136	324.0	2176	7,229.0	465	1062.0	446	1,198.0
	高台付坏 (内黒)	0	0.0	3	49.0	25	618.0	7	48.0	2	64.0
	高台付坏 (内黒)	0	0.0	0	0.0	16	220.0	1	6.0	2	14.0
	高台付坏 (非黒)	1	6.0	0	0.0	2	27.0	0	0.0	1	25.0
	その他	9	45.0	38	254.0	658	6,728.0	173	1,168.0	238	2,113.0
須恵器	坏	1	7.0	95	312.0	572	3,162.0	30	164.0	80	361.0
	その他	3	39.0	69	1,401.0	357	6,274.0	50	782.0	126	2,631.0

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量 (3)

種 別	RD010		RG006		RG009		R Z002		R Z003	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
磁器	0	0.0	3	22.0	0	0.0	1	1.0	0	0.0
陶器	0	0.0	6	32.0	0	0.0	1	22.0	0	0.0
土製品	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
竈道具	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	22.0	0	0.0
磁器製品	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量 (4)

種 別	R Z004		R Z006		R Z007		R Z008		遺構外	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
磁器	2	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	135	1,126.0
陶器	5	45.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	126	2,666.0
土製品	0	0.0	1	37.4	0	0.0	0	0.0	1	6.0
農道具	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	43.0
磁器製品	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量 (5)

種 別	R D010		R G006		R G009		R Z002		R Z003		
	点数	重量									
石器	石鏃	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	剥片	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	R F	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	磨石	1	792.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	凹石	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4,071.9
	台石	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	砥石	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	2	-	1	-	0	0.0	0	0.0	0	0.0
金属製品	鉄製品	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	銅製品	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	その他	0	-	0	-	0	-	0	-	0	-
		0	-	0	-	0	-	0	-	0	-

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量 (6)

種 別	R Z004		R Z006		R Z007		R Z008		遺構外		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
石器	石鏃	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0
	剥片	0	0.0	0	0.0	4	-	0	0.0	4	-
	R F	0	0.0	0	0.0	1	247.2	0	0.0	0	0.0
	磨石	0	0.0	0	0.0	9	5,345.1	0	0.0	2	416.6
	凹石	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	台石	0	0.0	0	0.0	3	8,682.3	0	0.0	0	0.0
	砥石	0	0.0	0	0.0	5	6,076.6	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	1	-	55	-	2	-	6	-
金属製品	鉄製品	0	-	0	-	2	-	0	-	2	-
	銅製品	0	-	0	-	0	-	0	-	8	-
	その他	0	-	0	-	0	-	0	-	1	-
		0	-	0	-	0	-	0	-	1	-

点数は破片数 重量の単位はg (グラム)

第11表 遺物出土量(7)

種 別	R D010		R G005		R G000		R Z002		R Z003		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
木製品	工具	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鋸片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	容器	椀	0	1	0	0	1	0	0	0	0
		鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		内形曲物	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		蓋	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食卓具	箸	0	0	0	0	0	0	0	0	
	火鉢	付木	0	1	0	0	0	0	0	0	
	木屑具	板	0	11	0	0	0	0	0	0	0
		角状材	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	その他	板状材	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		曲状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		水筒状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		蓋状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		串状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		筒状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		木札状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		円形	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		板状	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		板状	0	3	0	0	1	0	0	0	0
		板状	0	4	0	0	0	0	0	0	0
		柱状	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		不明	0	3	0	0	0	0	0	0	0
		木 箱	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	榫 子	2	1	0	0	2	0	0	0	0	
	板 造	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

第11表 遺物出土量(8)

種 別	R Z004		R Z006		R Z007		R Z008		遺物外		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
木製品	工具	0	0	0	3	0	0	3	0	0	
	鋸片	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	容器	椀	0	0	9	0	0	5	0	0	0
		鉢	0	0	3	0	0	0	0	0	0
		内形曲物	0	0	4	0	0	1	0	0	0
		蓋	0	0	2	0	0	2	0	0	0
	食卓具	箸	0	0	1	0	0	11	0	0	
	火鉢	付木	0	0	2	0	0	10	0	0	
	木屑具	板	0	0	92	0	0	2	0	0	0
		角状材	0	0	20	0	0	4	0	0	0
	その他	板状材	0	0	4	0	9	1	0	0	0
		曲状	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		水筒状	0	0	0	0	0	5	0	0	0
		蓋状	0	0	2	0	0	1	0	0	0
		串状	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		筒状	0	0	0	0	0	2	0	0	0
		木札状	0	0	7	0	0	30	0	0	0
		円形	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		板状	0	0	262	0	3	7	0	0	0
		板状	0	0	90	0	0	41	0	0	0
		板状	0	0	79	0	0	13	0	0	0
		柱状	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		不明	0	1	171	0	1	25	0	0	0
		木 箱	0	0	2	0	0	1	0	0	0
	榫 子	0	3	276	0	17	63	0	0	0	
	板 造	0	0	0	0	0	1	0	0	0	

第12表 土師器・須恵器観察表(1)

図版 No	出土地点 大:小	器位	器種	残存 率	法 口徑・底徑・器高・器厚	調整	色調		修理 高	数量	写真	備考		
							外面	内面						
1	R D010	腹土	土 杯	5枚	--- (0.8)・(0.6)	外:KN?,内:M 底:KI,H-KH	10YR6.3	2.5Y5.2	1104	16				
4	R G006	腹中	土 杯	15	--- (6.4)・(2.7)・0.6	外:KN,内:M 底:KI	10YR6.4	10YR7.2	1102	16	6Y2/1 酸化部分は 10YR6.2			
5	R G006	腹土	土 杯	10	--- (6.0)・(1.3)・0.5	外:内:KN, 底:KI	7.5YR4.6	10YR5.4	1103	16	10YR7.6 底部分は 5Y6.2			
6	R G006	D1層	土 杯	10	--- (5.0)・(2.0)・(0.7)	外:内:KN, 底:KI?	10YR7.4	7.5YR7.6	1004	16	1006	16	器面半減	
7	R G006	底直	土 杯	10	--- (6.2)・(1.5)・(0.75)	外:内:KN, 底:KI?	10YR7.4	7.5YR6.4	11006	16	1003	16	器面半減	
8	R G006	5層	土 杯	15	--- (7.2)・(1.4)・(0.9)	外:KN,内:M 底:VO,N	10YR8.1	7.5YR7.4	1003	16	1007	16	16	
9	R G006	腹土	須 杯	10	--- (5.2)・(1.5)・(0.45)	外:内:KN, 底:KI	10Y5.4	7.5Y6.1	1007	16	1005	16	16	
10	R G006	腹下	土 蓋	5枚	---	外:内:N	10YR4.4	5Y5.1	11005	16	11004	16	16	
11	R G006	5層	須 蓋	5枚	--- (8.0)・(0.9)	外:KH,内? 内:H	2.5Y6.1	5Y5.5/1	11004	16	1005	19	16	
28	R Z002	底直	土 杯	15	--- (5.2)・(1.4)・(0.65)	外:KN,内:M, 底:KI?	10YR7.3	10Y2.1	2.5Y7.3	1005	19	1006	19	16
29	R Z002	腹上	土 杯	15	--- (5.6)・(1.5)・(0.55)	外:KN,内:M, 底:KI	7.5YR6.6	7.5Y2.1	5Y7.2 底部分は 2.5YR6.6	1006	19	1003	19	16
30	R Z002	底面	土 杯	5枚	---	外:内:KN, 底:KI	2.5Y6.3	10YR6.3	2.5Y6.3	11012	16	11013	19	16
31	R Z002	腹上	土 杯	5	--- (2.9)・0.3	外:内:KN	2.5Y7.2	2.5Y7.2	7.5YR6.4	11013	19	11011	17	17
37	R Z004	腹中	土 杯	5枚	---	外:内:KN, 底:KI	7.5YR7.4	7.5YR7.6	7.5YR7.4	11011	17	11010	17	17
38	R Z004	腹中	土 杯	5枚	---	外:内:KN	10YR8.3	10YR8.2	10YR8.2	11010	17	2.5Y6.2	11009	17
39	R Z004	底面	土 杯	5	---	外:KN,内:M? 底:VO,N	2.5Y6.3	2.5Y6.2	2.5Y6.2	11009	17	7.0YR5.3 外面は 3YR2	11008	17
40	R Z004	腹上	須 杯	5枚	---	外:内:KN	5Y5.2	7.5YR5.3	5Y5.2	11008	17	5YR5.1	11007	17
41	R Z004	底面	須 蓋	5枚	---	外:HK,内:N 外:KN,H,K, 内:M, 底:KI,H	5GL7.1	N5.0	5YR5.1	11007	17	10YR5.3	611	24
44	R Z006:121	2層	土 杯	20	--- 6.3・(1.9)・0.55	外:内:KN, 底:KI	10YR5.3	N2.0	2.5Y7.4	611	24	17	17	

第12表 土師器・須恵器類容表(2)

編年 No	出土地域		層位	種類	器種	現存 率	法 口徑・底徑・器高・器厚	調整	色 澤		断面	整理 No	層位	出所	備考
	大	小							外面	内面					
45	R Z006: 12m		2層	土	高台 背杯	5	---, ---, (1.9)・(0.75)	外: K.N. 内: M. 底: Y.O.-N	N2.0		7.5Y6/1	694	24	17	
46	R Z006: 11.1		2層	土	高台 付杯	15	---, ---, 3.0・6.9	外: K.N. 内: M. 底: ---N	N3.0		10YR5/1	10098	24	17	
47	R Z006: 14.4		2層	土	杯	5	---, (6.0)・(1.9)・(0.6)	外: K.N. 底: K.I	10YR5/3		10YR6/4	606	-	17	
48	R Z006: 11m		2層	土	杯	5本	---, ---, (1.2)・(0.4)	外: 内: K.N. 底: K.I	5YR6/8		10YR6/3	603	17		
49	R Z006: 12.4		2層	土	杯	5本	---, ---, (1.4)・(0.3)	外: 内: K.N. 底: K.I	10YR8/3		10YR8/3	610	-	17	器高不明
50	R Z006: 13m		1層	土	杯	5本	---, ---, (1.1)・(0.3)	外: 内: K.N. 底: K.I	10YR7/4		10YR7/4	605	-	17	
51	R Z006: 12.1		2層	須	杯	20	---, 6.0・(1.4)・(0.5)	外: 内: K.N. 底: K.I	5Y6/2 半分は 7.5YR7/6		5Y6/1	607	24	17	還元不足
52	R Z006: 12.1		2層	須	杯	5本	---, ---, ---, ---	底: K.I	7.5Y7/1		7.5Y7/1	10069	-	17	
53	R Z006: 12.0		1層	須	杯	5本	---, ---, (3.5)・(0.5)	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5CY6/1		5CY6/1	10607	24	17	
54	R Z006: 13.0		2層	土	蓋?	5本	---, 6.8・(2.1)・(0.65)	外: 内: K.N. 底: K.I	10YR5/2		10YR5/2	608	24	17	
55	R Z006: 12m・1.1		2層	須	蓋	5	(10.6)・---, (6.1)・(0.8)	外: H・K.N. 内: A.K. K.N	5B2/1		N6.0	609	24	17	
56	R Z006: 14.1		2層	須	蓋	5	(17.6)・---, (6.3)・(0.9)	外: 内: K.N.	7.5YR5/1		5YR5/3	10001	24	17	口縁外縁 に凹みあり
57	R Z006: 12m		2層	須	蓋?	5本	---, ---, (3.5)・(0.6)	外: 内: K.N.	5Y5/1		5Y6/1	10003	24	17	
61	R Z007: 23p		16層	須	杯	10	(12.2)・(7.4)・3.6・0.4	外: 内: K.N. 底: H.G	2.5Y7/2 口縁部は 帯状に 2.5Y5/1		2.5Y7/2	10110	41	18	
62	R Z007: 19.1		15層	土	杯	20	(14.9)・(6.6)・5.2・0.5	外: K.N. 内: M 底: ---K.H	10YR4/3		10YR6/3	106	41	18	
63	R Z007: 25・1.1		(12層-) 15層	土	杯	75	(3.6)・5.6・4.9・0.6	外: K.N. H.K. 内: M. 底: ---K.H	10YR7/3		2.5Y6/2	119	41	18	
64	R Z007: 20.1		15層	土	杯	5本	---, ---, ---, ---	外: K.N. H.K. 内: M. 底: ---H.K	2.5Y5/3		N2.0 (細)	10339	-	26	
65	R Z007: 24.1		15層	土	杯	5本	---, ---, ---, ---	外: K.N. 内: M	2.5Y6/4		N2.0	10394	-	26	
66	R Z007: 23m 0.6		(12層-) 15層	土	杯	10	---, (6.7)・(1.2)・(0.4)	外: K.N. 内: M. 底: K.I	10YR7/3		2.5Y7/1	10107	41	26	

第12表 土師器・須恵器観察表(3)

掲載 No	出土地点		層位	遺物	現存 年	法 口徑・底径・器高・器厚	講 義	色 調			整理 No	図 面	写 真	備 考
	大・小	人						外 周	内 面	断面				
67a	R 2 007 : 23i	15層	土	土 坏	5株	---	外: K.N. 内: M. 底: K.I	10YR6/3	N2.0	2.5Y6/2	10349a	25		
67b	R 2 007 : 21i	15層	土	土 坏	5株	---	外: 内: M. 底: K.I	10YR6/3	N2.0	2.5Y6/2	10349b	25		
68	R 2 007 : 19j・21k	(12層~) 15層	土	土 坏	5	---	外: 内: M. 底: K.I	N2.0	N2.0	10Y5/1	10101	25		
69	R 2 007 : 21i	(12層~)	土	土 坏	50	(14.0)・(4.2)・5.0・0.35	外: 内: K.N. 底: K.I	5YR6/6	5YR6/6	5YR7/6	126	41	18	
70	R 2 007 : 19j・21i	(12層~) 15層	土	土 坏	35	---(5.8)・(3.05)・0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y5/3	10YR5/3	10YR6/2	110	41	18	△、□合
71	R 2 007 : 23i・24n	15層	土	土 坏	15	---5.6・(1.9)・0.45	外: 内: K.N. 底: K.I	5YR7/4	7.5YR7/8	7.5YR7/2	342	---	18	底は油好
72	R 2 007 : 21i	15層	土	土 坏	5株	---	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR7/4	7.5YR6/6	7.5YR6/6	10331	---	26	
73	R 2 007 : 21i・22n底	(12層~) 15層	須 恵	須 恵 坏	30	(15.0)・(7.6)・4.7・0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/3 底: K.I	5Y6/2	5Y6/2	321	41	18	
74	R 2 007 : 25i	15層	須 恵	須 恵 坏	5株	---	外: 内: K.N.	7.5Y6/1	7.5Y6/1	10Y35/1	10369	---	26	24と同じ 一断片
75	R 2 007 : 21i	15層	須 恵	須 恵 坏	5株	---(0.6)・(0.5)	内: K.N. 底: K.I	7.5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1	10113	41	26	
76	R 2 007 : 22m	15層	須 恵	須 恵 ?	5株	---	外: 内: K.N.	10YR6/1	2.5Y5/1	10YR4/2	10319	---	26	
77	R 2 007 : 23i	15層	須 恵	須 恵 ?	5株	---	外: H.K-K.N. 内: K.N.	N6.0	N5.0	N5.0	10117	---	26	
78	R 2 007 : 19k・21i	(12層~) 15層	須 恵	須 恵 ?	5株	---	外: T. 内: N?	5Y6/1	N6.0	N6.0	10116	---	26	
79	R 2 007 : 23g	13層 (~15層)	土	土 坏	65	13.5・6.4・5.25・0.55	外: K.N. H.K. 内: M. 底: K.I-K.H	7.5YR7/4	N2.0 (底)	5Y6/1	7	41	18	
80	R 2 007 : 21g	13層	土	土 坏	95	13.8・6.0・5.1・0.5	外: K.N. 内: M. 底: K.I	10YR7/3	N1.5.0	5Y7/2	6	41	18	
81	R 2 007 : 22h	13層 ~15層	土	土 坏	10	---(5.6)・(2.6)・0.7	外: 内: K.N. 底: K.I	10YR7/3	7.5YR6/6	10YR7/4	10066	41	18	
82	R 2 007 : 23g	13層	須 恵	須 恵 坏	90	14.3・6.0・4.7・0.45	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/2 口内部分 に5Y7/1	2.5Y6/2	5Y7/1	5	41	18	
83	R 2 007 : 19j	(6層~) 12層	上	土 坏	90	14.3・5.4・4.2・0.65	外: K.N. H.K. 内: M. 底: H.K	2.5Y6/3	N1.5.0	5Y7/2	102	41	18	
84	R 2 007 : 20i	12層	土	土 坏	25	(14.4)・(6.0)・5.2・0.6	外: K.N. 内: M. 底: K.I	2.5Y5/3	N2.0	2.5Y5/1	10105	41	18	

第12表 土師器・須恵器観察表(4)

順号 No.	出土地点		層位 層位	器種 器種	残存 率	法 量	調 整	色 調		整理 号	目 録	字 號	備 考	
	大・小	大・小						外面	内面					
85	R Z 007 : 21m	(6層~) 12層 (~15層)	土	土 坏	15	(14.4)・(6.6)・(4.5)・0.7	外: K.N. 内: M. 底: K.I	2.5Y6/2	N2.0	10196	—	18		
86	R Z 007 : 21・22	(6層~) 12層	土	土 坏	20	—・(3.7)・(2.5)・0.45	外: K.N. 内: H.K. 内: M. 底: K.I—H.K	2.5Y6/3	N2.0 (雜)	107	—	18		
87	R Z 007 : 24・25	12層	土	土 坏	15	—・(6.8)・(1.85)・0.6	外: K.N. 内: H.K. 内: M. 底: K.H	2.5Y5/3	N3.0	133	—	26		
88	R Z 007 : 21	12層	土	土 坏	25	—・5.4・(2.6)・0.5	外: K.N. 内: M 底: K.I—N	2.5Y5/2	7.5Y2/1	3	—	18		
89	R Z 007 : 22m	12層 (~15層)	土	土 坏	25	—・5.8・(3.1)・0.4	外: K.N. 内: M. 底: K.H	10YR6/3	N2.0	111	—	18		
90	R Z 007 : 25	12層	土	土 坏	15	—・(6.6)・(4.0)・0.55	外: K.N. 内: M. 底: K.I	2.5Y5/2	2.5GY2/1	10183	41	18	△66 外周口 縁部に 欠片?	
91	R Z 007 : 23a	12層	土	土 坏	5片	—・—・—・—	外: K.N. 内: M	10YR7/3	N2.0	1033	—	56		
92	R Z 007 : 21・22	(6層~) 12層	土	土 坏	35	(15.4)・(6.8)・(4.3)・0.5	外: 内: M. 底: K.H, M	N1.5/0 (雜)	N1.5/0 (雜)	10YR5/1	2	41	18	
93	R Z 007 : 24・25	12層 (~15層)	土	土 坏	75	14.4・6.0・5.9・0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/3	5YR7/6	132	41	19		
94	R Z 007 : 20	12層 (4層~)	土	土 坏	35	(13.6)・(4.4)・(5.0)・0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR7/3	7.5YR6/6	135	41	19		
95	R Z 007 : 22p・20m	12層	須 恵	須 恵	35	—・(8.8)・(3.8)・0.4	外: 内: K.N. 底: H.G	2.5Y7/2	2.5Y6/2	2.5Y7/2	101	41	C	
96	R Z 007 : 20	12層 (~15層)	須 恵	須 恵	85	13.5・6.6・4.7・0.65	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y6/2	2.5Y7/2	5Y7/1	104	41	19	
97	R Z 007 : 24・25	12層 (~15層)	須 恵	須 恵	25	(16.2)・(6.6)・(6.3)・0.55	外: 内: K.N. 底: K.I	5Y6/1	2.5Y6/2	2.5Y7/1	129	42	19	
98	R Z 007 : 24・25	12層 (~15層)	須 恵	須 恵	30	(14.2)・(3.6)・(5.7)・0.6	外: 内: K.N. 底: K.I	5Y7/1	2.5Y7/2	5Y7/1	140	42	19	
99	R Z 007 : 25	12層	須 恵	須 恵	15	—・(6.0)・(3.7)・0.45	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5Y6/1	5Y6/1	127	42	19		
100	R Z 007 : a	(4層~) 12層	須 恵	須 恵	30	—・6.3・(3.1)・0.3	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/3 底周は 5Y7/6	2.5Y7/2 2.5Y7/3 5YR6/6	134a	42	19		
100	R Z 007 : b	(4層~) 12層	須 恵	須 恵	5片	—・—・—・—	外: 内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/3 底周は 5Y7/6	2.5Y7/3 2.5Y7/3 5YR6/6	134b	42	19		

第12表 土師器・須惠器類表(5)

図記 No	出土地点 大・小	層位 (4層~) 12層	遺 類	器 種	容量 単位	注 口徑・底徑・器高・器厚	調査 場所	色 調			整理 No	図 面	写真 No	備考
								外面	内面	断面				
100	R Z 007 : 201・21m他	(4層~) 12層	須 壺	5米	—	—	外・内: K,N, 底: K,I	2.5Y7/3 底面は 5Y7/6	2.5Y7/2 底面は 5Y8/6	134c	19			
101	R Z 007 : 20・21p	(4層~) 12層	土 壺	60	14.8・(8.4)・26.9・0.9		外・内: Y,N, H	10Y8/3	10Y8/1	122	42	19		
102	R Z 007 : 21p 0他	(4層~) 12層	土 壺	15	(24.3)・—・(15.6)・0.6		外・内: Y,N, II	10Y8/4	10Y8/2	143	42	19		
102	R Z 007 : 21p 0他	(4層~) 12層	土 壺	40	—・8.3・(19.9)・0.6		外・内: H, 底: M,Y	10Y8/4	10Y8/2 底面は 10Y8/1	143	42	19		
103	R Z 007 : 21n	11層	須 壺	20	—・5.8・(1.4)・0.3		外・内: K,N, 底: K,I	5Y88/2	2.5Y8/2	130	26	26	遺物不足	
104	R Z 007 : 21n	11層	須 壺	10	—・(5.6)・(0.9)・0.55		外・内: K,N, 底: K,I	N5.0	5Y6/1	136	42	26		
105	R Z 007 : 251	10層	土 壺	45	(14.4)・(6.0)・4.9・0.55		外: K,N, II,K, 内: M, 底: →K,H	10Y85/2	2.5Y3/1	130	20			
106	R Z 007 : 11 (~15層)	10層	土 壺	20	(13.6)・(6.2)・(4.6)・0.6		外: K,N, II,K, 内: M, 底: →K,H	10Y86/3	10Y87/1	331	—	20		
107	R Z 007 : 11・251他	10層 (~15層)	土 壺	30	(13.8)・3.5・4.4・0.65		外: K,N, 内: M, 底: K,I	2.5Y5/2	5Y6/1	329	—	20	断面縮減	
108	R Z 007 : 11・251他	(6層~) 10層	土 壺	53	(14.2)・5.4・5.05・0.55		外: K,N, 内: M, 底: K,I	7.5Y86/6 外面は 10Y86/6	2.5Y2/1	323	42	20		
109	R Z 007 : 1・251	10層 (~15層)	土 壺	55	(13.6)・5.8・4.7・0.5		外: K,N, II,K, 内: M, 底: →K,H	2.5Y6/3	5Y4/1	138	42	20		
110	R Z 007 : 1m	10層	土 壺	10	(13.8)・(6.8)・4.5・0.4		外: K,N, 内: M, 内: M, 底: →K,H	10Y85/2	2.5Y2/1	352	—	20		
111	R Z 007 : 3j	10層	土 壺	15	—・(7.2)・(1.8)・0.55		外: K,N, 内: M, 底: →K,H	10Y86/3	N3.0	2.5Y7/2	81	—	26	
112	R Z 007 : 11 (~15層)	10層 (~15層)	土 壺	15	—・(6.4)・(2.5)・0.5		外: K,N, 内: M, 内: M, 底: →K,H	10Y85/3	2.5Y2/1	330	—	20		
113	R Z 007 : 25.0	10層	土 壺	15	—・(6.6)・(1.3)・0.55		外: K,N, 内: M, 内: M, 底: →K,H	2.5Y5/3	2.5Y2/1 断面は 5Y5/1	10236	42	20		
114	R Z 007 : 22m	10層	土 壺	15	—・(6.0)・(1.4)・0.7		外: K,N, 内: M, 底: K,I	10Y86/3	N3.0	5Y6/1	118	—	26	
115	R Z 007 : 11 (3層~)	10層 (3層~)	土 壺	45	—・6.0・(4.3)・0.55		外: K,N, 内: M, 底: K,I	10Y87/3	2.5Y2/1	324	—	20		
116	R Z 007 : 25p・24.0	(3層~) 10層	土 壺	15	—・(6.0)・(1.5)・0.5		外: K,N, 内: M, 内: M, 底: →K,H	2.5Y5/3	5Y5/1	316	—	26		

第12表 土師器・須器類群表(6)

編號	出土地点	單位	器類	器體	現存 年	法 量	測 量	色 調			裝 型	字 號	備 考	
								外面	内面	断面				
117	R 2007: 11	10層 (~15層)	土 上	土 上	25	— 5.6 · (2.4) · 0.5	外: K.N. 内: M. 底: K.I	10YR6/4	2.5Y6/2	2.5Y6/2	327	42	20	
118	R 2007: 23m	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: K.N. 内: M. 底: K.I	10YR5/3	N3.0	2.5Y5/2	103H	—	26	外底面 外周に 灰取
119	R 2007: 25m	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: K.N. 内: M.	10YR6/3	N2.0(黄)	2.5Y6/2	100K3	—	26	
120	R 2007: 11	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: K.N. 内: M. 底: Y.O.N	10YR6/4	N2.0	2.5Y6/2	100K6	—	25	
121	R 2007: 11	10層	土 上	土 上	20	— 7.4 · (2.2) · 0.6	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR7/6	7.5YR7/6	7.5YR7/6	339	42	20	
122	R 2007: 25.1 m	10層 (~15層)	土 上	土 上	65	14.97 · 5.4 · 5.45 · 0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR7/4	5YR7/4 或部は 2.5Y7/4	5YR7/4	306	42	20	
123	R 2007: 11	10層 (~15層)	土 上	土 上	55	14.8) · 6.8 · 5.0 · 0.5	外: 内: K.N. 底: K.I	10YR7/4	7.5YR7/4	10YR7/4	1032B	—	27	
124	R 2007: 25.0	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: 内: K.N.	5YR6/6	10YR7/4	10YR7/4	1033	—	27	
125	R 2007: 23k	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR6/4	5YR6/6	10YR7/4	114	42	20	
126	R 2007: 19k	10層 (4層~ ~15層)	土 上	土 上	45	13.8) · (5.2) · 4.5 · 0.4	外: 内: K.N.	10YR7/3	10YR7/4	10YR7/4	87	43	20	
127	R 2007: 21	10層 (4層~ ~15層)	土 上	土 上	35	15.0) · · · · (4.1) · 0.5	外: 内: K.N.	7.5YR6/4 一部は 2.5Y6/3	2.5Y5/3	2.5Y5/3	348	43	20	
128	R 2007: 25.0	10層 (~15層)	土 上	土 上	15	14.2) · · · · (3.5) · (0.5)	外: 内: K.N. 底: K.I	5YR6/8	5YR6/8	5YR6/8	341	43	20	地底灰付
129	R 2007: 2 m · 25m	10層 (~15層)	土 上	土 上	15	— 5.6 · (1.1) · 0.45	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR6/6	5YR5/6	5YR6/6 中心は 2.5Y6/1	340	43	20	一部分 底面 不足
130	R 2007: 24a他	10層 (4層~ ~15層)	土 上	土 上	15	— 5.8 · (1.7) · 0.55	外: 内: K.N. 底: K.I	7.5YR6/6	5YR5/6	7.5YR6/6	346	43	27	
131	R 2007: 1 m	10層	土 上	土 上	10	— (5.8) · (1.9) · 0.4	外: K.N. 底: K.I	7.5YR6/6 一部は 2.5Y6/3	—	7.5YR6/6	346	43	27	
132	R 2007: 24m	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: 内: K.N.	7.5YR7/6	10YR7/3	10YR7/3	10329	—	27	
133	R 2007: 25.1	10層 (~15層)	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: 内: K.N.	7.5YR7/6	7.5YR7/6	10YR7/4	10330	—	27	
134	R 2007: 1.1	10層	土 上	土 上	5米	— · · · · ·	外: 内: K.N. 底: K.I	5YR5/4	5YR6/3	5YR6/2	10332	—	27	地底灰付
135	R 2007: 22k.1	10層 (~15層)	土 上	土 上	35	13.8) · 6.1 · 4.6 · 0.45	外: 内: K.N. 底: K.I	N6.0	N6.0	N6.0	131	43	20	

第12表 土師器・須臾器觀察表 (7)

調査 No	出土地点		層位 大・小	埋 別	器 種	残 存 半	洪 量 口徑・底徑・器高・器厚	調 整	色 調			整理 %	回 復	写 真	備 考
	大	小							外面	内面	断面				
136	R Z 007: 25・24m 他		(4層~) 10層 (~15層)	須	坏	20	—・6.0・(2.6)・0.6	外・内: K.N. 底: K.I	5YR6/6 底部は 5Y3/2	5YR6/8 2.5Y5/2	322	43	20	遺失不足	
137	R Z 007: 24		10層	須	坏	5米	—・—・—・—	外・内: K.N. 底: K.I	2.5Y7/2	10YR6/4	10334	—	27		
138	R Z 007: 25m・24	他	(~12層)	須	坏	70	(14.4)・6.0・4.8・0.4	外・内: K.N. 底: K.I	N6.0	5Y6/1	113	43	20		
139	R Z 007: a	1 m・24m	(3層~) 10層	須	坏	20	—・(5.6)・(3.4)・0.45	外・内: K.N. 底: K.I	2.5GY5/1 底部灰土 7.5YR5/4	5Y6/1 底部 7.5YR5/4	337	43	20	遺失不足	
139	R Z 007: b	1 m・24m	(3層~) 10層	須	坏	—	—・—・—・—	外・内: K.N. 底: K.I	2.5GY5/1 底部灰土 7.5YR5/4	5Y4/1 底部 7.5YR5/4	337	—	20	遺失不足	
140	R Z 007: 19 k・23	他	10層 (~15層)	須	坏	50	(13.8)・4.8・(4.9)・0.45	外・内: K.N. 底: K.I	5YR6/6	5YR6/8	315	43	21	遺失不足	
141	R Z 007: 11		10層 (~15層)	須	瓦 甍	5	—・—・(6.6)・(0.8)	外・内: K.N.	5Y6/1	5Y6/1	83	43	21		
142	R Z 007: 25 1 m 他		10層 (~15層)	須	瓦 甍	15	—・(7.0)・(17.9)・(0.82)	外・内: K.N. 底: K.I?	N3.0	5YR5/3	344	43	21		
143	R Z 007: 24 1		10層	須	瓦 甍?	5米	—・—・—・—	外・内: K.N.	5D2/1	N5.0	7.5YR3/2	10318	—	27	
144	R Z 007: 25 n・1	他	(6層~) 10層 (~15層)	須	瓦 甍	35	—・11.0・(22.5)・0.7	外: H.K. 内: H. 底: ?	N6.0	N4.0	106	43	21		
145	R Z 007: 25・1 m		10層	須	瓦 甍	5米	—・—・—・—	外: T→K.N. 内: A.K→K.N.	10YR5/1	10YR4/2	10317	—	27		
146	R Z 007: 25 1		10層	須	瓦 甍?	5米	—・—・—・—	外: H・H.K. 内: K.N.	N5.0	N5.0	10316	—	27		
147	R Z 007: 25 g・24 h		(6層~) 7層 (~13層)	土	坏	40	—・6.0・(4.8)・0.65	外: K.N. 内: M. 底: ?	2.5Y6/3	N2.0(黄)	25	43	21	内面割落 甚しい	
148	R Z 007: 3 h		7層	土	坏	10	(16.4)・(5.8)・(5.0)・(0.6)	外・内: H・N. 底: ?	10YR5/2	10YR6/2	10667	43	21		
149	R Z 007: 21 j・24 g 他		6層 (~15層)	土	坏	80	13.8・6.3・5.4・0.4	外: K.N. 内: M. 底: K.I→H.K.	10YR6/2	N2.0(黄)	1	43	21		
150	R Z 007: 25 g		(4層~) 6層 (~13層)	土	坏	80	14.1・6.3・5.6・0.4	外: K.N. 内: M. 底: *K.II	10YR7/2	N2.0	24	43	21		
151	R Z 007: 1 k・3 k		(4層~) 6層	土	坏	90	13.7・6.1・5.3・0.6	外: K.N→H.K. 内: M. 底: *H.K.	7.5YR6/3	N2.0	27	43	21		

第12表 土間器・須磨器調査表(8)

相模 No	出土地点 大・小	層位	構造 備	形状 備	保存 率	法 量 口径・底径・器高・器厚	調査 位置	色 調			彫刻 No	原 質	備考
								外周	内面	底面			
132	R Z007 : 191 j	(4層~) 6層 (~10層)	土 坪	40	(14.2)・(4.4)・5.0・0.55	外: K,N,内: M, 底: K,I	7.5YR6/4	N3.0	5Y6/2	29	21		
133	R Z007 : 25 j	6層	土 坪	15	(13.6)・(5.4)・5.7・0.4	外: K,N,内: M, 底: K,I	10YR6/3	N2.0	2.5Y7/3	10062	43	21	
134	R Z007 : 21 i	6層	土 坪	90	14.2・5.5・5.1・0.5	外: K,N,内: M, 底: K,I	7.5YR6/3	N2.0	10YR6/1	57	44	21	
135	R Z007 : 25 j	(4層~) 6層	土 坪	40	—・6.4・(3.2)・0.35	外: K,N,内: M, 底: K,I	2.5Y6/2	N3.0	N/L0	61	44	21	
136	R Z007 : 23 h	6層	土 坪	10	—・(4.8)・(1.9)・(0.7)	外: K,N,内: M, 底: K,I	2.5Y5/2	10Y2/1 (測)	2.5Y5/2	10194	44	21	
137	R Z007 : 25 k	6層	土 坪	5米	—・—・—・—	外: K,N,内: M	2.5Y5/3	N2.0	5Y6/2	10301	—	27	
138	R Z007 : 22 d	6層	土 坪	15	—・(4.6)・(1.3)・0.5	外: K,N,内: M, 底: K,I	2.5Y5/3	N/L0	2.5Y5/1	123	—	27	
139	R Z007 : 25 k	6層	土 坪	5米	—・—・—・(2.7)・(0.35)	外: K,N,内: M	10YR7/3	N2.0	10YR6/2	10391	44	27	
140	R Z007 : 21 i	6層	土 坪	5米	—・—・—・—	外: K,N,内: M	10YR6/3	N1.5.0	5Y6/2	10395	—	27	
141	R Z007 : 20 i	6層 (~12層)	土 坪	85	13.9・6.2・5.2・0.7	外: K,N,内: M, 底: Y,O-N	10YR6/3	N3.0 (測)	2.5Y6/1	103	44	21	
142	R Z007 : 22 i	6層	土 坪	20	—・—・—・(2.1)・0.7	外: K,N,内: M, 底: Y,O-N	7.5YR7/4	N2.0	5Y7/1	129	—	22	
143	R Z007 : 1 j	(4層~) 6層	土 坪	10	—・—・—・(3.7)・0.85	外: K,N,内: M	10YR6/3	N3.0	2.5Y6/2 #分佈に 2.5YR5/6	10002	44	27	
144	R Z007 : 25 j・1 k 他	(4層~) 6層	土 坪	85	13.4・—・(5.6)・0.35	外: 内: M, 底: Y,O-N	N1.5.0	N1.5.0	5Y7/1	4	44	22	
145	R Z007 : 24・25 j	6層	土 坪	90	14.7・6.2・5.6・0.6	外: 内: K,N, 底: K,I	7.5YR6/4	7.5YR7/4	5YR7/6	13	44	22	
146	R Z007 : 23・24 h	6層	土 坪	85	13.2・6.3・5.1・0.3	外: 内: K,N, 底: K,I	7.5YR6/3	7.5YR8/4	7.5YR8-3	106	44	22	
147	R Z007 : 25 h・24 g	(4層~) 6層 (~13層)	土 坪	70	13.9・5.5・4.5・0.65	外: 内: K,N, 底: K,I	2.5Y7/2	2.5Y7/2	2.5Y7/2	15	44	22	
148	R Z007 : 23 i k	6層	土 坪	5	—・—・—・(3.1)・(0.65)	外: 内: K,N	7.5YR7/6	10YR7/3	7.5YR8/6	10065	44	27	
149	R Z007 : 22 j	6層	土 坪	15	—・(6.2)・(1.8)・0.55	外: K,N・H,K, 内: M, 底: K,I・N	5YR6/4	2.5Y6/3	2.5Y6/3	77	44	27	
170	R Z007 : 22 j	6層	土 坪	20	—・5.3・(1.6)・0.6	外: 内: K,N, 底: K,I	10YR6/4	10YR6-3	10YR6-3	78	—	27	

第12表 土師器・須恵器観察表(9)

掲載 No	出土地点		形状	用途	器種	現存 号	法 口徑・底径・器高・器厚	調査	色 調			整理 号	数量	備考
	大:小	大:小							外壁	内面	断面			
171	R Z 007: 23 k	6 罎	(4罎~) 6罎	土	坏	80	10.1・4.3・2.0・0.3	外:内:K,N, 底:K,I	10YR6/4	10YR6/4	128	44	22	
172	R Z 007: 1 k	6罎	(4罎~) 6罎	須	坏	89	14.1・5.5・5.9・0.45	外:内:K,N, 底:K,I	10YR7/4 4罎以上 5Y6/1	7.5Y6/1	16	44	22	
173	R Z 007: 24 n	6罎		須	坏	90	13.7・6.2・4.5・0.7	外:内:K,N, 底:K,I	2.5Y7/2	2.5Y7/2	116	44	22	
174	R Z 007: 25 h	6罎		須	坏	5E	—, —, (1.9), (0.5)	外:内:K,N, 底:K,I	5Y7/1	5Y8/1	1003	—	27	
175	R Z 007: 1 j・2 g	4罎 (~6罎)		須	坏	10	—, —, —, —	外:内:K,N	2.5Y7/3	86-0	1064	—	27	南北不定
176	R Z 007: 19 f	6罎		土	坏	5E	—, —, (4.2), (0.5)	外:K,N,内:M	2.5Y6/2	5Y6/1	10182	44	27	
177	R Z 007: 23 g・25 f 他	(4罎~) 6罎		土	坏	5E	—, —, —, —	外:内:K,N	10YR5/3	10YR5/3	10072	—	27	
178	R Z 007: 24 n	6罎		土	坏	5E	—, —, (6.1), (0.9)	外:内:K,N	2.5Y8/3	10YR5/3	10126	44	28	
179	R Z 007: 23 j	6罎		土	坏	5	(20.0), —, (8.5), (0.7)	外:Y,N,H,K, 内:Y,N,N	10YR5/2 口縁部の 基部	2.5Y7/4	10071	44	28	□・△等 含む
180	R Z 007: 25 g	(4罎~) 6罎		土	坏	5E	—, (9.8), (5.3), (0.55)	外:H,K,H,N, 内:H,底:M,Y	10YR5/2	10YR7/2	10007	44	22	
181	R Z 007: 25 f・3 g	(4罎~) 6罎		土	坏	5	—, (9.4), (1.9), (0.65)	外:H,K,内:N, 底:M,Y	10YR3/1	10YR5/2	32	44	28	
182	R Z 007: 24 k	6罎		須	坏?	5E	—, (10.4), (5.2), (0.8)	外:K,N→H,K, 底:K,I?	N4.0	5Y3/4	10315	44	22	
183	R Z 007: 25 k・25 o	6罎		須	坏?	5E	(18.7), —, (5.9), (0.7)	外:Y,O→K,N, 内:K,N	5G1.7/1	7.5GY3/1	21	44	22	
184	R Z 007: 23 n・22 f 他	6罎	(~15罎)	須	坏	10	—, (14.0), (17.3), 1.0	外:H,K,内:N, 底:砂	N5.0	N6.0 平心土 10YR6/2	115	44	22	
185	R Z 007: 23 m n	6罎		須	坏	5E	—, —, —, —	外:H,K,内:N	5GY3/1	N6.0	10118	—	28	
186	R Z 007: 23 i	6罎		須	坏	5E	—, —, —, —	外:T,N, 内:A,K,N	7.5Y7/1	7.5Y7/1	10070	—	28	
187	R Z 007: 24 e h	5罎 (~13罎)		須	坏	95	13.5・6.4・4.9・0.5	外:内:K,N, 底:K,I	2.5Y6/2	10G3/1	9	45	22	

第12表 土師器・須恵器観察表 (10)

編號 No	出土地点 大:小	部位 (位置) 4層 (~10層)	器種	器形	残存 率	口徑・底徑・器高・器厚	溝 壑	色 調		野洲 加	面積	重量	備考
								外面	内面				
188	RZ007:25n0	4層 (~10層)	土	土 坏	50	(13.6)・6.0・5.1・0.5	外:K.N.-HK, 内:M.底:KH	2.5Y5/3	2.6G2/1	325	N4.0	45 22	外国産品
189	RZ007:2k	4層	土	土 坏	45	(13.6)・(6.2)・5.1・0.5	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR7/3	N2.0	18	10YR5/1	45 22	
190	RZ007:2j	4層 (~10層)	土	土 坏	35	(17.6)・6.5・5.3・0.45	外:K.N.内:M, 底:KH	2.5Y5/2	N2.0	59	2.5Y6/2	45 22	
191	RZ007:25j	4層	土	土 坏	35	(13.8)・(6.2)・4.3・0.55	外:K.N.-HK, 内:M.底:KH	10YR7/3	N1.5.0 (雜)	20	10YR6/2	45 22	
192	RZ007:2h	4層	土	土 坏	25	(15.8)・5.6・4.1・0.4	外:K.N.-HK, 内:M.底:KH	10YR6/3	N2.0	69	2.5Y6/3	23	
193	RZ007:26.0	4層	土	土 坏	80	13.4・3.0・4.7・0.55	外:K.N.-HK, 内:M.底:KH	10YR5/3	N2.0	307	2.5Y6/1	45 23	
194	RZ007:3j	(3層~) 4層	土	土 坏	65	13.6・5.5・4.9・0.4	外:K.N.内:M, 底:KH	7.5YR7/4	N2.0	22	10YR7/3	45 23	
195	RZ007:3jk	(3層~) 4層	土	土 坏	70	(13.8)・6.8・4.3・0.45	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR7/3	N2.0	28	N4.0	45 23	
196	RZ007:1i	4層 (~10層)	土	土 坏	50	(13.6)・3.9・5.0・0.55	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR6/3	N2.0	121	2.5Y5/2	45 23	
197	RZ007:1k	4層	土	土 坏	45	(14.0)・6.2・4.8・0.65	外:K.N.内:M, 底:KH	2.5Y5/3	N1.5.0 (雜)	303	5Y5/1	45 23	
198	RZ007:1.1.2	4層 (~6層)	土	土 坏	50	14.2・6.4・4.8・0.5	外:K.N.内:M, 底:KH	2.5Y5/2	10YR6/2	17	10YR6/2	45 23	
199	RZ007:2j	4層	土	土 坏	70	13.3・6.1・4.8・0.5	外:K.N.-HK 内:M.底:KH	2.5Y6/3	N1.5.0	52	5Y5/1	45 23	
200	RZ007:1k	4層	土	土 坏	25	(14.2)・(5.6)・5.0・0.45	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR6/3	N2.0 (雜)	53	10YR6/1	45 23	
201	RZ007:1k	4層	土	土 坏	45	(14.2)・5.0・4.7・0.55	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR7/3	N2.0	58	10YR6/2	45 23	
202	RZ007:2k1	(3層~) 4層	土	土 坏	40	(13.0)・5.5・4.3・0.65	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR6/3	N2.0	67	2.5Y7/2	45 23	
203	RZ007:1k	4層	土	土 坏	20	(13.6)・(6.0)・4.2・0.55	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR6/2	N2.0	80	10YR7/1	23	
204	RZ007:19.20q	4層 (~6層)	土	土 坏	50	(14.6)・6.0・4.5・0.5	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR2/1	7.5YR6/3	125	10YR6/2	45 23	
205	RZ007:2k	4層	土	土 坏	15	---	外:K.N.内:M	10YR8/2	N2.0	10069	7.5Y3/1	28	口徑不明 土師器 片状
206	RZ007:22.0	4層 (~6層)	土	土 坏	45	(12.6)・5.2・3.9・0.5	外:K.N.内:M, 底:KH	10YR6/2	10YR6/3	330	10YR6/3	45 23	

第12表 土師器・須恵器調査表(11)

図帳 No.	出土地点		層位	遺物	器種	現存 率	法 口徑・底徑・器高・器厚	調査	色 調			原料 凡	同 出 品	備考
	大	小							外面	内面	断面			
207	R 2007 : 2 h	4層	土	土 坏	5	— (6.0)・(2.0)・0.45	外:KN,HK, 内:M,底:→KH	10YR7/3	N3.0	N5.0	92	—	28	
208	R 2007 : 2 k	4層	土	土 坏	33	— 5.3・(2.8)・0.6	外:KN,HK 内:M,底:K1	10YR6/2	N3.0	10YR6/1	55	45	23	
209	R 2007 : 1 j・2 k他	4層	土	土 坏	40	— 5.2・(3.8)・0.5	外:KN,内:M, 底:K1	10YR6/2	2.5GY2/1	10YR6/2	10	45	23	
210	R 2007 : 2 j	4層	土	土 坏	30	— 5.3・(2.2)・0.3	外:KN,内:M, 底:K1	10YR6/3	N2.0	10YR6/1	19	45	23	
211	R 2007 : 1 k	4層	土	土 坏	25	— 5.8・(3.0)・0.65	外:KN,内:M, 底:K1	10YR6/3	N2.0	10YR6/2	66	46	23	
212	R 2007 : 2 j k	4層	土	土 坏	15	— (6.4)・(2.3)・0.5	外:KN,内:M, 底:K1	10YR7/4	N3.0	5 Y5/1	30	—	23	
213	R 2007 : 3 h	4層	土	土 坏	5	— — — — —	外:KN,内:M	2.5Y5/2	N2.0	2.5Y6/2	10068	—	28	
214	R 2007 : 1 i	4層	土	土 坏	10	— (6.2)・(1.8)・0.4	外:KN,HK, 内:M,底:→KH	10YR7/2	2.5Y5/3	10YR6/1	91	46	28	
215	R 2007 : 2 k	4層	土	土 坏	5 k	— — — — —	外:KN,内:M	2.5Y6/3	N2.0	3 Y4/1	10067	—	28	
216	R 2007 : 2 k	4層	土	土 坏	5	— — — — —	外:KN,内:M	2.5Y5/3	2.5Y5/3	2.5Y6/2	10061	—	28	
217	R 2007 : 2 k	4層	土	土 坏	5 k	— — — — —	外:KN,内:M	10YR5/3	2.5GY2/1	7.5Y2/1	10035	—	28	
218	R 2007 : 25 k	4層	土	土 坏	25	— 6.8・(2.0)・0.55	外:KN,内:M, 底:K1	2.5Y6/3	2.5GY2/1	2.5Y6/2	317	46	23	
219	R 2007 : 2 j k	4層	土	高台 付坏	85	12.8・7.2・4.7・0.6	外:KN,内:M, 底:YO-N	10YR6/4	N3.0	2.5Y2/1	26	46	23	
220	R 2007 : 24 k	4層 (~6層)	土	高台 付坏	20	— 6.8・(2.0)・0.5	外:KN,内:M, 底:K1→高台(輪脚)	10YR6/3	10YR17/1 (底)	10YR6/3	109	46	23	
221	R 2007 : 19 i	4層	土	土 坏	10	— (5.2)・(2.4)・0.6	外:内:M, 底:K1	N3.0	N3.0	2.5Y6/2	137	46	23	
222	R 2007 : 2 j	4層 (~10層)	土	高台 付坏	25	— — (4.1)・0.55	外:内:M, 底:YO-N	2.5GY2/1	N2.0	10YR6/1	60	46	23	
223	R 2007 : 3 j他	4層	土	高台 付坏	40	— 8.6・(4.3)・0.6	外:内:M, 底:YO-N	5 Y3/1	7.5Y3/1	2.5Y7/1	72	46	24	
224	R 2007 : 1 k・1 h他	4層 (~6層)	土	土 坏	85	15.1・— (5.2)・0.65	外:内:M, 底:K1→YO	N1.5.0	N1.5.0	5 Y6/1	301	46	24	
225	R 2007 : 2 j k	4層 (2層~)	土	土 坏	80	15.3・6.0・5.1・0.4	外:内:KN, 底:K1	7.5YR7/4	7.5YR7/4	5 YR7/4	11	46	21	
226	R 2007 : 19 q	4層	土	土 坏	35	(14.0)・5.7・4.1・0.65	外:内:KN, 底:K1	2.5Y7/3	10YR8/3	2.5Y7/2	124	46	24	
227	R 2007 : 1 k・25 k他	4層 (~6層)	土	土 坏	55	14.1・5.1・3.3・0.45	外:内:KN, 底:K1	10YR8/3	10YR7/4	10YR6/4	70	46	24	

第12表 土師器・須恵器類群表 (12)

图版 No	出土地点		器種	器位	器別	残存 率	法 量	調 整	色 調		処理 %	器 厚	字 號	備 考
	大	小							外面	内面				
228	R Z 007 : 2 j	4層	土	土	35	(14.2)・(6.2)・(5.4)・0.35	外・内: K,N, 底: K,I	2.5Y7/3	2.5Y7/2	75	46	24		
229	R Z 007 : 1 j・2 j他 4層	(2層~) 4層	土	土	40	(14.0)・(6.4)・(4.5)・0.5	外・内: K,N, 底: K,I	10YR8/3	10YR8/4	86	46	24		
230	R Z 007 : 2 h 1 j	4層	土	土	20	(13.6)・(5.2)・(5.1)・0.5	外・内: K,N, 底: K,I	7.5YR7/4	7.5YR8/3	1000	46	28		
231	R Z 007 : 2 h	4層	土	土	5	—・—・(4.0)・0.45	外・内: K,N	2.5Y5/2	10YR6/2	10062	46	28		
232	R Z 007 : 1 k・2 j	4層 (~5層)	土	土	30	—・6.0・(3.1)・0.45	外・内: K,N, 底: K,I	7.5YR7/4	5Y7/6	302	—	24	胎面塗成	
233	R Z 007 : 2 i j	4層	土	土	30	—・5.4・(3.1)・0.6	外・内: K,N, 底: K,I	10YR7/3	10YR8/4	7.5YR6/6	85	—	24	
234	R Z 007 : 1・2 h 4層	(2層~) 4層	土	土	15	—・(5.1)・(1.7)・0.4	外・内: K,N, 底: K,I	7.5YR7/3	10YR7/3	2.5Y8/2	76	—	28	
235	R Z 007 : 2 j	4層	土	土	10	—・(4.8)・(3.0)・0.65	外・内: K,N, 底: K,I	10YR7/3	7.5YR6/4	10YR8/3	89	—	28	
236	R Z 007 : 1 h・2 h他 4層	4層	土	土	25	(15.4)・(5.4)・(4.5)・0.5	外・内: K,N, 底: K,I	10YR7/3	7.5YR7/4	7.5YR7/6	88	—	24	胎面塗成
237	R Z 007 : 25 j	4層	土	土	45	(15.8)・(6.4)・(5.6)・0.45	外・内: K,N, 底: K,I	10YR8/3	7.5YR8/4	10YR8/3	69	46	24	
238	R Z 007 : 2 k	4層	土	土	10	—・(5.8)・(1.25)・(0.4)	外・内: K,N, 底: K,I	7.5YR7/4	7.5YR6/4	7.5YR6/4	90	46	29	
239	R Z 007 : 2 k	4層	土	土	5	—・—・—・—	外・内: K,N	2.5Y6/3	10YR7/3	10YR6/3	10006	—	29	
240	R Z 007 : 2 j 3 j	(2層~) 4層	土	土	5	—・—・—・—	外・内: K,N	7.5YR7/6	7.5YR7/8	7.5YR7/8	10063	—	29	
241	R Z 007 : 20 f	4層	土	土	55	—・(5.4)・(1.9)・(0.75)	外: K,N,内: M, 底: Y,O→K,N	10YR7/2	10YR7/2 全体刷に5 YR4/6	10YR7/1	10122	46	29	胎面塗成 素号?
242	R Z 007 : 25 o p他 4層	(3層~) 4層 (~12層)	須	須	35	(14.2)・(5.2)・(4.4)・0.45	外・内: K,N, 底: K,I	N6/0	N7/0	N6/0	310	46	24	○胎心
243	R Z 007 : 25 n o他 4層	4層 (~10層)	須	須	25	(13.8)・(6.2)・(4.1)・0.5	外・内: K,N, 底: K,I	N5/0	N5/0	7.5YR5/3	334	46	24	胎心不足
244	R Z 007 : 25 n o他 4層	4層 (~10層)	須	須	25	(14.2)・(6.0)・(5.2)・0.55	外・内: K,N, 底: K,I	5Y6/1	7.5Y6/1	7.5Y6/1	333	46	24	胎面良好 白胎心子 ・○胎心
245	R Z 007 : 2・3 j	4層	須	須	20	(14.2)・(5.0)・(5.0)・0.5	外・内: K,N, 底: K,I	10G6/1	5Y6/1	5Y6/1	82	46	24	
246	R Z 007 : 25・25 o	4層 (~10層)	須	須	20	(13.2)・(6.8)・(4.85)・0.55	外・内: K,N, 底: K,I	7.5Y5/1 一底	7.5Y6/1	5YR4/3	336	46	24	胎心不足

第12表 土師器・須恵器類表(13)

陶器 No	出土地点 天・小	器位	器種	残存 率	造 法 口縁・底縁・器高・器厚	測 量	色 調			器 底	施 文	保 存	
							外酒	内酒	施文				
247	R 2007: 21h	4層	須 壺	30	— (5.8)・(1.3)・0.45	須 壺	外: 内: K, N, 底: K, I	5 Y 7/1	5 Y 7/1	3	—	24	
248	R 2007: 1 k・221h	4層 (~20層)	須 壺	30	(14.8)・— (3.7)・0.5	須 壺	外: 内: K, N	2.5 Y 7/3 5 Y R 4/4	2.5 Y 6/2	338	46	24 施文不足	
249	R 2007: 25k	4層	須 壺	5	— — — — —	須 壺	外: 内: K, N	5 Y 7/1 7.5 Y R 7/4	5 Y 5/1	10005	—	24 施文不足	
250	R 2007: 2 k	4層 (2層~)	土 壺	5本	— — — (2.4)・(0.3)	土 壺	外: K, N, 内: M 底: K, I	2.5 Y 5/2	2.5 Y 6/2	10051	47	29	
251	R 2007: 2 k・3 k他	4層 (~10層)	土 壺	85	16.5・6.8・13.75・0.65	土 壺	外: 内: K, N, 底: K, I	2.5 Y 7/3	2.5 Y 5/3	73	47	24	
252	R 2007: 2・3層	4層 (~6層)	土 壺	10	— (7.5)・(2.4)・(0.5)	土 壺	外: H, K, 内: H, 底: H, K	10 Y R 3/1	10 Y R 6/1	59	47	24	
253	R 2007: 2 k・24.0	4層 (~13層) (2層~)	土 壺	5	— (10.0)・(2.8)・0.6	土 壺	外: H, K, 内: H, 内: N, 底: M, Y	10 Y R 4/2	10 Y R 7/2	74	47	24	
254	R 2007: 25.0	4層	土 壺	5本	— 8.4・(3.7)・0.5	土 壺	外: H, K, 内: N, 底: ?	10 Y R 5/3	10 Y R 5/2	349	—	24	
255	R 2007: 1 k	4層	土 壺	5	(12.0)・— (8.5)・(0.4)	土 壺	外: H→N, Y, N, 内: H→N	10 Y R 3/1	10 Y R 4/1	10344	47	29	
256	R 2007: 1 l	4層	須 壺	5本	— — — — —	須 壺	外: 内: K, N	5 Y 6/1	5 Y 5/2	10115	—	29	
257	R 2007: 1 f	4層	須 壺	5本	— — — — —	須 壺	外: K, N, 内: N, 内: N, K, N	N 4.0	N 5.0	10058	—	29	
258	R 2007: 3 j	4層	須 壺	5本	— — — — —	須 壺	外: K, N→H, 内: H, N, 底: 砂痕	5 Y 6/1	N 4.0	10004	—	29	
259	R 2007: 3 j・1 h他	4層 (~6層)	須 壺	10	— (8.2)・(7.4)・1.2	須 壺	外: K, N→H, 内: H, N, 底: 砂痕	10 Y 5/1	10 Y 5/1	10056/1	31	47	24
260	R 2007: 1・25k	4層 (~10層)	須 壺	5	(18.8)・— (9.6)・(0.7)	須 壺	外: T, K, N, 内: K, K, N	10 Y 5/1	10 Y 5/1	10114	47	25	
261	R 2007: 24m	4層	須 壺	5本	— — — (8.0)・(1.2)	須 壺	外: K, N, 内: N	N 4.0	10 G R 5/1	10114	47	29	
262	R 2007: 3 k	3層 (~4層)	土 壺	90	13.9・5.4・4.7・0.35	土 壺	外: K, N, H, K, 内: M, 底: →, K, H	10 Y R 7/2	N 2.0	62	47	25	
263	R 2007: 3 k	3~4層	土 壺	30	(13.8)・(6.4)・5.1・0.6	土 壺	外: K, N, 内: M, 底: K, I	2.5 Y 6/2	N 2.0 (底)	79	47	25	
264	R 2007: 2 l	3~4層	土 壺	30	(13.8)・6.2・4.4・0.4	土 壺	外: K, N, 内: M, 底: K, I	10 Y R 7/3 F 1 中 2.5 Y 7/2	2.5 Y 6/1	312	—	25	
265	R 2007: 2・3 k	3層 (~4層)	土 壺	10	— — — (4.3)・(0.4)	土 壺	外: K, N, 内: M	2.5 Y 5/3	2.5 Y 1/1	10033	47	29	

第12表 土師器・須恵器類表 (14)

图号	出土地点 大:小	器位	器名	残存率	法 口径・底径・器高・器厚	調査	色 調			数量 %	器厚	寸 尺	備考
							外周	内面	断面				
266	RZ007: 249・250・植	3~4層	土 坏	45	<14.0>	外:KN・HK, 内:MA,底:--KH	2.5Y5.3	2.5G2/1	2.5Y5/1	396	-	25	
267	RZ007: 2 k 1	3~4層	土 坏	60	13.6・6.0・5.0・0.3	外:KN・HK, 内:MA, 底:KI→KH	10YR7/2	N2/0 (集)	5Y6/1	369	47	25	
268	RZ007: 2・3 k	3~4層	土 坏	45	(14.2)・(7.1)・4.7・0.35	外:KN,内:MA, 底:KI	10YR8/2	N2/0	2.5Y7/2	64	-	25	素手
269	RZ007: 2 1 (~4層)	3層	土 坏	5	(12.8)・---・(4.3)・(0.4)	外:KN,内:M	10YR6/3	N2/0	2.5Y6/3	10002	47	29	
270	RZ007: 2 1 2 k 1	3~4層	土 坏	5	---・(4.0)・(0.3)	外:KN,内:M	2.5Y6/3	2.5Y6/2	2.5Y6/3	10034	47	29	
271	RZ007: 2 k 1	3~4層	土 坏	20	-6.5・(2.5)・0.6	外:KN・HK, 内:MA,底:--KH	2.5Y5/3	2.5G2/1	2.5Y6/2	328	47	25	
272	RZ007: 3 k	3~4層	土 坏	30	-6.0・(2.8)・0.55	外:KN,内:MA, 底:KI	10YR6/4	2.5G2/1	10YR7/2	54	47	25	
273	RZ007: 3 k	3~4層	土 坏	20	-6.6・(4.0)・0.6	外:KN,内:M, 底:YO→N	10YR5/3	N2/0	2.5Y7/2	63	47	25	
274	RZ007: 2 k 1	3~4層	土 坏	85	13.3・4.5・5.7・0.4	外:内:KN, 底:KI	2.5Y8/2	2.5Y7/3	7.5YR7/4	84	47	25	
275	RZ007: 1・2 1	3~4層	土 坏	20	-5.8・(3.0)・0.6	外:内:KN, 底:KI	7.5YR6/6	7.5YR7/6	7.5YR7/4	313	-	25	器面半減
276	RZ007: 1 m k 植 (~4層)	3層	土 坏	20	-5.4・(3.6)・0.55	外:内:KN, 底:KI	7.5YR6/4	2.5Y5/3	10YR7/3	314	-	25	△、□含
277	RZ007: 250	3層	土 坏	15	(11.8)・---・(2.5)・0.7	外:KN,内:M? 底:YO→KN	10YR7/3	10YR7/4	10YR7/4 10YR7/4	10035	47	29	器面半減
278	RZ007: 2・3 k	3層 3~4層 (~10層)	土 坏	80	15.0・6.0・5.8・0.6	外:内:KN, 底:KI	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	68	47	25	
279	RZ007: 2 1・1 k 植	3層 3~4層 (~10層)	土 坏	55	14.0・6.1・4.7・0.6	外:内:KN, 底:KI	N5/0	N7/0 □部部 N4/0	N6/0	311	47	25	
280	RZ007: 2・3 k	3層 3~4層 (~4層)	土 坏	50	(14.2)・5.4・(4.8)・0.5	外:内:KN, 底:KI	2.5Y7/1	2.5Y7/1	7.5YR7/8	51	47	25	
280	RZ007: 2・3 k b	3層 3~4層 (~4層)	土 坏	-	---	外:内:KN, 底:KI	2.5Y7/1	2.5Y7/1	7.5YR7/8	51	47	25	
281	RZ007: 2 k	3~4層	土 坏	75	13.9・5.4・4.9・0.45	外:内:KN, 底:KI	5YR6/4 5YR7/8	5YR7/8	N4/0	385	47	25	器面不足
282	RZ007: 2 k	3~4層	土 坏	5未	---	内:KN,底:KI	5Y7/1	5Y7/1	5Y7/1	10310	-	29	
283	RZ007: 2 1	3層	土 坏	5未	---	内:KN,底:KI	10Y6/1	10Y6/1	10Y6/1	10312	-	29	器面半減

第12表 土師器・須惠器類表 (15)

図録 No	出土地		位置	種類	器種	口径・底径・高さ・器厚	調査	色 澤		整理 No	写真 No	備考	
	大・小	大・小						外面	内面				
284	R Z 007 : 2 k	2層 (~4層)	土	土 坏	3枚	---	外 : K N, 内 : M	10YR6/2	10YR6/2	10064	-	29	
285	R Z 007 : 3 i	2層 (~4層)	土	土 坏	20	5.4 - (2.1) - 0.55	外・内 : K N, 底 : K I	10YR8/3	5YR6/6	71	-	25 器部破滅	
286	R Z 007 : 23 o	2層	須 惠	須 惠	5枚	---	外 : H K, K H, 内 : S, 底 : H ?	10G5/5/1	N5/0	10320	-	25	
287	R Z 007 : 25 g	2層	須 惠	須 惠	5枚	4.9 - (4.0) - (0.75)	外・内 : K N	N7/0	5YR2/2	10314	47	29	
561	R Z 008 : 22 y	6層	土	土 坏	80	14.5 - 6.3 - 4.5 - 0.55	外 : K N, H K, 内 : M, 底 : K H	5Y9/2	7.5Y5/1	567	67	30	
562	R Z 008 : 22 b	6層	土	土 坏	70	13.6 - 6.1 - 3.15 - 0.45	外 : K N, 内 : M, 底 : K I	10YR6/3	N1.5/0 (細)	566	67	30	
563	R Z 008 : 1 c	6層	土	土 坏	15	5.4 - (2.0) - 0.55	外 : K N, 内 : M, 底 : K I	2.5Y6/3	10Y3/1	561	-	30 器部破滅	
564	R Z 008 : 22 b	6層	土	土 坏	10	6.8 - (1.8) - (0.6)	外 : K N, 内 : M, 底 : H K	10YR6/3.5	N3/0	5Y7/2	10302	67	31
565	R Z 008 : 22 b	6層	土	土 坏	10	7.0 - (1.85) - (0.5)	外 : K N, 内 : M, 底 : K I → Y O → N	7.5YR7/4	N2/0 (細)	556	67	30	
566	R Z 008 : 21 b	6層	土	土 坏	10	15.6 - (4.6) - (0.45)	外・内 : M	N3/0	10YR6/1	10553	67	31	
567	R Z 008 : 21 a	6層	土	土 坏	5枚	---	外・内 : H, 底 : H K	2.5Y6/3	2.5Y6/3	10505	-	30	
568	R Z 008 : 22 a・22 y 層	(3層~) 5層	土	土 坏	55	14.8 - 5.5 - 4.8 - 0.5	外 : K N, 内 : M, 底 : K I	10YR8/3	N2/0	565	67	31	
569	R Z 008 : 22 a	5層	土	土 坏	25	6.0 - (1.6) - (0.6)	外 : K N, 内 : M, 底 : K I	10YR5/4	2.5Y6/2 10YR6/4	503	67	30	
570	R Z 008 : 21 y・21 b	5層 (~6層)	土	土 坏	5	---	外・内 : K N	10YR7/3	10YR7/3	15603	-	31	
571	R Z 008 : 22 b・21 a	5層 (~6層)	土	土 坏	5	7.7 - (2.8) - 0.8	外・内 : N, 底 : ?	10YR5/3	2.5Y7/2	10YR5/1	501	67	30
572	R Z 008 : 22 a	5層	土	土 坏	5枚	---	外 : H K, 内 : N	10YR7/2	10YR6/2	10594	-	31	
573	R Z 008 : 20 b	5層	土	土 坏	5枚	4.0 - (4.0) - (0.6)	外・内 : K N	10YR8/3	10YR8/3	10554	67	31	
574	R Z 008 : 20 a	3層	土	土 坏	25	4.8 - (1.75) - 0.45	外 : K N, H K, 内 : M, 底 : K H	5YR7/3	2.5G2/1	501	67	30	
575	R Z 008 : 23 b	3層	土	土 坏	10	6.8 - (1.35) - 0.5	外・内 : K N, 底 : K I	2.5Y6/3	10YR5/2	555	-	30 器部破滅	

第12表 土師器・須臾器類表 (16)

編號 No	出土地点 大:小	器位	器種	底在 率	法 量 口径・底径・器高・器厚	調 整	色 調		彫 刻 No	厚 度	備 考	
							外面	内面				
576	R Z008:22b	3層	須 臾	20	—・6.0・(1.2)・0.55	外:内:K.N, 底:K.I	10YR7/4 底面は 5 Y5/1	5 Y5/1	502	67	31	横に転用
577	R Z008:22w	3層	土 壺	5土	—・—・—・—	外:内:内:H, 底:底?	10YR5/3	10YR5/3	10558		30	
578	R Z008:24b	3層	土 壺	5土	—・(6.0)・(4.7)・0.8	外:内:H, 底:底:M.Y	10YR8/4	5 YR8/4	10551	67	30	
579	R Z008:23v	3層	土 壺	5土	—・—・(3.7)・(0.8)	外:H.N,内:K.N	10YR5/3	10YR5/2	10506	67	31	
580	R Z008:22y	3層	須 臾	5土	—・—・—・—	外:内:K.N	5B2/1	N4/0	10555		31	
581	R Z008:23a	2層 (-6層)	須 臾	15	—・(5.4)・(3.0)・0.6	外:内:K.N, 底:底:K.I	5 Y6/1, 底面之体 部は一部 10YR7/6	5 Y6/1 10YR7/6	558	67	30	高木不足
582	R Z008:25b	2層	土 壺	5土	—・—・—・—	外:内:H, Y.N	7.5YR6/6	5 YR5/6	10501		31	
583	R Z008:24v	2層	須 臾?	5	(12.6)・—・(3.0)・(0.8)	外:内:K.N	N6/0	N6/1 口縁部は N6/0	10508	67	31	
584	R Z008:21x	2層 (1b-1)	須 臾	5土	—・—・—・—	外:H.K,内:K.N	5YR7/1	N7/0	10560	67	31	部分破
591	A区	土 壺	土 壺	5	—・—・—・(1.2)・(0.3)	外:K.N,内:M, 底:→N?	10YR7/6	2.5G2/1	702		32	
592	A区	須 臾?	須 臾?	5土	—・—・—・—	外:内:K.N	N2/0 口縁部は 5 Y5/1	5 Y5/1	10710		32	
593	A区:19m	1b層	上 坪	10	—・(6.4)・(1.7)・(0.5)	外:K.N,内:M, 底:K.I	10YR5/3	2.5G2/1	707		32	
594	A区	1a層	須 臾?	5土	—・—・—・—	外:H.K,内:N, 底:?	5YR5/2	7.5YR5/1	10708		32	
595	B区:T111	II層	土 坪	5	—・—・(1.5)・0.4	外:K.N,内:M, 底:→K.H	7.5YR5/4	N2/0	612		32	
596	D区:21b	I層	上 坪	10	—・(7.0)・(1.8)・(0.3)	外:K.N,内:M, 底:K.I	10YR6/3	N3/0	557		32	
597	C区:T206	III層	土 坪 付付	20	—・—・—・(1.6)・0.85	外:K.N,内:M, 底:Y.O→N	2.5Y6/3	N2/0	803	68	32	
598	D区:23a	II層	土 坪	20	—・(3.0)・(3.7)・0.6	外:内:K.N, 底:K.I	2.5Y7/2 底面に 曇り	2.5Y7/3	552	68	32	

第12表 土師器・須恵器調査表 (17)

掲載 No.	出土地点 大・小	器位	器種	残存 率	法 口径・底径・器高・器厚	調査	色		器 号	図 号	備考
							外面	内面			
599	A区	瓶Ⅲ	坏	5	—・—・(1.0)・—	外・内: K.N. 底: K.I	10YR7/4	7.5YR6/2	708	—	32 器面浮城
600	C区: T206	皿b層	坏	5	—・—・—・—	外・内: K.N. 底: K.I	7.5YR8/4	10YR8/2	10804	—	32
601	D区: 23a	皿層	坏	5未	—・—・(2.0)・(0.4)	外・内: K.N.	7.5YR7/6	10YR7/2	10556	68	32
602	C区: T204	皿c~ 皿d層	坏	10	—・—・(2.7)・0.5	外・内: K.N. 底: K.I	7.5Y5/4	5Y6/1	804	—	32 ○赤土
603	D区: 24.0	皿層	坏	5未	—・—・—・—	内: K.N.底: K.I	5Y7/1	5Y7/1	10311	—	32
604	B区: 125c	皿層	坏 蓋?	5未	—・—・(6.3)・(1.0)	外・内: K.N.	10G94/1	N4.0	10002	68	32
605	A区: 19m a	瓶Ⅲ	坏 蓋?	5	—・—・—・(4.7)・—	外: K.N. 内: K.N. O	10Y5/1	7.5GY4/1	705	—	32
606	C区: T004	押土一拵	土 瓶	5	—・—・—・(4.5)・(0.6)	外・内: H	10YR6/3	10YR6/3 底部顔は 10YR6/3	10891	68	32
607	D区: T402	不明	土 蓋?	5	—・—・—・(3.2)・0.75	外: N.内: H. 底: 砂底	10YR5/2	2.5Y5/2	802	—	32
608	2区: 1h	皿層	土 蓋	5未	—・—・—・—	外: T.N. 内: A.K.N	5YR4/8	5YR5/6	10073	—	32
609	2区: T211	皿層	土 蓋	5未	—・—・(5.5)・(0.8)	外・内: K.N. N	10YR6/2	10YR6/4	10691	68	32 器面浮城
610	B区: T402	皿層	土 蓋	5未	—・—・—・(5.7)・(0.8)	外・内: M.内: IIN	10YR5/2	2.5Y4/1	10892	68	32 器面浮城

【器位】底直: 底面直上 覆下: 覆土下位 覆中: 覆土中位 覆上: 覆土上位 A区以上の遺物 Ia層: A Ia層 Ib層: A Ib層 II層: A II層
 【特別】土: 土師器 須: 須恵器 【残存率】単位は% 【法 量】単位はcm () : 測定値 () : 測定不能
 【備考】△: 金素粉 □: スコリア ○: 白い機織質物

【調査】外: 外面 内: 内面 底: 底面外面
 KN: 回転ナデ KH: 回転ヘラズリ M: ミガキ HK: ヘラズリ H: ハケ N: ナデ T: タタキ HN: ヘラナデ Y.N.: ヨコナデ
 AK: 当房板 YO: 拵ナサエ O: オサエ KI: 回転糸切り HG: 回転ヘラ切り MY: 米藁板 高踏: 高台拵付 無調: 無調整

【写真】C1: カラー写真4版1

第13表 磁器観察表

背番号	出土地		形状	器種	残片数	寸法 (cm)			胎土	胎上	施装	製造地	製作年代	発見	回収	写真
	大	小				口径	高さ	器口								
612	R G06	深	皿	深	5	—	—	(3.2)	0.25	灰白	赤褐色	17C後半	12139	16	33	
613	D E	25g	深	深	5A	—	—	(1.7)	0.25	灰白色	赤褐色	18C前半 18C後半 18C後半	12141	—	33	
614	2 K	24.1	皿	皿	10	—	—	(4.1)	0.45	白色	赤褐色	18C後半	12002	68	33	
615	D E	21g	皿	皿	10	—	—	(4.3)	0.75	灰色	赤褐色	18C後半	12132	68	—	33
616	D K	25.0	皿	小皿	5	—	—	(3.1)	0.4	白色	赤褐色	1630~40年	12133	—	—	33
617	C E	T004	皿	皿	10	—	—	(4.6)	0.4	灰白色	赤褐色	17C前半	12136	—	—	33
618	D E	19k	皿	皿	15	—	(6.0)	(2.9)	0.8	灰白色	赤褐色	1610~30年	12148	68	33	
619	D E	T205	皿	皿	10	—	(5.2)	(1.3)	0.4	灰白色	赤褐色	1630~40年	12142	—	—	33
620	2 K	24g	皿	皿	5	—	—	(3.0)	0.25	灰白色	赤褐色	18C前半	12001	68	33	
621	C K	1 k	皿	皿	5A	—	—	(3.1)	0.4	白色	赤褐色	1610~40年	12001	68	—	33
622	C K	T002	皿	皿	7	—	—	(2.3)	0.75	灰白色	赤褐色	17C前半	12134	—	—	33
623	C E	T001	皿	皿	5	—	—	(2.7)	0.5	灰白色	赤褐色	1630~40年	12137	68	33	
624	C E	T004	皿	皿	15	(8.6)	(4.0)	2.1	0.4	灰白色	赤褐色	19C代	12138	—	—	33
625	C E	T207	皿	皿	5	—	(3.8)	(1.2)	0.65	白色	赤褐色	18C代	12146	—	—	33
626	D E	19k	皿	皿	10	—	—	(1.9)	0.7	灰白色	赤褐色	1630~40年	12147	68	—	33
627	D E	22g	皿	皿	5	—	—	(1.2)	0.4	白色	赤褐色	1630~40年	12145	—	—	33
628	D E	T006	皿	皿	10	—	—	(2.2)	0.45	白色	赤褐色	1630~40年	12144	—	—	33
629	D E	19k	皿	皿	15	—	—	4.0	0.35	灰色	赤褐色	18C前半	12139	—	—	33
630	C E	24g	皿	皿	5A	—	—	(1.6)	0.45	灰白色	赤褐色	1630~40年	12143	—	—	33
631	C E	T004	皿	皿	5	—	—	(1.7)	0.65	灰白色	赤褐色	17C代	12201	68	C 4	
632	A E	赤注	皿	皿	5	—	—	(2.7)	0.7	灰色	赤褐色	17C代	12202	68	C 4	
633	C E	T002	皿	皿	5	—	—	(3.2)	0.30	白色	赤褐色	18C代	12206	68	C 4	
634	C E	T004	皿	赤注	5	—	—	(2.7)	0.35	灰白色	赤褐色	1630~40年	12205	68	C 4	
635	C E	T004	皿	不明	5A	—	—	(2.8)	0.6	灰白色	赤褐色	18C代	12203	68	C 4	
636	D E	1 r	皿	皿	5	—	(6.4)	(2.0)	0.8	灰色	赤褐色	不明 12~13C代?	12204	—	—	34

【単位】 皿上：置土位 【残片数】 単位は%

【法】 < > : 推定値 () : 残存値 【写】 C 4 : カラー写真四版 4

第14表 陶器調査表

標識 品名	出土地点		器種	容量 身	寸法 (cm)			胎土 成分	製作地	新暦年代	調査 番号	埋蔵 深	図版	写真
	大	小			口径	底径	高さ							
606	FR006	A 5層	鉢	5.4	—	—	(2.6)	灰白色	肥前	18C代	12102	68	34	—
607	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12103	68	34	—
608	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	2.7	灰白色	肥前	17C代	12104	68	34	—
609	FR006	A 5層	鉢	5.4	—	—	(2.6)	灰白色	肥前	18C代	12105	68	34	—
610	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12106	68	34	—
611	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12107	68	34	—
612	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12108	68	34	—
613	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12109	68	34	—
614	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12110	68	34	—
615	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12111	68	34	—
616	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12112	68	34	—
617	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12113	68	34	—
618	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12114	68	34	—
619	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12115	68	34	—
620	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12116	68	34	—
621	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12117	68	34	—
622	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12118	68	34	—
623	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12119	68	34	—
624	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12120	68	34	—
625	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12121	68	34	—
626	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12122	68	34	—
627	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12123	68	34	—
628	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12124	68	34	—
629	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12125	68	34	—
630	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12126	68	34	—
631	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12127	68	34	—
632	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12128	68	34	—
633	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12129	68	34	—
634	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12130	68	34	—
635	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12131	68	34	—
636	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12132	68	34	—
637	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12133	68	34	—
638	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12134	68	34	—
639	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12135	68	34	—
640	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12136	68	34	—
641	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12137	68	34	—
642	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12138	68	34	—
643	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12139	68	34	—
644	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12140	68	34	—
645	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12141	68	34	—
646	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12142	68	34	—
647	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12143	68	34	—
648	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12144	68	34	—
649	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12145	68	34	—
650	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12146	68	34	—
651	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12147	68	34	—
652	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12148	68	34	—
653	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12149	68	34	—
654	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12150	68	34	—
655	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12151	68	34	—
656	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12152	68	34	—
657	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12153	68	34	—
658	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12154	68	34	—
659	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12155	68	34	—
660	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12156	68	34	—
661	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12157	68	34	—
662	FR006	A 5層	鉢	5	—	—	(4.8)	灰白色	肥前	18C代	12158	68	34	—

【留意】 覆上：黄土上位 1 b層； A 1 b層 【容量】 単位は% 【保存中】 単位は% 【法】 < > : 推定値 () : 残存値

第15表 石器・石製品観察表

掲載 No	器種	出土地点		層位	石質	法 量				備考	整理 No	図版	写真
		大	小			長さ	幅	厚さ	重量				
2	磨石	R D 010		覆土	花崗岩	15.70	7.10	5.60	792.9		119	12	35
3	素材	R D 010		底面	火凝岩	13.70	9.10	6.00	926.5		120	-	35
35	四石	R Z 003		底直	安山岩	18.30	13.90	9.60	2130.7		117	19	35
36	四石	R Z 003		覆最上	安山岩	16.70	11.40	9.00	1941.2		154	19	35
288	石鏃	R Z 007	1 m	20層	頁岩	(2.32)	(1.13)	0.23	0.4		101	48	35
289	R F	R Z 007	2 k	4層	頁岩	12.68	7.54	3.14	247.2		4	-	35
290	剥片	R Z 007	21 n	12層	珪頁	3.38	3.50	2.51	23.5		108	48	35
291	原石	R Z 007	24 m	15層	赤頁	12.00	7.90	8.30	884.2		121	-	35
292	原石	R Z 007	24 m	10層	赤頁	3.50	3.40	2.70	38.1		133	-	35
293	磨石	R Z 007	22 l	15層	安山岩	7.00	5.10	3.80	183.3		136	-	35
294	磨石	R Z 007	24 h	13層	不明	8.70	5.40	5.10	362.5		26	-	35
295	磨石	R Z 007	25 j	6層	花崗岩	16.50	11.20	8.60	1852.7		5	-	35
296	磨石	R Z 007	1 k	6層	不明	6.00	5.10	2.60	89.6		21	-	35
297	磨石	R Z 007	25 h	6層	不明	7.60	6.90	5.70	382.2		25	-	35
298	磨石	R Z 007	25 g	6層	不明	14.20	9.70	5.80	1139.1		38	-	35
299	磨石	R Z 007	2 j	4層	閃緑岩	11.50	7.50	5.00	704.2		8	-	35
300	磨石	R Z 007	25 o	4層	不明	8.90	4.60	4.10	247.2		151	-	35
301	磨石	R Z 007	3 k	3~4層	不明	9.30	5.80	5.50	384.3		11	-	35
302	砥石	R Z 007	23 m	15層	安山岩	17.50	14.60	7.80	1162.0		156	48	36
303	砥石	R Z 007	22 j	13層	不明	10.30	10.90	8.10	1302.0		165	48	36
304	砥石	R Z 007	24 h	6層	不明	13.10	11.80	6.20	1252.8		34	48	36
305	砥石	R Z 007	19 u	6層	安山岩	(11.00)	(8.50)	7.90	484.3		164	48	36
306	砥石	R Z 007	3 k	4層	不明	21.20	8.70	7.40	1875.5		15	49	36
307	台石	R Z 007	25 h	6層	安山岩	(16.00)	15.00	12.00	2431.8	被熱?	27	-	36
308	台石	R Z 007	21 k	6層	安山岩	26.00	(21.20)	11.90	4971.5	石皿?	114	49	36
309	台石	R Z 007	20 q	6層	安山岩	15.10	11.70	5.20	1279.0		140	49	36
310	素材	R Z 007	21 l	15層	安山岩	8.70	5.40	4.80	198.6	赤化、 被熱	161	-	36
311	素材	R Z 007	22 k	6層	安山岩	22.10	14.80	12.2	5740.0		118	-	36
312	棒状	R Z 007	21 i	6層	デイ	30.60	8.80	6.1	2360.3	被熱・ 付着物	2	-	36
313	棒状	R Z 007	2 j	4層	デイ	15.70	8.30	4.70	800.7	被熱?	7	-	36
314	礫	R Z 007	25 l	15層	不明	7.60	4.60	2.70	83.6		169	-	36
315	礫	R Z 007	21 n	4層	不明	12.50	9.80	5.60	632.2	被熱	171	-	36
316	礫	R Z 007	25 m	3層	頁岩	3.00	2.00	0.70	4.6	偽石器	129	-	36
664	剥片	D区	1 l	II層	頁岩	4.39	2.20	0.92	6.6		130	-	36
665	剥片	D区	T007	I層	珪頁	4.36	2.53	1.46	8.3		132	-	36
666	磨石	C区		II層	安山岩	9.60	5.30	5.20	277.8		143	-	36
667	磨石	A区		I a層	安山岩	6.70	6.50	4.00	138.8		142	-	36
668	不明	D区	22 x	II層	不明	6.50	6.50	0.70	55.0	石製品	1	-	35

【器種】R F:調整痕のある剥片 素材:素材礫 棒状:棒状礫

【層位】底直:底面直上 覆最上:覆土最上向 I a層:A I a層

【石質】花崗岩:花崗閃緑岩 火凝岩:火山礫凝灰岩 珪頁:珪頁頁岩
赤頁:赤色頁岩 デイ:デイサイト【法量】長さ・幅・厚さの単位は^o 重量の単位はg(グラム)

第16表 金属製品・古銭観察表

掲載 No	器種	出土地点		層位	計測値 (cm)	金属の 種類	備考	整理 No	図版	写真
		大	小							
317	小刀	R Z 007	23 n	10層	□27.0・2.5・0.6	鉄	柄はモクレン属 保存処理実施	1	50	37
318	刀子	R Z 007	24 m	15層	□(16.5)・1.0・0.3	鉄	保存処理実施	2	50	37
669	鉋	D区	23 k	II層	□6.0・3.0・0.5	鉄	保存処理実施	3	69	37
670	不明	D区	2 u	I層	□(8.0)・(1.5)・0.5	鉄		4	69	37
671	煙管	A区		I b層	○(1.0)・(6.4)	銅		9	69	37
672	煙管	D区	1 n	II層	○(1.1)・(6.2)	銅		6	69	37
673	煙管	D区	24 q	II層	○(0.95)・(8.2)	銅		7	69	37
674	煙管	C区	T 003	I層	○(0.9)・(5.9)	銅		8	69	37
675	ネジ	D区	25 m	II層	○0.6・(1.3)	不明	アルミ?	5	69	37
743	古銭	A区		I b層	—	銅		2	69	37
744	古銭	D区	1 n	II層	—	銅	初鑄年は1636年	1	69	37
745	古銭	D区	25 s	II層	—	銅	初鑄年は1697年	3	69	37
746	古銭	D区		I層	—	銅	初鑄年は1697年	4	69	37

【層位】 I b層：A I b層

【計測値】 □：長さ・幅・厚さ ○：最大径・長さ ()：残存値

第17表 竈道具・土製品・磁器製品観察表

掲載 No	器種	出土地点		層位	計測値 (cm)	金属の 種類	備考	整理 No	図版	写真
		大	小							
34	ハマ	R Z 002		覆土	○(6.0)・1.1	22.0	竈道具	5	19	35
58	紡錘車	R Z 006		2層	□2.9・4.5・2.0	37.4	土製品	6	24	35
611	不明	D区	21 x	I ~ II層	—	6.0	土製品	2	—	35
663	人形	C区		掘掘	△(5.7)・2.3・(5.1)	43.0	磁器製品	3	68	35

【層位】 覆土：覆土上位

【計測値】 ○：最大径・高さ □：上径・下径・高さ △：長さ・幅・高さ
()：推定値 ()：残存値

第18表 木製品製法表(2)

用紙 No.	加工地点		高さ	分類		材種	本取り (原山)	長さ (cm)	標準値	貯留 期間	備考	製造 枚	試験	空間
	大	小		大項目	小項目									
326	R-2-007	251	150	巻部	巻部	小中巾	巻木取り (原山)	○- - - 1.1 - 0.75	120.22	○	本製品?	17	51	30
327	R-2-007	251	150	巻部	巻部	小中巾	巻木取り (原山)	○- - - (0.45) - (0.45)	120.24	○		28	51	30
328	R-2-007	22k	150	巻部	巻部	小中巾	巻木取り (原山)	○ - - <13.2> - (1.0) - 0.35		○		56	51	30
329	R-2-007	221	150	巻部	巻部	小中巾	巻木取り (原山)	○ - - 11.6 - (1.9) - 1.6	120.15	○		57	51	C 2
330	R-2-007	231	150	巻部	巻部?	小中巾幅	巻木取り (原山)	○ - - - (0.65) - (0.65)	120.15	○		60	51	30
331	R-2-007	22r	150	行部	巻部縮小	小中巾	巻木取り (原山)	○ - - - (2.9) - (1.15)	120.10	○		96	51	30
332	R-2-007	1m	100 (-150)	巻部	巻部	小中巾	巻木取り (原山)	○ - - - (4.3) - (0.9)				508	51	30
333	R-2-007	211	150	巻部	閉鎖巻部 (原山)	7本巾口	巻目	△<5.9> - 0.55	120.22	○	門部の孔?	52	51	30
334	R-2-007	22g	150	巻部	門部巻部 (原山)	7本巾口	巻目	△<5.8> - 0.5	120.11	○		24	51	30
335	R-2-007	21k	150	巻部	門部巻部 (原山)	7本巾口	巻目	△ - - - 0.45	120.01	○	本取りの巻? 2箇所	160	51	30
336	R-2-007	201	150	巻部	巻部	小巾		□(14.5) - 1.15 - 0.1	120.24	○		53	52	30
337	R-2-007	22q	150	巻部	巻部?	巻部		○ - - - (4.5) - (1.2)	120.14	○	縮小	66	52	30
338	R-2-007	251	150	巻部	巻部?	巻部		○ - - - (0.9) - (0.9)	120.19		外面強化?	56	52	30
339	R-2-007	20g	4層	巻部	巻部	2本巾	巻部	□(11.75) - 0.7 - 0.5		○		7	52	30
340	R-2-007	25m	100	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□0.5 - 0.35 - 1.1		○		49	52	30
341	R-2-007	20k	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(13.65) - 1.45 - 0.8	120.04			424	-	30
342	R-2-007	251	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(5.5) - 8.6 - (6.2)	120.05		○孔有	289	52	40
343	R-2-007	24g	125	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(8.1) - 6.8 - 7.6	120.01			244	52	40
344	R-2-007	210	6層	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(5.4) - 5.35 - 4.0	120.20	○	巻/付	303	53	40
345	R-2-007	251	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(7.3) - 2.7 - 3.1				217	53	40
346	R-2-007	201	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(47.3) - 4.0 - 3.8	120.26			511	-	40
347	R-2-007	25g	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(10.0) - 5.5 - 5.3	120.19			350	52	40
348	R-2-007	25g	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(18.2) - 4.8 - 3.5	126.11			331	50	40
349	R-2-007	221	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	1.008 (1) - 3.5 - 3.2	120.00			309	54	40
350	R-2-007	25g	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(66.8) - 4.8 - 5.5	126.03			275	-	40
351	R-2-007	22n	150	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(50.6) - 6.0 - 4.5				266	54	40
352	R-2-007	211	6層	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(11.0) - 5.2 - 4.0				506	-	40
353	R-2-007	221	6層	巻部	付木 巻部	2本巾	巻部	□(78.9) - 6.7 - 6.0	120.00			247	54	40

第18表 木製品観察表(3)

種別 No.	土産地産		部位	分類		明 候	木取り	面 積 (cm ²)	材内量	積付 表面	積 号	積算 No.	出張	分号
	人	小		人	小									
354	R 2 007	24 f	4層	土本材	板	乾	芯材5	□(28.6)・2.7・2.4	120.18			328	—	40
355	R 2 007	1 f	6層	土本材	板	乾	芯材5	□(67.6)・8.65・6.8	120.18	○		328	55	40
356	R 2 007	20 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(96.3)・2.7・2.7	120.19			246	55	40
357	R 2 007	25 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(31.6)・5.5・5.2	119.80			280	—	41
358	R 2 007	25 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(11.65)・(3.25)・(3.1)	120.16		魯孔若	94	—	41
359	R 2 007	24m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(32.3)・2.7・2.5	120.05			317	—	41
360	R 2 007	21m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(63.0)・3.1・3.4	120.05			377	55	41
361	R 2 007	21m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(7.3)・(3.5)・(3.1)				434	—	41
362	R 2 007	24m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(14.7)・(3.25)・(3.05)				460	—	41
363	R 2 007	25 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(13.3)・1.8・1.9	120.01			302	—	41
364	R 2 007	22 f	12層	土本材	板	乾	芯材5	□(96.0)・3.8・4.0	120.17			510	—	41
365	R 2 007	21 f	11層	土本材	板	乾	芯材5	□(10.7)・6.2・6.7	120.30			285	—	41
366	R 2 007	1 f	6層	土本材	板	乾	芯材5	□(81.3)・2.8・3.0	120.17		魯孔2箇所以上	501	—	41
367	R 2 007	1 f	6層	土本材	板	乾	芯材5	□(95.0)・5.5・5.5	120.26			526	55	41
368	R 2 007	24 f	4層	土本材	板	乾	芯材5	□(24.1)・2.9・2.5	120.48			524	—	41
369	R 2 007	21 f	11層	土本材	板	乾	芯材5	□(74.6)・2.6・2.4	120.44			520	—	41
370	R 2 007	21 f	11層	土本材	板	乾	芯材5	□(98.85)・(3.1)・3.3	120.14			530	55	42
371	R 2 007	24 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(98.5)・6.3・6.2	120.01	○		560	55	42
372	R 2 007	21 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(67.3)・3.4・4.3	119.97			280	—	42
373	R 2 007	24m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(68.8)・3.6・3.2	119.99		魯孔若	90	—	42
374	R 2 007	25m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(36.7)・6.7・5.3	120.04			319	56	42
375	R 2 007	25m	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(58.4)・3.6・3.5	120.12			376	56	42
376	R 2 007	24 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(76.6)・4.8・4.6	120.07		魯孔若	262	—	42
377	R 2 007	23 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(96.5)・3.8・5.0	119.98		魯孔若	371	56	42
378	R 2 007	25 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(32.7)・3.7・3.3	120.02		魯孔1箇所以上	503	—	42
379	R 2 007	22 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(18.1)・5.0・2.3	120.34			344	—	42
380	R 2 007	22 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(26.3)・(4.1)・(3.2)	120.07			239	—	42
381	R 2 007	22 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(66.7)・6.0・6.3	120.09		魯孔若	302	—	42
382	R 2 007	21 f	11層	土本材	板	乾	芯材5	□(39.4)・4.0・3.2	120.15			540	—	42
383	R 2 007	24 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(96.4)・3.85・3.1	120.05	○		310	56	42
384	R 2 007	24 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(57.05)・6.1・2.8	120.04			540	56	42
385	R 2 007	19 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(64.0)・3.5・3.3	120.22		魯孔2箇所	534	—	42
386	R 2 007	25 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(72.1)・5.0・5.0	120.06			254	57	43
387	R 2 007	25 f	15層	土本材	板	乾	芯材5	□(138.0)・2.6・7.0	120.04	○	魯孔若	340	—	43
388	R 2 007	25 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(160.3)・4.7・5.2			378.4	—	43	
389	R 2 007	24 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(90.5)・2.5・9.9	120.03			346	—	43
390	R 2 007	25 f	13層	土本材	板	乾	芯材5	□(88.8)・6.0・6.5	120.12			348	—	43
391	R 2 007	21 f	12層	土本材	板	乾	芯材5	□(7.5)・(4.0)・(2.05)			587	—	43	
392	R 2 007	22 f	12層	土本材	板	乾	芯材5	□(15.53)・(4.05)・(3.45)	120.10		魯孔若	56	—	43

第18表 木製品検査表(4)

検体 No	加工部位		部位	検査 項目	検査 方法	検査 結果	規格 (cm)	検出 濃度	備考	検体 品質	検体 品質	検体 品質
	大	小										
393	8.2.007	21	12層	木目材	縦	芯持ち	□(26.6)・3.8・3.9	120.15	○	312	—	43
394	8.2.007	21	13層	木目材	縦	芯持ち	□(31.8)・4.0・(1.1)	120.17	○	30	—	43
395	8.2.007	1E	6層	木目材	縦	芯持ち	□(55.0)・4.7・2.8	126.11	○	506	—	43
396	8.2.007	19V	16層	木目材	縦	芯持ち	□(41.0)・3.5・3.6	119.97	○	281	—	43
397	8.2.007	22	16層	木目材	縦	芯持ち	□(55.0)・3.0・4.0	120.13	○	553	—	43
398	8.2.007	23	13層	木目材	縦	芯持ち	□(44.0)・4.5・3.3	120.02	○	284	—	43
399	8.2.007	24	12層 (1-16層)	木目材	縦	芯持ち	□(55.0)・4.5・4.0	120.08	○	149	—	43
400	8.2.007	25	12層	木目材	縦	芯持ち	□(10.90)・(3.1)・1.3	120.02	○	401	—	43
401	8.2.007	26	12層	木目材	縦	芯持ち	□(46.8)・4.1・6.5	120.18	○	305	—	43
402	8.2.007	27	17層	木目材	縦	芯持ち	□(22.1)・(2.85)・2.96	120.08	○	312	—	44
403	8.2.007	28	19層	木目材	縦	芯持ち	□(12.75)・2.7・1.9	120.08	○	542	—	44
404	8.2.007	29	19層	木目材	縦	芯持ち	□(4.8)・1.25・1.4	120.05	○	99	—	44
405	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(96.0)・6.2・5.45	120.21	○	255	—	44
406	8.2.007	29	12層	木目材	縦	芯持ち	□(96.1)・3.7・2.83	120.09	○	253	—	44
407	8.2.007	29	6層	木目材	縦	芯持ち	□(16.0)・3.45・2.25	120.15	○	480	—	44
408	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(46.8)・4.4・3.5	120.07	○	383	—	44
409	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(106.0)・3.0・2.9	120.15	○	240	—	44
410	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(72.0)・5.0・4.0	120.19	○	251	—	44
411	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(82.7)・4.0・3.3	120.15	○	282	—	44
412	8.2.007	29	15層	木目材	縦	芯持ち	□(19.83)・2.85・2.65	120.10	○	135	—	44
413	8.2.007	29	15層	木目材	縦	芯持ち	□(21.3)・3.53・2.85	126.12	○	4	—	44
414	8.2.007	29	6層	木目材	縦	芯持ち	□(27.2)・3.0・3.1	120.00	○	130	—	44
415	8.2.007	29	16層	木目材	縦	芯持ち	□(20.7)・2.5・2.5	120.00	○	131	—	44
416	8.2.007	29	15層	木目材	縦	芯持ち	□(25.7)・6.0・(4.6)	128.17	○	346	—	45
417	8.2.007	29	12層	木目材	縦	芯持ち	□(15.4)・3.75・2.0	120.45	○	401	—	45
418	8.2.007	29	12層	木目材	縦	芯持ち	□(25.7)・1.59・0.8	120.45	○	21	—	45
419	8.2.007	24	4層	木目材	縦	芯持ち	□(6.0)・(1.75)・0.4	120.43	○	635	—	45
420	8.2.007	22	19層	木目材	縦	芯持ち	□(6.4)・2.3・0.3	120.18	○	638	—	45
421	8.2.007	24	12層	木目材	縦	芯持ち	□(18.7)・3.95・0.7	120.18	○	27	—	45
422	8.2.007	21	12層	木目材	縦	芯持ち	□(10.5)・2.45・0.45	120.14	○	23	—	45
423	8.2.007	25	6層	木目材	縦	芯持ち	□(4.40)・1.3・0.4	120.04	○	644	—	45
424	8.2.007	24	2層	木目材	縦	芯持ち	□(6.40)・2.65・0.3	120.04	○	98	—	45
425	8.2.007	29	13層	木目材	縦	芯持ち	□(6.3)・(2.75)・(0.3)	120.13	○	660	—	45
426	8.2.007	29	12層	木目材	縦	芯持ち	□(55.45)・10.1・8.2	120.06	○	143	—	46
427	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(11.89)・(2.0)・(1.83)	120.06	○	971	—	46
428	8.2.007	29	18層	木目材	縦	芯持ち	□(11.89)・(2.0)・(1.83)	120.06	○	971	—	46

第18表 木製品調査表(5)

標記 No.	出仕種別		材 種	分 類		備 考	製 法 (cm)	積 込 量	貯 蔵 場 所	新 号	形 質 図	階 級	存 庫
	人	小		人項目	小項目								
429	R 2007	22p	18階	その他	板状	芯材	■(13.65)・(4.52)・(5.43)	120.17		赤子有	01	—	46
430	R 2007	22p	15階	その他	板状	芯材	■(59.2)・3.3・3.2	120.11			230	—	46
431	R 2007	21p	18階	その他	板状	芯材	■(31.5)・(4.30)・(3.6)	120.17		燻製炭化、芯材有	632	—	46
432	R 2007	25t	15階	その他	板状	芯材	■(56.5)・(4.8)・3.5	120.03			171	—	46
433	R 2007	22p	15階	その他	板状	芯材	■(28.6)・3.8・(2.8)	119.96		芯材有	77	—	46
434	R 2007	25p	13階	その他	板状	芯材	■(46.3)・3.7・5.5	120.12		芯材1階有	264	—	46
435	R 2007	25t	13階	その他	板状	芯材	■(32.3)・(2.1)・(3.6)	120.12		芯材有	172	—	46
436	R 2007	21p	12階	その他	板状	芯材	■(105.0)・4.9・4.3	120.36			379	—	46
437	R 2007	26p	11階	その他	板状	芯材	■(36.3)・6.3・3.3	120.26		李、2階炭化L	325	—	46
438	R 2007	21p	11階	その他	板状	芯材	■(82.3)・2.7・2.5	120.21		赤子有	316	—	46
439	R 2007	21q	11階	その他	板状	芯材	■(43.5)・3.8・2.2	120.21			244	—	46
440	R 2007	25p	6階	その他	板状	芯材	■(18.3)・3.2・2.1	120.12		芯材1階有	529	—	46
441	R 2007	23t	6階	その他	板状	芯材	■(18.3)・3.6・2.1	120.12			515	—	46
442	R 2007	23t	6階	その他	板状	芯材	■(31.7)・3.95・2.95	3			3	—	46
443	R 2007	23t	6階	その他	板状	芯材	■(16.3)・2.9・2.2				313	—	46
444	R 2007	1t	6階	その他	板状	芯材	■(57.0)・4.2・4.7	120.15		赤子有 芯材1階有	527	—	46
445	R 2007	21p	4階	その他	板状	芯材	■(16.3)・6.8・6.3	120.33			306	—	46
446	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1b	■(28.8)・3.8・0.8	120.07	○	赤子、芯材有	63	59	47
447	R 2007	20t	15階	その他	板状	■1	■(16.0)・4.65・0.8	120.16	○	芯材有	29	59	47
448	R 2007	25t	15階	その他	板状	■1	■(24.7)・(6.6)・2.1	119.99	○	芯材1階有	71	59	47
449	R 2007	22p	13階	その他	板状	■1	■(2.99)・3.6・(1.65)	120.15	○	芯材3階有以上	315	60	47
450	R 2007	19t	13階	その他	板状	■2	■(68.7)・18.1・7.3	120.17	○	水浸炭化	264	60	47
451	R 2007	19t	12階	その他	板状	■2 小ノ小置	■(70.8)・21.7・18.9	120.17	○		270	60	47
452	R 2007	22p	13階	その他	板状	■1	■(18.0)・6.35・2.8	120.19	○		309	60	47
453	R 2007	22q	13階	その他	板状	■1	■(17.7)・(7.2)・(2.35)	120.19			658	60	47
454	R 2007	21p	11階	その他	板状	クリ互換用	■(36.6)・6.0・2.1	120.30	○	木組2階	72	61	47
455	R 2007	22p	6階	その他	板状	■1	■(1.4)・3.35・2.2	120.25	○	赤子有	308	61	47
456	R 2007	22p	4階	その他	板状	7.5ノ口	■(17.5)・4.1・0.55	120.20	○		586	61	47
457	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(14.7)・3.65・1.75	120.15			142	—	47
458	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(15.8)・(3.8)・1.2	120.15			440	—	47
459	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(12.9)・(3.2)・2.25	120.06			456	—	47
460	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(10.5)・(3.3)・1.35	120.04			459	—	47
461	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(8.9)・3.95・1.2	120.07			175	—	47
462	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(6.0)・(6.9)・(1.5)	120.06			100	—	47
463	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(5.2)・(2.6)・1.0	120.19			175	—	47
464	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(11.2)・3.75・2.3	120.15			459	—	47
465	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(12.3)・(5.0)・3.7	120.11			163	—	47
466	R 2007	22p	18階	その他	板状	■1	■(4.7)・(3.6)・(0.9)	120.09			591	—	47

第18表 木製品部表(6)

図面 No.	出土状況		層位		分級		割 破	A取り	量 積 (cm)	標準部	別名 或場所	備 考	数量 No.	図説	参考	
	大	小	大塚山	小塚山	その他	破状										
467	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	110.40・2.75・1.3 120.15	120.15			596	47		
468	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	117.3・2.45・1.0 120.29	120.29			632	47		
469	R 2.007	22q	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.0・4.05・2.05	118.91			419	47		
470	R 2.007	20i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	117.1・2.6・0.8	119.59			411	47		
471	R 2.007	21i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	110.2・3.5・1.2	118.91			435	47		
472	R 2.007	21i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	122.0・4.0・1.4	123.19			417	47		
473	R 2.007	25i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	116.0・1.8・0.3・3.1	120.00			432	48		
474	R 2.007	25i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	126.0・4.8・2.4	118.90			168	48		
475	R 2.007	25n	13層	破状	その他	破状	破目	破目	125.7・7.5・2.4	120.00			340	48		
476	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	119.3・3.3・1.05	119.99			678	48		
477	R 2.007	23a	13層	破状	その他	破状	破目	破目	118.45・3.5・2.0	119.88			657	48		
478	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.4・2.99・1.15	120.10			431	48		
479	R 2.007	24i	13層	破状	その他	破状	破目	破目	110.0・2.7・1.6	120.22			637	48		
480	R 2.007	23k	13層	破状	その他	破状	破目	破目	114.0・3.5・0.25	120.05		奈良育	42	48		
481	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	通破目	通破目	118.3・(4.4)・1.1	120.08			433	48		
482	R 2.007	22p	12層 (~10層)	破状	その他	破状	通破目	通破目	1112.0・46.2・1.9	123.04			436	48		
483	R 2.007	22p	12層 (~10層)	破状	その他	破状	破目	破目	118.3・4.9・2.4	120.07			438	48		
484	R 2.007	22p	12層 (~10層)	破状	その他	破状	破目	破目	114.1・4.1・1.7	120.07			180	48		
485	R 2.007	22q	13層 (~10層)	破状	その他	破状	破目	破目	114.0・18.0・3.15	119.99			149	48		
486	R 2.007	22q	13層 (~10層)	破状	その他	破状	破目	破目	113.19・2.8・1.35	120.06			488	48		
487	R 2.007	21j	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.6・6.2・1.2	120.18			41	48		
488	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	通破目	通破目	114.38・16.13・(2.0)	123.29		奈良工器所	448	48		
489	R 2.007	20i	12層	破状	その他	破状	破目	破目	120.38・13.85・1.75	120.42			435	48		
490	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	119.75・17.2・12.99	123.07			462	48		
491	R 2.007	21i	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.15・3.35・0.88	120.23			636	48		
492	R 2.007	21i	12層	破状	その他	破状	破目	破目	117.0・12.85・0.95	120.23			97	48		
493	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.15・2.9・11.03	120.63			164	48		
494	R 2.007	21p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	113.97・2.65・1.6	120.11			478	48		
495	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	117.2・12.85・1.1	123.39			630	48		
496	R 2.007	22p	12層	破状	その他	破状	破目	破目	118.0・2.3・1.1	123.39			631	48		
497	R 2.007	23p	13層	破状	その他	破状	破目	破目	117.65・4.4・0.85	126.12			487	48		
498	R 2.007	23p	13層	破状	その他	破状	破目	破目	114.9・13.03・1.2	126.12			450	48		
499	R 2.007	22i	12層	破状	その他	破状	破目	破目	124.1・3.0・1.6	120.12			103	48		
500	R 2.007	22i	12層	破状	その他	破状	破目	破目	116.85・11.05・0.63	120.12			594	48		

第18表 木製品調査表(7)

順 号	材 質		所 在	分 類	新 種	取 得 方	産 地 (cm)	仲 買 價	保 存 処 置	備 考	整理 No	国 産	号 数
	大	小											
300	R 2 007	21b	12層	木口皿 不問	板目	板目	□120.75・4.05・0.85 □121.5・8.0・4.1	120.15			70	-	48
302	R 2 007	21p	11層	板状 不問	板目	板目	□123.5・6.1・0.3	120.15			54	-	48
303	R 2 007	21p	11層	板状 不問	板目	板目	□126.65・6.6・0.9	120.15			20	-	48
304	R 2 007	25f	6層	板状 不問	板目	板目	□119.35・11.0・(1.85)	120.25			447	-	48
305	R 2 007	22m	6層	板状 不問	板目	板目	□181.5・3.0・2.0	120.45			243	-	48
306	R 2 007	22n	6層	板状 不問	板目	板目	□122.6・4.05・1.05				207	-	48
307	R 2 007	21a	4層	板状 不問	板目	板目	□121.5・3.65・0.5	120.30			164	-	48
308	R 2 007	22a	4層	板状 不問	板目	板目	□113.30・1.85・1.15				164	-	48
309	R 2 007	21l	2層	板状 不問	板目	板目	□14.05・(2.50・0.75)				642	-	48
310	R 2 007	21l	2層	板状 不問	板目	板目	□14.05・(2.70・1.0)				642	-	48
312	R 2 007	22p	18層	板状 不問	板目	板目	□117.2・2.15・1.25	120.11			631	-	49
313	R 2 007	22a	6層	板状 不問	板目	板目	□152.2・2.1・(1.8)	120.19			145	61	49
314	R 2 007	21g	6層	板状 不問	板目	板目	□142.0・1.25・1.15	120.30			207	61	49
315	R 2 007	24f	1層	不明 不問	板目	板目	□10.7・4.2・0.9				65	61	49
316	R 2 007	23k	15層	不明 不問	板目	板目	□12.9・4.2・1.0	120.18			55	61	49
317	R 2 007	22a	15層	不明 不問	板目	板目	□108.4・6.0・6.35	120.00			278	62	49
318	R 2 007	23k	15層	不明 不問	板目	板目	□221.1・(5.0)・2.1	120.61			59	62	49
319	R 2 007	22f	13層	不明 不問	板目	板目	□16.1・2.2・1.1	120.17			417	62	49
320	R 2 007	22f	6層	不明 不問	板目	板目	□124.0・0.71・1.8				527.8	62	49
321	R 2 007	22p	18層	不明 不問	板目	板目	□111.4・3.7・2.5	120.05			273	62	49
322	R 2 007	21a	18層	不明 不問	板目	板目	□158.7・(4.9)・2.9	119.99			106	62	49
323	R 2 007	24l	15層	不明 不問	板目	板目	□110.0・4.35・3.45				468	62	49
324	R 2 007	21b	18層	不明 不問	板目	板目	□115.6・4.05・1.0	120.02			74	63	50
326	R 2 007	22m	12層	不明 不問	板目	板目	□24.5・3.15・1.6	120.19			6	63	50
327	R 2 007	21f	13層	不明 不問	板目	板目	□11.3・14.2・1.1	120.14			68	63	50
328	R 2 007	21k	4層	不明 不問	板目	板目	□19.3・(4.35)・1.65				110	63	50
329	R 2 007	22p	18層	不明 不問	板目	板目	□117.0・3.9・1.25	120.04			443	63	50
330	R 2 007	22n	18層	不明 不問	板目	板目	□111.8・(4.0)・(1.45)	116.98			076	-	50
331	R 2 007	21a	18層	不明 不問	板目	板目	□115.0・(4.3)・(1.9)	120.12			402	60	50
332	R 2 007	22a	18層	不明 不問	板目	板目	□115.1・3.4・1.25	120.11			400	60	50
333	R 2 007	22a	18層	不明 不問	板目	板目	□127.2・7.6・6.8	120.06			284	-	50
334	R 2 007	22p	18層	不明 不問	板目	板目	□14.9・(2.50)・(1.3)	120.08			257	-	50
335	R 2 007	20j	15層	不明 不問	板目	板目	□123.9・1.0・1.0	120.18			530	-	50
336	R 2 007	19k	15層	不明 不問	板目	板目	□123.9・5.4・2.45	120.29			416	-	50
337	R 2 007	21k	15層	不明 不問	板目	板目	□117.9・3.5・1.8	120.30			444	-	50
338	R 2 007	23k	15層	不明 不問	板目	板目	□136.0・3.5・2.5	120.14			81	-	50
339	R 2 007	25m	15層	不明 不問	板目	板目	□129.5・3.3・3.1	120.03			214	-	50

第18表 木製品調査表(8)

検出 No.	出土位置		層位	分類		材質	用途	重量(g)	保存 状態	備考	検出 No.	出土 位置
	大	小		大項目	小項目							
540	R.2.007	21p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			553	97
541	R.2.007	21m	1層	その他	不明	不明	不明	不明			553	20
542	R.2.007	21n	1層	その他	不明	不明	不明	不明			130	50
543	R.2.007	22a	1層	その他	不明	不明	不明	不明			290	50
544	R.2.007	22b	1層	その他	不明	不明	不明	不明			140	50
545	R.2.007	22c	1層	その他	不明	不明	不明	不明			473	50
546	R.2.007	22p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			538	50
547	R.2.007	21p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			88	50
548	R.2.007	22p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			238	50
549	R.2.007	22p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			477	50
550	R.2.007	22n	1層	その他	不明	不明	不明	不明			548	50
551	R.2.007	22n	1層	その他	不明	不明	不明	不明			106	50
552	R.2.007	22q	1層	その他	不明	不明	不明	不明			474	51
553	R.2.007	21q	1層	その他	不明	不明	不明	不明			106	51
554	R.2.007	21q	1層	その他	不明	不明	不明	不明			9	51
555	R.2.007	21q	1層	その他	不明	不明	不明	不明			405	51
556	R.2.007	22a	1層	その他	不明	不明	不明	不明			404	51
557	R.2.007	11b	6層	その他	不明	不明	不明	不明			2	51
558	R.2.007	211	6層	その他	不明	不明	不明	不明			541	51
559	R.2.007	22p	1層	その他	不明	不明	不明	不明			470	51
560	R.2.007	21q	1層	その他	不明	不明	不明	不明			355	51
561	R.2.008	22b	3層	その他	不明	不明	不明	不明			508	52
562	R.2.008	21v	3層	その他	不明	不明	不明	不明			539	52
563	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			54	52
564	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			560	52
565	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			607	52
566	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			607	52
567	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			113	52
568	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			79	52
569	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			418	52
570	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			12	52
571	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			13	52
572	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			61	52
573	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			589	52
574	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			36	52
575	R.2.008	21v	2層	その他	不明	不明	不明	不明			45	52

第18表 木製品調査表(9)

品目 No.	計量単位		種別	分類		調査	採取	調査(%)	調査(%)	樹種	備考	樹形 高さ	直径	容積
	大	小		大品目	小品目									
686	1区	T-01	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(8.0)・0.5・0.45	○	○		46	70	52
687	2区	20k	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(10.4)・(0.65)・0.35	○	○		49	70	52
688	1区	20k	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(8.5)・(0.65)・0.5	○	○		90	70	52
689	1区	23k	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(9.5)・0.55・0.2	○	○		84	70	52
690	1区	1k	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(13.6)・0.6・(0.4)	○	○		554	70	52
691	2区	22b	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(13.6)・0.65・(0.4)	○	○		139	70	52
692	1区	19m n	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(22.0)・0.6・0.25	○	○		309	—	52
693	1区	19k	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(8.1)・1.15・0.76	○	○		421	70	52
694	2区	22b	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(8.1)・1.9・1.3	○	○		422	—	52
695	2区	22b	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(6.35)・0.8・0.25	○	○		315	—	52
696	2区	19v	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(6.7)・1.05・0.25	○	○		423	70	53
697	2区	19v	目録	長手杵	杵	アスナロ	高根目	□(11.2)・1.05・0.25	○	○		562	70	53
698	2区	25b	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(13.65)・0.8・0.5	○	○		472	70	53
699	2区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(13.1)・2.0・1.4	○	○		472	70	53
700	2区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(4.75)・(0.7)・0.3	○	○		663	—	53
701	2区	25i	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(8.5)・1.05・(0.55)	○	○		561	—	53
702	1区	19k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(17.1)・(1.5)・(0.26)	○	○		397	71	53
703	1区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(14.2)・1.05・0.35	○	○		647	71	53
704	1区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(7.25)・1.4・0.35	○	○		668	—	53
705	1区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(5.25)・2.2・(0.3)	○	○		660	71	53
706	1区	21k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(5.65)・1.5・(0.15)	○	○		651	—	53
707	1区	T11	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(7.0)・(0.85)・0.35	○	○		113a	71	53
708	2区	T11	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(5.65)・1.5・(0.15)	○	○		113b	71	53
709	1区	T101	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(4.8)・(1.3)・(0.25)	○	○		29	71	53
710	C/F	20k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(10.65)・(2.1)・(0.25)	○	○	◎ 樹形に符合?	35	71	53
711	A区	19m n	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(13.1)・3.95・0.65	○	○	◎ 樹形に符合?	34	71	53
712	2区	25k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(17.6)・3.9・0.6	○	○	◎ 樹形に符合?	34	71	53
713	2区	24e	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	△(17.8)・1.45	○	○	◎ 樹形に符合?	35	71	53
714	1区	19v	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(21.6+56.2)・2.7・2.4	○	○	◎ 樹形に符合?	316	—	53
715	D区	19v	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(30.0)・6.6・7.0	○	○	◎ 樹形に符合?	397	—	53
716	1区	25i	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(31.8)・3.8・3.5	○	○	◎ 樹形に符合?	323	—	51
717	2区	25i	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(15.0)・(3.0)・0.7	○	○	◎ 樹形に符合?	37	—	54
718	D区	13k	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(11.1)・(2.7)・(0.55)	○	○	◎ 樹形に符合?	363	—	54
719	1区	T-01	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(11.0)・(3.2)・(1.6)	○	○	◎ 樹形に符合?	565	—	54
720	A区	19m n	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(15.5)・1.6・0.45	○	○	◎ 樹形に符合?	646	—	54
721	A区	19m n	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(17.2)・4.0・0.7	○	○	◎ 樹形に符合?	154	—	54
722	A区	19m n	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(21.2)・4.55・0.9	○	○	◎ 樹形に符合?	412	—	54
723	A区	20i	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(7.0)・(2.95)・(0.1)	○	○	◎ 樹形に符合?	622	—	54
724	2区	21j	目録	その他	木杵状	アスナロ	高根目	□(12.3)・(6.25)・1.3	○	○	◎ 樹形に符合?	543	—	54
								□(10.65)・0.75・0.45	○	○		415	71	54

第18表 木製品検査表(10)

物数 No.	造仕検査		検査		分選		形 態	本取り	長 度 (cm)	材内径	保潔 設備	標 号	整理 基	回割	号数
	大	小	本項目	その他	本項目	その他									
725	A/E	19m a	取品	その他	形状	不明	取品	取品	□(13.7)・2.25・1.3				135	-	54
726	A/E	19m a	取品	その他	形状	不明	取品	取品	□(12.7)・2.0・1.8				137	-	54
727	A/E	19m a	取品	その他	形状	不明	取品	取品	□(10.7)・0.75・0.6				578	1	54
728	A/E	24m	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(6.7)・1.1・0.35		○	修繕		71	54
729	A/E	19m a	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(2.25)・(6.85)・0.3		○	修繕		158	54
730	A/E	19m a	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(4.4)・5.4・0.45		○	穴加工		32	71
731	D/E	19x1	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(12.7)・(6.73)・0.55		○	穴加工		38	71
732	D/E	24x	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(13.20)・(6.165)・2.3		○	長分削の穴		51	-
733	D/E	24m	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(16.50)・2.9・1.6		○			107	71
734	1/E	T 401	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(9.25)・(3.7)・(1.15)			海盤加工		482	-
735	1/E	取品	その他	不明	不明	不明	取品	取品	□(10.6)・(5.0)・(0.9)			取品		494	-
736	D/E	24m	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(6.7)・(6.65)・0.25		○	一帯加工		645	71
737	C/E	T 210	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(8.4)・(3.9)・1.0					638	-
738	D/E	取品	その他	不明	不明	不明	取品	取品	□(6.9)・3.9・1.5					570	-
739	A/E	19m a	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(4.9)・3.40・1.4			海盤加工		562	-
740	2/E	T 102	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(5.95)・(3.1)・(0.83)					665	-
741	D/E	取品	その他	不明	不明	不明	取品	取品	□(5.25)・(3.05)・(1.45)					666	-
742	A/E	19m n	取品	その他	不明	不明	取品	取品	□(12.7)・(1.3)・(0.53)					580	-
751	E/G006	17.0	5層	本板	不明	不明	取品	取品	□(8.2)・2.4・0.3	120.79	○	0100式?		47	72
752	E/G006	18.0	5層	本板	不明	不明	取品	取品	□(7.3)・1.7・0.25	120.73	○	0100式?		4	72
753	E/2007	28.0	4層	本板	不明	不明	取品	取品	□(6.3)・2.0・0.2		○	083式?		18	73
754	E/2007	19.1	4層	本板	不明	不明	取品	取品	□(5.0)・(1.2)・0.15		○	083式?		641	73
755 a	C/E	T 003	取品	本板	不明	不明	取品	取品	□(13.4)・1.9・0.35		○	083式?		571	73
755 b	C/E	T 003	取品	本板	不明	不明	取品	取品	□(14.25)・1.9・0.35		○	083式?		572	73
756	E/2007	21.1	5層	封緘本板	不明	不明	取品	取品	□(5.8)・3.8・1.1	120.06	○			22	73

【例 題】 第1：コナラ取品コナラ取品コナラ取品 第1 b：コナラ取品コナラ取品コナラ取品コナラ取品コナラ取品
 第3：マツ属落葉常緑木 第4：オニグルミ近似種 第5：モクレン属 第6：アスナロ近似種 第7：イネ科タケ坐科
 空間のものとは不同

【法 則】 ○：口徑、底径、器高、器厚 ◎：長辺、短辺、器高、器厚 □：長さ、幅、厚さ △：底・厚さ

() は残存値 (+) は統合しないが同一部体の資料

【保存処理】 ○が実空箱法により実施したもの

【写 真】 C 2：カウラ写真図版2 C 3：カウラ写真図版3 C 4：カウラ写真図版4

第19表 木製品計測表(1)

品目No	出仕径点		部位	分類		木 組	法尺 (cm)	厚高保	備 考
	大	小		大	小				
411	R G006	西	5節	土	杭	志	□(31.0)・2.8・1.9		
605	R G006	西	5節	土	杭	志	□(28.4)・3.1・2.1		
823	R G006	17 s		土	杭	志	□(9.9)・3.3・3.1		
841	R G006	西	葦土	土	角状材		□(4.9)・5.2・3.2		
367	R G006	17 p	5節	穂	穂状		□(2.0)・2.0・2.4	120.88	
624	R G006	17 o	5節	穂	穂状		□(33.7)・1.5・1.7	120.96	
1365	R G006		不明	穂	穂状		-		
1391	R G006	17 o	5節	穂	穂状		-	120.90	
1468	R G006		葦土	穂	不明		□(7.2)・(1.1)・(0.2)		
1495	R Z007	12 n	2節	穂	不明		□(11.6)・(1.3)・(0.7)		横置はナシ?
702	R Z007	22 p	12節	一	穂		□(2.1)・4.5・1.9	120.36	
141	R Z007	24 m	15節	土	杭	志	□(31.7)・3.8・4.2	120.12	
151	R Z007	25 m	15節	土	杭	志	□(48.0)・2.5・2.5	120.08	矢張り化
238	R Z007	22 q	12節	土	杭	志	□(14.2+11.0)・3.0・2.5	120.11	
240	R Z007	23 n	15節	土	杭	志	□(24.8)・5.3・2.6	119.98	
347	R Z007	25 b	15節	土	杭	志	□(88.7)・(3.5)・3.9	120.69	
392	R Z007	21 o	18節	土	杭	板	□(13.2)・4.8・3.0	120.04	
803	R Z007	22 p	12節-18節	土	杭	志	□(12.5)・4.1・2.1	120.04	
804	R Z007	24 b	15節	土	杭	志	□(56.6)・3.0・3.0	120.02	
805	R Z007	22 b	12節	土	杭	志	□(17.5)・2.5・2.0	120.14	
896	R Z007	24 i	15節	土	杭	志	□(13.5)・3.0・3.1	120.07	
807	R Z007	25 b	15節	土	杭	志	□(19.7)・3.4・2.8	120.26	立位
808	R Z007	24 i	6節	土	杭	志	□(28.7)・2.7・2.7		
809	R Z007	20 m	19節	土	杭	志	-	120.16	
810	R Z007	21 q	18節	土	杭	志	□(27.2)・7.2・5.0	120.02	
811	R Z007	23 k	13節	土	杭	志	□(63.5)・3.2・5.0	120.02	
812	R Z007	22 o	12節	土	杭	志	□(27.3)・4.5・3.7	120.08	
813	R Z007	24 g	4節	土	杭	志	□(14.1)・3.5・2.6	120.47	
814	R Z007	24 m	15節	土	杭	志	□(34.3)・4.1・4.1	120.05	
815	R Z007	22 i	6節	土	杭	志	□(31.7)・6.5・4.0	120.17	
816	R Z007	24 m	15節	土	杭	志	□(43.5+42.0)・(4.3)・4.5	120.07	
817	R Z007	29 k	15節	土	杭	志	□(40.8)・5.9・4.2	120.27	
818	R Z007	23 n	12節	土	杭	志	□(15.5)・(3.8)・4.3	120.61	
819	R Z007	1 g	4節	土	杭	志	□(9.0)・(2.0)・2.3		
820	R Z007	22 o	12節	土	杭	志	□(25.0)・4.8・3.4	120.09	
821	R Z007	22 i	6節	土	杭	志	□(24.5)・3.5・3.0	120.35	
822	R Z007	21 o	15節	土	杭	志	□(29.7)・2.0・3.2	120.13	
824	R Z007	24 m	15節	土	杭	志	□(59.5)・(2.7)・2.8	119.99	
826	R Z007	1 i	15節	土	杭	志	□(81.4)・3.2・3.3	120.02	
827	R Z007	22 p	12節	土	杭	志	□(14.7)・2.0・1.8	120.05	
828	R Z007	25 m	15節	土	杭	志	□(36.5)・4.3・3.9	120.08	
829	R Z007	21 i	12節	土	杭	志	□(68.0)・1.5・1.4	120.18	
137	R Z007	24 i	15節	土	角状材		□(34.7)・4.5・2.4	120.02	断面三角形
259	R Z007	24 i	15節	土	角状材		□(92.5)・7.0・6.4	120.04	△ノ有
263	R Z007	23 o	15節	土	角状材		□(102.0)・9.0・5.5	120.07	
831	R Z007	22 n	15節	土	角状材		□(36.5)・6.0・4.3		
832	R Z007	24 i	15節	土	角状材		□(35.5)・5.3・3.3	119.99	
835	R Z007	22 p	12節-15節	土	角状材		□(15.7)・4.2・3.7	120.08	
836	R Z007	25 p	12節	土	角状材		□(18.3)・2.8・2.9	120.09	
837	R Z007	22 o	18節	土	角状材		□(14.7)・4.2・3.0	120.00	
838	R Z007	23 a	6節	土	角状材		□(19.5)・1.6・1.7		立位
840	R Z007	22 i	4節	土	角状材		□(15.2)・1.8・1.5		
991	R Z007	24 n	4節	底	穂状		□(17.1)・(4.2)・(3.1)		
8	R Z007	21 j	6節	穂	穂状	志	□(10.3)・2.38・1.66	120.21	
75	R Z007	23 q	12節	性	穂状	志	□(22.3)・2.3・2.15	120.06	字孔有
76	R Z007	22 o	12節	穂	穂状	志	□(24.4)・(2.2)・(1.53)	120.10	字孔有
80	R Z007	25 i	15節	穂	穂状	志	□(14.9)・2.75・2.8	120.02	字孔有
82	R Z007	25 i	15節	穂	穂状	志	□(43.9)・(3.7)・(3.35)	120.00	字孔有
85	R Z007	23 k	18節	穂	穂状	志	□()	120.10	字孔有

第19表 木製品計測表(2)

順号No	出土地点		層位	分類		木 種	法量 (cm)	標準値	備 考
	大	小		大	小				
91 a	R Z007	23 g	4層~6層	柱	板状	志	□(23.7)・3.1・3.5	120.35	穿孔有
91 b	R Z007	23 k	4層~6層	柱	板状	朝	□(14.1)・4.0・2.2	120.35	穿孔有
92	R Z007	25 l	15層	柱	板状	志	□(17.9)・(4.45)・(4.6)	120.04	穿孔有
93	R Z007	22 r	12層	柱	板状	志	□(15.7)・3.75・2.65	120.13	
100 a	K Z007	1 m	15層	柱	板状	志	□(16.5)・(3.1)・(1.85)	120.20	穿孔有
100 b	R Z007	1 m	15層	柱	板状	志	□(7.25)・(2.95)・(1.8)	120.20	穿孔有
115	R Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(9.5)・2.6・2.0	120.05	
119	R Z007	1 m	15層	柱	板状	志	□(27.5)・2.8・3.0	120.15	
123	R Z007	25 m	15層	柱	板状	志	□(15.4)・3.1・3.0	120.07	
124	K Z007	1 l	15層	柱	板状	志	□(11.6)・3.2・2.9	120.11	
126	R Z007	25 m	15層	柱	板状	志	□(9.7)・2.7・(1.7)	120.03	断面日事状
127	R Z007	1 l	15層	柱	板状	志	□(14.2)・2.4・2.2	120.14	
128	R Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(21.6)・4.6・3.0	120.01	断面四角形
129	R Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(29.3)・4.0・3.9	119.99	
134	K Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(17.2)・2.3・2.2	120.00	
136 a	R Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(31.3)・3.5・3.0	120.01	
136 b	R Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(10.2)・2.7・2.2	120.01	
139	K Z007	24 m	15層	柱	板状	志	□(13.1)・2.4・2.2	120.01	
147	R Z007	22 o	12層	柱	板状	朝	□(42.8)・4.3・2.9		断面三角形、穿孔有
152	R Z007	1 l	15層	柱	板状	志	□(36.5)・3.0・2.7	120.14	ホノ有
161	R Z007	22 n	12層	柱	板状	志	□(27.6)・3.5・6.7	120.09	
162	R Z007	22 o	12層	柱	板状	志	□(40.0)・3.5・3.5	119.94	
163 a	K Z007	24 l	15層	柱	板状	志	□(105.6)・9.0・6.8	120.07	
163 b	R Z007	24 l	15層	柱	板状	志	□(128.6)・3.4・5.3	120.07	
164	R Z007	24 k	15層	柱	板状	志	□(164.5)・7.5・6.5	120.01	
166 b	R Z007	24 l	15層	柱	板状	志	□(96.0)・8.0・8.0	120.01	
167	R Z007	22 r	6層	柱	板状	志	□(346.0)・(7.0)・7.6	120.34	
181	K Z007	22 p	11層	柱	板状	志	□(66.3)・4.3・4.5	120.28	断面三角形
192	R Z007	22 r	12層	柱	板状	志	□(29.0)・2.7・2.7	120.07	
193	R Z007	20 p	11層	柱	板状	志	□(46.7)・3.6・3.9	120.15	
194	K Z007	21 p	11層	柱	板状	志	□(35.6)・2.5・2.3	120.19	
197	R Z007	23 m	15層	柱	板状	志	□(31.0)・4.5・4.8	120.06	
199	R Z007	24 k	15層	柱	板状	志	□(45.0)・5.2・4.5	120.01	
203	R Z007	22 k	4層~6層	柱	板状	志	□(31.7)・3.5・3.2	120.32	
204	R Z007	22 k	4層	柱	板状	志	□(33.8)・3.3・2.9	120.38	
209	R Z007	25 l	15層	柱	板状	志	□(30.0)・3.4・3.4	120.01	
210	R Z007	24 n	15層	柱	板状	志	□(36.5)・3.8・4.3	120.09	
212	R Z007	23 k	6層~10層	柱	板状	志	□(19.0)・2.6・2.6	120.18	
213	R Z007	24 c	15層	柱	板状	志	□(50.0)・3.5・2.9	120.06	
215	R Z007	24 c	15層	柱	板状	志	□(17.2)・2.0・3.3	119.99	
229	R Z007	23 m	15層	柱	板状	朝	□(13.3)・3.6・3.0	120.06	断面四角形
230	K Z007	25 m	15層	柱	板状	朝	□(15.0)・2.8・2.2	120.08	断面半円形
231	R Z007	23 m	15層	柱	板状	朝	□(24.3)・3.0・2.3	120.04	断面半円形
246	R Z007	22 r	12層	柱	板状	志	□(116.0)・6.0・5.0	120.20	ホノ状の切り込み有
256	K Z007	22 o	12層	柱	板状	志	□(76.7)・8.5・7.0	120.16	
257	R Z007	21 p	11層	柱	板状	志	□(86.0)・7.0・6.5	120.31	
258	R Z007	21 p	11層	柱	板状	志	□(82.5)・6.6・6.0	120.09	
274 a	K Z007	25 l	15層	柱	板状	志	□(61.3)・4.7・4.3	120.02	
274 b	R Z007	25 l	15層	柱	板状	志	□(18.3)・3.7・3.0	120.02	
276	P Z007	22 o	18層	柱	板状	志	□(22.2)・2.9・2.3	120.10	立位
283	R Z007	21 m	15層	柱	板状	志	□(29.0)・23.0)・2.8・2.5	119.99	
288	R Z007	23 o	15層	柱	板状	志	□(69.4)・(5.3)・6.4	120.02	
291	R Z007	22 o	18層	柱	板状	志	□(27.1)・3.3・3.3	120.09	
304	R Z007	21 e	12層	柱	板状	志	□(35.5)・4.0・3.8	120.18	
313	R Z007	22 l	6層	柱	板状	志	□(22.8)・(2.63)・(2.25)	120.29	穿孔有
323	R Z007	25 l	15層	柱	板状	志	□(51.0)・(6.3)・6.5	120.01	

第19表 木製品計測表(3)

製品名	寸法(mm)		部位	分類	木種	寸法(mm)	標準値	備考
	大	小						
328	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □40.0 - 3.2 - 3.0	119.99	
332	R 2007	1	15層	他	桧材	芯 □23.2 - (3.3) - 3.7	120.07	
341	R 2007	25a	15層	他	桧材	芯 □21.1 - 3.2 - 3.2	120.08	
342	R 2007	1	15層	他	桧材	芯 □23.0 - 3.2 - 4.0	120.10	
352	R 2007	22a	15層	他	桧材	芯 □112.0 - 3.6 - 3.5	120.07	
353	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □104.0 - 6.5 - 6.5	120.00	
355	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □69.5 - 4.5 - 4.0	120.20	
356	R 2007	21p	12層	他	桧材	芯 □57.0 - 8.3 - 8.0	120.13	
359b	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □49.2 - 4.0 - 3.8		
360	R 2007	21p	12層	他	桧材	芯 □168.5 - (4.5) - 4.7	120.20	
363	R 2007	26g	13層	他	桧材	芯 □70.5 - 5.7 - 5.3	120.15	
366a	R 2007	23k	13層	他	桧材	芯 □52.0 - (4.7) - 5.5	120.01	
366b	R 2007	23k	13層	他	桧材	芯 □34.0 - 7.0 - 6.0	120.01	
368	R 2007	2	6層	他	桧材	芯 □67.3 - 4.7 - 4.5		
386	R 2007	23	6層	他	桧材	芯 □41.0 - (5.0) - 6.5	120.30	
387	R 2007	19a	12層	他	桧材	芯 □161.5 - 9.9 - 8.8	120.10	
388	R 2007	30r	12層	他	桧材	芯 □45.4 - 6.3 - 6.5	120.00	
389	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □43.5 - 3.7 - 3.3	119.99	
391	R 2007	21q	12層	他	桧材	芯 □61.3 - 3.0 - 4.5	119.95	
392	R 2007	24m	15層	他	桧材	芯 □46.5 - 4.8 - 4.3	120.02	
393	R 2007	25m	15層	他	桧材	芯 □43.0 - (3.2) - 4.0	120.11	
394	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □62.0 - 4.5 - 3.9	120.03	
395	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □73.0 - 7.3 - 7.5	119.99	
396	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □133.0 - 9.2 - 8.5	120.25	
398	R 2007	1	15層	他	桧材	芯 □101.0 - 4.5 - 5.1	119.98	
399a	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □105.0 - 6.7 - 6.5	120.18	
399b	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □44.5 - 4.0 - 3.9	120.18	
399c	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □32.0 - 4.5 - 3.9	120.18	
406	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □43.0 - 7.5 - 3.0	119.99	
453	R 2007	30	6層	他	桧材	芯 □20.9 - (3.1) - (2.45)	120.17	穿孔有
500	R 2007	22p	12層	他	桧材	芯 -	120.10	穿孔有
504	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □68.5 - 3.0 - 5.3	119.98	
511	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □92.5 - 4.7 - 4.2		穿孔有
525	R 2007	23	6層	他	桧材	芯 □57.5 - 2.5 - 2.1		穿孔有
535	R 2007	24k	15層	他	桧材	芯 □77.0 - 3.5 - 3.6	120.05	
546	R 2007	23c	12層	他	桧材	芯 -	120.08	
585	R 2007	22k	13層	他	桧材	芯 □129.0 - 2.5 - 2.8	120.18	
601	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □192.5 - 4.3 - 4.0	120.11	穿孔
602	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □22.7 - 5.5 - 4.9	119.96	
603	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □36.0 - 3.6 - 4.2	120.07	
604a	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □38.0 - 4.8 - 4.3	120.06	
604b	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □50.0 - 5.0 - 5.9	120.08	
607	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □71.1 - 4.5 - 4.2		
608	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □56.5 - 5.0 - 5.8	120.04	
609	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □34.0 - 3.3 - 3.2	120.26	
612	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □118.0 - 3.7 - 3.5	120.12	
614	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □29.5 - 2.3 - 2.3	120.08	
616	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □89.0 - 5.0 - 4.8		
625	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □41.2 - 5.2 - 4.5	120.07	
626	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □45.0 - 4.0 - 4.0	119.96	
1002a	R 2007	21h	13層	他	桧材	芯 □85.7 - (6.3) - 7.7	119.97	
1002b	R 2007	24h	13層	他	桧材	芯 -	119.97	
1003	R 2007	21a	12層	他	桧材	芯 □51.0 - 4.0 - 3.5	120.30	
1004a	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □106.0 - 3.0 - 2.8	120.08	
1004b	R 2007	1	6層	他	桧材	芯 □71.0 - 4.0 - 2.7	120.08	
1006	R 2007	25g	13層	他	桧材	芯 □25.0 - 3.5 - 4.7	120.16	
1007	R 2007	21q	12層	他	桧材	芯 □20.7 - 2.7 - 2.3	120.23	
1008	R 2007	25m	15層	他	桧材	芯 □17.5 - 3.6 - 2.7	120.20	
1009	R 2007	25b	13層	他	桧材	芯 □44.0 - 3.2 - 3.2	120.11	
1010	R 2007	23	不明	他	桧材	芯 □27.0 - 4.2 - 4.3		
1011a	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □29.0 - 3.9 - 3.7	120.00	
1011b	R 2007	24	15層	他	桧材	芯 □18.5 - 3.3 - 3.8	120.00	
1012	R 2007	24m	15層	他	桧材	芯 □49.5 - 3.2 - 2.8	120.01	

第19表 木製品計測表(4)

発掘地	出土地層		層位	分 類		木 紋	法量 (cm)	標準値	備 考
	大	小		大	小				
1013	R Z007	24 i	不明	他	板状	芯	□162.0-3.7-3.5		120.02
1014	R Z007	1 k	6層	他	板状	芯	□160.2-2.6-2.6		
1015	R Z007	23 i	6層	他	板状	芯	□123.8-2.7-2.7		
1017	R Z007	24 j	6層	他	板状	芯	□117.0-2.6-2.2		
1019	R Z007	23 i	6層	他	板状	芯	□111.5-3.9-4.1		
1020	R Z007	23 n	6層	他	板状	芯	□193.5-2.2-2.3		120.36
1021	R Z007	25a	13層	他	板状	芯	□127.9-4.2-4.2		120.11
1022	R Z007	23 p	13層	他	板状	割	□12.8-3.4-3.2		120.09
1023	R Z007	1 m	13層	他	板状	芯	□127.8-4.0-3.3		120.11
1024	R Z007	25m	13層	他	板状	芯	□128.5-3.0-2.9		120.07
1025	R Z007	1 l	6層	他	板状	芯	□138.0-3.8-2.6		120.23
1026	R Z007	25 g	13層	他	板状	芯	□121.0-2.7-3.0		120.05
1027	R Z007	25 g	13層	他	板状	芯	□122.0-3.5-4.4		120.00
1028	R Z007	25 g	13層	他	板状	芯	□122.0-3.0-2.5		120.08
1030	R Z007	24m	13層	他	板状	芯	□129.0-2.6-2.5		120.05
1031	R Z007	1 k	6層	他	板状	芯	□148.5-3.3-3.3		
1032	R Z007	24m	13層	他	板状	芯	□135.5-4.8-4.7		120.03
1033	R Z007	25m	13層	他	板状	芯	□133.9-3.0-3.0		120.10
1034	R Z007	25m	13層	他	板状	芯	□127.2-5.0-3.7		120.14
1035	R Z007	24m	13層	他	板状	芯	□122.0-2.4-2.3		120.01
1036	R Z007	25 h	13層	他	板状	芯	□133.0-3.3-3.8		120.10
1037	R Z007	23 g	13層	他	板状	割	□10.9-3.4-2.8		120.17
1038	R Z007	25 h	13層	他	板状	割	□18.7-2.2-1.7		120.10
1039	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□19.2-3.3-3.0		120.07
1040	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□18.6-3.7-3.2		120.07
1041	R Z007	1 m	13層	他	板状	芯	□15.0-4.3-4.5		120.10
1042	R Z007	23m	13層	他	板状	割	□24.0-3.8-2.2		120.21
1043 a	R Z007	23m	13層	他	板状	割	□16.7-3.4-2.3		
1043 b	R Z007	23m	13層	他	板状	割	□12.8-2.9-2.1		
1044	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□135.9-4.0-3.9		120.02
1045	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□117.8-4.0-3.2		120.00
1046	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□13.0-3.3-3.0		120.11
1047	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□36.5-4.0-3.2		120.14
1048	R Z007	2 k	不明	他	板状	芯	□24.1-3.0-2.3		
1049	R Z007	1 m	13層	他	板状	芯	□13.1-3.2-3.2		120.13
1050	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□16.1-2.7-2.3		120.12
1051	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□11.3-2.7-2.3		120.10
1052	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□28.2-3.7-3.3		120.12
1053	R Z007	25 e	13層	他	板状	芯	□124.9-2.2-2.2		120.11
1054	R Z007	23 d	13層	他	板状	芯	□16.3-3.1-2.9		120.07
1055	R Z007	24 l	13層	他	板状	割	□16.3-2.9-2.2		120.03
1056	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□17.6-4.3-3.6		120.03
1057	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□14.6-4.5-2.8		120.03
1058	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□14.1-3.0-2.8		120.02
1059	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□10.5-4.6-3.7		120.04
1060	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□10.4-3.8-3.9		119.98
1061	R Z007	23m	13層	他	板状	芯	□30.2-3.2-3.6		120.08
1062	R Z007	25m	13層	他	板状	割	□13.0-3.7-3.0		120.06
1063	R Z007	23 l	13層	他	板状	芯	□73.5-5.0-4.6		120.01
1064	R Z007	23 g	13層	他	板状	芯	□10.9-3.4-3.3		120.14
1065	R Z007	1 m	13層	他	板状	芯	□19.5-2.9-2.7		120.22
1066	R Z007	1 m	13層	他	板状	芯	□16.4-3.0-2.6		120.19
1067	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□18.3-4.0-3.4		120.12
1068	R Z007	23 g	13層	他	板状	芯	□36.6-3.2-3.5		
996	R Z007	22 i	13層	他	板状	芯	□18.8-4.6-4.5		120.09
1070	R Z007	25m	13層	他	板状	芯	□21.6-(2.7)-3.5		120.08
1071	R Z007	22 q	18層	他	板状	芯	□19.6-4.0-4.3		
1072	R Z007	22 i	4層	他	板状	芯	□16.8-2.6-2.6		
1073 a	R Z007	23 i	6層	他	板状	芯	□15.3-3.8-3.3		
1073 b	R Z007	23 i	6層	他	板状	割	□12.5-2.6-1.9		
1074	R Z007	23 u	6層	他	板状	割	□20.0-4.0-2.7		120.07
1075	R Z007	25 l	13層	他	板状	芯	□111.8-2.7-3.0		
1076	R Z007	21 p	13層	他	板状	芯	□115.3-2.5-2.3		120.16

第19表 木製品計測表 (5)

製品名	出土地点		層位	分類		支取	法量 (m)	積高係	備考
	大 小			大 小					
	大	小		大	小				
1077	R Z007	22 q	不明	他	板状	芯	□(10.8)・3.8・3.1		
1079	R Z007	1 l	15層	他	板状	芯	□(29.8)・3.7・3.4	120.10	
1080	R Z007	-	不明	他	板状	芯	□(30.0)・4.3・3.8		
1081	R Z007	23 n	6層	他	板状	芯	□(19.3)・4.7・3.8	120.20	
1082	R Z007	25 m	13層	他	板状	芯	□(16.2)・3.0・3.1	120.05	
1083	R Z007	25 l	13層	他	板状	芯	□(5.5)・2.5・2.2	120.03	
1084	R Z007	25 m	13層	他	板状	芯	□(39.6-24.0)・4.3・4.3	120.18	
1085	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□(30.2)・5.0・3.8	119.99	
1086	R Z007	22 l	6層	他	板状	芯	□(33.8)・3.0・3.4	120.18	
1087	R Z007	21 l	13層	他	板状	芯	□(14.2)・4.0・3.3	120.00	
1088 a	R Z007	2 k	6層	他	板状	割	□(20.5)・3.5・2.5		
1088 b	R Z007	2 k	6層	他	板状	芯	□(18.6)・2.4・2.3		
1089	R Z007	1 g	6層	他	板状	芯	□(21.3)・3.6・3.5	120.10	
1090	R Z007	25 m	15層	他	板状	芯	□(41.4)・2.2・2.3	120.03	
1091	R Z007	24 m	15層	他	板状	芯	□(48.0)・2.8・2.3	119.99	
1092	R Z007	1 k	6層	他	板状	芯	□(37.7)・2.3・2.4		
1093	R Z007	2 l	6層	他	板状	芯	□(46.5)・3.6・3.3	120.26	
1094	R Z007	23 o	15層	他	板状	芯	□(32.5)・3.7・3.7	120.04	
1095	R Z007	3 i	不明	他	板状	芯	□(32.1+38.2)・3.2・3.0		
1096	R Z007	21 p	13層	他	板状	割	□(33.5)・4.0・3.0	120.03	
1098	R Z007	1 l	15層	他	板状	芯	□(47.2)・3.2・2.2	120.11	
1099	R Z007	24 m	15層	他	板状	芯	□(22.7)・3.8・4.0	120.01	
1100	R Z007	1 l	13層	他	板状	芯	□(23.7+32.8)・3.0・2.4	119.90	
1101	R Z007	24 l	13層	他	板状	芯	□(13.0)・3.8・3.3	120.02	
1102	R Z007	22 q	12層	他	板状	芯	□(38.8)・3.0・2.5	120.09	中位
1103	R Z007	23 l	6層	他	板状	割	□(18.7)・3.3・2.6	120.29	
1104	R Z007	24 m	15層	他	板状	芯	□(14.7)・2.8・2.6	120.00	
1105 a	R Z007	25 m	15層	他	板状	芯	□(30.0)・2.6・2.2	120.08	
1105 b	R Z007	25 m	15層	他	板状	芯	□(7.2)・3.7・3.5		
1106	R Z007	22 m	15層	他	板状	芯	□(32.6)・3.3・3.2		
1107	R Z007	22 p	12層-18層	他	板状	割	□(17.8)・4.0・3.1	120.08	
1108	R Z007	21 p	11層	他	板状	芯	□(23.7)・4.2・4.5	120.18	
1109	R Z007	23 o	6層	他	板状	芯	□(9.0)・4.2・3.2		
1110	R Z007	25 l	15層	他	板状	芯	□(13.8)・4.0・3.6	120.05	
1111	R Z007	25 m	15層	他	板状	芯	□(13.0)・3.6・2.9		
1112	R Z007	1 l	15層	他	板状	芯	□(42.0)・3.8・3.0	120.13	
1113	R Z007	21 k	6層	他	板状	芯	□(28.0)・5.0・4.5	120.15	
1114	R Z007	22 r	12層	他	板状	芯	□(14.0)・3.2・3.2	120.07	
1115 a	R Z007	22 k	4層	他	板状	芯	□(14.0)・3.6・3.4	120.48	
1115 b	R Z007	22 k	4層	他	板状	割	□(13.0)・2.4・2.0	120.48	
1116	R Z007	25 l	15層	他	板状	芯	□(32.4)・2.9・2.7	120.04	
1117	R Z007	25 l	15層	他	板状	芯	□(24.0)・3.5・3.5	120.05	
1119	R Z007	1 k	6層	他	板状	芯	□(34.0)・3.6・3.3		
1120	R Z007	23 a	12層-15層	他	板状	芯	□(28.2)・3.0・3.7		
1121	R Z007	1 l	3層	他	板状	芯	□(14.1)・4.2・3.5	120.23	
1122	R Z007	20 j	12層	他	板状	芯	□(27.0)・3.0・3.8	120.21	
1123	R Z007	22 p	12層	他	板状	芯	□(30.0)・2.9・2.4	120.11	
1124	R Z007	22 r	12層	他	板状	芯	□(8.8)・2.3・2.3	120.07	
1125	R Z007	24 l	15層	他	板状	芯	□(8.2)・3.9・3.1		
1126	R Z007	22 p	12層-18層	他	板状	割	□(19.5)・4.0・3.5	120.15	
1127	R Z007	19 o	12層	他	板状	-	-	120.10	
1128	R Z007	25 g	13層	他	板状	芯	□(14.4)・3.3・3.1	120.13	
1181	R Z007	23 l	6層	他	板状	芯	□(30.7)・4.3・4.2		
1182	R Z007	23 q	12層	他	板状	芯	□(16.0)・2.2・1.9	120.13	
1183	R Z007	23 l	6層	他	板状	芯	□(17.0)・2.5・2.6		
83	R Z007	22 p	18層	他	板状	板	□(4.3)・(3.1)・1.0	120.08	
427	R Z007	25 q	12層-18層	他	板状	項	□(38.8)・(4.65)・1.25	120.04	
429	R Z007	22 r	15層	他	板状	板	□(5.4)・(3.1)・0.85	120.08	

第19表 木製品計測表(6)

製品No	注1規定		単位	分類		木取	法量 (cm)	検出率	備考
	大	小		大	小				
463	R Z 007	23p	12層	他	板状	直	□(6.7)・(3.0)・1.65	120.06	
466	R Z 007	22o	16層	他	板状	直	□(10.05)・(6.2)・1.7	120.16	
489	R Z 007	25o	13層	他	板状	直	□(43.7)・(5.25)・(1.45)	119.98	
536	R Z 007	22p	16層	他	板状	板	□(17.4)・(3.75)・(1.8)	120.16	
539	R Z 007	22r	12層	他	板状	直	—	120.08	
547	R Z 007	21p	11層	他	板状	板	□(14.05)・(6.0)・2.06	120.11	
558	R Z 007	2 k	3層	他	板状	直	—	119.98	
564	R Z 007	24 l	13層	他	板状	直	□(6.1)・(3.0)・(1.35)	120.08	
595	R Z 007	22p	18層	他	板状	直	□(4.9)・(2.2)・(1.15)	120.15	
600	R Z 007	22p	18層	他	板状	直	□(20.0)・(5.3)・(2.1)	120.15	
1200	R Z 007	19v	8層	他	板状	直	□(26.7)・(4.3)・(1.5)	120.17	一層が欠る
1210	R Z 007	19u	5層	他	板状	直	□(30.3)・(4.1)・(2.5)	120.18	
1211	R Z 007	19j	13層	他	板状	直	□(14.0)・(2.5)・(1.2)	120.05	半ノ状の切り込み有
1212	R Z 007	21r	12層	他	板状	直	□(38.2)・(3.2)・(4.0)	120.02	
1213	R Z 007	22q	12層	他	板状	直	□(25.8)・(2.3)・(1.2)	120.03	
1214	R Z 007	22r	15層	他	板状	直	□(3.1)・(5.7)・(2.8)	120.17	同様に切り込み有
1215	R Z 007	22o	12層	他	板状	直	□(15.1)・(5.7)・(2.5)	120.13	
1216	R Z 007	22p	12層~16層	他	板状	直	□(8.9)・(4.0)・(1.8)	120.00	
1220	R Z 007	24n	15層	他	板状	直	□(22.2)・(3.7)・(1.1)	120.39	穿孔有
1230	R Z 007	25a	1層	他	板状	直	□(25.1)・(3.2)・2.1	120.17	火傷痕小
1231	R Z 007	21h	6層	他	板状	直	□(7.7)・2.4・2.3	120.01	
125	R Z 007	1 i	15層	他	板状	直	□(14.0)・3.0・2.1	120.01	
130a	R Z 007	24m	13層	他	板状	直	□(4.5)・1.7・1.3	120.01	
130b	R Z 007	24m	15層	他	板状	直	□(19.4)・2.0・1.8	120.19	
140	R Z 007	24m	15層	他	板状	直	□(24.8+18.9)・1.1・1.1	120.33	経路三角形
141	R Z 007	20j	15層	他	板状	直	□(17.3)・2.1・1.9	120.14	
183	R Z 007	22 l	4層~6層	他	板状	直	□(29.7)・2.1・1.6	120.04	
206	R Z 007	23 k	13層	他	板状	直	□(25.1)・2.2・2.0	120.17	
216	R Z 007	23 n	13層	他	板状	直	□(12.5)・2.0・2.0	120.00	一層加工
217	R Z 007	23 l	15層	他	板状	直	□(11.1)・2.0・2.1	120.36	
330	R Z 007	24m	15層	他	板状	直	□(90.0)・2.4・2.5	120.05	断りD字状
330	R Z 007	25m	15層	他	板状	直	□(8.0)・(3.5)・(1.6)	120.23	
365	R Z 007	24 f	4層	他	板状	直	□(47.5)・2.2・2.2	120.21	
465	R Z 007	22o	18層	他	板状	直	□(19.6+17.4)・2.3・1.5	120.18	
617	R Z 007	21j	6層	他	板状	直	□(24.7)・1.2・1.2	120.18	
618	R Z 007	24 j	6層	他	板状	直	□(14.0+9.3)・1.7・2.1	120.07	
627	R Z 007	20j	15層	他	板状	直	□(47.0)・(1.6)・2.4	120.27	
1201	R Z 007	21m	15層	他	板状	直	□(38.3)・2.0・2.1	120.27	
1203	R Z 007	25 h	4層	他	板状	直	□(35.5)・1.8・1.6	120.02	
1205 a	R Z 007	21 j	6層	他	板状	直	□(25.0)・1.3・1.5	120.13	
1205 b	R Z 007	21 j	6層	他	板状	直	□(48.6)・2.2・2.2	120.07	
1206	R Z 007	24m	15層	他	板状	直	□(28.5)・1.7・1.5	120.07	
1207	R Z 007	25m	15層	他	板状	直	□(11.7)・1.5・1.3	119.99	
1208	R Z 007	22 l	4層	他	板状	直	□(6.6+9.0)・1.5・1.6	120.09	文字
1209	R Z 007	21m	15層	他	板状	直	□(9.0)・1.6・1.6	120.06	
1210	R Z 007	21 f	4層	他	板状	直	□(27.5)・2.1・2.1	120.06	
1216	R Z 007	21m	15層	他	板状	直	□(22.7)・2.3・1.7	120.06	
1217	R Z 007	25 n	15層	他	板状	直	□(9.3)・1.6・1.8	120.10	
1218	R Z 007	25m	15層	他	板状	直	□(24.0)・1.0・1.2	120.05	
1219	R Z 007	24 g	13層	他	板状	直	□(28.0)・2.0・2.0	120.19	
1220	R Z 007	25 g	13層	他	板状	直	□(20.8)・2.5・2.5	120.07	
1221	R Z 007	25 g	13層	他	板状	直	□(11.0)・1.0・1.4	120.21	
1222	R Z 007	20 j	15層	他	板状	直	□(30.0+22.9)・1.5・1.5	120.37	
1223	R Z 007	20 k	6層~10層	他	板状	直	□(47.0)・1.4・1.5	120.14	
1224	R Z 007	22 j	12層	他	板状	直	□(16.4)・1.6・1.4	120.14	

第19表 木製品計測表(7)

品名	加工進出		厚位	大	分	取	寸法 (mm)	材高英	備 考
	大	小							
1325	R Z007	21 j	12層	他	梯状		□(15.2+4.9)・1.7・1.6	120.18	
1326	R Z007	22 k	不明	他	梯状		□(10.9+6.0)・1.1・1.1		
1327	R Z007	22 j	6層	他	梯状		□(5.2)・1.2・0.8	120.22	
1328	R Z007	24 h	6層	他	梯状		□(14.1)・1.2・1.1	120.14	
1329	R Z007	23 q	12層	他	梯状		□(11.7)・1.7・1.7	120.06	
1330 a	R Z007	24 i	12層	他	梯状		□(6.9)・2.0・1.7	120.01	
1330 b	R Z007	24 i	12層	他	梯状		□(3.7)・1.4・1.2	120.01	
1331	R Z007	25 n	12層	他	梯状		□(6.8)・1.1・1.2	120.06	
1332	R Z007	25 h	12層	他	梯状		□(21.9)・1.7・1.9		
1334	R Z007	21 q	10層	他	梯状		□(18.2)・2.5・2.2	120.18	
1335	R Z007	21 o	12層	他	梯状		□(16.5)・2.4・1.5	120.30	
1336	R Z007	21 j	6層	他	梯状		□(65.3)・2.7・2.6	120.21	
1337	R Z007	21 j	6層	他	梯状		□(9.0+9.1)・1.4・1.2	120.20	
1338	R Z007	21 i	12層	他	梯状		□(22.5)・1.4・1.3	120.16	
1339	R Z007	21 j	12層	他	梯状		□(11.6)・1.7・1.4	120.16	
1340	R Z007	22 k	6層	他	梯状		□(20.8)・1.7・2.0	120.16	
1341	R Z007	22 r	12層	他	梯状		□(34.4)・2.8・2.1	120.12	
1342	R Z007	22 i	6層	他	梯状		□(42.8)・1.8・2.7	120.15	
1343	R Z007	22 r	12層	他	梯状		□(23.7)・1.7・2.0	120.13	
1344	R Z007	22 k	4層・6層	他	梯状		□(32.9)・3.1・1.7	120.31	
1345	R Z007	22 i	12層	他	梯状		□(43.3)・1.5・1.6	120.19	
1346 a	R Z007	22 i	6層	他	梯状		□(23.0)・1.7・1.8	120.29	
1346 b	R Z007	22 j	6層	他	梯状		□(8.0)・1.1・1.1	120.29	
1347	R Z007	22 r	12層	他	梯状		□(13.2)・2.0・2.0	120.07	
1348	R Z007	23 i	6層	他	梯状		□(30.7)・3.2・2.8	120.37	
1349	R Z007	23 h	12層	他	梯状		□(12.5+5.5)・1.4・1.3	120.09	
1350	R Z007	23 h	12層	他	梯状		□(10.6)・1.4・1.4	120.15	
1351	R Z007	23 p	12層	他	梯状		□(6.7)・1.0・0.9	120.07	
1352	R Z007	24 m	12層	他	梯状		□(31.7)・2.0・2.1	119.99	
1353	R Z007	24 i	12層	他	梯状		□(19.9+9.9)・1.6・1.8	120.12	
1354	R Z007	24 f	4層	他	梯状		□(6.1+6.3)・2.1・1.9	120.51	
1355	R Z007	25 i	15層	他	梯状		□(32.1)・2.1・2.2	120.08	
1356	R Z007	25 m	15層	他	梯状		□(22.5)・1.9・2.1	120.10	
1357	R Z007	25 m	15層	他	梯状		□(26.4)・1.7・1.8	120.18	
1358	R Z007	25 g	15層	他	梯状		□(12.4)・1.4・1.3	120.09	
1359	R Z007	25 m	15層	他	梯状		□(10.0)・2.2・1.5		
1360	R Z007	25 i	15層	他	梯状		□(22.4)・1.9・2.0	120.03	
1361	R Z007	1 i	15層	他	梯状		□(8.8)・2.1・1.7	120.08	
1362	R Z007	1 i	15層	他	梯状		□(18.7)・2.1・1.8	120.10	
1371	R Z007	25 q	1層	他	角梯状	他	□(15.9)・2.0・1.6		
165 a	R Z007	24 i	15層	他	柱状	芯	□(94.5)・(10.0)・11.5	120.01	
207	R Z007	30 o	4層	他	柱状	芯	□(76.0)・12.0・8.5	120.47	
258	R Z007	23 p	12層	他	柱状	芯	□(91.5)・10.5・11.0	120.18	
271	R Z007	19 o	12層	他	柱状	芯	□(38.0)・17.0・14.5	120.07	
300	R Z007	24 o	15層	他	柱状	芯	□(50.5)・16.5・9.3	120.26	
300	R Z007	20 o	16層	他	柱状	芯	□(98.5)・(10.2)・10.3	120.19	
1001	R Z007	24 g	15層	他	柱状	芯	□(108.0)・11.0・6.5	120.00	
69 o	R Z007	22 k	4層	他	不明	芯	□(30.0)・(8.2)・(4.9)	120.38	先端加工、穿孔有
69 b	R Z007	22 k	4層	他	不明	芯	□(21.9)・(5.2)・(3.7)	120.38	先端加工、穿孔有
78	R Z007	24 m	15層	他	不明	芯	□(30.1)・(4.1)・(3.4)	120.02	穿孔有
104	R Z007	22 p	18層	他	不明	板	□(16.45)・(2.2)・1.3		穿孔有
132	R Z007	21 q	18層	他	不明		□(98.4)・(2.7)・(2.0)	120.00	前面二角形
137	R Z007	21 q	18層	他	不明		□(11.1)・(3.7)・(2.4)	119.98	
142	R Z007	21 p	12層	他	不明		□(37.6)・(6.0)・(3.3)	120.15	
144	R Z007	21 q	12層	他	不明		□(38.0)・(3.0)・(3.1)	120.12	
176	R Z007	22 r	12層	他	不明		□(21.7)・(9.3)・(5.8)	120.07	
179	R Z007	22 o	18層	他	不明		□(30.3)・(5.9)・(4.0)	120.08	前面三角形
180	R Z007	22 o	18層	他	不明		□(19.3)・(5.3)・(3.3)	120.01	前面三角形
180	R Z007	21 p	11層	他	不明		□(9.7)・(2.1)・(1.2)	120.12	前面三角形

第19表 木製品計測表(8)

発掘No	測上位置		層位	分類		木取	法量 (cm)	標高値	備考
	大	小		大	小				
186	R Z007	23 n	15層	他	不明	板	□18.25・(7.5)・(5.1)	119.97	板面三角形
188	R Z007	22 n	16層	他	不明	板	□22.55・(7.2)・(5.3)	120.00	板面三角形
191 a	R Z007	22 p	12層~18層	他	不明	板	□13.95・(1.8)・(1.4)	120.99	
191 b	R Z007	22 p	12層~18層	他	不明	板	□17.65・(1.8)・(1.1)	120.99	
198	R Z007	22 n	15層	他	不明	板	□16.25・(3.5)・(4.0)	119.99	
220	R Z007	22 o	16層	他	不明	板	□24.95・(4.3)・(3.2)	120.02	断面半円形
221	R Z007	21 p	11層	他	不明	板	□14.75・(4.0)・(2.5)	120.16	断面半円形
222	R Z007	23 n	16層	他	不明	板	□30.25・(7.7)・(5.6)	119.94	断面半円形
225	R Z007	23 n	15層	他	不明	板	□41.05・(5.5)・(3.2)	119.97	断面半円形
226	R Z007	22 p	18層	他	不明	板	□13.05・(3.9)・(3.7)	120.14	
297	R Z007	23 n	15層	他	不明	板		119.96	空孔者
314	R Z007	22 o	12層	他	不明	板	□32.85・(5.9)・(3.3)	120.03	
425	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□12.255・(3.95)・(3.1)	120.01	
428	R Z007	22 p	18層	他	不明	板	□(8.05)・(2.85)・(0.9)	119.97	空位
430	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□10.45・(4.1)・1.6	120.20	
460	R Z007	23 p	12層	他	不明	板		120.06	
485	R Z007	21 q	12層	他	不明	板		120.28	
493	R Z007	21 q	12層	他	不明	板	□14.45・(7.6)・(1.28)	120.28	
577	R Z007	22 c	18層	他	不明	板		119.99	
390	R Z007	22 i	6層	他	不明	板	□11.05・(3.3)・(1.2)	120.12	空孔者
392	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□(8.0)・(4.4)・(1.5)	120.06	
1401	R Z007	21 r	12層	他	不明	板	□31.85・(5.8)・(6.7)	120.13	
1402	R Z007	22 n	12層	他	不明	板	□25.05・(9.5)・(4.2)		
1403	R Z007	不明	不明	他	不明	板	□41.85・(3.7)・(3.2)		
1406	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□14.85・(3.9)・(2.0)	120.61	
1408	R Z007	20 p	不明	他	不明	板	□17.25・(3.0)・(3.0)		
1409	R Z007	21 m	12層	他	不明	板	□16.35・(4.8)・(3.3)	119.78	空孔者
1410	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□20.05・(4.5)・(2.4)	120.01	
1411	R Z007	22 a	18層	他	不明	板	□20.15・(4.1)・(3.3)	119.97	
1412	R Z007	22 p	18層	他	不明	板	□19.05・(2.0)・(2.1)	120.05	
1413	R Z007	不明	不明	他	不明	板	□32.85・(4.5)・(4.6)		
1414	R Z007	22 p	12層~18層	他	不明	板	□13.55・(3.6)・(2.8)	120.05	
1415	R Z007	22 p	18層	他	不明	板	□14.95・(3.8)・(4.3)	120.14	
1416	R Z007	22 q	12層	他	不明	板	□13.75・(4.1)・(1.6)	120.99	
1417	R Z007	23 q	19層	他	不明	板	□19.55・(3.3)・(1.7)		
1418	R Z007	21 o	12層	他	不明	板	□18.95・(2.3)・(1.3)	120.28	
1419	R Z007	21 o	12層	他	不明	板	□23.85・(3.1)・(2.6)	120.19	
1420	R Z007	21 o	12層	他	不明	板	□14.25・(4.0)・(2.7)	120.29	
1421	R Z007	21 o	18層	他	不明	板	□13.05・(3.3)・(3.1)	120.03	
1422	R Z007	21 o	18層	他	不明	板	□19.25・(4.2)・(2.8)	120.06	
1423	R Z007	22 m	15層	他	不明	板	□21.75・(3.5)・(3.5)	120.14	
1424	R Z007	22 o	12層	他	不明	板	□11.85・(2.7)・(2.1)	120.02	
1425	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□21.85・(3.4)・(3.5)	119.99	
1426	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□11.05・(4.4)・(2.0)	119.98	
1427	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□10.55・(2.5)・(2.0)	119.98	
1428 a	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□20.15・(9.0)・(3.3)	119.99	
1428 b	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□(6.3)・(3.0)・(1.3)	119.99	
1429	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□20.45・(4.5)・(3.3)	120.01	
1433	R Z007	22 k	4層~6層	他	不明	板	□33.05・(3.2)・(3.0)	120.31	空孔者
1434	R Z007	22 n	不明	他	不明	板	□12.05・(4.0)・(3.1)		
1436	R Z007	21 p	12層	他	不明	板	□18.15・(3.1)・(3.0)	120.07	
1436	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□14.05・(2.7)・(2.1)	120.17	
1437	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□20.65・(3.1)・(3.0)	120.00	
1438	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□12.25・(3.1)・(1.8)	119.98	
1439	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□14.35・(4.3)・(3.0)	119.98	
1440	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□13.35・(4.7)・(4.0)	119.98	端が尖る
1441	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□(8.2)・(3.7)・(2.2)	120.01	
1442	R Z007	22 o	18層	他	不明	板	□(2.0)・(4.0)・(1.6)	119.99	

第19表 木製品計測表(9)

製品No	出立地点		部位	分類		木取	寸法 (mm)	標準値	備 考
	大	小		大	小				
1443	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(4.2)・(2.0)・(0.8)	120.01		
1444	R 2007	22 p	12層~18層	他 不明		□(8.9)・(2.7)・(2.0)	120.03		
1445	R 2007	22 p	12層~18層	他 不明		□(11.0)・(2.3)・(1.8)	120.07		
1446	R 2007	22 p	13層~18層	他 不明		□(12.4)・(4.8)・(2.2)	120.09		
1447	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(17.3)・(3.1)・(3.1)	120.05		
1448	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(10.1)・(4.4)・(2.3)	120.11		
1449	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(4.6)・(2.1)・(1.3)	120.11		
1450	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(11.6)・(3.2)・(1.8)	120.11		
1451	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(18.6)・(2.9)・(2.6)	120.15		
1452	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(9.4)・(2.2)・(2.0)	120.05		
1453	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(10.1)・(3.3)・(2.4)	120.05		
1454	R 2007	22 q	12層	他 不明		□(13.8)・(3.9)・(2.6)	120.13		
1455	R 2007	22 o	12層	他 不明		□(14.6)・(3.7)・(2.4)	120.06		
1456	R 2007	22 r	12層	他 不明		□(9.9)・(3.2)・(1.9)	120.06		
1457	R 2007	22 r	12層	他 不明		□(8.5)・(2.6)・(1.4)	120.11		
1458	R 2007	20 q	12層	他 不明		□(16.0)・(7.7)・(4.0)	119.98		
1459	R 2007	23 i	2層	他 不明		□(4.0)・(2.0)・(1.7)			
1460	R 2007	23 j	6層	他 不明		□(15.6)・(3.5)・(1.9)			
1461	R 2007	23 k	4層	他 不明		□(8.3)・(1.9)・(1.4)	120.34		
1462	R 2007	23 o	12層	他 不明	志	□(16.9)・(3.9)・(2.2)	120.01	部位、一透が突る	
1463	R 2007	23 o	12層	他 不明		□(7.6)・(1.6)・(1.5)	120.05		
1464	R 2007	23 o	12層	他 不明		□(22.3)・(6.5)・(3.3)	120.11		
1465	R 2007	23 r	12層	他 不明		□(31.4)・(4.3)・(2.7)	120.10		
1466	R 2007	24 m	19層	他 不明		□(20.2)・(3.5)・(2.1)			
1467	R 2007	24 n	4層	他 不明		□(27.0)・(1.9)・(1.8)		一透が突る	
1471	R 2007	19 j	15層	他 不明		□(18.1)・(2.1)・(1.3)	120.23	穿孔有	
1472	R 2007	21 p	12層	他 不明		□(13.7)・(4.0)・(3.0)	120.02		
1473	R 2007	21 p	12層	他 不明		□(21.8)・(5.6)・(3.0)	120.05		
1474	R 2007	21 p	12層	他 不明		□(20.2)・(3.5)・(2.0)	120.07		
1475	R 2007	21 q	18層~20層	他 不明		□(28.4)・(7.0)・(3.3)	119.95		
1476	R 2007	21 q	12層	他 不明		□(29.6)・(3.0)・(2.6)	120.14		
1477	R 2007	21 p	18層	他 不明		□(27.0)・(9.0)・(3.0)	120.08		
1478	R 2007	21 q	18層	他 不明		□(6.5)・(4.9)・(1.8)	120.09		
1479	R 2007	22 q	18層	他 不明		□(13.8)・(4.9)・(3.3)			
1480	R 2007	22 i	6層	他 不明		□(21.7)・(2.4)・(2.2)	120.13		
1481	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(21.3)・(7.8)・(4.0)	120.16		
1482	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(11.0)・(3.7)・(2.2)	120.07		
1483	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(8.2)・(3.5)・(3.1)	119.96		
1484	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(8.5)・(2.9)・(2.4)	120.09		
1485	R 2007	22 o	18層	他 不明		□(26.9)・(7.3)・(4.0)	120.94		
1486	R 2007	21 p	18層	他 不明		□(13.5)・(3.3)・(2.5)	120.15		
1487	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(23.4)・(3.9)・(3.6)	120.09		
1488	R 2007	22 p	18層	他 不明		□(19.0)・(2.5)・(1.1)	120.03	一透が突る	
1489	R 2007	23 p	12層	他 不明		□(14.8)・(3.3)・(2.1)	120.06	一透に突+切り込み有	
1490	R 2007	23 o	12層	他 不明		□(12.5)・(3.5)・(2.5)	120.03		
1491	R 2007	23 q	12層	他 不明		□(13.3)・(6.8)・(5.0)	120.12		
1493	R 2007	24 m	15層	他 不明		□(28.5)・(4.2)・(2.6)	120.01		
1494	R 2007	24 m	18層	他 不明		□(10.2)・(4.8)・(2.5)	120.06		
1495	R 2007	24 p	13層	他 不明		□(19.9)・(3.2)・(3.8)	120.23	穿孔有	
1497 a	R 2007	25 k	不明	他 不明		□(9.3)・(1.6)・(1.3)			
1497 b	R 2007	25 k	不明	他 不明		□(8.2)・(2.8)・(1.5)			
1498	R 2007	25 i	15層	他 不明		□(5.3)・(1.9)・(1.1)			
1499	R 2007	1 k	6層	他 不明		□(23.7)・(3.5)・(1.8)			
1500	R 2007	2 k	4層	他 不明		□(16.7)・(3.8)・(3.1)	120.42	取っ手状、穿孔有	
1501	R 2007	24 p	18層	他 不明		□(17.9)・(7.0)・(4.0)	120.13		

第19表 木製品計測表(10)

整理品	出土地点			層	分類	本	測量 (cm)	図面	備考
	大	小	部						
1118	R 2 008	21 a	6層	他	杖状	芯	□(45.3+18.2)・2.7・2.7		
701 a	A区	19m n	掘瓦	上	板		□(46.5・3.4・3.6		
701 b	A区	19m n	掘瓦	下	板		□(36.6・4.9・1.6		
710	D区	T007	II層	穿	筒		□(16.3)・(4.2)・0.8		
705	D区	T007	II層	穿	筒	瓦	□(18.0)・0.6・0.7		
711	C区	T003	II層	瓦	葺		□(13.0)・0.7・0.5		
712	D区	T008	II層	瓦	葺		□(35.05・1.53・1.25		
908	D区	21 k	II層	火	付木		□(36.4・0.6・0.8		
731	C区	T004	II層	火	付木		□(39.1・1.0・0.7		
732	C区	T004	II層	火	付木		□(47.1・1.5・1.2		
733	D区	T007	II層	火	付木		□(36.7・1.3・0.8		
734	2区	22 j	II層	火	付木		□(6.7・1.5・1.3		
735	D区	24 k	II層	火	付木		□(6.0・0.8・0.7		
736	D区	23 o	II層	火	付木		□(14.3)・2.6・2.4		
801	C区	T210	II層	土	杖	芯	□(15.9)・2.2・2.2		
825	D区	T005	II層	土	杖	芯	□(32.9)・6.6・4.6		
833	C区	T204	III層	土	角状材		□(19.2)・4.2・2.3		
834	A区	19m n	掘瓦	下	角状材		□(5.6)・2.8・3.4		
839	A区	19m n	掘瓦	上	角状材		□(12.1・2.1・2.1		
851	D区	24 k	II層	土	角状材		□(18.2)・0.5・0.6		
911	C区	T003	II層	他	木針状		□(5.7)・0.4・0.4		
912	C区	T003	II層	他	木針状		□(7.4)・0.4・0.5		
913	D区	T007	II層	他	木針状		□(6.5)・0.4・0.5		
914	D区	T007	II層	他	木針状		□(4.2)・0.4・0.4		
915	D区	T007	II層	他	木針状		□(11.6)・1.2・0.3		
916	C区	T202	II層	他	木針状		□(9.2)・0.8・0.7		
917	C区	T202	II層	他	木針状		□(4.0)・0.4・0.3		
921	C区	T002	II層	他	葺状		□(4.0)・0.6・0.6		
922 a	D区	T007	II層	他	葺状		□(3.9)・0.5・0.5		
922 b	D区	T007	II層	他	葺状		□(6.9)・(1.3)・0.4		
602	D区	21 k	II層	他	木札状	瓦	□(4.9)・(0.9)・0.1		
931	C区	T002	II層	他	木札状	板	□(5.2)・(0.8)・0.2		
932	C区	T002	II層	他	木札状	板	□(1.2)・(1.0)・0.2		
933	C区	T002	II層	他	木札状	板	□(6.9)・(1.3)・0.2		
934	C区	T002	II層	他	木札状	板	□(5.2)・(1.8)・0.2		
935	D区	T007	II層	他	木札状	板	□(5.0)・(0.4)・0.1		
936	D区	T007	II層	他	木札状	板	□(4.2)・(0.7)・0.1		
937	D区	T007	II層	他	木札状	板	□(4.8)・(1.6)・0.2		
938	D区	T007	II層	他	木札状	板	□(4.7)・(1.4)・0.2		
941	A区	I b層	II層	他	木札状	板	□(11.4)・(0.9)・0.4		
942	2区	22 i	II層	他	木札状	板	□(3.9)・(1.3)・0.1		
943	2区	22 i	II層	他	木札状	板	□(11.4)・(0.9)・0.4		
944	2区	22 i	II層	他	木札状	板	□(3.9)・(0.8)・0.5		
945	D区	21 q	II層	他	木札状	板	□(6.1)・(1.6)・0.2		
946	D区	25 o	II層	他	木札状	板	□(5.9)・2.2・0.3		
947	D区	25 o	II層	他	木札状	板	□(2.8)・(0.8)・0.2		
948	D区	25 o	II層	他	木札状	板	□(7.6)・(1.1)・0.6		
1006	D区	19 v	III層	他	板状	芯	□(28.4)・2.6・2.5		
1078	C区	T004	II層	他	板状	板	□(8.8)・3.5・1.3		
1097	C区	22 d	II層	他	板状	芯	□(30.4)・3.5・3.5		
1384	1区		II層	他	板状		□(22.6)・2.0・2.0		
1385	1区	T401	II層	他	板状		□(8.2)・1.3・1.4		
139	A区	19m n		他	板状				
414	2区	21 j	II層	他	板状	板	□(9.35)・4.35・1.75		
483	B区	13 i	II層	他	板状	板	□(12.8)・(1.66)・0.66		
503	A区	19m n	掘瓦	他	板状	通	□(13.7)・(1.7)・0.85		断面四角形
561	2区	21 k	II層	他	板状	板	□(5.7)・(4.2)・(0.85)		
568	A区	19m n	掘瓦	他	板状	板	□(11.2)・(2.1)・(0.85)		
569	A区	19m n	掘瓦	他	板状				
578	A区	19m n		他	板状				

第19表 木製品計測表 (11)

現地号	出土地点		部位	分 類		木 取	寸法 (cm)	種高径	備 考
	大	小		大	小				
581	A区	19m n	柱	板状	板	□ (10.5) × (1.66) × (0.65)			
653	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板			
661	I区	T 701	I層	柱	板状	板	□ (11.05) × (2.65) × 0.8		
1201	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (25.6) × (3.2) × 1.0		
1202	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (27.3) × (2.4) × 1.1		
1203	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (36.1) × (2.4) × 1.2		
1204	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (7.5) × (7.3) × 0.9		
1205	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (7.5) × (9.6) × 1.8		
1206	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (7.1) × (5.3) × 1.7		
1207	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (3.5) × (5.3) × 1.1		
1208	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (37.6) × (4.0) × 1.3		
1217	C区	T 004	I層	柱	板状	板	□ (4.6) × (4.5) × (1.6)		
1218	C区	T 003	I層	柱	板状	板	□ (17.0) × (2.4) × (1.3)	欄を網めに貫らせる	
1219	C区	T 210	I層	柱	板状	板	□ (15.8) × (4.4) × (1.3)		
1221	A区	18 m	不明	柱	板状	板	□ (21.5) × (6.9) × (6.6)		
1222	C区	T 001	I層	柱	板状	板	□ (3.7) × (1.1) × (0.5)		
1223	D区	T 007	I層	柱	板状	板	□ (4.7) × (3.2) × (0.5)		
1224	D区	T 006	I層	柱	板状	板	□ (12.8) × (2.5) × (0.9)		
1225	D区	22 j	II層	柱	板状	板	□ (5.3) × (1.2) × (0.4)		
1226	C区	T 004	I層	柱	板状	通	□ (7.9) × (1.3) × (0.7)		
1227	A区		II層	柱	板状	板	□ (5.3) × (3.6) × (0.7)		
1228	A区		I a層	柱	板状	板	□ (8.6) × (1.2) × (0.8)		
1229	J区	T 401	II層	柱	板状	板	□ (10.7) × (1.1) × (0.6)		
556	B区	T 112	I層	柱	板状	板	□ (14.75) × (1.75) × (0.75)		
580	A区	19m n	柱	板状	通	□ (20.3) × (1.9) × (1.15)	断面四角形		
1302	C区	T 210	I層	柱	板状	板	□ (9.2) × 1.0 × 1.0		
1304	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (32.5) × 2.0 × 2.1		
1310	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (12.7) × 1.3 × 0.9		
1315	A区	19m n	梁瓦	柱	板状	板	□ (9.7) × 0.9 × 1.1		
1314	C区	T 003	I層	柱	板状	板	□ (3.9) × 1.0 × 0.4		
1363	D区	23 p	II層	柱	板状	板	□ (8.5) × 2.3 × 1.0		
1364	D区	T 101	異土一括	柱	板状	板	□ (24.4) × 0.8 × 0.7		
651	A区	19m n	梁瓦	柱	不明	-			
1404	D区	23 s	I層-II層	柱	不明	□ (7.8) × (1.4) × (0.6)			
1407	C区	T 004	II層	柱	不明	□ (6.5) × (2.4) × (1.3)			
1430	C区	T 210	I層	柱	不明	□ (5.1) × (2.2) × (1.6)			
1431	A区	19m n	梁瓦	柱	不明	□ (16.6) × (1.2) × (1.2)			
1432	A区	19m n	梁瓦	柱	不明	□ (17.0) × (2.6) × (1.1)			
1469	C区	T 004	I層	柱	不明	□ (5.7) × (1.9) × (1.3)			
1470	D区	T 006	I層	柱	不明	□ (11.7) × (2.3) × (1.3)			
1492	D区	24 k	II層	柱	不明	□ (15.2) × (2.1) × (2.2)			
1496	D区	24 q	II層	柱	不明	□ (15.1) × (2.6) × (1.8)		文様状、黒塗?	

【層位】 A区出土は遺物はそれぞれ A II層をII層、A I b層をI b層、A I a層をI a層と表記

【分組】 大 (大項目) 工: 工具 容: 容器 食: 食具 火: 発火具 土: 土木材 他: その他

【分類】 小 (小項目) 円曲 (底): 円形曲物 (底板)

【木取】 柱: 柱目 板: 板目 追: 追釘目 芯: 芯持ち 割: 割材

※樹種は判別可能なものは備考に記載

第20表 R Z 007出土No.土器一覧(1)

発掘点	出土地点	層位	種類	器種	高さ	口径
N001	21 j	6層	土	杯	120.315	149
N002	21 j	12層	土	杯		92
N003	21 i	12層	土	杯	120.226	83
N004	21 i	12層	土	杯	120.296	83
N005	21 j	6層	土	甕	120.428	
N006	21 j	12層	土	杯	120.211	92
N007	22 j	6~12層	土	杯	120.213	86
N008	24 h	4層	土	杯	120.382	
N009	24 k	6層	土	杯	120.242	164
N010	24 k	6層	土	杯	120.214	
N011	25 k	6層	土	杯	120.229	
N012	25 k	6層	土	杯	120.321	159
N013	25 k	4層	須	杯	120.183	249
N014	21 h	4層	須	杯	120.669	217
N015	19 i	6層	土	杯	120.414	132
N016	21 g	13層	土	甕	120.263	
N017	21 g	8層	土	杯	120.270	
N018	24 j	6層	土	杯	120.210	165
N019	23 h	6層	土	杯	120.165	92
N020	23 g	6層	土	杯	120.086	
N021	23 g	13層	須	杯	120.019	82
N022	23 g	13層	須	杯	120.061	82
N023	23 g	13層	須	杯	119.966	82
N024	23 g	13層	須	杯	119.966	82
N025	24 g	13層	土	杯	120.002	80
N025	24 g	13層	土	杯	119.962	80
N025	21 g	13層	土	杯	119.966	80
N025	24 g	13層	土	杯	119.969	80
N025	24 g	13層	土	杯	119.965	80
N026	24 g	13層	土	杯	119.969	80
N026	24 g	13層	土	杯	120.000	80
N026	24 g	13層	土	杯	119.969	80
N027	23 g	13層	土	杯	120.127	79
N027	23 g	13層	土	杯	120.092	79
N027	23 g	13層	土	杯	120.074	79
N027	23 g	13層	土	杯	120.080	79
N027	23 g	13層	土	杯	120.045	79
N028	23 g	13層	土	杯	120.065	79
N029	23 g	13層	土	杯	120.065	79
N030	23 g	13層	土	杯	120.083	147
N031	25 h	6層	土	杯	120.325	227
N032	25 h	6層	土	杯	120.318	
N033	25 h	6層	土	杯	120.189	92
N034	25 h	6層	土	甕	120.187	
N033	25 h	6層	土	杯	120.239	
N036	25 h	6層	土	杯	120.231	
N037	24 h	6層	須	杯	120.313	
N038	24 h	6層	土	杯	120.229	147
N039	24 h	6層	須	杯	120.119	187
N040	25 h	4層	土	杯	120.457	
N041	25 h	4層	土	杯	120.308	227
N042	25 h	4層	土	甕	120.370	
N043	25 h	4層	土	甕?	120.341	
N044	25 h	4層	土	杯	120.503	
N045	1 k	4層	土	杯	120.438	
N046	25 h	4層	土	杯	120.375	
N047	25 h	4層	土	杯	120.441	
N048	25 h	4層	土	杯	120.419	
N049	25 h	4層	土	杯	120.459	227
N050	24 g	4層	須	甕	120.499	
N051	25 h	4層	土	杯	120.416	

発掘点	出土地点	層位	種類	器種	高さ	口径
N052	25 h	4層	土	甕	120.233	
N053	25 h	4層	土	杯	120.314	
N054	25 h	4層	土	杯	120.380	
N055	25 h	4層	土	杯	120.354	
N056	25 g	4層	土	杯	120.406	150
N057	25 h	6層	須	杯	120.199	174
N058	25 h	4層	土	杯	120.204	
N059	24 g	6層	土	杯	120.276	92
N060	24 g	6層	土	杯	120.165	
N061	24 g	4層	土	杯	120.286	167
N062	25 g	6層	土	杯	120.186	150
N063	25 g	6層	土	杯	120.082	130
N064	25 g	6層	土	杯	120.070	150
N065	1 g	6層	土	杯	120.531	
N066	25 g	6層	土	甕	120.400	180
N067	25 g	6層	土	杯	120.266	150
N068	25 g	6層	土	杯	120.191	92
N069	25 g	6層	土	杯	120.257	150
N070	25 g	6層	土	杯	120.143	79
N071	24 g	6層	須	杯	120.226	188
N072	24 h	13層	須	杯	120.136	167
N073	25 h	6層	土	杯	119.969	167
N074	1 f	4層	須	甕	120.359	
N075	25 f	4層	須	甕	120.401	
N076	25 f	6層	土	甕	120.249	
N077	25 f	6層	土	甕	120.313	181
N078	24 g	6層	土	杯	120.176	167
N079	24 g	6層	土	杯	120.214	149
N080	24 g	4層	土	甕	120.349	
N081	23 g	15層	土	杯	120.052	187
N082	24 g	5層	須	杯	120.068	79
N083	23 g	7層	土	杯	120.232	147
N084	25 j	4層	土	杯	120.236	191
N085	25 k	6層	須	甕	120.276	
N086	25 k	6層	須	杯	120.245	
N087	25 k	6層	土	杯	120.339	
N088	1 k	6層	須	杯	120.288	172
N089	1 k	6層	須	杯	120.286	172
N090	1 k	6層	須	杯	120.292	172
N091	1 j	6層	土	杯	120.373	198
N092	1 k	6層	土	甕	120.357	
N093	1 j	6層	土	杯	120.296	163
N094	1 j	6層	土	杯	120.428	163
N095	1 j	6層	土	杯	120.275	
N096	1 k	6層	土	杯	120.413	161
N097	1 k	6層	土	杯	120.235	251
N098	1 k	4層	土	杯	120.473	
N099	1 j	4層	土	杯	120.425	209
N100	1 j	4層	土	杯	120.430	198
N101	1 j	4層	土	杯	120.438	
N102	1 j	4層	土	杯	120.423	209
N103	2 k	4層	土	杯	120.424	209
N104	2 j	4層	土	杯	120.443	161
N105	2 k	4層	土	杯	120.443	164
N106	2 j	4層	土	杯	120.422	
N107	2 j	4層	土	杯	120.494	198
N108	2 j	4層	土	杯	120.516	198
N109	2 j	4層	土	杯	120.476	198
N110	2 j	4層	土	杯	120.472	
N111	2 j	4層	土	杯	120.484	198
N112	2 k	4層	土	甕	120.612	
N113	2 k	4層	土	杯	120.599	

第20表 R Z 007出土No土器一覽(2)

编号No	出土地点	层位	类别	器种	器高(mm)	口径(mm)
N114	25j	6層	土?	杯	120.347	
N115	25j	6層	須	杯	120.221	172
N116	2 x	4層	土	杯	120.479	
N117	2 k	4層	土	杯	120.470	180
N118	2 k	4層	土	杯	120.501	225
N119	2 k	4層	土	杯	120.450	189
N120	2 k	4層	土	杯	120.458	189
N121	2 x	4層	土	杯	120.545	
N122	2 k	4層	土	杯	120.447	226
N123	2 x	4層	土	杯	120.435	225
N124	2 j	4層	土	杯	120.532	210
N125	2 j	4層	土	高台付杯	120.556	219
N126	2 j	4層	土	杯	120.460	225
N127	2 j	4層	土	杯	120.454	225
N128	2 j	4層	土	杯	120.528	225
N129	2 j	4層	土	杯	120.483	
N130	2 k	4層	土	杯	120.569	239
N131	2 k	4層	土	甕	120.502	251
N132	2 j	4層	土	高台付杯	120.465	219
N133	2 k	4層	土	杯	120.528	
N134	2 k	4層	土	杯	120.529	212
N135	2 k	4層	土	杯	120.609	
N136	2 j	4層	土	杯	120.636	
N137	2 k	4層	土	杯	120.618	
N138	2 k	4層	土	杯	120.619	
N139	3 k	4層	土	甕	120.633	251
N140	3 k	4層	土	杯	120.611	
N141	3 k	4層	須	杯	120.648	
N142	3 k	4層	土	杯	120.663	
N143	3 k	4層	土	杯	120.760	
N144	3 k	4層	土	杯	120.644	
N145	3 k	4層	土	杯	120.644	
N146	3 k	4層	土	杯	120.664	196
N147	2 k	4層	土	杯	120.583	
N148	2 k	4層	土	杯	120.521	
N149	2 j	4層	土	杯	120.589	212
N150	3 j	4層	土	杯	120.617	
N152	3 k	4層	土	杯	120.379	
N153	3 k	4層	土	杯	120.334	151
N154	3 k	4層	土	杯	120.642	
N155	3 k	4層	土	杯	120.673	
N156	3 k	4層	土	杯	120.642	195
N157	3 j	4層	須	甕?	120.572	258
N158	3 j	4層	土	杯	120.554	194
N159	3 j	4層	土	杯	120.578	194
N160	3 j	4層	土	杯	120.580	
N161	3 j	4層	須	甕?	120.582	259
N162	3 j	4層	土	甕?	120.548	
N163	3 j	4層	土	杯	120.600	
N164	3 k	4層	土	杯	120.529	262
N165	3 j	4層	土	杯	120.520	194
N166	3 j	4層	土	杯	120.560	194
N167	2 k	4層	土	高台付杯	120.442	219
N168	2 j	4層	土	杯	120.430	225
N169	2 j	4層	土	杯	120.412	225
N170	2 k	4層	土	杯	120.440	189
N171	2 k	4層	土	杯	120.445	189

编号No	出土地点	层位	类别	器种	器高(mm)	口径(mm)
N172	2 k	4層	土	杯	120.392	180
N173	2 k	4層	土	杯	120.395	
N174	1 j	6層	土	杯	120.339	
N175	1 k	6層	土	杯	120.360	151
N176	1 k	6層	土	杯	120.347	151
N177	1 k	6層	土	甕	120.365	251
N178	1 k	6層	土	杯	120.431	232
N179	1 k	4層	土	杯	120.409	209
N180	25 f	8層	土	杯	120.350	
N181	25 f	5層	土	甕	120.010	
N182	25 f	6層	土	杯	120.300	150
N183	25 f	6層	土	杯	120.214	150
N1901	24 j	6層	須	杯	120.256	
N1902	24 j	12層	土	甕	120.111	
N1903	24 j	12層	土	杯	120.180	86
N1904	20 j	19層	土	杯	120.183	
N1905	19 j	19層	土	杯	120.249	
N1906	19 j	19層	土	杯	120.213	62
N1907	19 j	19層	土	杯	120.328	62
N1908	19 j	19層	土	杯	120.217	62
N1909	19 j	19層	土	杯	120.207	62
N1910	19 j	19層	土	杯	120.214	62
N1911	19 j	19層	土	杯	120.243	152
N1912	19 j	19層	土	杯	120.256	68
N1913	19 j	19層	土	杯	120.247	83
N1914	19 j	12層	土	杯	120.226	83
N1914	19 j	12層	土	杯	120.226	83
N1913	21 j	12層	須	甕	120.180	78
N1916	21 j	12層	土	杯	120.210	149
N1917	21 j	13層	土	杯	120.067	
N1918	23 k	6層	土	杯	120.146	168
N1919	24 k	6層	土	杯	120.190	
N1920	24 k	6層	土	杯	120.197	
N1921	24 k	6層	土	甕	120.236	
N1922	24 k	6層	土	高台付杯	120.384	230
N1923	24 k	6層	土	杯	120.200	
N1924	24 k	4層	土	高台付杯	120.377	220
N1925	25 k	6層	土	杯	120.361	
N1926	25 k	6層	土	杯	120.369	
N1927	25 k	6層	土	杯	120.388	
N1928	25 k	6層	土	杯	120.420	
N1929	25 k	6層	土	杯	120.303	
N1930	25 k	6層	土	杯	120.308	216
N1931	25 k	4層	須	甕	120.260	
N1932	2 k	16層	土	甕		251
N1933	19 i	12層	土	杯	120.250	70
N1934	20 i	15層	土	杯	120.259	70
N1935	19 i	4層	土	杯	120.386	221
N1936	19 i	4層	土	杯	120.520	
N1937	19 i	4層	土	杯	120.249	221
N1938	20 i	12層	土	杯	120.163	
N1939	20 i	12層	土	杯	120.163	84
N1940	20 i	12層	須	甕	120.190	96
N1941	20 i	12層	土	杯	120.240	
N1942	20m	6層	土	杯	120.332	
N1943	20m	4層	土?	杯	120.433	
N1944	20 i	6層	土	高台付杯	120.250	161

第20表 R Z007出土土器一覧(3)

器別名	出土地点	層位	種別	器種	標高値	母数No
N1045	19m	16層	土	甕	120.409	
N1046	19m	16層	土	甕	120.451	
N1047	20 n	11層	灰	灰 灰	120.446	103
N1048	20 n	16層	土	灰	120.465	
N1049	20 n	16層	土	灰	120.437	
N1050	20 n	4層	土	甕	120.412	
N1051	20 o	11層	土	甕	120.376	101
N1052	20 p	11層	土	甕	120.384	102
N1053	20 o	11層	土	甕	120.433	101
N1054	20 p	4層	土	甕	120.374	
N1055	21m	12層	土	甕	120.344	101
N1056	22 n	6層	土	灰	120.340	
N1057	22m	12層	土	灰	120.266	89
N1058	21 m	12層	灰	灰	120.152	138
N1059	21 n	6層	土	灰	120.523	206
N1060	21 m	6層	土	甕	120.388	
N1061	21 m	6層	土	灰	120.330	85
N1062	21 m	12層	土	灰	120.290	
N1063	21 m	12層	土	灰	120.345	85
N1064	21 m	12層	土	甕	120.189	
N1065	21 m	15層	土	灰	120.190	73
N1066	21 m	12層	土	灰	120.130	96
N1067	21 l	15層	土	甕	120.260	
N1068	21 l	15層	土	灰	120.137	75
N1069	21 l	15層	土	甕	120.150	
N1070	22 m	15層	土	灰	120.157	
N1071	22 m	15層	土	灰	120.177	138
N1072	22 m	15層	土	灰	120.180	138
N1073	22 l	15層	土	灰	120.110	
N1074	22 l	15層	土	甕	120.271	184
N1075	23 l	15層	土	甕	120.211	
N1076	24 l	15層	土	灰	120.178	
N1077	23 n	15層	土	甕	120.202	
N1078	23 m	15層	土	甕	120.193	
N1079	23 m	15層	土	甕	120.197	
N1080	23 m	15層	土	甕	120.200	
N1081	22 m	13層	土	灰	120.191	
N1082	22 m	13層	土	灰	120.170	
N1083	22 m	15層	土	灰	120.171	
N1084	22 m	15層	土	甕	120.168	
N1085	20 k	12層	土	灰	120.348	
N1086	21 k	12層	土	灰	120.360	68
N1087	21 k	15層	土	灰	120.150	149
N1088	21 k	10層	土	灰	120.182	
N1089	19 k	15層	土	甕	120.374	78
N1090	19 k	15層	土	灰	120.441	126
N1091	19 k	15層	土	灰	120.423	126
N1092	19 k	15層	土	灰	120.400	
N1093	19 k	15層	土	灰	120.297	
N1094	19 k	15層	土	灰	120.388	126
N1095	19 k	15層	土	灰	120.406	126
N1096	19 k	15層	土	灰	120.404	126
N1097	19 k	15層	土	灰	120.407	126
N1098	23 o	6層	土	甕	120.372	184
N1099	22 o	6層	土	灰	120.382	
N1100	23 n	6層	土	甕	120.361	184
N1101	23 n	6層	土	甕	120.348	
N1102	23 n	6層	土	甕	120.538	
N1103	23 n	6層	土	灰	120.301	
N1104	23 n	6層	土	灰	120.390	
N1105	23 n	6層	土	灰	120.407	

器別名	出土地点	層位	種別	器種	標高値	母数No
N1106	23 n	6層	土	灰	120.481	156
N1107	23 n	6層	土	甕	120.485	
N1108	23 n	6層	土	甕	120.530	
N1109	23 n	4層	土	灰	120.599	
N1110	23 n	4層	土	灰	120.576	
N1111	23 n	4層	土	甕	120.380	
N1112	23 n	4層	土	甕	120.257	
N1113	23 n	4層	土	灰	120.480	
N1114	23 n	4層	土	甕	120.240	
N1115	23 o	6層	土	甕	120.333	
N1116	24 n	6層	土	灰	120.418	173
N1117	24 n	6層	土	灰	120.452	173
N1118	24 n	6層	土	灰	120.428	173
N1119	24 n	6層	土	灰	120.464	173
N1120	24 n	6層	土	灰	120.455	173
N1121	24 n	6層	土	灰	120.491	173
N1122	24 n	6層	土	灰	120.479	173
N1123	24 n	6層	土	灰	120.436	173
N1124	24 n	6層	土	灰	120.426	173
N1125	24 n	6層	土	灰	120.438	173
N1126	24 n	6層	土	灰	120.441	173
N1127	24 n	6層	土	甕	120.423	178
N1128	24 n	6層	土	灰	120.423	
N1129	24 c	6層	土	灰	120.294	166
N1130	24 n	6層	土	灰	120.261	166
N1131	24 n	6層	土	灰	120.264	166
N1132	24 n	10層	土	灰	120.307	
N1133	24 m	4層	土	甕	120.615	261
N1134	23 n	6層	土	灰	120.234	166
N1135	23 m	6層	土	灰	120.319	
N1136	23 m	6層	土	灰	120.335	
N1137	23 n	6層	土	灰	120.261	
N1138	23 m	15層	土	甕	120.294	
N1139	23 m	15層	土	甕	120.292	
N1140	23 m	15層	土	甕	120.289	
N1141	23 m	15層	土	甕	120.293	
N1142	23 m	15層	土	甕	120.286	
N1143	23 m	15層	土	甕	120.294	
N1144	23 m	15層	土	甕	120.289	
N1145	23 m	15層	土	甕	120.285	
N1146	23 m	15層	土	甕	120.282	
N1147	23 l	15層	土	甕	120.259	
N1148	23 l	15層	土	甕	120.271	
N1149	23 m	15層	土	高台付灰	120.268	
N1150	23 m	10層	土	灰	120.342	114
N1151	23 m	15層	土	甕	120.295	184
N1152	24 m	6層	土	灰	120.309	
N1153	24 m	6層	土	灰	120.301	
N1154	24 m	6層	土	灰	120.304	
N1155	25 n	10層	土	甕	120.533	144
N1156	25 l	15層	土	灰	120.248	140
N1157	24 l	15層	土	灰	120.236	
N1158	24 l	15層	土	甕	120.258	254
N1159	24 l	15層	土	灰	120.258	
N1160	24 l	15層	土	灰	120.269	
N1161	24 l	15層	土	灰	120.269	
N1162	24 l	15層	土	灰	120.233	
N1163	24 l	15層	土	灰	120.247	
N1164	25 l	15層	土	灰	120.222	
N1165	25 m	15層	土	灰	120.249	
N1166	25 l	15層	土	灰	120.197	

第20表 R Z 007出土No土器一覽(4)

編號No.	出土地点	形状	種類	器種	容高値	枚数
N1167	25-1	15層	土	平	120.214	
N1168	25-1	15層	土	平	120.223	63
N1169	25-1	15層	土	平	120.231	63
N1170	25-1	15層	土	平	120.231	63
N1171	25-1	16層	土	平	120.263	106
N1172	25-1	15層	土	平	120.269	
N1173	25-1	16層	土	平	120.232	103
N1174	1-1	15層	土	平	120.263	100
N1175	1-1	15層	土	平	120.270	100
N1176	1-1	15層	土	平	120.268	63
N1177	1-1	4-10層	土	平	120.264	
N1178	1-1	4層	土	平	120.271	
N1179	1-1	4層	土	平	120.273	
N1180	1-1	4層	土	平	120.366	156
N1181	1-1	4層	土	平	120.312	
N1182	1-1	4層	土	平	120.362	156
N1183	1-1	4層	土	平	120.321	
N1184	1-1	4層	土	平	120.323	
N1185	1-1	4層	土	平	120.317	256
N1186	1-1	4層	土	平	120.383	156
N1188	1-1	4層	土	平	120.382	
N1189	23-n	15層	土	平	120.234	
N1190	23m	16層	土	平	120.214	
N1191	23m	15層	土	平	120.230	
N1192	23-n	15層	土	平	120.164	
N1193	23m	6層	土	平	120.305	183
N1194	23m	6層	土	平	120.311	183
N1195	23-n	15層	土	平	120.142	
N1198	23-n	15層	土	平	120.191	
N1197	23-n	15層	土	平	120.196	
N1198	23-n	15層	土	平	120.191	
N1199	1-1	6層	土	平	120.282	196
N1200	23-n	15層	土	平	120.306	66
N1201	23-n	15層	土	平	120.188	71
N1202	22-p	12層	土	平	120.289	93
N1203	21-q	12層	土	平	120.179	102
N1204	21-p	6層	土	平	120.426	
N1205	21-p	6層	土	平	120.394	
N1206	21-p	6層	土	平	120.385	101
N1207	21-p	12層	土	平	120.248	101
N1208	21-p	12層	土	平	120.243	101
N1209	21-p	6層	土	平	120.495	101
N1210	21-p	6層	土	平	120.372	
N1211	21-p	12層	土	平	120.231	101
N1212	21-p	6層	土	平	120.325	101
N1213	21-p	12層	土	平	120.246	101
N1214	21-p	6層	土	平	120.395	101
N1215	21-p	6層	土	平	120.400	
N1216	21-p	6層	土	平	120.410	
N1217	21-p	6層	土	平	120.349	
N1218	21-p	12層	土	平	120.282	102
N1219	21-p	6層	土	平	120.374	101
N1220	29-p	12層	土	平	120.233	101
N1221	20-p	12層	土	平	120.300	101
N1222	20-p	12層	土	平	120.350	101
N1224	21-p	12層	土	平	120.234	
N1225	21-p	12層	土	平	120.248	
N1226	22-p	12層	土	平	120.239	
N1227	22-p	6層	土	平	120.273	
N1228	22-p	6層	土	平	120.460	158
N1229	21-p	11層	土	平	120.299	

編號No.	出土地点	形状	種類	器種	容高値	枚数
N1230	21-p	12層	土	平	120.171	101
N1231	21-p	12層	土	平	120.204	101
N1232	21-p	6層	土	平	120.328	101
N1233	21-q	11層	土	平	120.222	
N1234	21-p	11層	土	平	120.276	
N1235	21-p	6層	土	平	120.316	
N1236	21-q	11層	土	平	120.280	102
N1237	21-q	12層	土	平	120.252	
N1238	20-q	16層	土	平	120.310	
N1239	20-q	11層	土	平	120.285	102
N1240	20-q	12層	土	平	120.371	
N1241	20-q	12層	土	平	120.285	102
N1242	21-q	11層	土	平	120.400	102
N1243	20-q	12層	土	平	120.240	
N1244	20-p	12層	土	平	120.258	102
N1245	20-p	12層	土	平	120.300	102
N1246	20-p	12層	土	平	120.335	102
N1247	20-p	12層	土	平	120.287	
N1248	20-p	12層	土	平	120.318	101
N1249	20-p	12層	土	平	120.197	102
N1250	21-p	12層	土	平	120.270	102
N1251	21-p	12層	土	平	120.278	
N1252	21-p	12層	土	平	120.263	102
N1253	21-p	12層	土	平	120.267	102
N1254	20-p	12層	土	平	120.188	102
N1255	20-p	12層	土	平	120.200	
N1256	21-p	12層	土	平	120.246	102
N1257	21-q	12層	土	平	120.311	
N1258	20-q	4層	土	平	120.468	204
N1259	20-q	4層	土	平	120.485	101
N1260	19-p	4層	土	平	120.496	102
N1261	19-q	4層	土	平	120.478	225
N1262	19-q	6層	土	平	120.406	
N1263	19-r	4層	土	平	120.366	
N1264	19-r	4層	土	平	120.297	
N1265	19-q	4層	土	平	120.410	225
N1266	19-q	4層	土	平	120.415	225
N1267	19-q	4層	土	平	120.453	204
N1268	19-q	4層	土	平	120.471	204
N1269	21-p	12層	土	平	120.187	
N1270	21-p	12層	土	平	120.216	102
N1271	21-p	12層	土	平	120.241	
N1272	21-p	12層	土	平	120.258	102
N1273	21-p	12層	土	平	120.247	102
N1274	20-p	12層	土	平	120.174	
N1275	20-p	12層	土	平	120.183	
N1276	20-p	12層	土	平	120.230	102
N1277	21-q	12層	土	平	120.235	
N1278	21-q	12層	土	平	120.316	
N1279	21-q	12層	土	平	120.210	102
N1280	21-p	12層	土	平	120.238	
N1281	21-q	12層	土	平	120.267	102
N1282	21-q	12層	土	平	120.266	
N1283	21-q	12層	土	平	120.283	102
N1284	21-p	12層	土	平	120.268	
N1285	21-p	12層	土	平	120.233	102
N1286	21-p	12層	土	平	120.358	102
N1287	22-q	12層	土	平	120.280	
N1288	21-q	12層	土	平	120.170	
N1289	21-p	12層	土	平	120.160	
N1290	21-p	12層	土	平	120.223	

第20表 R Z 007出土No土器一覧(5)

編年No	出土地点	層位	種別	器種	器高(mm)	拓径(mm)
N1291	21 q	12層	土	甕	120.270	101
N1292	20 q	12層	土	甕	120.236	102
N1293	20 r	4層	土	甕	120.381	
N1291	20 r	4層	土	甕	120.403	
N1293	20 r	4層	土	甕	120.476	
N1296	20 r	4層	土	甕	120.488	
N1297	20 r	4層	土	甕	120.529	
N1298	19 r	6層	土	甕	120.447	176
N1299	20 q	4層	土	甕	120.502	
N1300	22 p	16層	土	甕	120.054	61
N1301	22 r	6層	土	高付付外	120.412	162
N1302	19 u	14層	土	甕	120.111	
N1303	19 u	14層	土	甕	120.169	
N1304	19 u	14層	土	甕	120.138	
N1305	19 u	14層	土	甕	120.180	
N1306	19 u	14層	土	甕	120.244	
N1307	23 n	6層	土	甕	120.305	166
N1308	24 n	6層	土	甕	120.234	166
N1309	24 n	6層	土	甕	120.259	166
N1310	24 n	6層	土	甕	120.253	166
N1311	23 n	15層	土	甕	120.222	136
N1312	25 l	12層	土	甕		98
N1313	25 l	12層	土	甕		99
N1314	24 l	13層	土	甕	119.946	69
N1315	25 l	12層	土	甕	119.982	90
N1316	23 k	6層	土	甕	120.305	171
N1317	21 n	11層	土	甕	120.290	103
N1318	21 n	11層	土	甕	120.282	103
N1319	21 p	12層	土	甕	120.100	
N1320	20 p	12層	土	甕	120.170	101
N1321	20 p	12層	土	甕	120.120	102
N1322	20 p	12層	土	甕	120.130	102
N1323	20 p	12層	土	甕	120.150	
N1324	21 p	12層	土	甕	120.150	102
N1325	21 p	12層	土	甕	120.170	
N1326	21 p	12層	土	甕	120.180	102
N1327	21 p	12層	土	甕	120.130	102
N1328	21 p	12層	土	甕	120.120	102
N1329	21 p	12層	土	甕	120.170	102
N1330	24 l	12層	土	甕	119.803	93
N1331	24 l	12層	土	甕	120.020	97
N1332	24 l	12層	土	甕	119.803	87
N1333	24 l	12層	土	甕	120.041	97
N1334	24 l	15層	土	甕	119.942	
N1335	24 k	12層	土	甕	119.954	
N1336	24 l	15層	土	甕	119.969	69
N1337	24 l	15層	土	甕	119.944	93
N1338	24 l	15層	土	甕	119.939	69
N1339	24 l	15層	土	甕	119.910	93
N1340	24 l	15層	土	甕	119.918	
N1341	25 l	15層	土	甕	119.940	93
N1342	25 l	15層	土	甕	119.903	97
N1343	25 l	12層	土	甕	119.958	
N1344	25 l	12層	土	甕	120.001	98

【種別】土：土器 須：須恵器

編年No	出土地点	層位	種別	器種	器高(mm)	拓径(mm)
N1345	25 l	12層	土	甕	119.969	97
N1346	25 l	12層	土	甕	120.007	87
N1347	25 l	12層	土	甕	119.967	98
N1348	25 l	12層	土	甕	119.909	
N1349	25 l	12層	土	甕	119.965	
N1350	24 l	15層	土	甕	120.203	
N1351	22 k	15層	土	甕	120.106	
N1352	23 k	15層	土	甕	120.123	
N1353	22 l	15層	土	甕	120.155	77
N1354	22 l	15層	土	甕	120.258	
N1355	22 l	15層	土	甕	120.179	
N1356	22 l	15層	土	甕	120.179	
N1357	22 l	15層	土	甕	120.172	
N1358	21 n	11層	土	甕	120.260	104
N1359	19 k	15層	土	甕	120.091	78
N1360	20 k	15層	土	甕	119.987	
N1361	20 k	15層	土	甕	120.107	
N1362	21 k	15層	土	甕	120.099	184
N1363	20 l	12層	土	甕	119.965	84
N1364	20 l	12層	土	甕	119.990	
N1365	20 l	12層	土	甕	119.917	94
N1366	20 l	12層	土	甕	119.940	94
N1367	20 m	6層	土	甕	120.154	
N1368	22 k	15層	土	甕	120.129	
N1369	22 k	15層	土	甕	120.133	135
N1370	22 k	15層	土	甕	120.135	135
N1371	22 k	15層	土	甕	120.118	
N1372	22 k	15層	土	甕	120.146	
N1373	22 k	15層	土	甕	120.143	135
N1374	22 k	15層	土	甕	120.145	135
N1375	22 k	15層	土	甕	120.210	
N1376	22 k	15層	土	甕	120.203	
N1377	22 k	15層	土	甕	120.140	135
N1378	22 k	15層	土	甕	120.131	135
N1379	22 k	15層	土	甕	120.132	135
N1380	23 k	15層	土	甕	120.138	
N1381	24 k	12層	土	甕	120.080	140
N1382	25 l	12層	土	甕	120.160	63
N1383	25 l	12層	土	甕		63
N1384	25 l	15層	土	甕	120.037	
N1386	19 k	15層	土	甕	120.274	
N1387	19 k	15層	土	甕	120.319	126
N1388	19 k	15層	土	甕	120.423	78
N1389	20 k	15層	土	甕	120.305	
N1390	19 k	12層	土	甕	120.342	
N1391	21 n	6層	土	甕	120.420	
N1392	22 n	4層	土	甕	120.600	
N1393	22 o	6層	土	甕	120.250	
N1394	24 k	15層	土	甕	119.942	93
N1395	24 l	15層	土	甕	119.880	140
N1396	24 l	15層	土	甕	119.855	140
N1397	24 l	15層	土	甕	119.969	138
N1398	24 l	15層	土	甕	119.941	138

V ま と め

I 遺 構

今回の調査で検出した遺構は古代に属する遺構が土坑1基、包含層1箇所、遺物集中部2箇所、帯状礫密集部1箇所、中世に属する遺構が堀跡1条、柱状土坑4個、時期不明の遺構が溝跡1条、不明遺構3基である。

本調査区の現況は幼稚園の跡地であり、それ以前は水田として利用されていた。古代には、ほぼ本調査区の中央に河川があり、その北岸には集落が営まれていたことが第3次・第4次調査で判明している。今回は南岸を中心に多量の遺物が出土し、今まで確認されていた集落とは異なる様相を呈している。中世には、建物跡は確認されていないものの、堀跡が確認されており、居館として利用されていた可能性が非常に高い。中世の詳細な検討は館本体の調査時に行われることを期待しつつ、発掘調査によって判明した事実を簡潔に記述する。

(1) 古 代

古代に属する遺構のうち、包含層(R Z007)内の杭及び杭状木製品の出土状況と帯状礫密集部(R Z009)について簡単に記述する。土器類については第2節第1項の平安時代の土器で記載するので、ここでは割愛する。

R Z007のうち、木質遺物がまとまって出土した部分を第76図・第77図に示した。大きく分けると24~1k~n周辺と21~23o~q周辺の2箇所に見られる。矢印が河道で、網掛けした部分は杭もしくは杭状木製品である。河道と平行する方向とそれに直行する方向で確認され、その周囲に細かい木質遺物が密集している傾向がみられる。これらの遺物がほぼ原位置を保っているとするならば、河道に係わる橋や棧といったような構造物の存在を肯定的に考えたい。また、河道と直行するように、立位で杭が2点(▶)出土している。

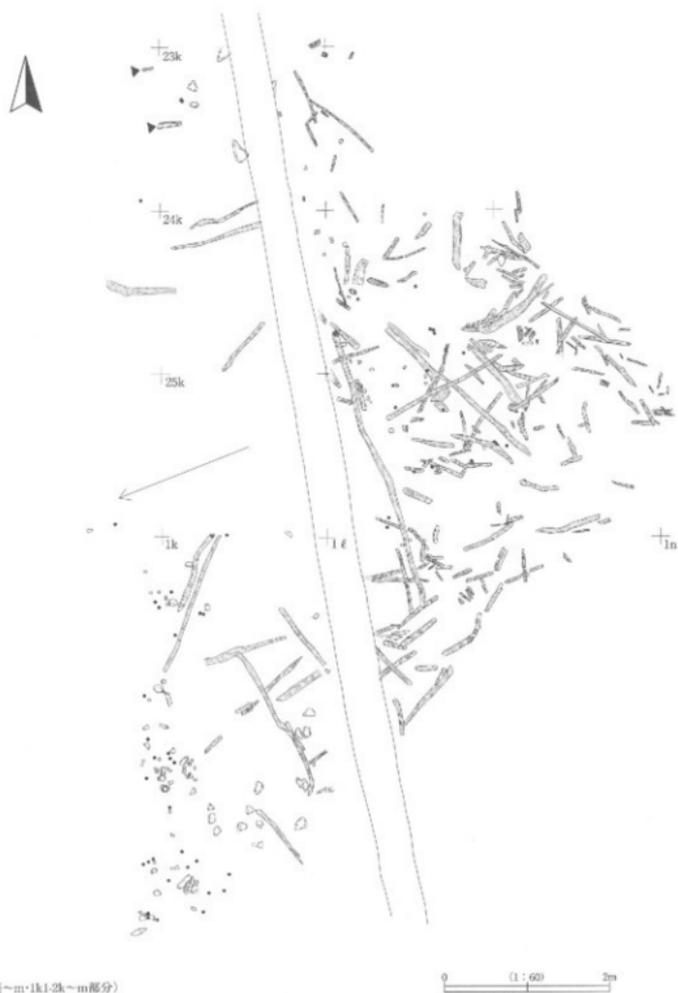
R Z007の13窟で検出したR Z009も類似した傾向が見られる。河道の最も深い部分から北岸にかけて確認されており、その方向は河道にはほぼ直行している。R Z009の周囲にも礫は確認されるが、単発的であり、R Z009のようなまとまりは確認されない。R Z009が自然による可能性は捨てきれないものの、R Z009を構成する礫には明らかな石器も含まれており、人為的なものと考えられる。

これらの遺構の詳細は、今後同様の遺構の類例の増加を待って検討したい。

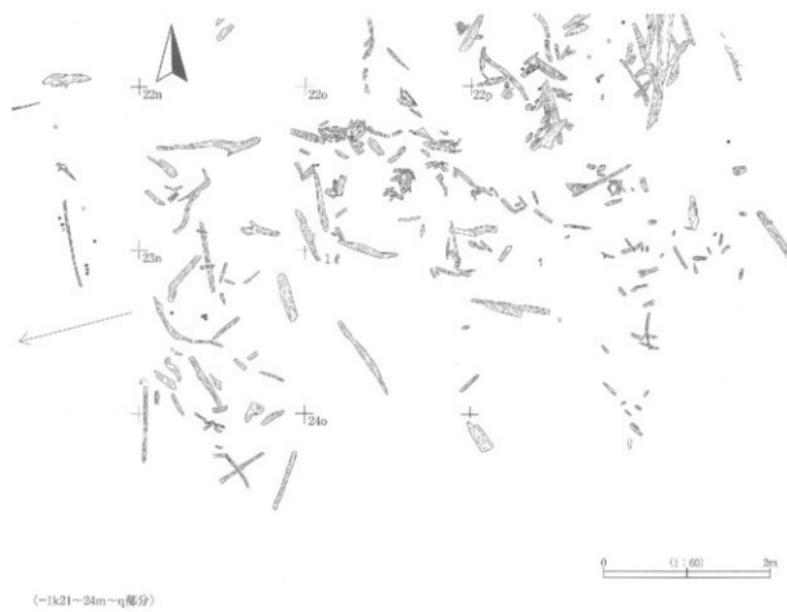
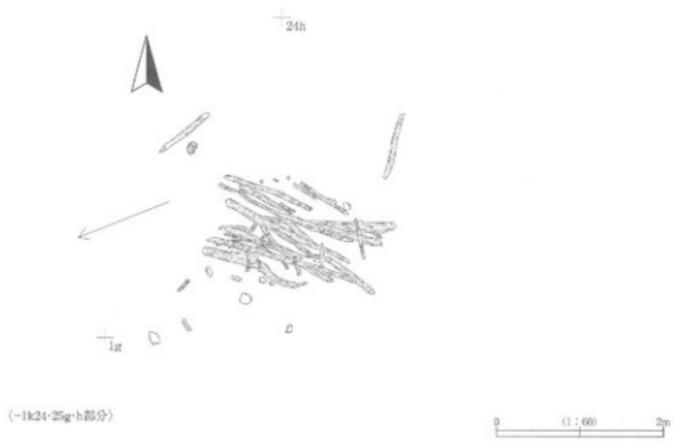
(2) 中 世

中世の遺構はR G006とR Z005である。R G006堀跡は平成10年度に実施された第3次・第4次調査時にR G007・R G008とともに検出された遺構である。調査担当者によると、R G006は直行するR G008よりは新しく、R G006の内側に位置するR G007との関係は不明とのことである。時期については、向中野館の推定地であることから中世の堀跡と考えたようであるが、出土遺物は木製品のみで、詳細な時期を特定する資料に乏しい状況であった。

今回の調査では、1点であるが、珠洲産と考えられる播鉢がR G006堀跡の底面直上層の6層から出土し、堀の年代を推定する資料が得られた。この播鉢は底部のみの断片的な資料である。厚手のもので、底部外面は切り離し後無調整である。内面の卸目の調整は粗く、多方向から行われている。時



第76図 R Z 007木質遺物出土状況図 (1)



第77図 R Z007木質遺物出土状況図(2)

期は15世紀代と考えられる。今後、未調査区域の結果を待たねば断定はできないが、少なくとも今回の調査成果からR G006堀跡は15世紀代には埋没が始まったものと考えられる。

今回確認したR G006堀跡は前回の調査区の南側の続きで、R G006堀跡の南西隅が検出されたものの、南端は検出されなかった。R G006の南側は平安時代以前には河道であり、9世紀には埋没が始まり、9世紀後半から10世紀前半には低湿地状を呈していたことが調査成果や理化学的な分析によって判明している。この地域がいつまで同様の環境状態にあったか不明であるが、R G006の5層を中心とした堆積層にヨシ属の堆積が見られ、この堀が機能している間も平安時代とあまり変わらない環境状態にあった可能性が非常に高い。このことから判断すると、この堀跡の南端側は自然地形を活用して、堀と同様の機能を持たせたものと推察される。

2 遺 物

(1) 平安時代の土器

今回の調査では40%コンテナで約20箱、約50kgの土器が出土した。その約70%が遺物包含層であるR Z007から出土したものである。その大部分は平安時代に該当し、9世紀後半から10世紀前半に集中する。これらの土器は焼成方法から酸化焙焼成の土師器と還元焙焼成の須恵器に分けられ、土師器には坏、高台付坏、埴、甕、鉢、甗、甗、須恵器には坏、甕、長頸瓶、壺がある。いわゆる「あかやき」土器については土師器に含めている。この中で、最も多いのは土師器坏であり、R Z007では多層にわたって出土する。坏類（坏・高台付坏・埴）以外は出土点数が少ないこと、器形全体の様相がわかる資料が少ないことから坏類に限定して特徴をみていく。

坏類の特徴

今回出土した坏類は焼成方法、調整方法、高台の有無などの諸属性から大きく分類すると第21表のとおりになる。これらは、器形、底部の切り離し方法と調整、分量などからさらに細分が可能である。

まず、器形の特徴から見ていくこととする。器形では3種類に細分され、口縁

端部でさらに3種類の差が確認される。

器形A：底部から直線的に立ち上がるもの。

器形B：体部下半に丸みを帯びるもの。

器形C：体部に段が見られるもの。

口縁端部は外反するもの（a）、直立するもの（b）、水平に面取りするもの（c）の3種類が確認される。本遺跡から出土した代表的なものを第78図、第79図に示した。図示しなかったものは以下のとおりである。-で示したものは各属性で不明のものである。

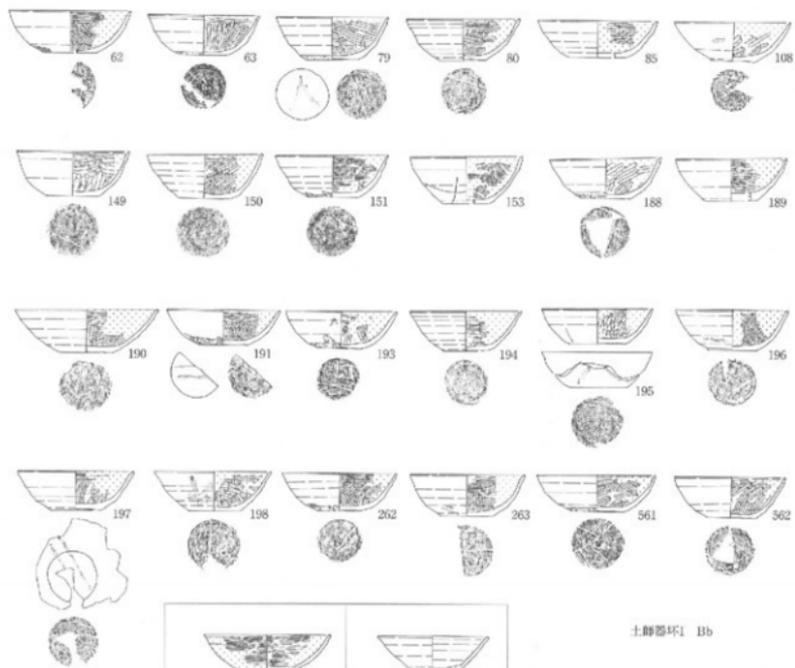
土師器坏 I A a…31、B a…110・203・205・219・265・266・268・270、I B b…105～107・152

第21表 坏類の分類

焼成方法	器種	高台	調整	分類
酸化焙	坏	無	内面のみ：ミガキ→黒色処理	坏Ⅰ
			内外面：ミガキ→黒色処理	坏Ⅱ
			内外面：回転ナデ	坏Ⅲ
	有		内面のみ：ミガキ→黒色処理	高台付坏Ⅰ
			内外面：ミガキ→黒色処理	高台付坏Ⅱ
			内外面：回転ナデ	高台付坏Ⅲ
還元焙	坏	無	内外面：ミガキ→黒色処理	埴
	坏	無	内外面：回転ナデ	坏



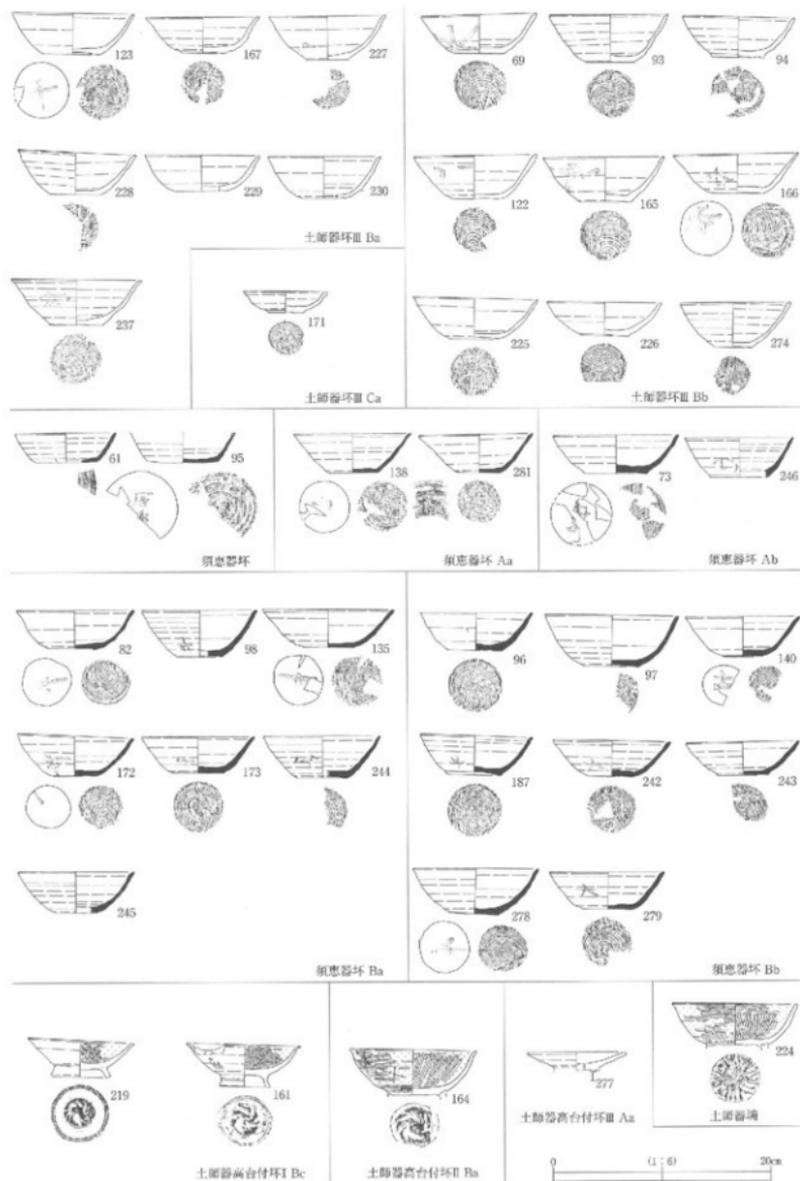
土師器坏I Ba



土師器坏I Bb

0 1:6 20cm

第78图 R Z 007 · R Z 008出土坏类集成图 (1)



第79図 R Z 007・R Z 008出土陶類集成図(2)

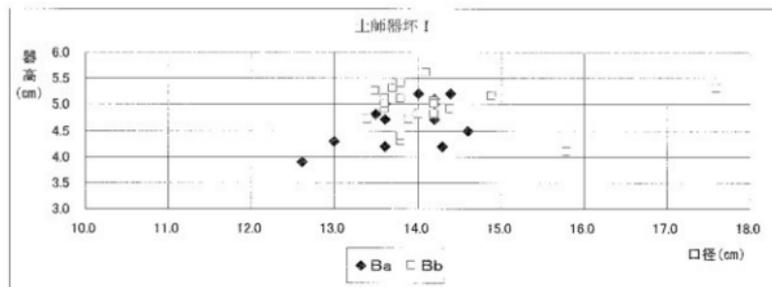
・192・264、I B ……4・28・44・64・86~90・111~115・147・155・157・207~213・218・271・272・563・564、I C ……574、I ……1・29・65~67・91・116~120・156・158~160・169・214~217・284・569・591・593・595、II B a ……68、II B ……221、II ……566、III A a ……31、III A ……234・235・598、III B a ……168・231、236、III B ……6・70・81・124・125・232・233・275・276、III ……5・7・30・37・38・47~50・71・72・127~134・170・238~240・285・570・599・600・601
土師器高台付坏 I A b ……46、I B ……163・241・273、I ……8・39・45・121・162・220・565・597、II B ……222・223

須恵器坏 A a ……100、A ……139、B a ……280、B ……9・74・99・103・136・137・174・576・581・602、……40・51~53・75・104・175・247~249・282・283・603

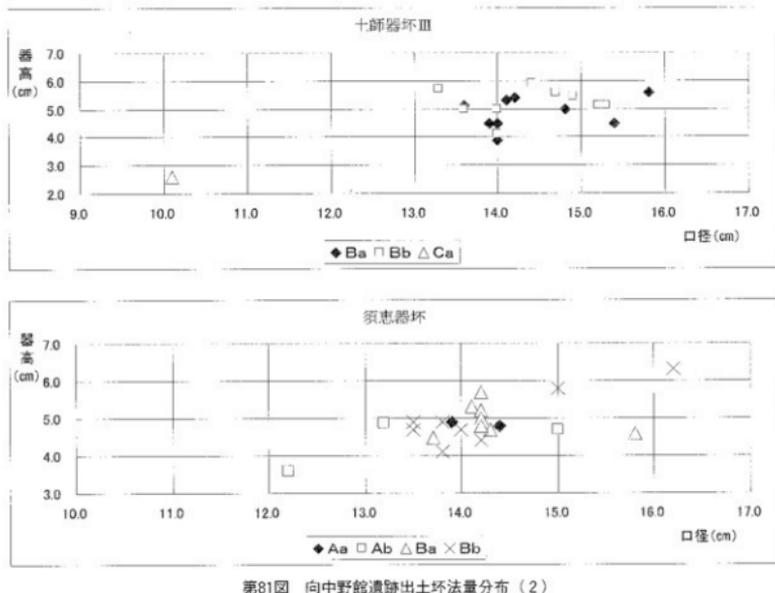
本遺跡ではB類の坏が圧倒的に多い傾向にあり、土師器坏I・II、土師器高台付坏I・IIでは器形の判別できるものはすべてB類、土師器III・須恵器坏でも主体はB類である。一方、A類は土師器坏III、土師器高台付坏III、須恵器坏に見られ、C類にいたっては土師器坏IIIに1点のみ見られるに過ぎないといった特徴があげられる。口縁端部については、あまり差は見られない。

底部の切り離し方法を見ると、圧倒的に回転系切りによりものが多く、回転ヘラ切りによるものは61と95の2点のみである。底部の切り離し後は、土師器坏IIIと須恵器は無調整であるが、土師器坏I・IIでは約半数に回転ヘラケズリもしくはヘラケズリされる再調整例が認められる。

法量については、比較的点数のある土師器坏I・III、須恵器坏Iについてのみ比較を行う。第80・81図に坏法量分布を示した。その他については、対象資料が少ないため検討を行っていない。土師器坏Iは口径が12~18cmで、13~15cmのものが多く、13cm以下、15cm以上の3つのまとまりがある。器高は3~6cmで、4.5~5.5cmに集中している。口縁端部の特徴から見ると、b類がa類よりやや口径・器高ともに大きい傾向が見られる。土師器坏IIIは口径10~16cmで、14cm前後と15cm前後に集中し、10cm前後と合わせて、3つのまとまりが見られる。器高は2.5~6cmで、5~6cmのものが最も多く、3cm未満、4~5cmと3つのまとまりがある。器形と口縁端部の特徴から見ると、C類のみが口径・器高ともに小さい。B類では口縁端部a類がb類より器高が低い傾向が見られる。口径については差があまり見られない。須恵器は口径が12~16cmで、14cm前後のものが最も多く、12cm前後、15cm以上の3つのまとまりがある。器高は3~7cmで、4~5cm前後のものが最も多く、4cm未満のもの、6~7cm前後のもの3つのまとまりがあり、それぞれがほぼ対応している。主体は口径14cm前後、器高4~5cm前後である。器形と口縁端部の特徴から見ると、A a類とB a類は比較的主体のところに取りま



第80図 向中野館遺跡出土土坏法量分布(1)



第81図 向中野館遺跡出土土坏法量分布(2)

るが、A b類は口径・器高とも小さい傾向が見られ、B b類は主体に収まるものと口径・器高とも大きいものの2つのまとまりが見られる。

R Z007の様相

これまで本遺跡全体の坏類の特徴を概観してきたが、本遺跡で最も遺物が出土したR Z007について検討していきたい。R Z007は各層から遺物は出土しているが、ここでは復元個体が10点以上出土した15層、12層、10層、6層、4層、3層の資料を対象として、その特徴を見ていきたい。各層出土の坏類の組成を第82図に示した。

15層では土師器坏が全体の8割を占め、そのなかでも坏Ⅰが主体となっているが、坏Ⅲも全体の約3割を占めている。土師器高台付坏は出土していない。土師器坏の器形については、土師器坏Ⅰ～ⅢともB類もしくは不明のもので、A類は見られない。口径端部については土師器坏Ⅱでa類が見られるが、土師器坏Ⅰ・Ⅲではb類のみで、a類は含まれない特徴が見られる。土師器坏Ⅰの底部の切り離し後は再調整を施すものが主体である。須恵器坏の器形はA類、B類とも見られる。口径端部はb類のみである。

12層では土師器坏Ⅰが全体の半数を占め、主体となっていることは15層と同様であるが、須恵器坏が1/3見られ、やや多くなっている。土師器高台付坏は15層と同様、出土していない。土師器坏はB類のみである。口径端部については、土師器坏Ⅱではa類のみ、土師器坏Ⅲではb類のみが見られる。土師器坏Ⅰではa類、b類ともに見られる。土師器坏Ⅰの底部の切り離し後は再調整を施すものと施さないものがほぼ同数である。須恵器坏の器形はB類が主体であるが、A類も見られる。口径端部はa類、b類とも同数である。

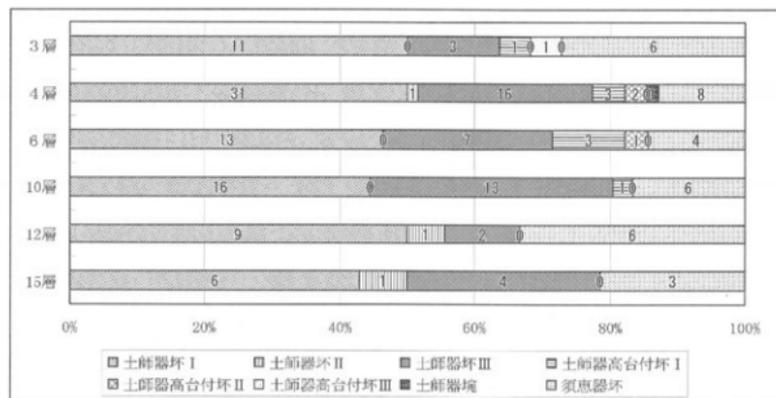
10層では土師器環が全体の8割を占めている。坏Ⅰが主体であるが、坏Ⅲもほぼ同数見られる。坏Ⅱは全く見られない。下層よりは坏Ⅲの割合が高くなっている。土師器環の器形については、坏ⅢにわずかであるがA類がみられるものの、主体はB類である。口縁端部については、どの坏でもa類、b類が見られるが、坏Ⅰではb類が主体となっている。土師器環Ⅰの底部の切り離し後は再調整を施すものが主体である。須恵器環の器形はA類、B類とも見られ、A類が主体である。口縁端部はa類が主体である。

6層では土師器環が約7割を占め、土師器高台付坏と須恵器環がほぼ同じ割合となっている。高台付坏の割合が高いのが特徴となっている。土師器環の器形については、坏ⅢにC類が見られるものの、主体はB類である。口縁端部については、坏Ⅰはb類が多数を占め、坏Ⅲはa類が主体を占めている。土師器高台付坏Ⅰはc類、土師器高台付坏Ⅱはa類のみ見られる。土師器環Ⅰの底部の切り離し後は再調整を施すものと施さないものと見られるが、施さないものが主体となっている。須恵器環の器形はB類のみ見られ、口縁端部はa類のみ見られる。

4層では種類が最も多様化しているが、土師器環が8割近く占め、坏Ⅰが主体を占めている点に変化が見られない。土師器環の器形については、坏Ⅰ・Ⅱが全てB類、坏ⅢがB類主体となっている。口縁端部については、坏Ⅰはa類、b類とも見られ、坏Ⅲはb類も見られるが、a類が主体となっている。高台付坏Ⅰではc類が見られる。土師器環Ⅰの底部の切り離し後は再調整を施すものと施さないものと見られるが、施さないものが圧倒的に多くなっている。須恵器環の器形はA類がわずかに見られ、B類が主体となっている。口縁端部はa類、b類ともほぼ同数である。

3層では土師器環が主体であるが、6割強とやや少なくなり、須恵器環が3割近くを占めるようになってくる。その他では土師器高台付坏Ⅲが出現する特徴があげられる。土師器環の器形については、坏Ⅰ・ⅢともB類のみである。口縁端部については、坏Ⅰがa類主体となっている。土師器環Ⅰの底部切り離し後は再調整を施すものと施さないものと見られ、ほぼ同数である。須恵器環の器形はA類とB類が見られるが、B類が主体である。口縁端部はa類、b類とも同数である。

以上、各層の様相を見てきたが、まとめると次のように捉えられる。①各層とも土師器環Ⅰ（内面黒色処理）が主体を占める。土師器環Ⅲ（非黒色処理）は上層になるにつれ、比較的増加する傾向が



第82図 R Z 007出土土環組成

見られる。②高台付坏は下層では出土していない。口縁端部はc類の占める割合が高い。③土師器坏の器形はB類が圧倒的に多く、口縁端部はb類(直立するもの)主体からa類(外反するもの)主体に変化している。④土師器坏1の底部は再調整を施すものから施さないものへ変化している。⑤須恵器坏の器形はA類を一定量構成する組成からB類主体に変化している。口縁端部はb類主体からa類主体、a類・b類の混在へ変化している。①や③の特徴は八木福年(八木他 1998)のF期～H期、伊藤福年(伊藤 1998)のk・1期に相当すると捉えられ、R Z007は9世紀後半～10世紀前葉に位置づけられる。また、④の特徴に6層にC類の坏が出現することを加味すると、15層・12層の時期は9世紀中葉に近い時期であり、6層・4層は10世紀を挟む前後の時期と考えられる。坏の細部には、③や⑤の変化が見られるが、これらの変化が向中野館遺跡の特徴なのか、普遍的な特徴であるのか、詳細な検討が必要であるが、ここでは指摘するにとどめ、今後の課題としたい。

墨書土器と刻書土器

今回の調査で多くの土器が出土したことは述べたが、そのうち115点に何らかの文字や記号が記されている。そこで、本調査区から出土した墨書土器・刻書土器の特徴を抽出し、盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡(以降、盛南地区遺跡と略す)との比較を行う。

墨書や刻書の観察される115点の内訳は墨書土器107点(内同一個体資料と考えられるもの4点)、刻書土器8点(墨書も見られるため墨書に含まれた資料2点)である。出土遺構はR Z006が墨書土器4点、R Z007が墨書土器98点(内同一個体と考えられるもの4点)、刻書土器8点(墨書も見られるため墨書に含まれた資料2点)、R Z008が墨書土器1点、遺構外が墨書土器4点となっており、墨書土器の9割以上、刻書土器の全てがR Z007から出土している。

墨書・刻書が観察される器種は土師器坏・土師器高台付坏・土師器碗・須恵器坏の供膳具に限定され、甕などの煮沸具や壺などの貯蔵具には全く見られないのがひとつの特徴と言える。

墨書の種類は第IV章第8節第3項で記述したとおり、数字6種(二・七・十、廿カ、卅、千)11点、文字18種(野・王・目・大・木・今・本〔本〕・太・古・万・田・天・玉・山カ・生カ・土カ・井カ・凡)37点、記号2種(一：一本線・二：二本線)10点、不明11点、墨付・墨痕40点である(註1)。刻書は数字1種(十)3点、文字1種(大)3点、不明4点である(註2)。

墨書される部位は体部外面18種32点、底部外面10種16点である(不明や墨付・墨痕は含まない)。体部・底面とも内面に墨書される例は見られない。

体部・正位13種22点：大(大カ含む)9点、太2点、本2点、二1点、七1点、廿カ1点、王1点、目1点、今1点、田・井カ1点、天1点、山カ1点

体部・倒位4種5点：木2点、大1点、吉1点、生カ1点

体部・横位4種5点：王2点、吉1点、万1点、玉1点

底部10種16点：十4点、今(今カ含む)3点、七2点、卅1点、千1点、厨□1点、本1点、吉1点、土カ1点、凡1点

文字で多いものは「大」「今」、数字で多いのは「十」「七」である。二文字のものはわずかで、ほとんどが一文字である。墨書される部位と文字の関係は、「十」をはじめ、数字は底部外面に墨書される傾向が見られる。文字については、体部に正位で墨書されるものが圧倒している。それに対して「木」は2点と少ないものの、全て倒位、「王」は3点のうち2点が横位と文字によって墨書される部位、体位に特徴が見られる。

刻書される部位は体部外面2種5点、底部外面1種1点である。

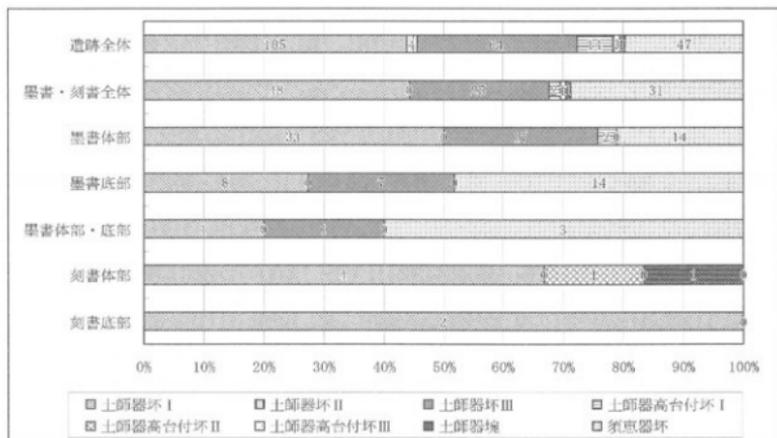
体部・正位2種4点：大3点、十1点

体部・横位1種1点：+1点

底部1種1点：+1点

刻書される文字は、墨書されるもので点数の多い「大」と「十」のみである。「大」は墨書と同様に体部に正位で刻書されている。一方、「十」については部位・体位に特徴は見られない。

次に出土した資料の墨書・刻書のされる部位と器種の関係を第83図に示した。体部に墨書されるものは、出土数に応じた比率となっており、土師器坏Ⅰが最も多い。それに比して底部に墨書されるものは、須恵器坏が半数を占め、比率が高くなっている。刻書されるものは、体部・底部とも土師器坏Ⅰが圧倒的に多く、その他では内外面とも黒色処理が行われている土師器高台付坏Ⅱと土師器坏である。後者は黒色処理された器面に墨書では文字の視覚的効果が見られないため、必然的に刻書にならざるをえなかったものと捉えられる。



第83図 墨書・刻書の部位と器種

これまで盛南地区遺跡で多くの発掘調査が行われおり、墨書土器や刻書土器は少なからず確認されている。その主な資料を第84図～第87図に示し、第22表に遺跡別の文字種類を示した。また、第23表には報告書から抽出できる限りの資料を示した。本調査区を除く出土点数の多い遺跡は台太郎遺跡第51次調査22点、細谷地遺跡第8次調査19点、細谷地遺跡第4次・第5次調査13点、台太郎遺跡第18次調査9点、台太郎遺跡第23次調査9点であり、1,000㎡当たりの出土数に換算すると、台太郎遺跡第51次調査3点/千㎡、細谷地遺跡第8次調査7点/千㎡、細谷地遺跡第4次・第5次調査1点/千㎡、台太郎遺跡第18次調査0点/千㎡、台太郎遺跡第23次調査0点/千㎡、野占遺跡第11次調査5点/千㎡、本宮熊堂B遺跡第14次調査3点/千㎡である。本調査区は32点/千㎡であり、周辺遺跡と比較しても4.5倍以上と突出しているのが理解できる。

文字の種類を見ると、細谷地遺跡第8次調査では9種、台太郎遺跡第18次調査では5種、台太郎遺跡第51次調査では4種、本宮熊堂遺跡B遺跡第1次調査3種、本宮熊堂遺跡B遺跡第14次調査3種であり、本調査区はこれらの遺跡と比較すると多様な字種があると言える。本調査区では「大」「十」が多いが、隣接する細谷地遺跡でも同じ傾向が見られる。また、台太郎遺跡では「木」、本宮熊堂B遺跡

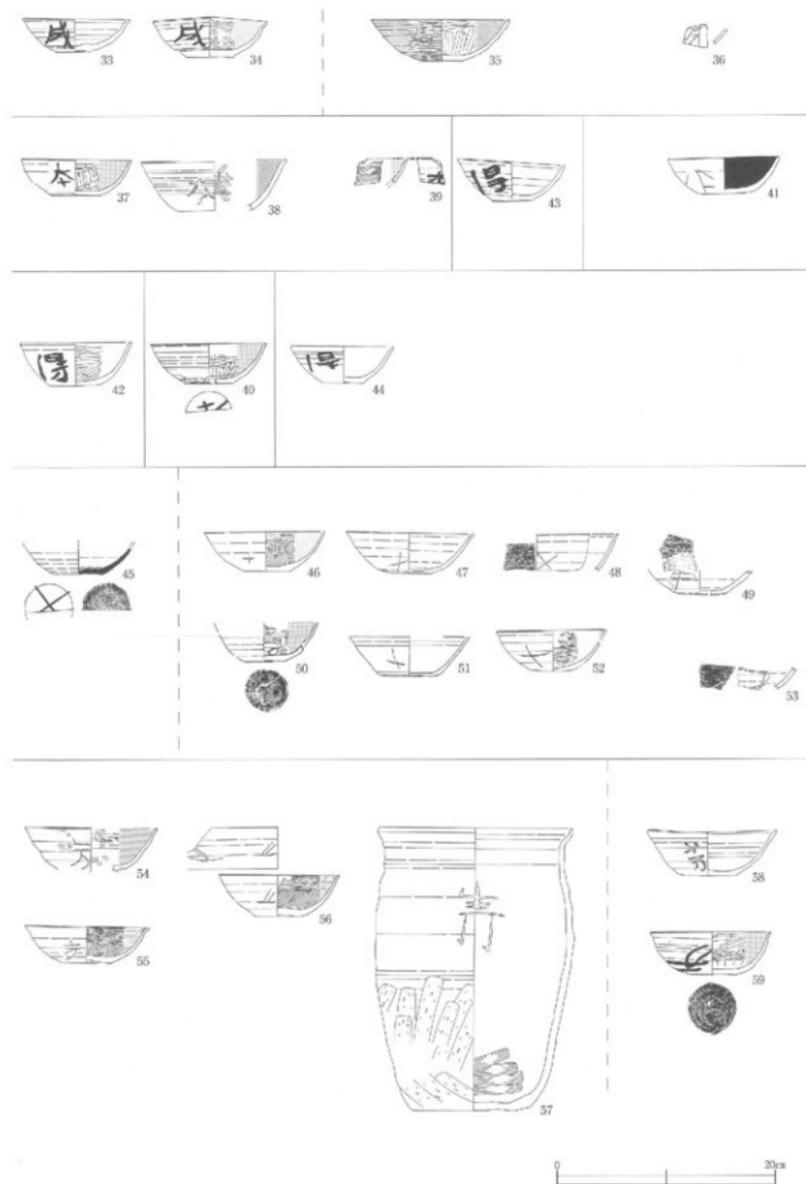
第22表 遺跡別文字の種類

遺跡名	O M N S 6	O H V 4 5	O H T 5	I S W 3	I S D 3 5	O K H 2 4	O K H 11	O D T 18	O D T 23	O D T 26	O D T 35	O D T 51	O N K 12 15	O K O 1	O K O 4	O K U 13	O K U 14	O K O 15	O K O 18	O K O 20
遺跡名	115	13	19	6	5	3	4	9	9	2	1	22	10	9	4	2	6	1	5	4
二	1																			
七	3																			
十	4		1																	
廿	0+1																			
卅	1																			
予	1																			
卌	1																			
□方					0+1		1													
千□	1																			
大□	0+1																			
東□								1									1			
□口	1																			
万	1																			
王	2																	1		
目	1																			
大	7+2		1+1																	0+1
水	2		1+1		0+1				5			2+1								
成																	2			
得														2		1				
今	3+1																			
本	3		0+1	1-1			1													
本	2																			
古	3																			
西	1																			
天	1																			
工	1		0+1																	
上			1																	
方			1					1												
山	0+1							1												0+1
生	0+1																			
土	0+1																			
村			0+1																	
祝			0+1																	
■	1																			
凡	1																			
□	10						1	1		1			2							
■	5																			
■	6																			
七			4		1	1		3		1		3		3	1		1		1	2
十	3	4+1			1				1											1
八				1																
一								1												
十												1								
万												1								
生																				1
大	3	3	3	1																1
水					1			1	5			3+1		0+1						
成														0+1	1					
水																				
大								0+1												
水												4+1								
■												1	1+1							0+1
し	1	1																		
後	3	4	1		1	2						3	6	3	1	1	1			2

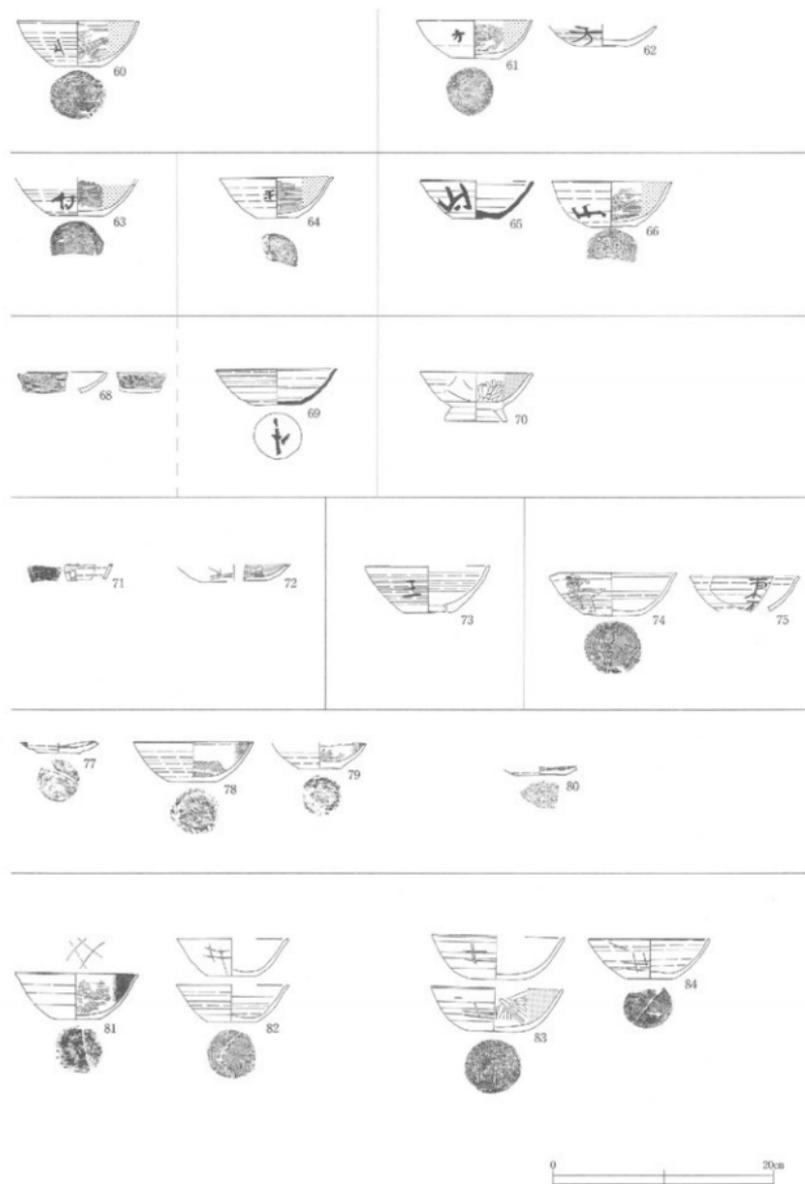
+数字は項目の文字と考えられる文字数



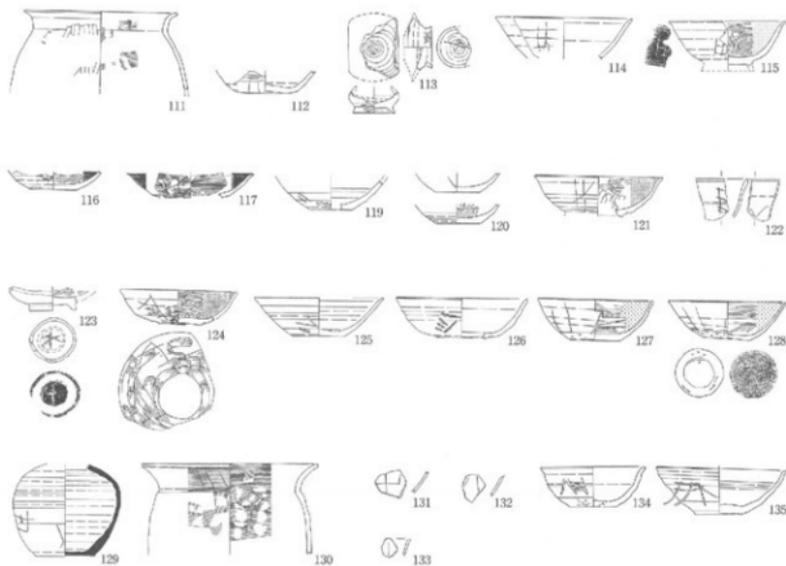
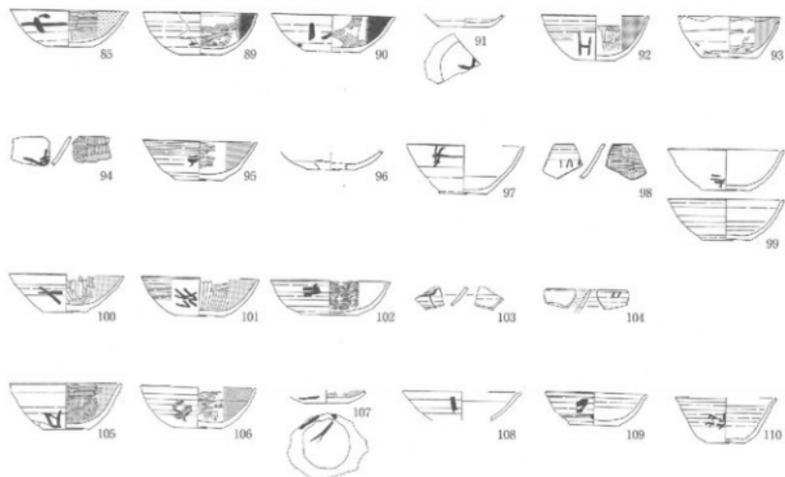
第84図 盛南地区遺跡出土の主な墨書土器・刻書土器(1)



第85図 盛南地区遺跡出土の主な墨書土器・刻書土器(2)



第86図 盛南地区遺跡出土の主な黒書土器・刻書土器（3）



第87図 盛南地区遺跡出土の主な墨書土器・刻書土器(4)

第23表 盛南地区遺跡出土の9C~10Cの墨書土器・刻書土器一覽(1)

No	釈文	種別	遺跡名	部 位	方位	部	位置	出土遺物	備考
1		墨書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A033	
2		刻書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A047	
3		刻書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A047	
4		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A011	
5		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A030	
6		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A032	
7		刻書	飯沼才川遺跡 3 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A001	
8		刻書	木宮窪立 B 遺跡 4 次	土師器坏	作部	外面	正位	R A010	
9		墨書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A047	
10		墨書	木宮窪立 B 遺跡 20 次	土師器坏	作部	外面	正位	遺物外	
11		刻書	網谷地遺跡 8 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	横位?	R A047	
12		墨書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A051	
13		墨書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A201	
14		墨書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A201	
15		墨書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A202	
16		墨書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A203	
17		墨書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A203	
18		墨書	白太郎遺跡 51 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A204	
19		墨書	白太郎遺跡 51 次	須恵器坏	作部	外面	横位	R G 498	
20		刻書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A214	
21		刻書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏	作部	外面	正位	R A201	
22		刻書	白太郎遺跡 23 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A205	
23		刻書	白太郎遺跡 51 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R D1157	
24		刻書	白太郎遺跡 51 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	横位	R D1173	
25		刻書	白太郎遺跡 51 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R G 498 + 499	
26		刻書	白太郎遺跡 18 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A147	
27		刻書	飯沼沢田遺跡 3 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A011	
28		墨書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位?	R A047	
29		墨書	白太郎遺跡 51 次	土師器坏	作部	外面	横位	R G 498	
30		墨書	飯沼沢田遺跡 3 次	土師器坏	作部	外面	横位	R E002	
31		刻書	白太郎遺跡 51 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	横位	R G 498	
32		刻書	木宮窪立 B 遺跡 1 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A005	
33		墨書	木宮窪立 B 遺跡 14 次	土師器坏	作部	外面	正位	R A062	
34		墨書	木宮窪立 B 遺跡 14 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A062	
35		刻書	木宮窪立 B 遺跡 4 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R D054	
36		刻書	木宮窪立 B 遺跡 1 次	土師器坏	作部	外面	正位	遺物外	
37		墨書	飯沼才川遺跡 3 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A005	
38		墨書	小宮遺跡 11 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A021	
39		墨書	網谷地遺跡 8 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A049	
40		墨書	飯沼才川遺跡 3 次	土師器坏 (内黒)	底部	外面	—	R A006	
41		刻書	白太郎遺跡 35 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A513	
42		墨書	木宮窪立 B 遺跡 13 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A039	
43		墨書	木宮窪立 B 遺跡 1 次	土師器坏	作部	外面	正位	R A001	
44		墨書	木宮窪立 B 遺跡 1 次	土師器坏	作部	外面	正位	R A001	
45		墨書	網谷地遺跡 8 次	須恵器坏	底部	外面	—	R A047	
46		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	横位	R A002	
47		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏	作部	外面	横位?	R A002	
48		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏	作部	外面	横位	R A022	
49		刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏	作部	外面	正位?	R A025	
50		刻書	飯沼才川遺跡 3 次	土師器坏 (内黒)	底部	外面	—	R A001	
51		刻書	白太郎遺跡 23 次	土師器坏	作部	外面	横位?	R A201	
52		刻書	木宮窪立 B 遺跡 20 次	土師器坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A076	
53	1 a	刻書	網谷地遺跡 4・5 次	土師器坏	作部	外面	正位?	R A014	
54	1 b	刻書	白太郎遺跡 18 次	土師器高台付坏 (内黒)	作部	外面	正位	R A113	

第23表 盛南地区遺跡出土の9C~10Cの農書土器・刻書土器一覽(2)

No	表文	建号	表号名	器 種	形状	面	位置	出土層標	備考	
55	十方	刻書	台太郎遺跡54次	土師器杯(内黒)	体部	外面	正位	RA580		
56	方方	刻書	台太郎遺跡53次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RD1468		
57	年月	刻書	本宮熊立B遺跡14次	土師器罐	体部	外面	正位	R2912		
58	□方	刻書	小塚遺跡11次	土師器杯	体部	外面	正位	RA023		
59	□方*	刻書	飯岡沢田遺跡3次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA041		
60	上	刻書	福谷地遺跡8次	土師器不(内黒)	体部	外面	横位	RA034		
61	方	刻書	福谷地遺跡8次	土師器不(内黒)	体部	外面	正位	RA025		
62		刻書	向太郎遺跡18次	土師器杯	体部	外面	正位	RA153		
63	村*	刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯(内黒)	体部	外面	正位	RA025		
64	玉*	刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA045		
65	山	刻書	台太郎遺跡18次	須恵器杯	体部	外面	正位	RA136		
66	田*	刻書	本宮熊立B遺跡18次	土師器杯(内黒)	体部	外面	正位	RA069		
67	祝*	刻書	福谷地遺跡8次	土師器高台付杯(内黒)	体部	外面	不明	RA047		
68	七	刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯(黒黒)	体部	外面	正位	RA304		
69	七*	刻書	飯岡沢田遺跡3次	須恵器杯	体部	外面	-	RA007		
70	七八	刻書	飯岡沢田遺跡3次	土師器高台付杯(内黒)	体部	外面	正位	RA001		
71	□	刻書	福谷地遺跡4・5次	土師器杯	体部	外面	横位?	KA010		
72	天*	刻書	台太郎遺跡18次	土師器不(内黒)	体部	外面	側位	表土		
73	工	刻書	本宮熊立B遺跡15次	土師器不	体部	外面	正位	RA048		
74		刻書	小塚遺跡11次	土師器平	体部	外面	正位	RA023		
75		刻書	本宮熊立B遺跡14次	土師器杯	体部	外面	正位	遺物外		
76		刻書	向太郎遺跡18次	土師器杯(内黒)	体部	外面	-	RG488		
77		刻書	向太郎遺跡51次	土師器杯(黒黒)	体部	外面	-	RG488		
78	X		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯(内黒)	体部	外面	-	RG488-490	
79		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯(内黒)	体部	外面	-	RG488-490		
80	X*		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯(内黒)	体部	外面	-	RG488	
81	#		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯(内黒)	体部	外面	横土一丘		
82		刻書	野六A遺跡12次	土師器杯	体部	外面	正位	RA029		
83		刻書	野六A遺跡12次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA019		
84	≡*	刻書	本宮熊立B遺跡18次	土師器杯	体部	外面	正位?	RG097		
85		刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯(内黒)	体部	外面	不明	RA041		
86		刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯	体部	外面	不明	RA042		
87		刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯	体部	外面	不明	RA043		
88		刻書	福谷地遺跡8次	土師器杯	体部	外面	不明	RA044		
89		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯	体部	外面	不明	RG488		
90		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯	体部	外面	不明	RG488		
91		刻書	台太郎遺跡51次	土師器杯	体部	外面	-	RG488		
92		刻書	台太郎遺跡15次	土師器杯(内黒)	体部	外面	横位?	RG045	工?	
93		刻書	台太郎遺跡26次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA214		
94		刻書	台太郎遺跡26次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA214	令?	
95		刻書	台太郎遺跡18次	土師器杯(内黒)	体部	外面	不明	RA113		
96		刻書	台太郎遺跡18次	土師器杯	体部	外面	不明	RA153		
97	不明	刻書	台太郎遺跡18次	土師器杯	体部	外面	不明	RG045	火?	
98		刻書	台太郎遺跡18次	土師器杯(内黒)	体部	外面	不明	表土		
99		刻書	野古A遺跡12次	土師器杯	体部	外面	正位	RA029	幸?	
100		刻書	野古A遺跡12次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA040	吉?	
101		刻書	飯岡沢田遺跡3次	土師器杯(内黒)	体部	外面	横位?	RA011		
102		刻書	本宮熊立B遺跡20次	土師器杯(内黒)	体部	外面	不明	RA008		
103		刻書	本宮熊立B遺跡20次	土師器杯	体部	外面	不明	RA049		
104		刻書	本宮熊立B遺跡18次	土師器杯(内黒)	体部	外面	不明	遺物外		
105		刻書	小塚遺跡2次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	KE003		
106		刻書	小塚遺跡11次	土師器杯(内黒)	体部	外面	側位	RA021	乃?	
107		刻書	本宮熊立B遺跡1次	土師器杯(内黒)	体部	外面	正位?	RA021		
108		刻書	本宮熊立B遺跡1次	土師器杯	体部	外面	不明	RA022		
109		刻書	本宮熊立B遺跡4次	土師器杯	体部	外面	正位?	RD036		

第23表 盛南地区遺跡出土の9C~10Cの墨書土器・刻書土器一覧(3)

No	次文	器別	遺跡名	器 種	部位	面	方位	出土遺構	備考
110		墨書	本宮惣堂B遺跡14次	土師器平	底部	外面	不明	R A068	
111		刻書	南谷地遺跡8次	土師器壺	底部	外面	不明	R A042	
112		刻書	船井地遺跡4・5次	1編器平	底部	外面	正位	R A001	片断状
113		刻書	船谷地遺跡4・5次	土師器耳環	底部	外面	不明	R A015	
114		刻書	船谷地遺跡4・5次	土師器平	底部	外面	正位?	R A017	丸字刻劃
115		刻書	船谷地遺跡4・5次	1編器高台付平(内黒)	底部	外面	倒位?	R D021	
116		刻書	内太郎遺跡51次	土師器平(内黒)	底部	外面	正位	R G498	
117		刻書	台太郎遺跡51次	土師器高台付平(内黒)	底部	外面	正位	R G498	
118		刻書	台太郎遺跡51次	須恵器平	底部	外面	不明	R G498 -499	
119		刻書	野吉A遺跡12次	土師器平	底部	外面	不明	R A024	
120		刻書	野吉A遺跡12次	1編器平(黒化)	底部	外面	不明	R A029	
121		刻書	野吉A遺跡12次	土師器平(内黒)	底部	外面	不明	R A042	
122		刻書	野吉A遺跡13次	土師器高台付平(内黒)	底部	外面	不明	R A032	
123		刻書	野吉A遺跡13次	土師器平	底部	外面	不明	R A052	
124		刻書	野吉A遺跡15次	1編器高台付平(内黒)	底部	外面	不明	R D076	
125		刻書	船岡武田遺跡3次	1編器平	底部	外面	不明	R D083	
126		刻書	本宮惣堂B遺跡13次	土師器平	底部	外面	不明	R A040	
127		刻書	小宮惣堂B遺跡18次	土師器平(内黒)	底部	外面	不明	R A071	
128		刻書	本宮惣堂B遺跡18次	1編器平(内黒)	底部	外面	不明	R A071	
129		刻書	小堀遺跡4次	須恵器長頸壺	底部	外面	不明	R A008	
130		刻書	小堀遺跡4次	土師器壺	底部	外面	不明	R A016	
131		刻書	小宮惣堂B遺跡1次	土師器平	底部	外面	正位?	R A005	
132		刻書	本宮惣堂B遺跡1次	1編器平	底部	外面	不明	遺構外	
133		刻書	本宮惣堂B遺跡1次	土師器平	底部	外面	不明	遺構外	
134		刻書	本宮惣堂B遺跡4次	土師器平	底部	外面	不明	R A010	
135		刻書	本宮惣堂B遺跡14次	土師器平	底部	外面	正位	R A066	

では「成」「得」が多い傾向が見られ、地域ごとに特定の字種が好まれて使用されていることが指摘できる。墨書と刻書の違いから見ると、本調査区と細谷地遺跡第8次調査では墨書の点数が多いが、他の遺跡では刻書の点数が多い傾向が見られる。

以上の特徴から考えると、本調査区は周辺の一級集落と比較すると、①墨書の点数が多く、割合も高い、②字種が多様である、ということが指摘できる。墨書土器ではないが、主に須志器坏を転用した甎が6点も出土している。これらのことは、本調査区に多量の遺物を残した人々が「文字」に接する機会の多い人々であったということが言えよう。本調査区からは堅穴住居跡等の居住域は確認されておらず、どの遺跡の人々が残っていたかという問題もあるが、本調査区にこれらの墨書土器・刻書土器を残した人々は「大」の文字が多いことや墨書の割合が高いことから考えると、細谷地遺跡に住んでいた人々の可能性が高いと考えられる。今回は盛南地区遺跡との比較という狭い地域での比較となったが、他地域との広い範囲での比較検討を行い、本調査区を含む地域の特徴を掘むというのは今後の課題である。

註1 同一個体に複数の文字が記される資料があるため、合計数は115点にはならない。

註2 刻書と墨書が同じ個体に記されているものがあるため、合計数は8点にならない。

(2) 平安時代の木製品

日本のような酸性土壌中では、分解が進み、遺存することは稀である。本調査区の大部分が古代の河道が埋没した部分であるため、適度な水分量が保たれ、多量の木質遺物が出土している。当該期の木製品はほとんどがR Z007からの出土である。その種類は、工具（槌）、容器（挽物・刳物・円形曲物・箱）、食事具（箸）、発火具（付木）、土木材（杭・角状材・杭状材）、その他（壺状・匙状・串状・木札状・杭状・板状・棒状・柱状・不明）、木簡であり、杭などの土木材が最も多い。盛南地区遺跡では比較できる資料がないため、県内の主な遺跡を取り上げ、本調査区の特徴を考えたい。なお、封緘木簡については第Ⅵ章で触れるので、ここでは割愛する。

岩手県内で、平安時代に帰属すると考えられている木製品が出土している主な遺跡は胆沢城跡（水沢市、註3）、徳丹城跡（矢巾町）、落合Ⅱ遺跡（江刺市、註3）、下谷地B遺跡（北上市）、飯岡林崎Ⅱ遺跡（盛岡市）である。落合Ⅱ遺跡は、胆沢城跡と北上川を挟んで西方約3.5kmに位置し、旧河道から多量の土器とともに、工具（槍）、農耕土木具（鋤・杵・ころばし）、漁労具（浮子）、編み具（紡錘車・錘）、食事具（箸）、服飾具（下駄）、容器（皿・椀・槽・曲物）、木簡等の木製品が出土している。木簡の出土事例から、周辺域に郡衙等の公的施設の存在を指摘している。下谷地B遺跡はトレンチ調査のため、詳細は今後の課題としているが、出土遺物は落合Ⅱ遺跡と類似しており、土師器・須志器の他、工具（槌）、農耕土木具（鋤・杵）、食事具（折敷）、服飾具（下駄・袴）、容器（皿・椀・桶・曲物）、調理加工具（柄杓）、祭祀具、木簡等の木製品が出土している。飯岡林崎Ⅱ遺跡は、志波城跡の南東約2kmに位置し、志波城跡が城柵として機能していた9世紀前半代から徳丹城跡へ城柵の機能が移行していった9世紀後半代もしくは10世紀初頭までの堅穴住居跡が検出されている。そのうちの1棟から炭化した槌が出土している。胆沢城跡からは木簡の他、容器（皿・曲物）など、徳丹城跡からは工具や容器などが出土している。本調査区の遺物の種類や出土状況を見ると、①土器類では坏類の占める割合が非常に高い、②墨書土器や刻書土器、木簡などの文字資料が多い、③木製品が多数出土しているなど、落合Ⅱ遺跡や下谷地B遺跡と酷似している。本調査区は農耕土木具や漁労具、編み具など生産活動に係る木製品の出土は見られず、生産に係る事象は不明である。しかし、漆器杯や木簡など官術的な特徴を持つ木製品が出土しており、木遺跡周辺に公的施設の存在が想定されるが、

その所在は全くの不明で、今後の調査成果を待ち、検討したい。

註3 平成17年7月現在の市町村名。

(3) 中近世の遺物

中世及び近世の遺物は少ないため一括して記述する。中近世の遺物は磁器、陶器、木製品等がある。遺構内から出土した資料は少なく、ほとんどが遺構外から出土した資料である。

磁器

磁器には肥前産、中国産の青磁・染付、東北産の染付があり、量的に多いのは肥前産の資料である。量の多寡はあるものの17世紀初頭から19世紀代の資料があり、最も豊富なのは17世紀前半の資料で、染付の碗・小碗・皿、青磁の皿がある。

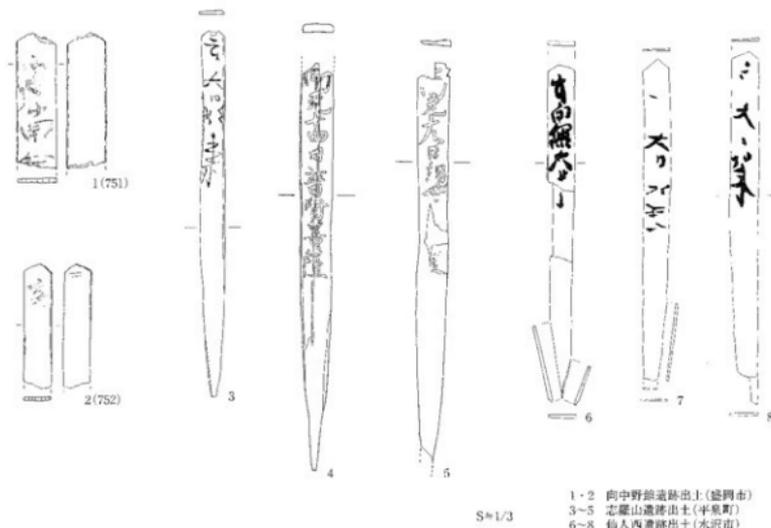
陶器

陶器は珠洲産、肥前産、瀬戸・美濃産、相馬産、唐津産、県内産と各地の資料が出土した。出土量は少ないものの、種類は豊富である。珠洲産と考えられる陶器はR G006の年代を推定する数少ない資料であり、その搬入ルートや詳細な産地の同定など、今後の課題である。

木製品

木製品は工具（楔）、服飾具（下駄）、容器（挽物・蓋板）、食事具（箸）、発火具（付木）、土木材（杭・角状材）、その他（木針状・匙状・木札状・円形・杭状・板状・棒状・不明）、木筒が出土した。

このうち、木筒の特徴をみていきたい。当該期の木筒はR G006の南西隅の遺物が密集している部分からの出土した751と752の2点である。時期は遺構の年代から判断すると、15世紀代と考えられる。同時期と考えられる資料として、水沢市の仙人西遺跡出土の笹塔婆（第88図6～8）が挙げられ



第88図 向中野館遺跡出土の中世木筒と主な笹塔婆

る。これらの資料は方形居館の堀跡から出土したもので、上端は圭頭状に整形していることや幅が1.7cm前後、厚さが0.3cm前後であることなど形態的な特徴は非常に類似している。また、中世居館を構成する堀跡から出土している点にも共通点が見られる。文字については、751の「南」のみが判読できただけで、内容は不明と言わざるをえないが、形態的な特徴から考えると、仙人西遺跡の笹塔婆と同様に、751は「梵字（バン）南無…」、752は「梵字（バン）…」と墨書されている可能性が高い（註4）。これらの資料より古いのが12世紀末の笹塔婆と13世紀後半から14世紀前半の笹塔婆が平泉町の志羅山遺跡から出土している（第88図3～5）。前者は上端が圭頭状で左右二カ所に刻みを持つ形態をしており、後者は仙人西遺跡と同じ形態をしている。この差を時間的な変化によるものと執筆者の羽柴直人氏が指摘しているが、本調査区の資料とも何ら矛盾はなく、その指摘を裏付けるひとつの資料と考えられる。岩手県における笹塔婆の出土事例は少ないため、詳細な検討は資料の増加を待つこととなるが、本調査区出土の資料が志羅山遺跡や仙人西遺跡の笹塔婆と同様の資料であれば、盛岡地域における信仰内容を推察する一助となる資料である。

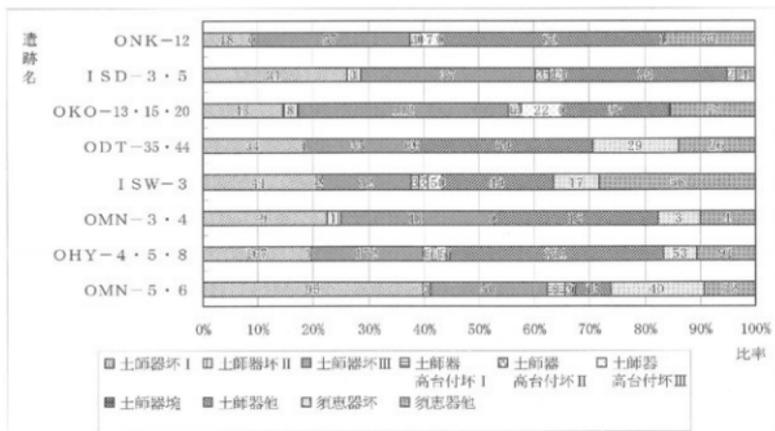
註4 多賀城市埋蔵文化財センターの廣瀬真理子氏や岩手県立博物館の時田里志氏に保存処理後に撮影した赤外線写真を見て頂いたところ、751は「梵字（バン）南無」、752は「梵字（バン）」ではないかとの再指摘を頂いた。

3 総括

以上、遺構と遺物について概要を述べたが、時代ごとに展望と今後の課題を述べて総括とする。

古代

本調査区では堅穴住居跡などの一般集落で確認される遺構は検出されないものの、旧河道内から多量の遺物が出土した。時期は坯の組成や器形等の特徴から9世紀後半から10世紀初頭と捉えられる。そこで、本調査区の性格を考える上で、向中野館遺跡（OMN）、細谷地遺跡（OHY）、飯岡才川遺跡（ISW）、台太郎遺跡（ODT）、野古A遺跡（ONK）、飯岡沢田遺跡（ISD）、本宮熊堂B遺跡（OKO）の同時期（9世紀～10世紀）の堅穴住居跡出土資料を中心に土器組成による比較を試み



第89図 主な盛南地区遺跡の土器組成

た。その結果が第88図で示したとおりである。本調査区をみると、坏類以外では土師器が6.3%、須恵器が9.2%である。周辺の集落遺跡をみると、土師器については、多少の差はあるものの20~30%と圧倒的な差が見られる。須恵器では飯岡才川遺跡が28%強と突出しているものの、その他の遺跡では10~15%と大きな差は見られない。土師器坏を見ると、Ⅰ類が主体となる本調査区、Ⅲ類が主体となる本宮熊堂B遺跡、Ⅰ類とⅢ類がほぼ同じ割合となる他の遺跡となる。須恵器坏に関しては多くの遺跡が数%であるのに対して本調査区と台太郎遺跡が15~16%とやや高い割合となっている。

以上の点から考えると、本調査区は向中野館遺跡を含む同時期の周辺の一般集落とは、①坏類(供膳具)以外(特に土師器)の割合が非常に低く、②須恵器坏の割合が高いという指摘ができる。また、第V章第2節第1項で述べたとおり③墨書土器・刻書土器の出土数が多いということも合わせて指摘できる。これは本調査区が河道に面した集落の縁辺部に位置しており、集落内において居住域とは異なる場の利用(例えば水場祭祀等)がなされた結果と推察される。現段階で結論を下すことは出来ないが、特殊な場の利用の可能性があると指摘するととめ、今後の課題としたい。

中世

向中野館の記述は、『南部叢書』第二冊に附録として記載されている「志和軍戦記(小笠原謙古校訂)」に見られ、「高道は飯岡の城に居住しけるは、…(省略)…、東野文七向中野館に居住して東の押へと承る、…(以下省略)」とある。向中野館は飯岡氏の居城、飯岡館の東方の出城として重要な位置にあったと考えられる。向中野の築城時期であるが、明確な記載は全く見られない。飯岡氏の勢力域にある向中野館は飯岡氏とともに存在したと考えれば、元龜三年(1572年)の飯岡館の戦争で飯岡氏が斯波氏の北進によって滅亡に追いやられる時期が向中野館の廃絶時期となり、存続時期は16世紀末以前となる。R G006堀跡は存続期間中におさまり、これらの資料に見られる向中野館の一部と断定してまず間違いはなからう。館主については、「志和軍戦記」には前述のとおり東野文七の名が見られ、また、『飯岡山の今昔』には向中野館の北館は向中野金吾、南館は東野文七の名が見られる。今回の調査区の南側は小高くなっており、その一帯が南館と考えられている。すると、調査区は北館の範囲内と考えられ、本調査区の館主は向中野金吾の可能性が高いと考えられる。

これまでの調査で検出した遺構は堀跡と土橋である。建物跡は堀内部の未調査区域に展開されると考えられ、今後の調査成果を期待したい。また、向中野館遺跡の北側に位置する台太郎遺跡では14世紀から15世紀と考えられる竪穴建物跡、掘立柱建物跡、墓墳、焼土遺構・灰跡、堀跡などが確認されている。これらとの関係についても今後の検討課題としたい。

近世

本遺跡では17世紀前半代の遺構は見つかっていないが、第5次・第6次調査で肥前産の磁器がまとまって出土しており、遺跡周辺に当該期の有力者が存在していた可能性が非常に高く、今後の調査を期待したい。

おわりに

各時代とも課題が多く残ってしまったが、盛南地区の様相を解明する上で重要な資料を提供している。特に平安時代の遺物には漆器杯などの木質遺物や木簡、墨書土器などの文字資料が豊富で、これまでとは異なる側面から集落の構造を解明する資料となろう。また、わずかではあるが、志波城が古代城柵として機能していた時期と同時期の須恵器が出土している。その外底面には「厨」の墨書がなされており、強い関連性が示唆される。

引用・参考文献 (編者姓の五十音順)

- 秋田県教育委員会編 2001 『中谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第316集
- 飯岡一郎 1981 『飯岡氏史』 pp. 22他 白ゆり印刷
- 飯塚武司 1994 『古代多摩丘陵の木工生産』『東京都埋蔵文化財センター研究論集XⅢ』 pp. 91~133
東京都 東京都埋蔵文化財センター
- 2000 『古代の木工挽物』『東京都埋蔵文化財センター研究論集XⅤ』 pp. 33~57 東京都
東京都埋蔵文化財センター
- 伊藤博幸 1998 『北上盆地南部』『東北地方の古代集落』第3分冊 第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム資料集
- 岩手県教育委員会 1980 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書-VI-1』岩手県文化財調査報告書第50集
- 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-XⅢ-1 太田方八丁遺跡(波波城跡)』岩手県文化財調査報告書第68集
- 1982 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-XⅤ-1 (北上地区)』
岩手県文化財調査報告書第72集
- 岩手県教育委員会編 1986 『岩手の城館跡』岩手県文化財調査報告書第82集
- 岩手県企画開発室 1974 『北上川系開発地域土地分類基本調査 -I 語-』
- 1978 『北上川系開発地域土地分類基本調査 -盛岡-』
- 小笠原隆吉(校訂) 1928 『志和軍戦記』『南部叢書』第二冊 pp. 253~284 岩手県 南部叢書刊行會
- 小笠原勝郎・長岡高久 1988(1990初版第2刷) 『郡南村の歴史』岩手県南町地域史シリーズ26 pp. 46・53・54 熊谷印
刷出版部
- 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 1994 『矢盛遺跡第1次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第205集
(以下、岩手埋文報告書第 集と略す)
- 1995 『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第226集
- 1995 『柳之御所跡 第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告』岩手埋文報告書第228集
- 1996 『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第244集
- 1996 『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第265集
- 1998 『小幡遺跡第5次・第7次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第267集
- 1998 『大宮北・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書』岩手埋文報告書第281集
- 1999 『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第293集
- 1999 『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第308集
- 1999 『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第309集
- 2000 『志麻山遺跡第46・66・74次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第312集
- 2000 『向中野館跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』
岩手埋文報告書第321集
- 2000 『向中野館跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第338集
- 2001 『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第369集
- 2002 『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第377集
- 2002 『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩手埋文報告書第380集
- 2002 『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第393集
- 2002 『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第416集
- 2003 『細谷地遺跡発掘調査報告書-第4・5次調査-』岩手埋文報告書第414集
- 2003 『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第415集
- 2003 『台太郎遺跡第35次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第417集
- 2003 『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第418集
- 2003 『飯岡沢田遺跡第5次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第419集
- 2003 『野古A遺跡第12次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第420集
- 2003 『野古A遺跡第15次発掘調査報告書』岩手埋文報告書第421集

- 2003 『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書』岩手県文報告書第422集
- 2004 『飯岡林崎』遺跡発掘調査報告書（第1・3次調査）『岩手県文報告書第427集
- 2004 『中平入遺跡 第2次発掘調査報告書』岩手県文報告書第443集
- 2001 『矢盛遺跡第3次・熊倉日遺跡第14次発掘調査報告書』岩手県文報告書第451集
- 2004 『細谷地遺跡第8次発掘調査報告書』岩手県文報告書第454集
- 2005 『本宮熊堂B遺跡第18次発掘調査報告書』岩手県文報告書第458集
- 2005 『中平入遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文報告書第465集
- 2004 『本宮熊堂B遺跡第13・15・20次発掘調査報告書』岩手県文報告書第467集
- 2005 『台太郎遺跡第51次発掘調査報告書』岩手県文報告書第468集
- 財団法人大阪府文化財調査研究センター
- 2000 『難波宮跡北西の発掘調査』大阪府警察本部庁舎新築工事に伴う大坂城跡（その6）発掘調査速報
- 財団法人水沢市埋蔵文化財調査センター
- 1997 『仙人西遺跡』水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第8集
- 佐助ヶ谷遺跡発掘調査団 1993 『佐助ヶ谷遺跡（鎌倉税務署用地）発掘調査報告書—第2分冊—』
- 高島英之 2000 『古代出土文字資料の研究』東京堂出版
- 中川久夫ほか 1963 『北上川上流沿岸の第四系および地形』『地質学雑誌』69 pp.163-171
- 中森茂明ほか 1998 『石川県出土墨書上部の基礎的検討』『古代北陸と出土文字資料』pp.75-120 石川社
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
- 奈良国立文化財研究所編 1984 『木器集成四録—近畿古代編』
- 日本道路公団・長野県教育委員会・長野県埋蔵文化財センター
- 1996 『長野県歴代遺跡群川十木簡 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書23
—更埴市内その二—』長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書21
- 1999 『更埴糸里遺跡・歴代遺跡群（含む大境遺跡・森河原遺跡）—古代1編— 本文
上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書26 —更埴市内その5—』
長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書42
- 平川 南 2000 『墨書十器の研究』吉川弘文館
- 広島県車戸千軒町遺跡調査研究所編 1996 『車戸千軒町遺跡発掘調査報告V 中瀬川口内の集落遺跡』
- 水沢市教育委員会 1977 『岩手県水沢市佐倉河原沢城跡—昭和51年度発掘調査概報—』
- 宮城県教育委員会編 1996 『山王遺跡Ⅱ 多賀前地区遺物編』宮城県文化財調査報告書第170集
- 2001 『市川橋遺跡の調査』宮城県文化財調査報告書第184集
- 盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡Ⅰ 太田方八丁遺跡範囲確認調査報告書』
- 1995 『志波城跡 平成元年度発掘調査概報』
- 1999 『志波城跡 平成8・9・10年度発掘調査概報』
- 八木光則ら 1998 『馬淵川流域』『東北地方の古代集落』第1分冊 第24回古代城郭官街遺跡検討会シンポジウム資料集
- 矢巾町教育委員会 1983 『岩手県紫波郡矢巾町徳田徳丹城跡 昭和57年度発掘調査概報』
- 1984 『徳丹城跡 岩手県紫波郡欠川町徳田徳丹城跡 昭和58年度発掘調査概報』
- 山中 幸 1992 『考古資料としての古代木簡』『木簡研究』14

VI 考 察

1 盛岡市向中野館遺跡出土「厨□」銘墨書土器について

石 崎 高 臣

はじめに

2004年(平成16)に実施された向中野館遺跡第5次・第6次調査では木筒とともに多数の墨書土器が出土している。それらの個々の釈文については、第10表にて提示されている。いわゆる吉祥句と考えられる文字が多く、その点では集落遺跡から出土する土器に記された文字と共通している。ただ、その中の773号墨書土器には「厨□」と記されており、注目される。というのも、「厨」銘墨書土器は官衙から出土する事例が多く、岩手県内においても胆沢城・志波城・徳丹城・館畑遺跡・南小泉遺跡といった城柵官衙あるいは官衙関連遺跡から出土しているからである¹⁾。つまり、一般集落と考えられる向中野館遺跡から「厨」銘墨書土器が出土したこと自体の意義・意味が問われなければならないだろう。そこで、「厨」銘墨書土器の基礎的検討を行い、それを踏まえた上で若干の考察を行うことにする。

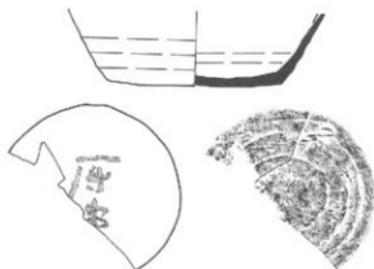
(1) 「厨□」銘墨書土器に関する概要

釈文 厨□×

墨書の特徴 須恵器坏の底部に細筆で行書体にて記されている。「厨」字は底部の中央よりやや外側に、判読不明の2字目がほぼ中央に記されている。文字の大きさは、1字目が22×28mm、2字目は下方が欠損しているため残画から推定される大きさだが、10×12mmである。すなわち、1字目の方が2字目より大きめに記されていることになる(面積でいえば2字目は1字目の約5分の1となる)。

釈文で提示したが、1字目は「厨」と判読した。2字目は判読できず、□とした。資料が欠損しているため一部筆を追えない部分があるが、残画から推定と記されているようである。

墨書の内容 1字目の厨は調理施設を示すものとみて、まず間違いないだろう。第2項で述べるように厨土器が出土した遺構を厨とする見解もあるが、ここではそれを採らない。土器の年代が9世紀初頭であること、出土した遺跡が志波城の南東約2kmと近いことから、土器に記された厨は志波城のそれを指しているとするのが妥当であろう。2字目の字については、類似する「文字」が岩手県盛岡市芋田²⁾遺跡から出土した墨書土器に確認されるので、ここで簡単に検討しておく。当資料についても判読・分析を筆者が行っており、その際もやはり判読せず、そのまま字と報告した。ただ、「山マ」を一筆にて記したものが伝達されるうちに記号化した可能性もあることを指摘した。芋田II遺跡の場合、山マに非常に近い書体のものがあり、それが一筆書きで記されるにしたがって、徐々に書き崩されて



第90図 「厨□」銘墨書土器

いく経過が追えること、土器に記された文字を手本にして複数の人々が同じような「文字」を書き記した例が確認できたことによって、争を「山マ」が記号化されたものではないかと推測した(石崎2005)。

ひるがえって、本資料の場合、類似する墨書土器を見出すことができないので、同様の手続きを踏まえることができず、争が何を指しているのかを推測することはできない。ただ、芋田Ⅱ遺跡がそうであるように、向中野館遺跡も城構官衙と何らかの関連を有していたことが推測されるので、本資料の争も芋田Ⅱ遺跡でなかば記号として意識された争である可能性は高いと考える。

ところで、吉村武彦を中心とした研究グループは全国規模で墨書土器を集成しているが、その中で「厨」と記されたものは582点を数える³³。これらを概観すると、単に厨と記されているもの(A)、他の文字と組み合わせられて記されているもの(B)の大きく2つに分けられる。さらに、Bは厨の前に文字が記されているもの(B-1)、後ろに記されているもの(B-2)、前後に記されているもの(B-3)に細分される。これらのうち、点数がもっとも多いのはAで、410点を数え全体の70.3%をしめる。B-1は120点で20.6%、B-2は35点で6.0%、B-3は6点で1.0%となる(ほかに習書などいずれにも含めていないものが12点ある)。

本資料は2字目の下が欠損しているため、確実なことはいえないけれども、上記の分類に当てはめれば、B-2に属するといえよう。その場合、厨に続く文字は、a:鉢・盤など容器名を記すもの、b:酒・菜など物品名を記すもの、c:田など厨家の付属物を記したものの、d:舎・二など厨の建物を記したものの、e:長など職名を記したものの、f:上のように方向を記したものに分けられる。これらを概観すると、厨に続く文字はそれに関わる意味が込められているといえよう。このことが普遍化できるならば、本資料はB-2型の中で異質な存在だといえるだろう。

筆記の時間差 前項では、本資料が厨の後ろに文字が記されるB-2型の中では異質な存在であることをしてきた。そこで改めて注意されるのは、1字目と2字目の不均衡さである。すなわち、文字の大きさは面積比でいえばかなりの差があること。また、1字目の中心軸と2字目のそれとは一致していないことである。2字以上を記すとき、同じような大きさで、文字の軸をほぼそろえて筆記されるのが常態だろうし、現に多くの資料はそうした傾向にある。このような点からすれば、本資料の2つの文字は、同時に記されたものではない可能性が高いのではなからうか。墨痕の重なり具合という直接的に前後関係を示すものがないため確実なことはいえないが、厨が先に記され、その後争と書き加えられたと考えるのが自然であろう。一字目は志波城で記されたであろうが、二字目が書かれた場については、志波城もしくは向中野館遺跡のいずれかであろうが、本資料だけでは特定することはできない。

(2)「厨」銘墨書土器に関する研究史

ここでは全国から出土する「厨」銘墨書土器(以下、煩雑になるので厨土器と略称する)の研究について概観する。ただ、研究史については、厨土器を含めた郡家および郡家関連遺跡から出土する墨書土器一般について検討を加えた山中敏史の研究(山中2003)でふれられており、そちらを参考にさせていただきたい。ここでは、厨土器の機能と出土遺構の性格とに限ってしておく。

出土遺構の性格 津野仁は、官衙遺跡から出土する所管者を記したと考えられる墨書土器(津野はこれを所管名墨書土器とする)が他の文字資料から導き出される遺跡の性格と一致することから、その墨書土器銘が「所管主体を示すもの」だとしている(津野1990)。すなわち、厨土器が出土した場合、その遺構の周辺に厨が存在していたとするのである。これについて、平川南は厨土器の出土量が少ないこと、確実に厨と考えられるのは胆沢城跡S E 1050を中心としてコ字形に配置された掘立柱建物群

のみであることから、厨土器が出土する遺構を即厨とはみなせないとした（平川2000）。この平川の見解は墨書土器を文字のみではなく考古遺物として出土遺跡・遺構をふまえた上で導き出されたものであり、その点評価されている。しかし、石毛彩子は「胆沢城や平城宮人跡職でみられるような建物の配置例だけが「厨」施設とは限らない」（p80）とし、多くの厨土器が出土する御子ヶ谷遺跡のI期の建物群を厨家としている（石毛2003）。以上からは厨土器が出土する遺跡あるいは遺構を厨と認定するか否かという点で見解が分かれている。

厨土器の機能 津野は土器に記された文字がおおむね所管者であり、これが他の文字資料などと一致することから、土器に文字を記すのは「管理・使用者（所）を示す」ためだとする（津野1990）。これに対し、平川は厨房で使用される土器の総数は龐大であろうと推測されるのに出土する「厨」墨書土器の数があまりにも少ないことから、管理するために記銘したとすることに疑問を呈し、饗饌の主体を明示するために記されたのであろうとする（平川2000）。石毛は「食器管理のために墨書したとする従来の見解に立っても、管理対象の食器の一部に墨書したとすれば問題とはならなくなる」（p80）として土器に文字を記すのは管理のためだとする（石毛2003）。ここでも墨書土器の機能を管理のためとみるか土器を用いた饗饌の主体とみるかで意見が分かれている。

小結 以上のことから、厨土器に対しては大きく2つの説に分かれることが判明した。すなわち、厨時が出土した遺跡あるいは遺構については、それを厨とみなすか、それ以外の性格の場合があったことを想定するかである。また、厨土器が果たした機能については、食器の管理のためか食器を用いた饗饌の主体者を明示するためである。これについては、次のように考える。まず、出土遺構の性格についてだが、厨土器が出土した遺構を単純に厨だとするのは問題がある（もちろん、厨の場合もある）。後述するように、胆沢城では城内の各地点から厨土器が出土しており、これらすべてが厨ではない。このことは官衙内で土器が移動することを示しており、これを考慮すれば鹿嶋市神野向遺跡で「鹿厨」と記された墨書土器が堅穴建物から出土したからといって、それが「厨房関係施設として採用されていた可能性」（山中2003：p107）まで考える必要はないだろう。次に、記銘の目的だが基本的に官衙内で使用される土器が個人に属するものではなく厨で管理されるべきもので、そうした認識が徹底していたならば、土器にわざわざ「厨」と記すことはないだろう。ここでは、平川のいうように饗饌の主体を明示するためと解しておきたい。

（3）盛岡地域周辺における厨の機能とその意義

向中野館遺跡とその性格

前節では厨土器について、その研究史を概観した。そこでは、従来、「厨」と記された土器が出土した場合、その遺跡・遺構を無批判に厨あるいは厨に関わるものとしていたことが改められ、遺跡の性格や遺構の様相をふまえた上で厨土器の意義を見いだすべきことが明らかになった。そこで、向中野館遺跡から厨土器出土した意義について考察する前に、遺跡あるいは遺構の性格について若干検討しておきたい。

これまで向中野館遺跡では6次に及ぶ調査が行われている。中世の堀が3条と土橋が1基検出されているほか、古代の堅穴住居・溝・土坑が検出されている。前者は中世の居館である向中野北館に伴うものと考えられ、後者は集落の一部と推測される。向中野館遺跡の北側には台太郎遺跡が位置し、7世紀中ごろから集落が形成され始めるが、古代においては両者の間には湿地が広がっていたという（『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』）。今次調査では山河道が検出されたが、これは本遺跡の西側で細谷地遺跡と飯岡才川遺跡とを隔てており、本遺跡も同じようにこの旧河道によって南側に展開する

細谷地遺跡と画されている。一方、西側には飯岡才川遺跡が広がるが、この遺跡とは地形的には連続している。したがって、本遺跡は台太郎遺跡・細谷地遺跡とは隔てられており、西側に展開する飯岡才川遺跡と一連の集落遺跡だと捉えるべきだろう。

とすれば、向中野館遺跡から厨土器が出土したのは、官の給食活動に伴う結果ではなく、別の要因を想定すべきであろう。ここで想起すべきは、厨が官の給食活動だけではなく、官衙内外における饗応にも対応していることである（平川2000）。このことを勘案すれば、当資料は志波城が行った饗応で使用されたものと考えられるのである。

向中野館遺跡から「厨」銘墨書土器が出土した意義

城柵が在地の人々に対して行う饗応は、職員令70大因条に規定される「饗給」とみて大過ないと思われる。今泉隆雄は、城柵に朝貢し服属の誓約をした「蝦夷」に対してその反対給付として行われたのが饗給で、この朝貢と饗給を通じて「天皇と蝦夷の支配・服属の関係が確認・維持された」とする（今泉1986：p148）。今泉は出家の利稲収納時の「拳納秋饗」にもふれているが、饗給を朝貢してきた「蝦夷」に対して城柵で行われるものと理解しているようである。この理解は、「饗給」は、主として国府・城柵を舞台として、朝貢してきた夷狄と共同飲食によって人格的関係を結び、平和的に国家側の徳に帰せしめる手段」（養島2001：p143）ともされているように、現在においても受け継がれている。確かに史料を見渡せば、「蝦夷」が饗給を受けている場合は朝貢する城柵がほとんどで、「蝦夷」の居住地で国家側が饗応していることを伝える史料はない。ではなぜ、「蝦夷」に対する饗給が城柵における朝貢と対応する形でしか伝えられていないのだろうか。それは残された史料の性格によるものと考えられる。いうまでもなく、この時期の史料は、木簡や漆紙文書を除けばすべて律令国家側によって編纂された二次史料がほとんどで、そこには「蝦夷」とは天皇の徳を慕って朝貢してくる（あるいはすべき）存在という意識が反映されていたことは想像に難くない。とすれば、そうした自己に都合のよいを「蝦夷」が城柵に朝貢し、その反対給付としての饗給が行われた記事ばかりが残され、逆に律令国家側が「蝦夷」を饗応する記事が残らなかったからではないか。すなわち、六国史や他の編纂史料に見られる饗給は、陸奥・出羽両国で行われた饗給の全てではなく、一部の偏ったものであると見なすべきと考えられる。もちろん、朝貢に対応する饗給も行われていたであろうが、より日常的には律令国家側が在地の首長の拠点に赴いて饗応していたのではなかろうか。本資料はその一端を示すものと評価したい。

むすびにかえて

先に向中野館遺跡は西側に広がる飯岡才川遺跡と一連であると指摘したが、そこでは倉庫と考えられる2×2間の総柱建物が複数並んで検出されている。これらが同時に存在していたという確証はないが、周辺の集落遺跡で検出される類似の遺構が単独で検出されるのとは明らかに状況を異にする。これらの建物が何が収納されていたかは不明だが、穀物である可能性は高く、とすれば飯岡才川遺跡に展開する集落には多くの食料が蓄えられていたことになる。また、他にも居住用と考えられる掘立柱建物も検出されている。住まいとしての掘立柱建物は同時に2つ以上の集落で建てられることはない。したがって、そこに住まう者は建物が検出された集落だけでなく周辺の集落の上に立つ人物だった可能性が高い。これらの掘立柱建物は全て9世紀後半のものだが、当該期にそうした有力者が飯岡才川遺跡に現れた背景にはそれ以前から城柵と関わりを持っていたからだと考えられる。おそらく饗応を通じて城柵と関わりを深め、それを契機に成長していったと推測されるのである。

註

- (1) 篠原遺跡は徳丹城の北東に隣接する遺跡で、2×2間の総柱建物や廂を有する掘立柱建物が見出されている。このことと、「別荘」と記された墨書土器が出土していることから、徳丹城と密接な関係にあると考えられる(西野2004)。
小泉遺跡は未だ本格的な調査が行われておらず、その性格については不明な点が多く、しかも正式な報告書が刊行されていないので、しばらく措く。なお、『陸前高田市立博物館紀要』第9号は「小泉遺跡出土の墨書土器の研究」と題された特集号であり、掲載された各論考を参考にした。また、『海の歴史—小泉遺跡が語りかけるもの—』と題された法政大学国際日本学サテライトシンポジウムが2004年8月に陸前高田市で開催されており、その資料は『法政大学国際日本学研究所研究報告』第4集に再録されている。筆者はシンポジウムに参加していないが、当日の報告および討論を同書にて参考にしている。
- (2) 芋田1遺跡から出土した墨書土器には非常に細かく文字が記されたものがあり、またそのものではないが別天文字風の記号が記されたものがあることから、筆者は当遺跡が城権官衙と近い関係にある集落ではないかと推測した(石崎2005)。
- (3) 全国墨書・刻書土器データベース
- (4) 平城宮代理北方官衙地区から出土した土器には「介拈勿他人取(拈を弁へ他人の取るなかれ)とか「弁拈勿他人者(拈を弁へ他人のものとするなかれ)と記されたものがある(いずれも『平城宮墨書土器集成』。に所収)。これらは文字を記した土器の所(保)有を強く主張したものと考えられるが、裏返せばのように文字を書き記さなければならなかったということは官衙内の土器が個人に属するものではなく、官のものだったことを示しているのではかからうか。

【参考文献】

- 石毛彰子 2003 『駿河国志人郡衙・益頭郡衙の墨書土器』
『古代官衙・集落と墨書土器』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
- 石崎高臣 2005 『墨書土器について』『芋田1遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第457集
- 伊藤博幸 2004 『東北地方における「野」銘墨書土器出土遺跡について』
『法政大学国際日本学研究所研究報告』第4集
- 今泉隆雄 1986 『蝦夷の朝貢と妻給』高橋富雄編『古代東北史の研究』吉川弘文館
- 津野 仁 1990 『地方官衙跡出土の墨書土器』『古代』89
- 西野 修 2004 『徳丹城と蝦夷社会』蝦夷研究会編『古代蝦夷と律令国家』高志書院
- 平川 南 2000 a 『野』墨書土器論』『墨書土器の研究』吉川弘文館(初出は1993年)
2000 b 『墨書土器と辺境』『墨書土器の研究』吉川弘文館
- 糞島栄紀 2001 『古代の陸奥・出羽における交易と交易者』『古代国家と北方社会』吉川弘文館
- 山中敏史 2003 『郡衙による食器管理と供給』
『古代官衙・集落と墨書土器』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

2 向中野館遺跡第5次調査出土封緘木簡について

石 崎 高 臣

釈文

(墨痕なし)

358×38×11 041

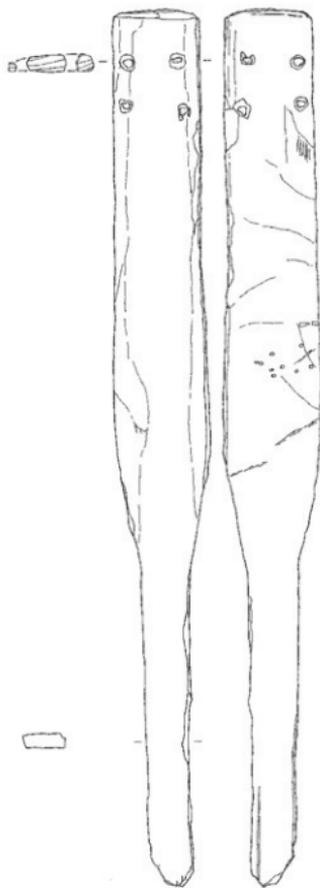
形状

長方形の材の一端の左右が削られ、羽子板状を呈している。柄部₁₀の端などが欠損しているが、おおむね原形を留めている。体部上方に径4mm前後の孔があげられている。外面からみて、右上の孔をイとし、以下時計回りにロ・ハ・ニとした場合、イ-ロ間は20mm、ロ-ハ間は23mm、ハ-ニ間は17mm、ニ-イ間は21mmを測る。全長は308mmだが、体部は188mm、柄部は170mmである。幅38mmは体部を測ったもので、柄部の幅は19mmである。柄部の端から129mmまではこの幅で一定するが、それより先は体部に向かって徐々に幅広がっている。体部側面には切り込みなどは認められない。

内容

形状からいわずゆる封緘木簡と考えられる。ただ、そうした場合、体部に孔が穿たれていることが問題となる。孔がいつ穿たれたのか、現時点では判断できかねるので、この孔が木簡に伴うものか、それとも孔があった材を選んで封緘木簡に転用したのか、不明とせざるを得ない。仮に前者とした場合、紐を通して結び、封緘の役割を果たしたとも推測される。また、後者の場合、孔が穿たれた材でも封緘木簡に転用することがあったことを示唆する。いずれにせよ、これまでのところ孔が穿たれた封緘木簡は知られていないので、確かなことは分からない。なお類例(の出土)を待つことにする。

前述のように、体部の長さは188mmだが、これでは文書を縦紙₁₀として折って挟むことはできない。したがって、天地方向に少なくとも1回折ったものが挟まれていたはずである。なお、孔ロ・ハより下の部分の長さは145mmである。化粧裁ちしていない一枚物の公文の紙高は290mm前後が多く(杉本2001)、145mmという数値は偶然にもこの半



第91図 封緘木簡

分にあたる。先に体部に穿たれた4つの孔に紐を通し、封緘の役割を果たした可能性を指摘したが、仮にこの4つの孔に紐が通されていたとしても、文書を挟むことは可能だったことをつけ加えておく。

また、体部の幅は38mmである。文書の料紙の左右の長さを天地の倍の約590mmとした時、その16分の1は36.25mmとなり、38mmに近い数値となる。つまり、本資料には料紙を左右方向に4回2つ折りしたものが挟まれていたと推測される。

本資料の地域史的意義

封緘木簡が出土したということは、本遺跡（またはこれと一体だった飯岡才川遺跡）に関わっている人物が、外部と文書あるいは書状などをやりとりしていることを示している。その人物とは、本資料の年代が9世紀中ごろという時期や出土遺跡の様相から城柵に関わる官人ではないことは明らかで、おそらくは在地の有力首長ではないかと考えられる。そして、その相手は胆沢城に置かれた鎮守府あるいはそこに勤務する官人である可能性が最も高いだろう。このように考えて誤りなれば、城柵が北上盆地中部に「後退」しても、北部の首長たちはなお城柵と関わりを持っていたことになる。周辺地域は三十八年戦争が「終結」してもなお不安定な状況だったことが明らかにされているが、一部には城柵すなわち律令国家と連絡を通ずる在地の首長も一方でいたことには注意すべきと思われる。

註

- (1) 後述のように本木簡はいわゆる封緘木簡と考えられる。封緘木簡の各部位の名称は、佐藤信1997に従った。
 (2) 「料紙を折ったり切ったりせず、そのまま金紙を使って文書を書く場合の形を塹紙」という（鈴木茂男1976）。

【参考文献】

- 佐藤 信 1997 「封緘木簡考」『日本古代の宮都と木簡』吉川弘文館
 杉本一樹 2001 「律令制公文書の基礎的観察」『日本古代文書の研究』吉川弘文館
 鈴木茂男 1976 「文書のかたちと折り方」『書の日本文』第9巻 平凡社

附編Ⅰ 向中野館遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

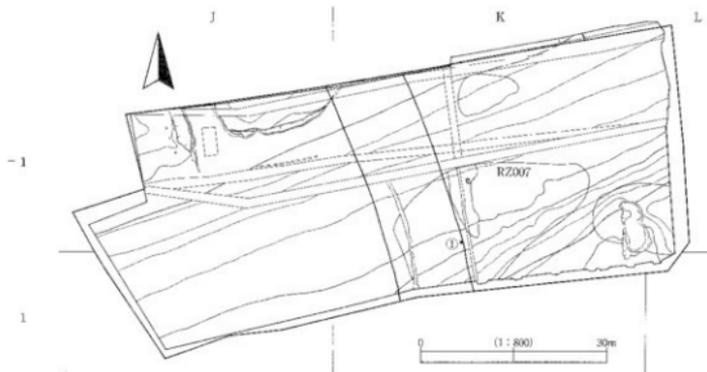
向中野館遺跡は、岩手県盛岡市飯岡新田に所在し、零石川によって形成された低位段丘縁辺部に立地する。これまで継続的に行われた発掘調査の結果、平安時代の遺物集中部、中世の堀跡や中世以降の柱穴状土坑等が確認され、当該期と考えられる土師器や須恵器、木製品、種実遺体や木片等の大型植物化石が出土している。周辺遺跡の発掘調査成果や発掘調査時の土層観察等によって、旧河道の存在が明らかとされている。この河道内には黒色-黒灰色を呈する泥質の堆積物が認められ、当堆積物の堆積状況や遺物の出土状況から、平安時代頃には低湿地化していたことが指摘されている。

本報告では、主として平安時代の遺跡周辺の環境復元を行うために、次の自然科学分析を実施した。1) 第6次・第5次調査区内より採取された種実遺体及び土壌を対象に種実遺体同定、2) 第6次調査区内より採取した土壌中から抽出した昆虫化石同定、3) 平安時代頃の本遺跡の植生(特に、イネ科植物)に関わる資料を得るため、上述の旧河道内堆積物より採取された土壌を対象として植物珪酸体分析を行う。

1 種実遺体同定

(1) 試料

試料は、第5次及び第6次調査区内から調査時に採取された種実遺体42試料(第5次:単体No①-⑩、第6次:単体No1-28)と、旧河道包含層内(RZ007:23n、下図①)の黒色土層より採取された土壌1点(6層)の計43点である。各試料の詳細は、結果と共に附表1に示す。



(2) 分析方法

土壌試料は、200cc程度を水に一晩液浸し、泥化を促す。0.5mm目の篩を通して水洗し、残渣を粒径別にシャーレに集めた後、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。種実遺体の形態

的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川, 1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか, 2000)等と比較し、種類を同定し個数を求める。分析後の種実遺体は、種類毎にビンに入れ、単体試料は乾燥剤を入れて保存する。土壌試料から得られた種実は、70%程度のエタノール溶液による液浸処理を施して保存する。

(3) 結 果

結果を附表1に示す。栽培植物のソモモ、モモ、イネ、アサ、メロン類を含む木本9分類群42個、草本22分類群391個の種実が同定された。単体試料からは、木本7分類群(オニグルミ、ソモモ、モモ、サクラ属、クマヤナギ属、ブドウ属、ブドウ科)39個、草本10分類群(ミクリ属、イネ、ホタルイ属、カヤツリグサ科、カナメグサ、アサ、タデ属、フサモ属、メロン類、ウリ科)36個が検出された。一方、土壌試料からは、木本2分類群(ヤマグワ、ニウトコ)3個、草本18分類群(ミクリ属、ヒルムシロ属、ヘラオモダカ、オモダカ属、オモダカ科、イネ、ホタルイ属、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属、キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属、オトギリソウ属、フサモ属、セリ科、イヌコウジュ属、シロネ属、ナス科)355個が検出された。土壌試料中に認められた種実遺体は、単体試料より得られた分類群よりも小型の種実の多い傾向を示す。

種実の遺存状態は、栽培植物のイネ(単体No23)が炭化していたが、この他はいずれも比較的良形で、ソモモ、モモには害菌類(ネズミなど)による食害痕を有する個体が認められた。以下に、本分析にて同定された種実の形態的特徴等を、木本、草本の順に記す。

<木本>

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の完形、半分以下の破片が検出された。灰褐色、広卵形で頂部がやや尖る。径3.0~3.5cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れた個体(単体No4, 14)がみられる。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

種子が検出された。黄褐色、三角状広倒卵形。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。長さ2.0mm、径1.7mm程度。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・ソモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形と半分以下の破片が検出された。灰褐色、レンズ状の広楕円体でやや偏平。径1.5cm、厚さ8.0mm程度。基部は丸く臍点がある。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線上に害菌類(ネズミなど)によると考えられる食害痕が認められる個体(単体No6)がみられる。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核(内果皮)の完形と半分以下の破片が検出された。灰褐色、広楕円体でやや偏平。頂部はやや尖る。基部は切形で中央部に湾入した臍がある。長さ2.0~3.0cm、幅1.5~2.5cm、厚さ1.5~2.0cm程度。1本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れた個体(単体No1, 3)や、縫合線上に害菌類(ネズミなど)によると考えられる食害痕が認められる個体(単体No28)がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

・サクランボ属 (*Prunus*) バラ科

核 (内果皮) が検出された。淡灰褐色、広楕円体でやや偏平。径6.0mm、厚さ5.0mm程度。基部は丸く大きな窪点が入り、頂部はやや尖る。1本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は厚く硬く、表面はやや平滑。

・クマヤナギ属 (*Berberia*) クロウモドキ科

核 (内果皮) が検出された。黄灰褐色、長楕円体でやや偏平。長さ5.5mm、幅3.5mm、厚さ2.5mm程度。背腹両面の正中線上に深い溝があり、着点はやや深く切れこむ。内果皮は厚く硬く、表面は粗面。

・ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子が検出された。黒褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。長さ4.5mm、径4.0mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。なお、同定根拠となる背面が欠損した破損個体を、ブドウ科 (*Vitaceae*) と同定するにとどめた。

・ニワトコ (*Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) Hara) スイカズラ科ニワトコ属

核 (内果皮) が検出された。淡～黄褐色、広倒卵形でやや偏平、長さ2.0mm、幅1.3mm程度。基部はやや尖る。背面は円みがあり、腹面正中線上は鈍稜をなす。腹面基部には小さな孔がある。内果皮はやや硬く、表面には横皺状模様が発達する。

<草本>

・ミクリ属 (*Sparganium*) ミクリ科

果実が検出された。淡灰褐色、紡錘状倒卵体。長さ5.0mm、径2.5mm程度。果皮はスポンジ状で、表面には数本の鋭い縦隆条が配列する。

・ヒルムシロ属 (*Potamogeton*) ヒルムシロ科

果実が検出された。淡褐色、左右非対称な倒卵体でやや偏平。径3.0mm、厚さ1.0mm程度。先端に嘴状の太い花柱基部が残る。側面の正中線上に深い縦溝と稜があり、その基部に1個の刺状突起がある。果皮はスポンジ状でざらつく。

・ヘラオモダカ (*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche) オモダカ科サジオモダカ属

果実が検出された。淡褐色、楕円形で偏平、基部は切形。径2.0mm程度。背部に深い縦溝が1本走る。果皮はスポンジ状で柔らかく、中の種子が透けてみえる。種子は茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。径1.0mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・オモダカ属 (*Sagittaria*) オモダカ科

果実が検出された。淡黄褐色、倒卵形で偏平。径3.2mm程度。果皮は薄く翼状。翼の外形は欠損する。表面は微細な網目が縦方向に並ぶ。果皮は透き通るため、中の種子が透けてみられる。中の種子は茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・オモダカ科 (*Alismataceae*)

種子が検出された。茶褐色、倒U字状に曲がった円柱状で偏平。径1.2mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎 (果) の破片が検出された。長楕円形でやや偏平。長さ6.0mm、幅4.0mm、厚さ1.5mm程度。胚乳は炭化しており黒色を呈す。表面には穎が付着しているため、2～3本走る縦溝はやや不明瞭。

穎は淡褐色、炭化個体は黒色。基部に円柱状の特徴的な果実序柄がある。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

・ホタルイ属 (*Scirpus*) カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色。片凸レンズ状の広倒卵形。径2.0mm程度。背面はやや高く稜がある。先端部は尖り、基部から伸びる逆刺を持つ鬚状の腕が残る。表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。上述のホタルイ属以外の形態上差異のある複数の種を一括した。淡～黒褐色。三稜またはレンズ状倒卵体。径2.0～3.0mm程度。頂部の柱頭部分が伸びる個体(土壌No.1)などがみられる。表面には微細な網目模様がありざらつく個体や、やや平滑な個体がみられる。

・イボクサ (*Aneilema keisak* Hassk.) ツクサ科イボクサ属

種子が検出された。灰褐色。半楕長楕円体。径2.5mm程度。背向は丸みがあり、腹向は平ら。臍は線形で腹面の正中線上にあり、胚は一側面の浅い円形の凹みに存在する。種皮は柔らかく、表面は円形の微小孔が多数存在する。

・ミズアオイ属 (*Monochoria*) ミズアオイ科

種子が検出された。淡褐色、楕円体。長さ1.0mm、径0.6mm程度。種皮は薄く透き通り、柔らかい。表面には10本程度の縦隆条が配列し、縦隆条の間には多数の横隆条が連絡する。

・カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.) クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色。側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径4.0mm、厚さ1.0mm程度。頂部はやや尖り、縦方向に一周する稜に沿って半分に割れている。基部には淡黄褐色でハート形の臍点がある。種皮は薄くやや硬い。

・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、三角状広倒卵状楕円形。長さ4.0mm、幅3.0mm、厚さ2.5mm程度。縦方向に一周する稜があり、基部には淡褐色で楕円形の臍点がある。種皮表面には葉脈状網目模様がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。黒褐色、三稜形または両凸レンズ状広卵体。長さ3.0mm、幅2.0mm程度。正中線上に鈍稜がある。果皮表面は明瞭な網目模様があり、ざらつく。また、表面には花被が残存しており、花被表面には腺点が発達する。

・キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属 (*Potentilla-Duchesnea-Fragaria*)バラ科核(内果皮)が検出された。灰褐色、腎形でやや偏平。径1.0～1.2mm程度。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で、2～4個の隆条が斜上する。

・オトギリソウ属 (*Hypericum*) オトギリソウ科

種子が検出された。黒褐色、線状長楕円体。両端は短い突起状。長さ1.0～1.5mm、径0.5mm程度。種皮は微細に横長の凹点による網目模様が配列する。

・フサモ属 (*Myriophyllum*) アリノトウグサ科

果実が検出された。淡灰褐色、三稜状広倒卵体。長さ1.7mm、径1.0mm程度。基部は斜切形で長楕円形の臍がある。腹面正中線上に鈍稜がある。背面には3～4本の突起が配列するスポンジ状の翼がある。果皮は厚く、表面は粗面。

・セリ科 (Umbelliferae)

果実が検出された。淡灰褐色、長楕円形でやや偏平。長さ2.0mm、幅1.5mm、厚さ0.5mm程度。果皮はス

ボンジ状で、表面には数本の幅広い稜があり、その間に半透明で黄褐色の油管が配列する。

・イヌコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実が検出された。淡褐色、側広卵体。径1.3mm程度。基部は舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には大きく不規則な網目模様がある。

・シロネ属 (*Lycopus*) シソ科

果実が検出された。黄褐色、広倒卵三角状三棱形。長さ1.5mm、径0.8mm程度。基部は切形で長楕円形の臍がある。背面は平らで、腹面の正中線上は鈍稜をなす。両縁に淡褐色でスポンジ状の翼をもつ。

・ナス科 (*Solanaceae*)

種子が検出された。淡灰褐色、歪な腎臓形で偏平。径2.2mm程度。側面のくびれた部分に臍がある。種皮は薄く柔らかく、表面には星形状の網目模様が臍を中心に同心円状に発達する。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ6.5mm、幅3.0mm程度で、藤下(1984)の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子(長さ6.1~8.0mm)に該当する。基部には倒「ハ」の字形の凹みと臍がある。種皮表面はやや平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・ウリ科 (*Cucurbitaceae*)

種子が検出された。淡灰褐色、倒皮針形で偏平。長さ18.0mm、幅10.0mm、厚さ1.0mm程度。基部は斜切形で倒「ハ」の字形の凹みと楕円形の臍がある。両面の全縁には段差があり薄くなる。種皮表面はやや平滑。

(4) 考 察

分析の結果、木本9分類群42個、草本22分類群391個の種実が検出された。これらの種実遺体は、別報の第5次調査区における種実遺体の種類構成と同様の傾向を示す。また、土壌試料中からは、単体試料で認められる分類群と比較して、草本類が多く、より小型の種実が多い傾向が認められた。このうち、スモモ、モモ、イネ、アサ、メロン類は、古くから栽培のために渡来した植物であり(南木, 1991)、スモモやモモは観賞用の他、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネは、胚乳が食用されるが、炭化していることから何らかし理由で火熱を受け炭化したと推測される。この他に、アサは種子が食用や油料、繊維が衣料や縄用に利用され、メロン類は果実が食用される。これらの栽培植物の可食部である種実が検出されたことや、上述した発掘調査所見を考慮すると、当該期の本遺跡周辺で利用された残渣等が含まれている可能性がある。

一方、栽培植物を除く種実遺体分類群は、木本類7分類群、草本19分類群から構成される。木本類は、いずれも落葉広葉樹で、高木のオニグルミは沢筋などの適湿の地などに生育していたものに由来すると考えられる。硬い枝や種皮をもつ鳥獸散布型種実である高木のヤマグリ、サクラ属、低木のニワトコ、籐木のクマヤナギ属、ブドウ属を含むブドウ科などは、伐採地や崩壊地などに先駆的に侵入する種類を多く含むことから、周辺の森林の林縁部などに生育していたものに由来すると考えられる。また、草本類の多くは、人里近くに開けた草地を形成する、いわゆる人里植物に属する種類であることから、遺跡周辺に生育していたと考えられる。この他に、水生植物のミクリ属、ヒルムシロ属や、ヘラオモダカ、オモダカ属などのオモダカ科、ホタルイ属の一部、イボクサ、ミズアオイ属、フサモ属、やや湿ったところに生育する種類を含むカヤツリグサ科、タデ属、セリ科などは、栽培植物のイネが共に検出されていることを考慮すると、稲作に伴う水田雑草として生育したものも含まれる可能性がある。また、カヤツリグサ科、カナムグラ、タデ属、キジムシロ属へビイチゴ属オランダイ

附表1. 種実分析結果

試料	No	採取地点	採取部位	分組群															
				オニグルミ		ヤマダマ		スモモ		モモ		サクラ属		クマヤナギ属		ブドウ科		ニワトコ	
				核	種子	核	種子	核	種子	核	種子	核	種子	核	種子	核	種子	核	種子
				完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片	完形	破片		
単体	1	926	R Z 007	20 j	4層					1									
	2	927	R Z 007	21m	4層					1									
	3	922	R Z 007	22m	6層					1									
	4	906	R Z 007	21 i	6層		1												
	5	921	R Z 007	24m	6層					1									
	6	932	R Z 007	22m	6層					1									
	7	929	R Z 007	1 l	3層					1									
	8	904	R Z 007	1 l	10層	1													
	9	915	R Z 007	20 k	12層					1									
	10	916	R Z 007	22m	12層					1									
	11	917	R Z 007	19 q	12層					1									
	12	925	R Z 007	19 t	5層					1									
	13	911	R Z 007	23 k	15層				1		6								
	14	902	R Z 007	23 k	15層		1												
	15	901	R Z 007	19 k	15層	1			1		3								
	16	912	R Z 007	21 l	15層						2								
	17	939	R Z 008	21 b	3~6層					1									
	18	938	R Z 008	22 b	6層					1									
	19	937	R Z 008	21 b	6層					1									
	20	910	R Z 006	11 l	2層					1									
	21	941	R Z 006		覆上下位														
	22	907	R D 010		覆土					1									
	23	935	R Z 007	24m	4~10層									1	2	1			
	24	936	R Z 007	24m	4~10層														
	25	934	R Z 007	24m	4~10層						1								
	26	942	遺構外 (B区)	13 p	Via層														
	27	909	R Z 002		覆土上位					1									
	28	908	R Z 002		覆土上位					1									
上塊200cc	1	R Z 007	23 n	6層		1											2		
	①	957	R Z 007	3 k	3~4層					2									
	②	959	R Z 007	25 f	5層					2									
	③	953	R Z 007	1 g	6層					1									
	④	956	R Z 007	22 f	5層					1									
	⑤	954	R Z 007	22 h	6層					1									
	⑥	958	R Z 007	22 g	12層					1									
	⑦	951	R Z 007	3 k	3~4層		1												
	⑧	955	R Z 007	23 j	6層					1									
	⑨	960	R Z 007	23 g	4層														
	⑩	962	R Z 007	2 g	6層														
	⑪	961	R Z 007	2 g	4層														
	⑫	963	R Z 007	2 g	6層														
⑬	964	R Z 007	3 g	4層															
⑭	952	R Z 007	25 g	6層						1									

チゴ属、オトギリソウ属、イヌコウジュ属、シロネ属、ナス科などは、やや乾燥した場所に生育していた個体由来すると考えられる。

これらの自生する分類群のうち、オニグルミは、堅果が食用・長期保存可能で収量も多いことから、古くから里山で保護されてきた有用植物であり、周辺に生育したものを利用していた可能性がある。また、ヤマグワ、サクラ属の一部、ブドウ属は、果実が食用可能である。ナス科等には、野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培等、種実や種実以外の部位の利用形態が考えられるが(青葉, 1991)、現段階での種類の細分では判断できないため、今後の課題としたい。

引用文献

- 青葉 高, 1991, 野菜の日本史, 八坂書房, 317p.
 藤下典之, 1984, 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法, 古文化財の自然科学的研究, 古文化財編集委員会編, 同朋舎, 638-654.
 石川茂雄, 1994, 棕色日本植物種写真図鑑, 石川茂雄園芸刊行委員会, 328p.
 南木睦彦, 1991, 栽培植物, 古墳時代の研究 4 牛産と流通, 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編, 雄山閣, 165-174.
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑, 東北大学出版会, 642p.

2 昆虫化石同定

(1) 試料

試料は、昆虫化石14点(試料番号101-114)である。試料の肉眼観察の結果、試料番号103・107・112は昆虫化石ではなく種実及び動物遺存体であった。したがって、同定はこれらを除く12試料を対象としている。試料の詳細は、結果とともに附表2に示す。

(2) 分析方法

試料を水に浸し、双眼実体顕微鏡下で付着した土壌を除去する。試料番号114は2個体認められたことから、便宜的に試料番号114-1・2と仮名称を付している。試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、

附表2. 昆虫同定結果

番号	種類	部位	採取地点
101	センチコガネまたは オオセンチコガネ	前胸背板の一部	R Z 007 22k 4層
102	サクラコガネ属の一種	上翅の一部	R Z 007 21j 12層
103	—	—	R Z 007 23m 4層 ブナ科種子
104	アカガネオゴムシ	前胸背板	R Z 007 20j 12層
105	ガムシ	腿節	R Z 007 23n 4層
106	不明甲虫	後翅の一部	R Z 007 22l 15層
107	—	—	R Z 007 24m 4~10層 貝の殻皮
108	ナガゴムシ属の一種	右上翅の一部	R Z 007 25l 10~15層
109	ナガゴムシ属の一種	前胸背板の一部	R Z 007 24m 4~10層
110	サクラコガネ属の一種	右上翅の一部	R Z 007 20f 4層
111	ガムシ	腿節・脛節	A区 19n I b層
112	—	—	R Z 007 21m 4~10層 貝の殻皮
113	ヒラタゴムシ属の一種	前胸背板の一部	R Z 007 24m 4~10層
114 -1	ナガハムシダマン属の一種	右上翅の一部	R Z 007 24m 4~10層
114 -2	サルハムシ属の一種	上翅の一部	R Z 007 24m 4~10層

附表3. 出土昆虫化石分類群一覧

種名	目名	科名	種名	
昆虫綱	コウチュウ目	オサムシ科	アカガネオオゴミムシ	<i>Trigonognatha cuprescens</i>
			ナガゴミムシ属の一種?	<i>Pterostichus</i> sp.?
			ヒラタゴミムシ族の一種	Platynini Gen. et sp.
		ガムシ科	ガムシ	<i>Hydrophilus acuminatus</i>
		コガネムシ科	センチコガネまたはオオセンチコガネ	<i>Geotrupes auratus</i> or <i>Geotrupes laevistriatus</i>
			サクラコガネ属の一種	<i>Anomala</i> sp.
		ゴミムシダマシ科	ナガハムシダマシ属の一種	<i>Macrolagris</i> sp.
		ハムシ科	サルハムシ亜科の一種	Eumolpinae Gen. et sp.

形態的特徴から種類を同定し、乾燥を防ぐため水を入れた瓶に封入し、保管する。なお、同定解析は、株式会社人と自然の環境研究所 川那部 真氏の協力を得ている。

(3) 結 果

結果を附表2に、出土昆虫遺体分類群を附表3に示す。試料番号103・107・112を除く12試料は、昆虫綱コウチュウ目5科8分類群に同定された。また、試料番号103はブナ科の果皮(ドングリの破片)、試料番号107・112は貝の殻皮片であった。以下に、同定された昆虫化石の特徴を示す。

・アカガネオオゴミムシ (*Trigonognatha cuprescens*) オサムシ科

地表を徘徊しながらミミズや小動物などを捕食する、典型的な捕食性甲虫類である。平地から山地にかけて生息し、本州、四国、九州に分布する。

・ナガゴミムシ属? (*Pterostichus*?) オサムシ科

地表を徘徊しながらミミズや小動物などを捕食する捕食性甲虫類である。地域により細かく種分化している。種まで同定するためには、雄の交尾器を調べる必要があり、本試料では種まで確定することはできなかった。

・ヒラタゴミムシ族 (*Platynini*) オサムシ科

地表を徘徊しながら、昆虫やミミズなどを捕食する。捕食性であるため、昆虫類の中では食物連鎖の比較的上位に位置している。近似種が多く、今回の試料からは種までの同定はできなかった。

・ガムシ (*Hydrophilus acuminatus*) ガムシ科

主に平地の池や沼などの止水域に生息し、水際に水生植物が繁茂した環境を好む。水中で水草や小動物の死体などを食べる。北海道、本州、四国、九州に分布する。

・センチコガネまたはオオセンチコガネ (*Geotrupes auratus* or *Geotrupes laevistriatus*) コガネムシ科

食糞性のコガネムシ類で、主に哺乳類の糞に集まる。種を決定する重要な標徴を欠くことから、種の確定はできない。いずれの種も獣糞を好んで摂食し、生態系の中では分解者の役割を果たしている。

・サクラコガネ属 (*Anomala*) コガネムシ科

サクラコガネ属にはサクラコガネやヒメコガネなど約30種が含まれる。分類が難しく破片からは種までの同定はできなかった。いずれの種も、幼虫及び成虫ともに食植性であり、成虫はおもに広葉樹の葉上で葉を摂食する。ときに大量発生することがある。

・ナガハムシダマシ属 (*Macrolagris*) ゴミムシダマシ科

ナガハムシダマシ属には約20種程度が含まれ、いずれも食植性である。成虫はおもに樹上に生息する。種を確定する標徴を欠くため、種までの同定はできなかった。

・サルハムシ亜科 (Eumolpinae) ハムシ科

サルハムシ亜科は21属からなり、多くの種を含む。いずれの種も成虫及び幼虫とも食性で、成虫は主に広葉樹の葉上で葉を摂食する。

3 植物珪酸体分析

(1) 試料

試料は、旧河道包含層内 (R Z 007; 25 k) に堆積した黒色土層より採取された土壌2点 (4層: No 1, 6層: No 2) である。

(2) 分析方法

湿重5.0 g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム, 比重2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) およびこれらを含む珪化組織片を近藤・佐瀬 (1986) の分類に基づいて同定し、計数する。

(3) 結果及び考察

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生や稲作について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

結果を附表4、図1に示す。No 1、2から検出された植物珪酸体は、保存状態は良好であり、産出状況も類似する。これらの試料からは、ヨシ属の短細胞珪酸体・機動細胞珪酸体が最も多く産出し、次いで、ススキ属を含むウシクサ族が産出する。この他に、タケ亜科、コブナグサ属、イチゴツナギ亜科等も検出され、栽培植物のイネ属も僅かに認められる。

ヨシ属は湿潤な場所に生育する種類であることから、旧河道内から採取された4・6層は、堆積時は湿潤な環境であったことが推測され、1種実遺体分析結果でも水生植物の種実遺体が確認されていることを考慮すると、発掘調査所見を示唆する結果と言える。また、僅かにイネ属が検出されたことから、遺跡周辺、或は、旧河道の集水域で稲作が行われていた可能性がある。

引用文献

近藤純三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.

附表 4. R Z 007 (25 k 地点) の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	4 号	6 号
イネ科葉部細胞珪酸体	イネ族イネ属	1	2
	キビ族チゴザリ属	—	3
	ナタネ科	2	4
	ヨシ属	63	153
	ウシクサ族コブナグサ属	3	6
	ウシクサ族ススキ属	26	17
	イネゴブナキ属群	15	15
	不明キビ属	33	34
	不明ヒゲシハ属	12	31
	不明ダンク属	10	10
イネ科葉身細胞珪酸体	イネ族イネ属	1	1
	タケ草科	3	1
	ヨシ属	68	82
	ウシクサ族	17	15
	不明	16	11
	イネ科葉部細胞珪酸体	165	249
合 計	イネ科葉部細胞珪酸体	303	416
	合 計	268	359

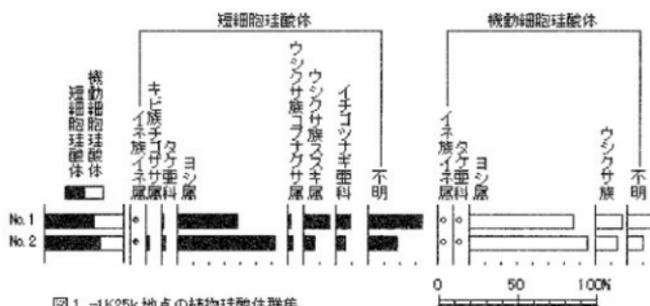


図 1. 25k 地点の植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部細胞珪酸体、イネ科葉身機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満の種類を示す。

附編Ⅱ 向中野館遺跡出土木製品の樹種同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告は、向中野館遺跡第5次調査及び第6次調査（盛岡市）において出土した木製品の樹種同定報告である。本調査区は、旧河川跡内に形成された低湿地であることが確認されている。木製品は、平安時代の土師器や須恵器等が検出される土層中から出土していることから、同時期の遺物であると推測されている。

1 第5次調査出土木製品の樹種同定

(1) 試料

試料は、木製品23点（No1-23）である。このうち、接合関係があり同一個体と判断される試料は分析対象外としていることから、分析対象は木製品18点である。試料採取は、株式会社ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石文化財保存処理センターが行い、いずれの試料も数mm角の木片の状態にある。試料の詳細は結果とともに附表5に示す。

(2) 分析方法

剣刀の刃を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラル（抱水クロラル、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

(3) 結果

結果を附表5に示す。木製品は、針葉樹2種類（スギ・アスナロ）、広葉樹4種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節・ケヤキ・アジサイ属・ヌルデ）に同定された。なお、木製品No2は、採取部分が当年性の組織であり、年輪界の観察が不可能であり、全体的に収縮した状態であった。なお、当組織に道管が認められたことから広葉樹材と判断されたが、種類の同定には至らなかった。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・アスナロ (*Thuopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部を中心に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内部には樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

No1については、アスナロの可能性があるが、保存状態が悪く、収縮しており、分野壁孔や放射組織内の状況等がほとんど観察できなかったため、近似種とした。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科
環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属
環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・アジサイ属 (*Hydrangea*) ユキノシタ科
散孔材で、道管は小径、単独または2-3個が複合してほぼ均一に散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-30細胞高で、時に上下に連結する。

・ヌルデ (*Rhus javanica* L.) ウルシ科ウルシ属
環孔材で、孔圏部は2-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。小道管は、単独または2-8個が放射方向または塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高で、時に上下に連結する。

(4) 考 察

木製品は、容器、食器具、土木材、その他に分類され、このうち器種が明らかなものでは、容器の曲物底、杯(漆器含む)、食器具の箸、土木材の杭、木簡がある。これらの樹種組成は、木製品18点中11点は針葉樹であり、全体的に針葉樹材が多く利用される傾向が認められる。器種毎の種類構成では(附表6)、針葉樹材のアスナロが8点と多く、このうち5点は箸に認められた。この他の器種が明らかな製品では、曲物、箸、木簡は針葉樹、杯と杭は広葉樹を用いており、器種毎に利用される木材が異なる。

木製品に利用された木材は、スギやアスナロは木理が通直で割裂性が高く、加工が容易であるといった材質的特徴を有する。一方、広葉樹のコナラ節とケヤキは重硬で強度が高く、ヌルデは加工が比較的容易であるが、強度や耐朽性は高くないといった材質的特徴を有する。木製品の器種とこれらの材質を見ると、曲物や箸に割裂性の高い針葉樹材が用いられ、杯には硬く強度の高いケヤキが利用されることが指摘され、加工の容易さや用途等により木材が選択されていた可能性がある。

2 第6次調査出土木製品の樹種同定

(1) 試 料

試料は、木製品90点(No1-90)のうち、分析対象とされた81点である。試料採取は、株式会社ニッテツ・ファイン・プロダクツ釜石文化財保存処理センターが行い、いずれの試料も数mm角の木片の状態にある。なお、木製品No31は全体が炭化し試料採取が不可能であったことから、破断面の観察により同定を試みる。試料の詳細は結果とともに附表5に示す。

(2) 分 析 方 法

木片は、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柃目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切

片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

一方、木製品No31は、試料にひびが入らない程度に表面を乾燥させ、実体顕微鏡で破断面に認められる木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

(3) 結 果

結果を附表5に示す。木製品は、針葉樹3種類（マツ属複維管束亜属・スギ・アスナロ）、広葉樹4種類（オニグルミ近似種・ヤナギ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・ブナ属・コナラ属コナラ連属コナラ節・クリ・ケヤキ・モクレン属・トチノキ）とイネ科タケ亜科に同定された。なお、木製品No2は、道管が認められることから広葉樹材と判断されたが、保存状態が悪く種類の同定には至らなかった。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxyton*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂は晩材部に認められる。放射組織は仮道管と柔細胞で構成される。水平樹脂道およびエビセリウム細胞も有しているはずであるが、今回の試料では観察できなかった。分野壁孔は窓状、放射仮道管内壁には鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

No83は、保存状態が悪く、分野壁孔が観察できなかったため、近似種とした。

・アスナロ (*Thujaopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部を中心に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、内部には樹脂が顕著に認められる。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

木製品No30は、保存状態が悪く分野壁孔や放射組織内の状況等がほとんど観察できなかったことから、ここでは近似種としている。

・スギまたはヒノキ科 (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don or Cupressaceae)

試料は年輪界および晩材部が観察できない。軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、樹脂細胞は晩材部に近い側には認められるが、早材部側ではほとんど認められない。このことから、スギまたはアスナロを含むヒノキ科の木材と判断されたが、晩材部の広さや分野壁孔が観察できなかったため、種類の同定には至らない。

・オニグルミ近似種 (cf. *Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura)

クルミ科クルミ属

木製品No31は、木口面の観察は可能であったが、柀目面及び板目面は加工面であったため観察は不可能であった。散孔材で、道管径は比較的大径、単独または2-4個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近でやや急に管径を減少させる。放射組織は1-4細胞幅程度。短接線状の柔細胞が認められる。

以上の特徴からオニグルミが最も近いと判断されたが、実体顕微鏡による木口面のみの観察であるため、ここでは近似種としている。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近でやや管径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-30細胞高のもの集合放射組織とがある。

なお、木製品No13・55は、集合放射組織が観察できず、小片であり本来の組織が観察できなかった、或は、集合放射組織を持たないヤシャブシ亜属であるといった可能性があるため、ここではハンノキ属としている。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のもの複合放射組織とがある。

木製品No32・47は、複合放射組織が認められなかった。これらはクリの可能性もあるが、道管径や孔圏部が1-2列となる特徴がクリよりもコナラ節に近い特徴であったことから、ここではコナラ節近似種としている。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は2-4列、孔圏外で急激~やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

木製品No37・59・79は、いずれも小片で保存状態が悪く、孔圏部は観察できず晩材部のみ観察による。そのため、コナラ節の複合放射組織が認められなかった可能性もあることから、ここではクリ近似種としている。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は接線方向にやや疎な1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸~薄く、横断面では角張った楕円形~多角形、単独および2-4個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認め

られる。放射組織は同性、単列、1-15細胞高で階層状に配列する。

・イネ科タケ亜科 (Gramineae subfam. Bambusoideae)

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱が認められ、放射組織は認められない。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴から区別することはできない。

(4) 考 察

木製品の用途及び器種は、考古学的な所見を参考とすると、服飾具(下駄)、容器(挽物、刳物、曲物底板、皮紐、箱?、蓋板)、食器具(箸)、発火具(付木)、武具(柄)、土木材(杭、角状材、板状材)、その他(木札状、杖状、板状、棒状、不明)、木簡に分類される。これらの木製品の樹種構成は、全体の木製品81点から15種類(近似種を含む)の樹種が確認され、コナラ節が最も多く、アスナロ、スギ、クリ、ケヤキが比較的多い傾向を示した。これらのうち、スギ、アスナロ、コナラ節、ケヤキの4種類は第5次調査で出土した木製品にも認められている。

今回認められた木材は、針葉樹のスギやアスナロは木理が通直で割裂性が高く加工が容易であり、マツ属複雑管束亜属は針葉樹としてはやや重硬な部類に入るが、加工は容易であるといった材質の特徴を有する。一方、広葉樹では、オニグルミ近似種、ハンノキ亜属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ節、クリ、ケヤキは比較的重硬で強度が高く、モクレン属とトチノキは広葉樹材の中では中庸の部類に入り加工は容易、ヤナギ属は広葉樹としてはやや軽軟な部類に入り、加工は容易であるが耐久性が低いといった材質の特徴を有する。

一方、器種別の樹種構成(附表6)では、土木材に種別される杖や角状材は、樹種構成は雑多であるが全体的にコナラ節の利用が多く、コナラ節以外にも広葉樹材の利用が多く認められ、針葉樹材の利用は認められなかった。容器に種別される器種では、曲物底板や蓋板には針葉樹のアスナロ、杯・皿にはケヤキ、モクレン属(漆器のみ)、ブナ属(漆器のみ)、椀にはオニグルミ近似種、ブナ属(漆器のみ)、広葉樹(漆器のみ)、刳物にはヤナギ属、箱?にはコナラ節が認められた。このうち、杯・皿にケヤキ、曲物底板にアスナロが利用される傾向は、第5次調査における木製品の調査結果とも調和的である。曲物底板や蓋板については、割裂性が高く板状の加工が容易な針葉樹材が利用され、この他の器種では広葉樹材が利用されたと推定される。ケヤキとモクレン属は、これまでの調査結果によれば椀、皿等に利用される事例が多く(高地・伊東, 1988)、本分析結果もこれらの傾向と整合する傾向と言える。

また、食器具とされる種別される箸からは、アスナロ(3点)、スギ・タケ亜科(各1点)が認められた。アスナロは、第5次調査で出土した箸からも確認されている。このことから、アスナロ等の割裂性の高い木材が選択的に利用された可能性がある。

この他に、武器に種別される柄はモクレン属、その他に種別される不明(ハンマー?)はクリであった。これらの器種については、調査事例が少なく木材利用の選択性を言及することはできない。服飾具に種別される器種の下駄はスギであった。加工性や木材の強度、履いた際の重さを考慮すると、スギ材は、割裂性が高いことや、広葉樹と比べ比重が軽く、比較的強度が高いといった利点が指摘される。ただし、当木製品も本遺跡では1点のみの出土であり、周辺地域における調査事例が少ないことから、木材利用の傾向や選択性については今後の課題である。

引用文献

高地 謙・伊東隆夫(編) 1988, 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, 296p.

附表5. 樹種同定結果(1)

番号	採取%	木数	分 類		樹 種
			大	小	
1	728	5	他	不明	アスナロ近縁種
2	414	5	上	杖状材	広葉樹 (ヒノキ?近縁)
3	325	5	許	換物杯	ケヤキ
4	322 a	5	許	換物杯 (漆器)	未同定
5	322 b	5	許	換物杯 (漆器)	未同定
6	322 c	5	許	換物杯 (漆器)	未同定
7	322 d	5	許	換物杯 (漆器)	ケヤキ
8	410	5	他	串状	アジヤイ属
9	756	5	許	針刺木納	スギ
10	423	5	他	木札状	スギ
11	334	5	許	円形曲物 (漆器)	アスナロ
12	712	5	他	円形	スギ
13	684	5	女	箸	アスナロ
14	685	5	女	箸	アスナロ
15	686	5	女	箸	アスナロ
16	689	5	女	箸	アスナロ
17	343	5	上	杖	串1
18	387	5	土	杖	未同定
19	681	5	女	箸	アスナロ
20	540	5	他	板状	アスナロ
21	520	5	他	不明	串1
22	424	6	他	木札状	未同定
23	398	3	上	杖	スルダ
1	15	6	許	換物杯 (漆器)	ブナ属
2	678	6	許	換物杯 (漆器)	広葉樹
3	-	6	許	換物杯 (漆器)	未同定
4	680	6	許	換物皿 (漆器)	ブナ属
5	681	6	許	換物皿? (漆器)	モクレン属
6	323	6	許	換物杯	ケヤキ
7	324	6	許	換物杯	ケヤキ
8	321	6	許	換物杯 (漆器)	ケヤキ
9	326	6	許	換物皿	ケヤキ
10	422	6	他	木札状	ケヤキ
11	327	6	許	換物皿	ケヤキ
12	447	6	他	板状	串1
13	394	6	土	杖	ハンノキ属
14	730	6	他	不明	イネ科タケ葉類
15	711	6	他	木札状	アスナロ
16	731	6	他	不明	スギ
17	751	6	他	木簡	スギ
18	752	6	他	木簡	スギ
19	339	6	女	箸	スギ
20	753	6	他	木簡	未同定
21	687	6	女	箸	アスナロ
22	688	6	女	箸	アスナロ
23	333	6	許	円形曲物 (漆器)	アスナロ
24	336	6	許	板状	未同定
25	316	6	他	不明	アスナロ
26	329	6	許	換物皿	ケヤキ

番号	採取%	木数	分 類		樹 種
			大	小	
27	328	6	許	換物皿	ケヤキ
28	518	6	他	不明	ヒノキ
29	330	6	許	刺物?	ヤナギ属
30	682	6	許	漆器	アスナロ近縁種
31	322	6	許	換物皿	オニグルミ近縁種
32	446	6	他	板状	串1 b
33	316	6	他	不明	アスナロ
34	33	6	他	板状	スギ
35	327	6	他	不明	串1
36	448	6	他	板状	串1
37	454	6	他	板状	クリ近縁種
38	326	6	他	不明	串1
39	310	6	火	付木	マツ属 短葉松葉菜属
40	406	6	上	角状材	串1
41	323	6	他	不明	串1
42	733	6	他	不明	スギまたは ヒノキ
43	528	6	他	不明	ヤナギ属
44	413	6	土	板状材	串1
45	427	6	他	杖状	串1
46	513	6	他	棒状	クリ
47	400	6	土	杖	串1 b
48	687	6	女	箸	イネ科タケ葉類
49	729	6	他	不明 (漆器)	ブナ属
50	338	6	許	円形曲物 (漆器)	アスナロ
51	407	6	土	先状材	串1
52	406	6	土	角状材	クリ
53	450	6	他	板状	串2
54	355	6	土	杖	串1
55	451	6	他	板状	ハンノキ属
56	517	6	他	不明	クリ
57	397	6	土	杖	串1
58	399	6	上	杖	串1
59	342	6	土	杖	クリ近縁種
60	344	6	土	杖	クリ
61	453	6	他	板状	串1
62	452	6	他	板状	串1
63	383	6	土	杖	串2
64	419	6	他	板状	串1
65	26	6	他	棒状	未同定
66	409	6	土	角状材	未同定
67	317	6	土	角状材	モクレン属
68	519	6	位	不明	クリ
69	529	6	位	不明	串1
70	524	6	位	不明	スギ
71	544	6	他	不明	未同定
72	403	6	土	角状材	串1
73	17	6	土	杖	モクレン属
74	384	6	土	杖	串1
75	404	6	土	角状材	串1
76	370	6	土	杖	串1
77	400	6	女	箸	アスナロ
78	755 a	6	他	木簡	スギ
79	522	6	他	不明	クリ近縁種
80	23	6	他	板状	アスナロ
81	456	6	他	板状	アスナロ
82	321	6	他	不明	クリ
83	420	6	他	木札状	スギ近縁種
84	421	6	他	木札状	アスナロ

2 第6次調査出上木製品の樹種判定

附表5. 樹種同定結果(2)

番号	同級品	文数	分類		樹種
			大	小	
85	754	6	大	小	未同定
86	736	6	大	小	アスナロ
87	677	6	大	小	スギ

番号	同級品	文数	分類		樹種
			大	小	
88	331	6	大	小	未同定
89	357	6	大	小	※1
90	703	6	大	小	未同定

【次数】 5:第5次 6:第6次

【分類】 大(大項目) 服:服飾品 容:容器 食:食事具 上:上木材 火:発火具 武:武器 他:その他

【樹種】 ※1:コナラ属コナラ亜属コナラ節 ※1b:コナラ属コナラ亜属コナラ節近似種

※2:ハンノキ属ハンノキ亜属

附表6. 樹種別種類構成

次	樹種	樹種別・品名	樹種																	合計				
			アスナロ	スギ	コナラ属コナラ亜属コナラ節	コナラ属コナラ亜属コナラ節近似種	ハンノキ属ハンノキ亜属	ハンノキ属ハンノキ亜属	コナラ属コナラ亜属															
第6次	器 器	洗物杯 (漆器)																			1			
		洗物杯																				1		
		円形洗物 (虎皮)																				1		
		食事具	箸																			5		
		土木材	柱																				2	
			乾状材																				1	
		その他	床状																				1	
			木札状																				1	
			円形																				1	
			棒状																				1	
			不明																				2	
			針葉木類																				1	
			合 計		0	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	18
		第6次	器 器	下駄																				1
洗物杯																						2		
洗物杯 (漆器)																							1	
洗物桶																							1	
洗物桶 (漆器)																							2	
洗物皿																							4	
洗物皿 (漆器)																							2	
割物																							1	
洗物皿板																							2	
箱																							1	
木板																							1	
食事具	箸																						5	
発火具	付木																						1	
武器	槍																							1
	杖																							11
土木材	角状材																							5
	柱状材																							1
その他	木札状																							4
	板状																							1
	板状																							12
	棒状																							1
	不明																							17
	不明 (漆器)																							1
	木類																					3		
合 計		1	9	13	1	1	2	2	2	3	23	9	8	3	1	0	0	1	2	81				

1) 樹種に?が付いている場合は、それぞれの樹種に含めた。

2) 近似種は、それぞれの樹種に含めた。

写 真 图 版



9世紀前半の須恵器 (95)



同底面 墨書「厨口」



破に転用された須恵器 (96)



黒色処理された土師器



内面が銀色に輝く土師器



浅物皿 (329)



濾器杯 (321) 外面



同 内面



漆器杯 (322) 外面



同 内面



封紙木簡 (756) 表



同 裏



漆器皿・椀 外面



同 内面



漆器椀 (15) 内面



小刀 (317) 出土状況



青磁片 外面



同 内面



(昭和23年頃 米軍撮影の空中写真)



空撮



道跡現況



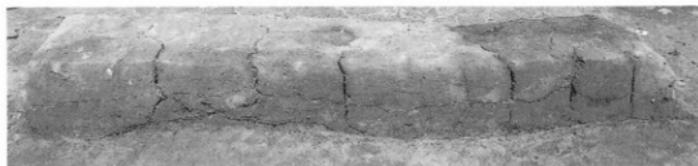
現地公開



現地公開



現地公開



層序 A区①



層序 B区②



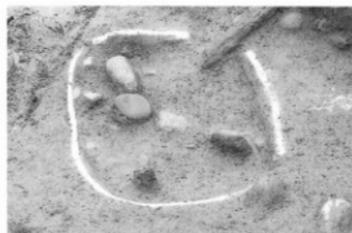
層序 C区③



層序 C区④



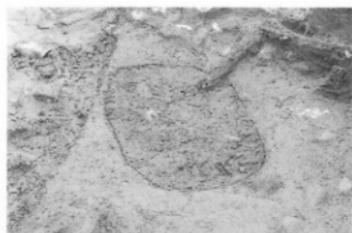
層序 C区⑤



RD010 完掘



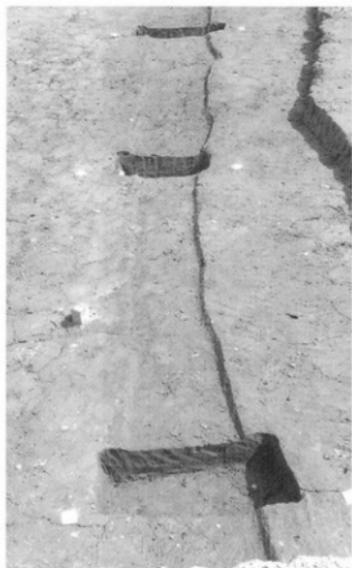
RD010 断面



RD010 検出



RG009 完掘 (北側)



RG009 完掘 (南側)



RG009 断面



RG006 (西側) 完掘
RZ005 完掘



RG006 (中央) 完掘



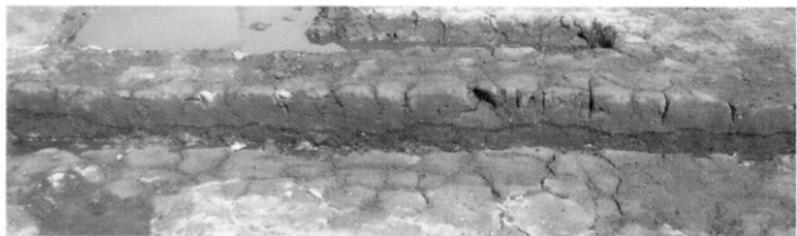
RG006 (東側) 完掘



断面(A-A)東側



断面(A-A)西側



断面(D-D')



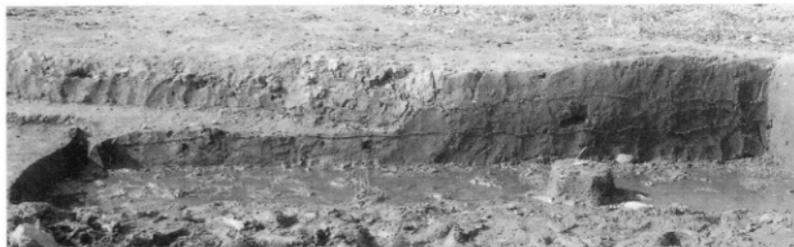
遺物出土状況



断面(B-B')北東側



RZ002 完掘



RZ002 断面



RZ003 完掘



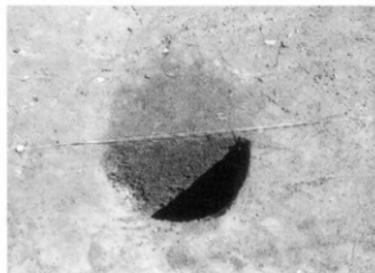
RZ003 断面



RZ004 完掘



RZ004 断面



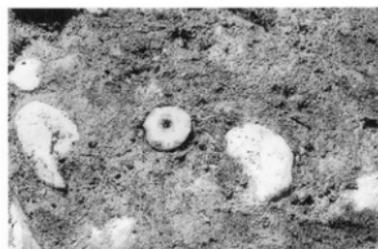
RZ005 PP3断面



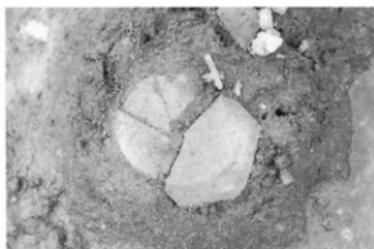
RZ005 PP4断面



RZ006 遺物出土状況



RZ006 紡錘車(58)出土状況



RZ006 壺雪土器(51)出土状況



RZ008 南北セクション(21・22a)



RZ008 遺物出土状況(22y)



南北メインセクション (23・24k)



南北メインセクション (24・25k)



南北メインセクション (1～3k)



東西メインセクション



南北メインセクション (19~22k)



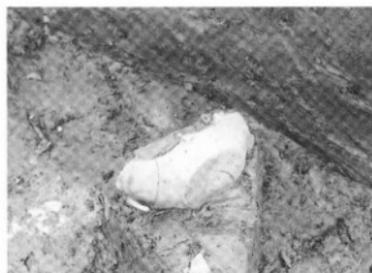
遺物出土状況 (25k~m)



遺物出土状況 (1~3k)



遺物出土状況 (2・3k)



墨書土器 (237) 出土状況



遺物出土状況(2~3h~j)



木製品出土状況(23~25f~h)



遺物出土状況(19~23j~l)



刻書土器「大」(159) 出土状況



墨書土器「玉」(161) 出土状況



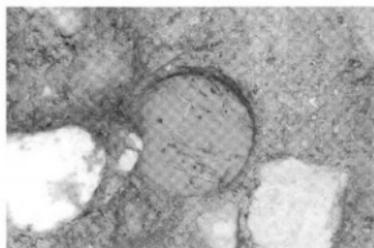
墨書土器「厨口」(95) 出土状況



漆器杯(321) 出土状況



埴物(323) 出土状況



埴物皿(329) 出土状況



埴物皿(328) 出土状況



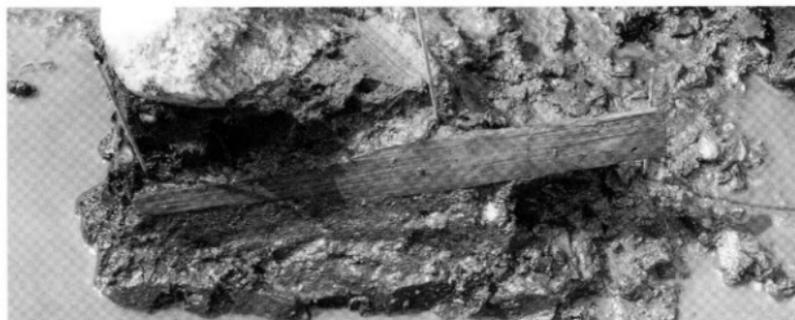
不明木製品(419) 出土状況



木製品(450・451) 出土状況



刀子(318) 出土状況



封緘木槨(756) 出土状況



発掘(西側)



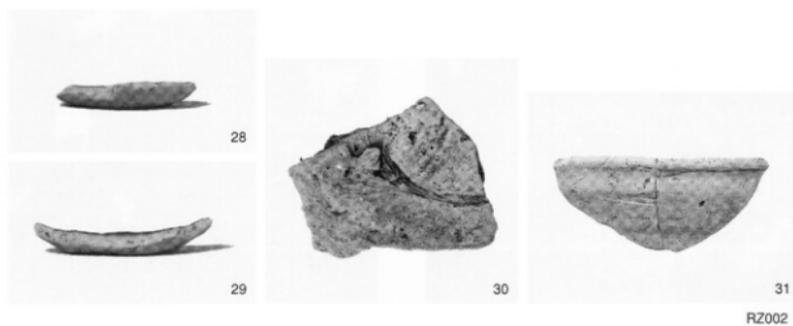
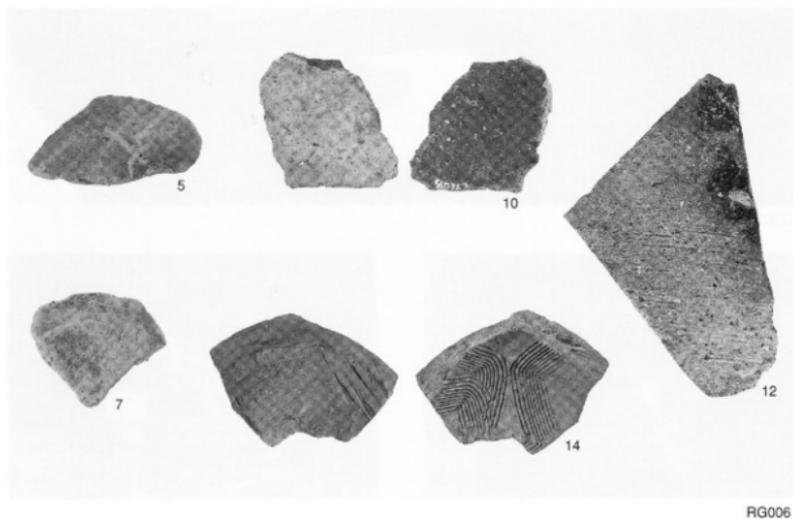
RZ007 完掘(東側)



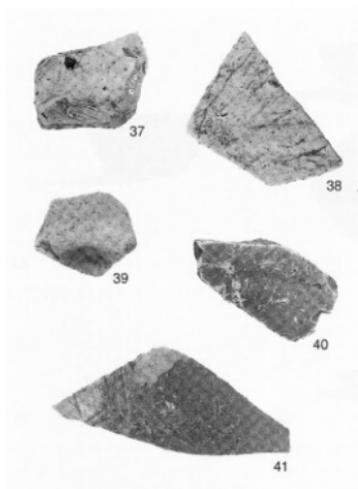
RZ009 検出



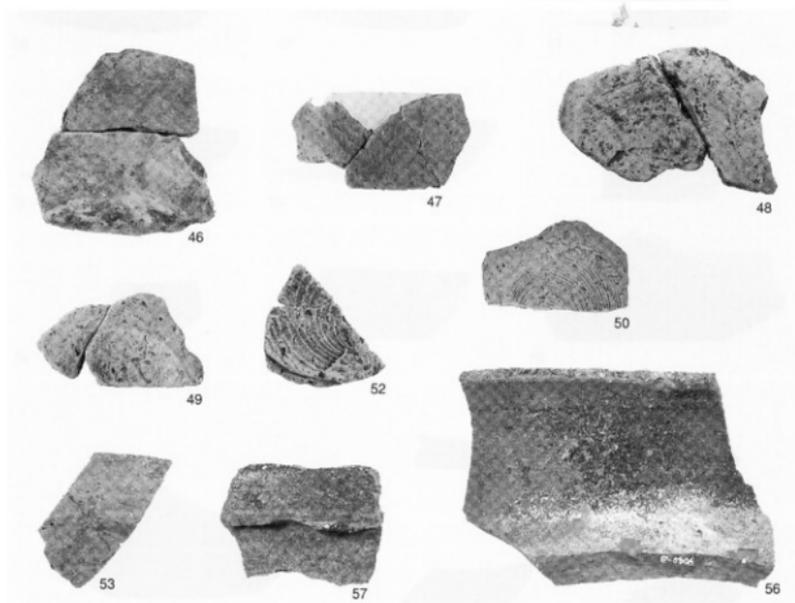
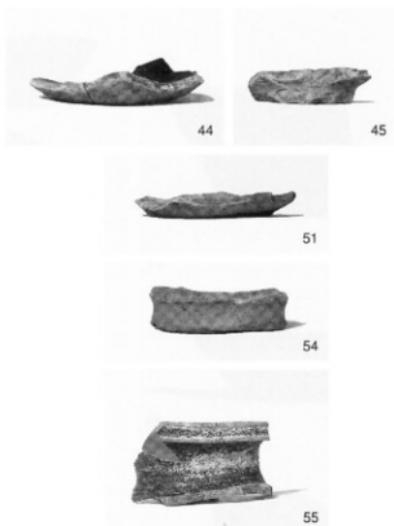
作業風景



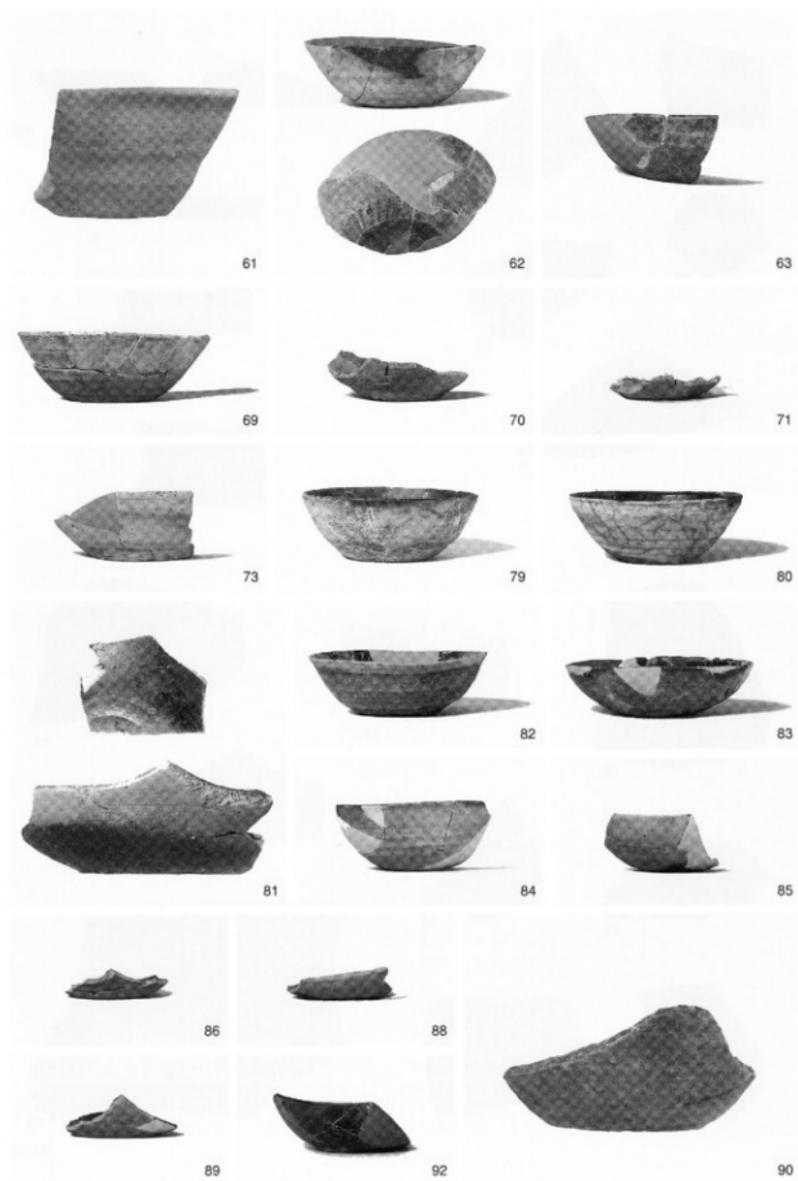
写真図版16 RD010・RG006・RZ002出土土師器・須恵器



RZ004



RZ006



写真図版18 R Z 007出土土師器・須恵器 (1)



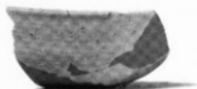
93



94



95



97



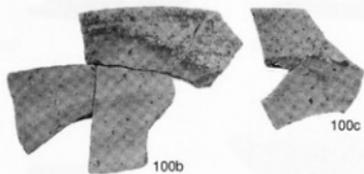
98



99



100a



100b

100c



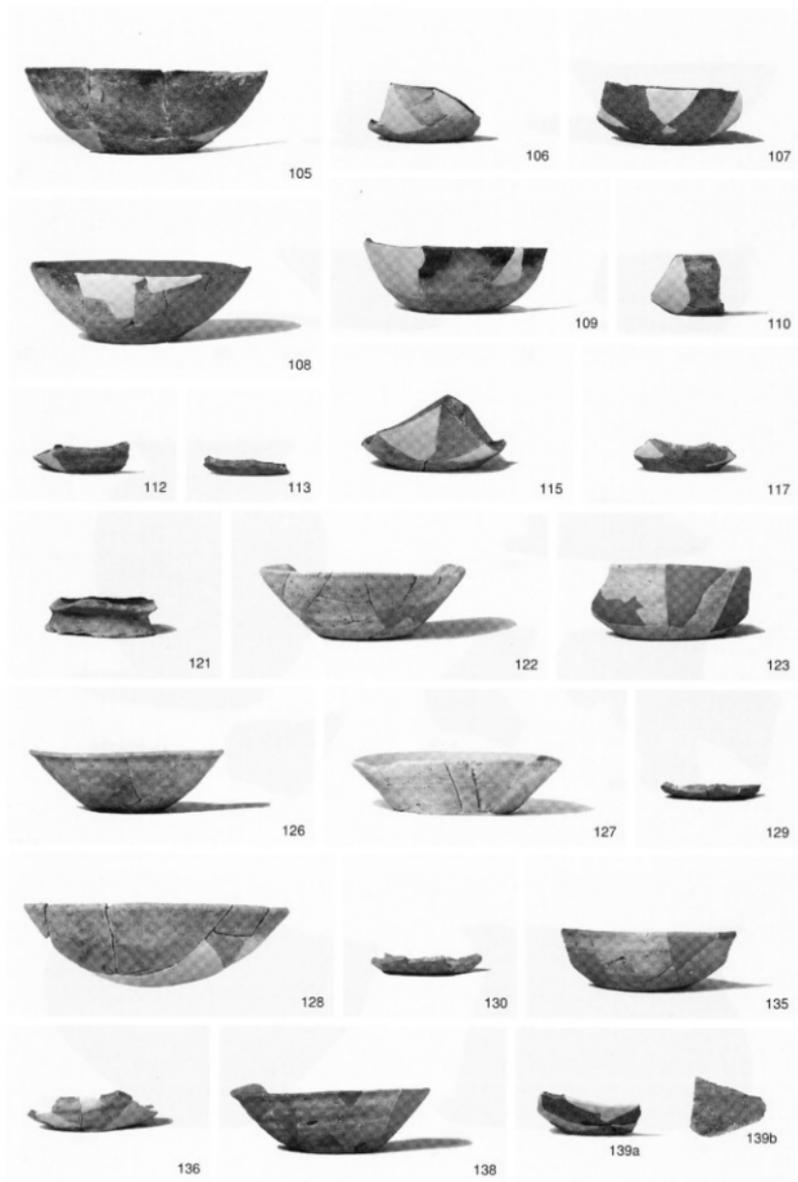
101



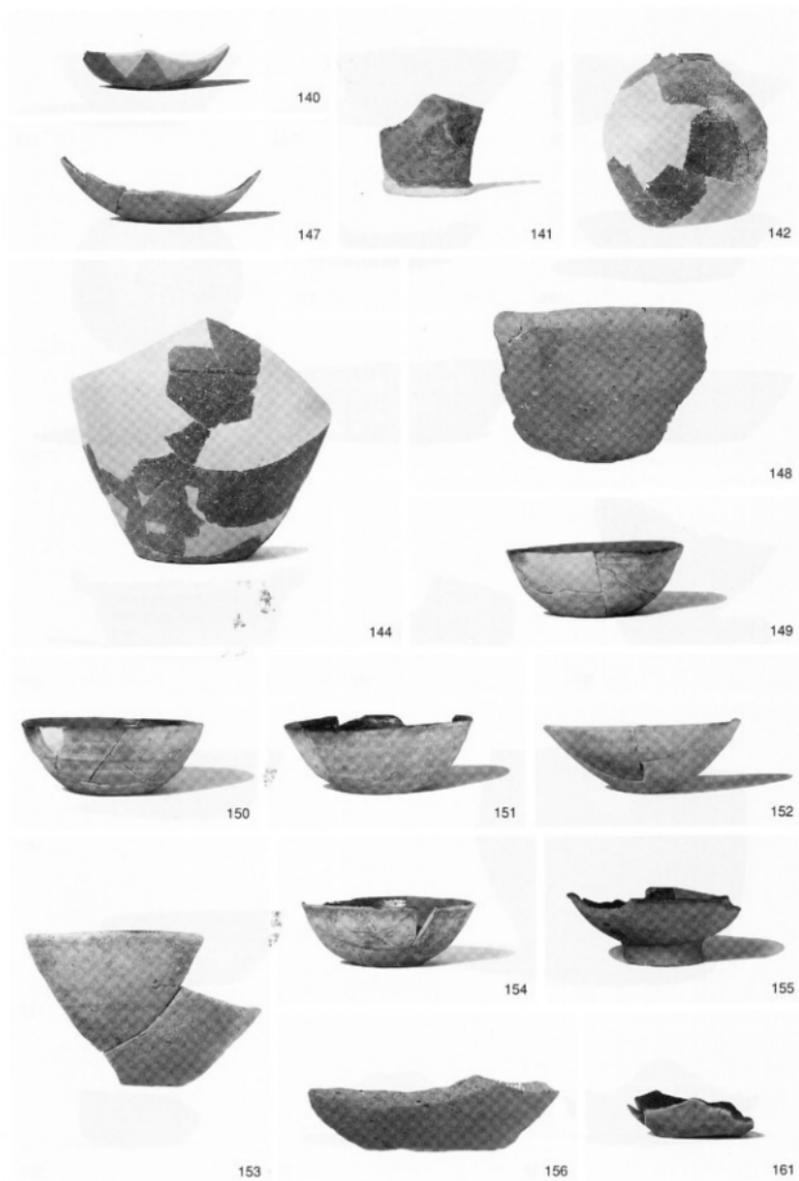
102a



102b

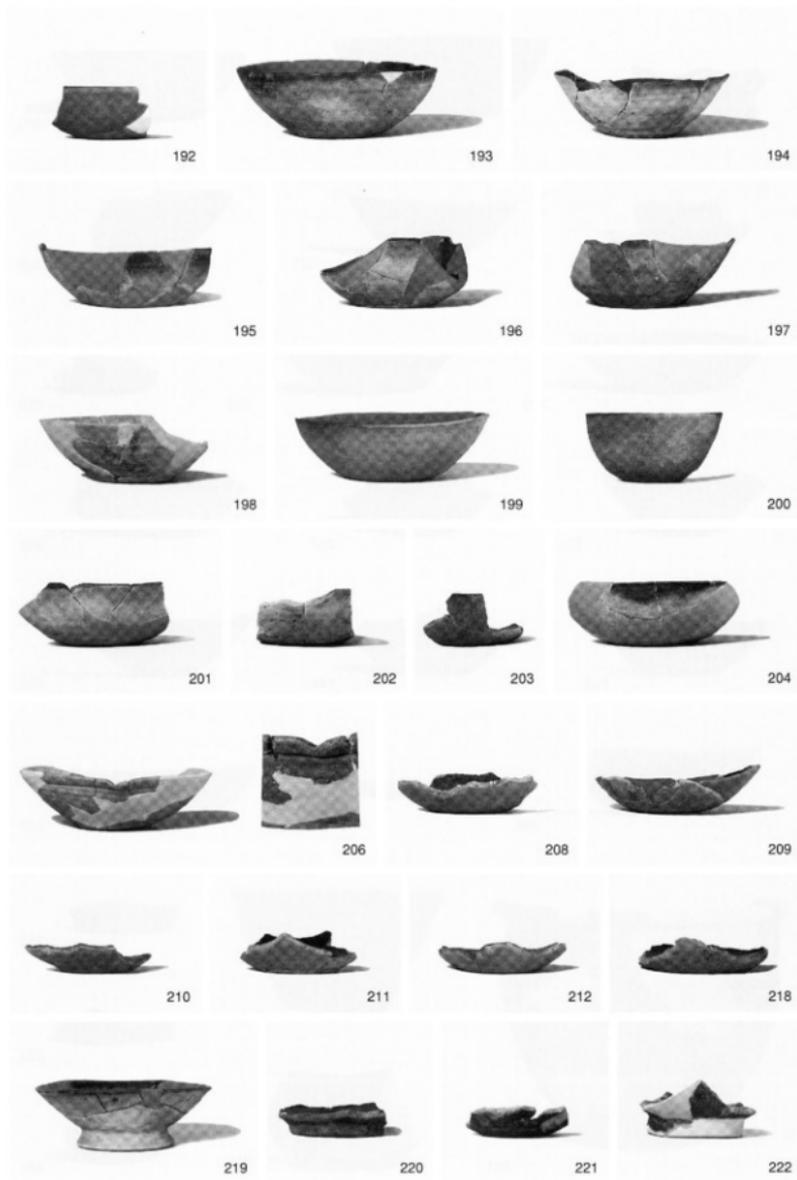


写真図版20 R Z 007出土土師器・須恵器（3）

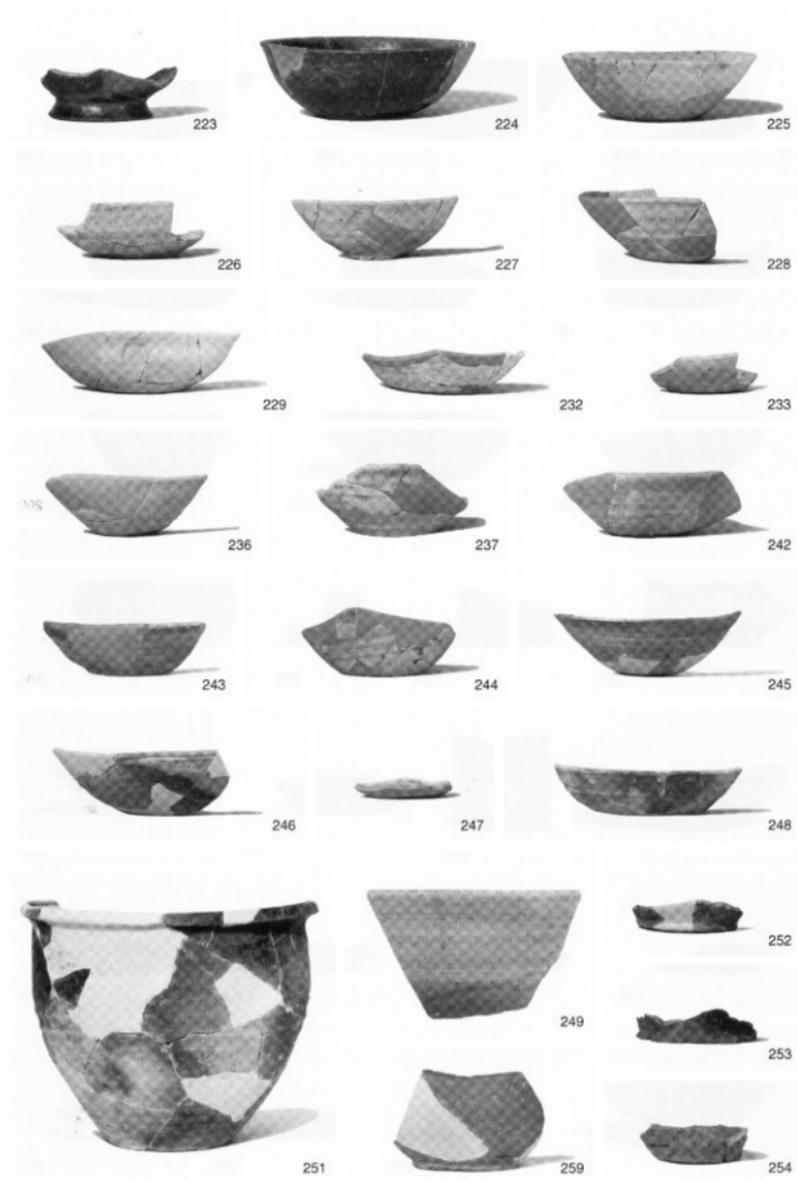




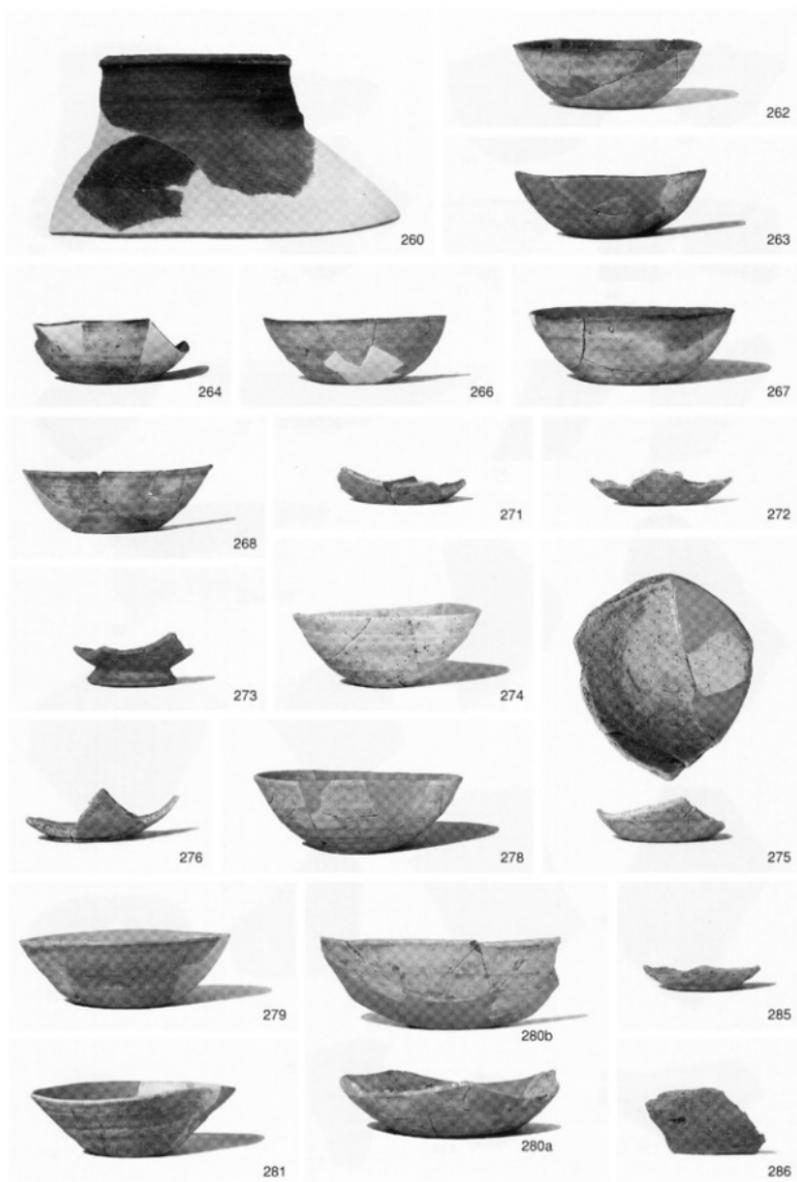
写真図版22 R Z 007出土土師器・須恵器 (5)



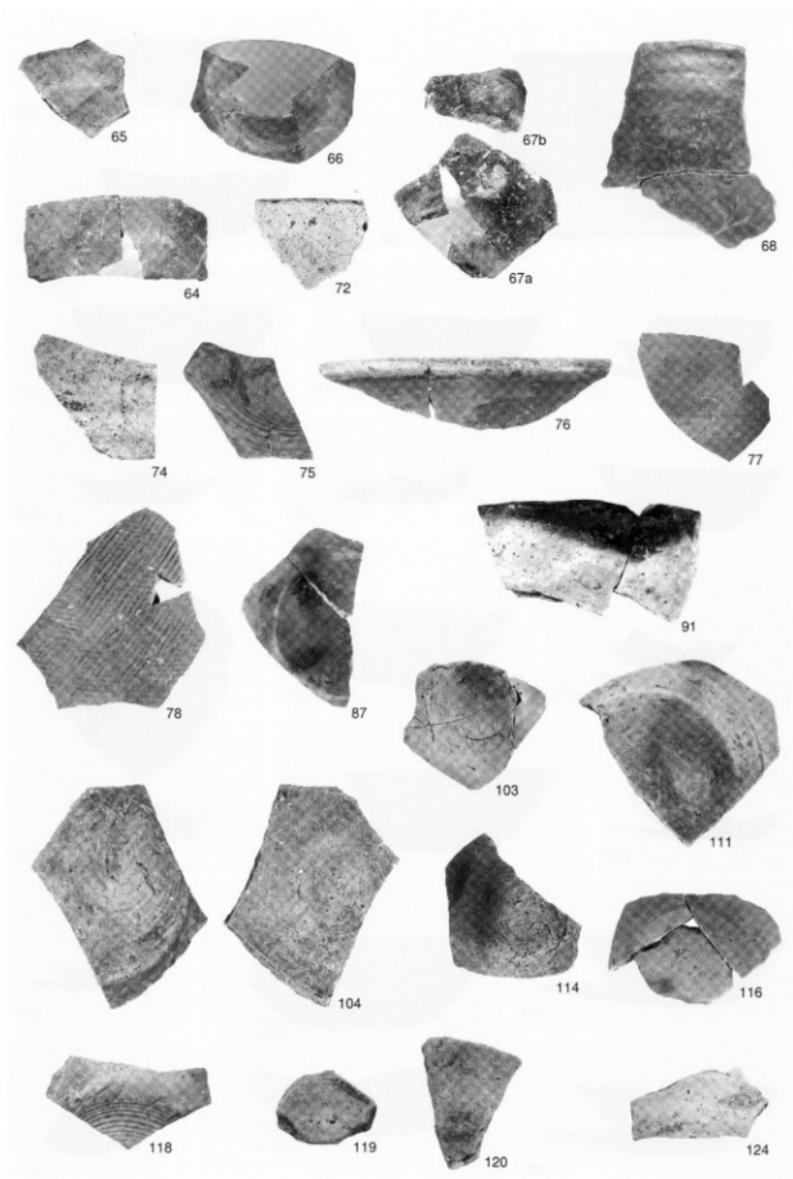
写真図版23 R Z 007出土土師器・須恵器 (6)



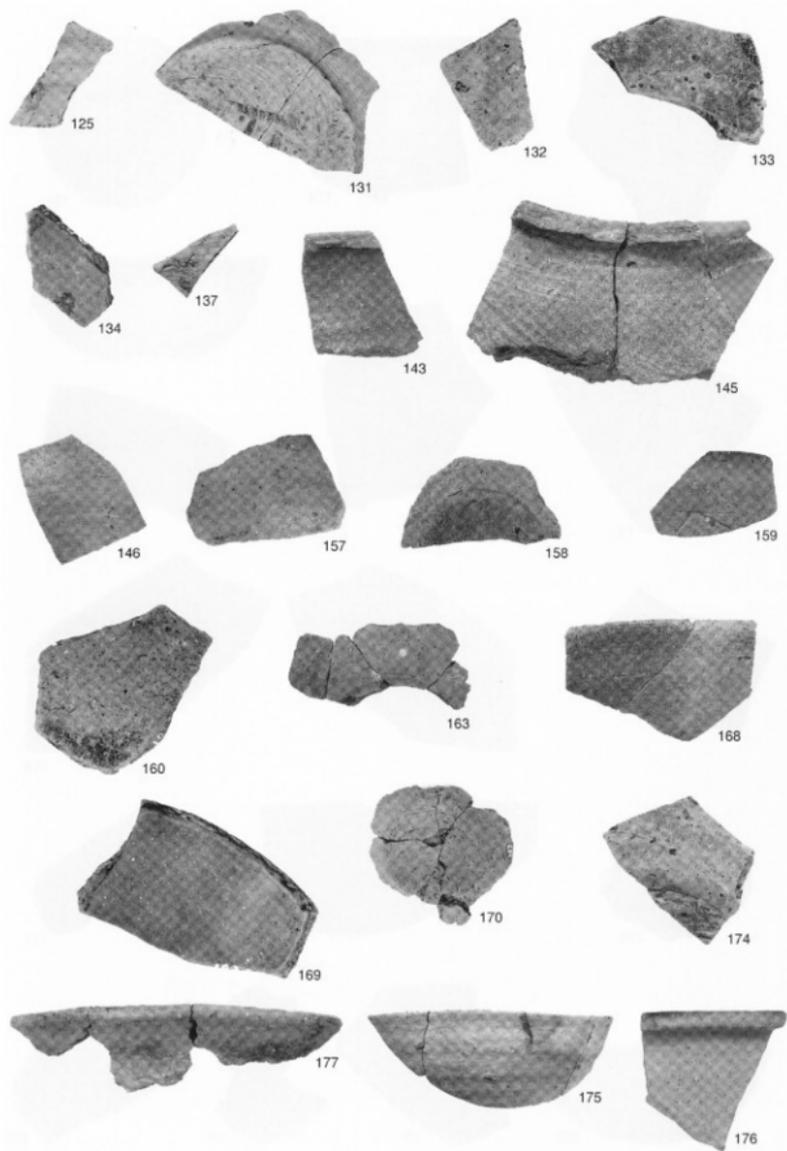
写真図版24 R Z 007出土土師器・須恵器 (7)



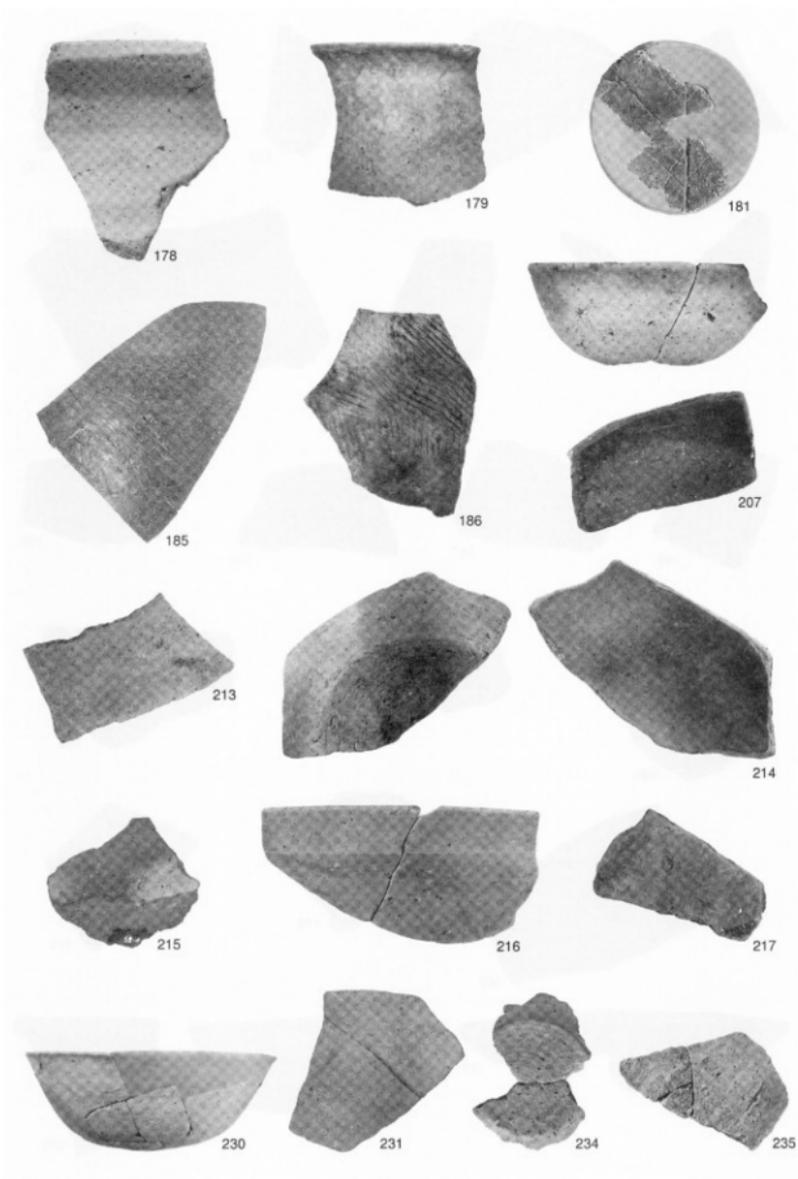
写真図版25 R Z 007出土土師器・須恵器(8)



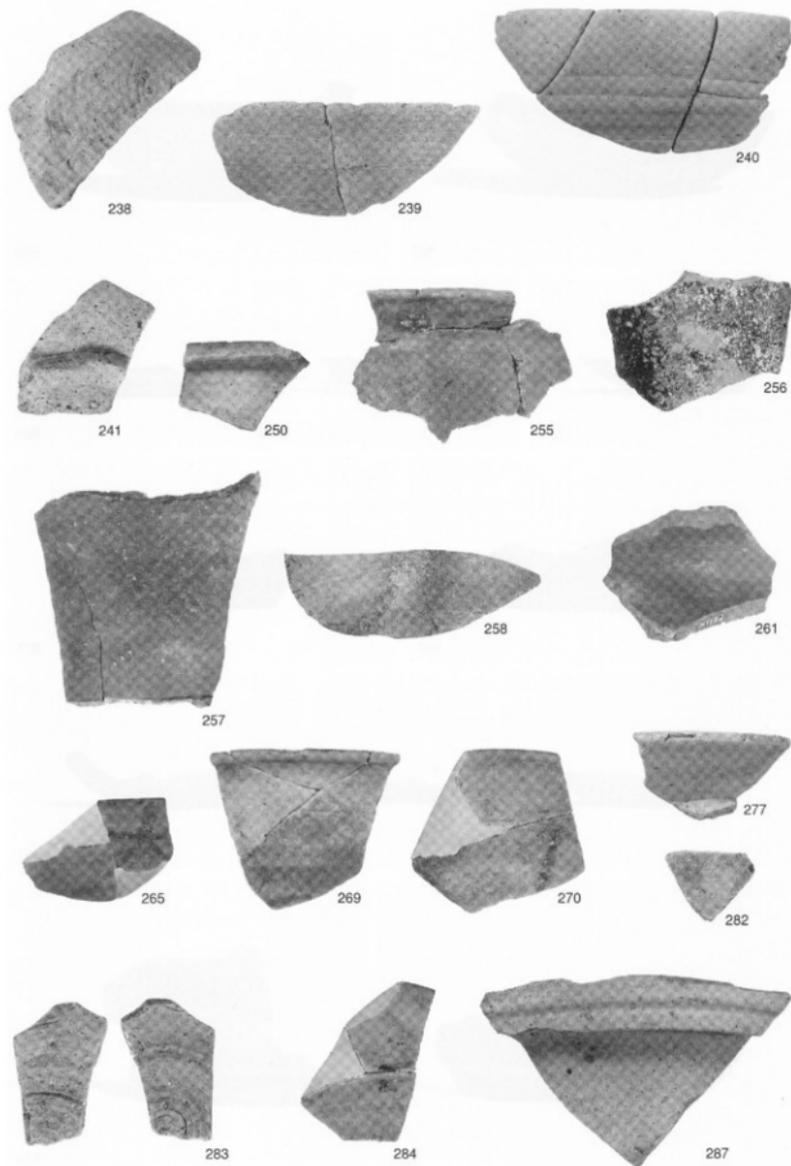
写真図版26 R Z 007出土土師器・須恵器 (9)



写真図版27 R Z 007出土土師器・須恵器 (10)



写真図版28 R Z 007出土土師器・須恵器 (11)



写真図版29 R Z 007出土土師器・須恵器 (12)



561



562



563



565



569



567



571



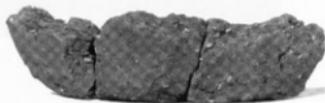
574



575



581

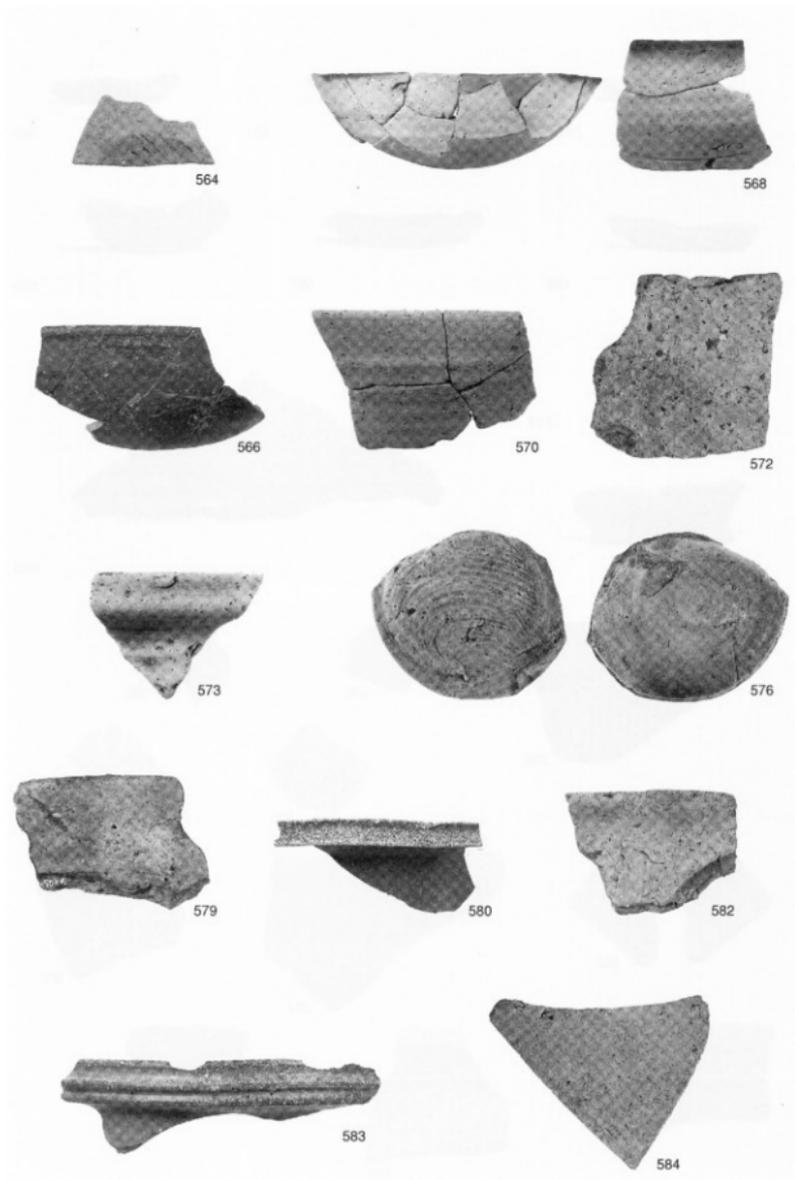


577

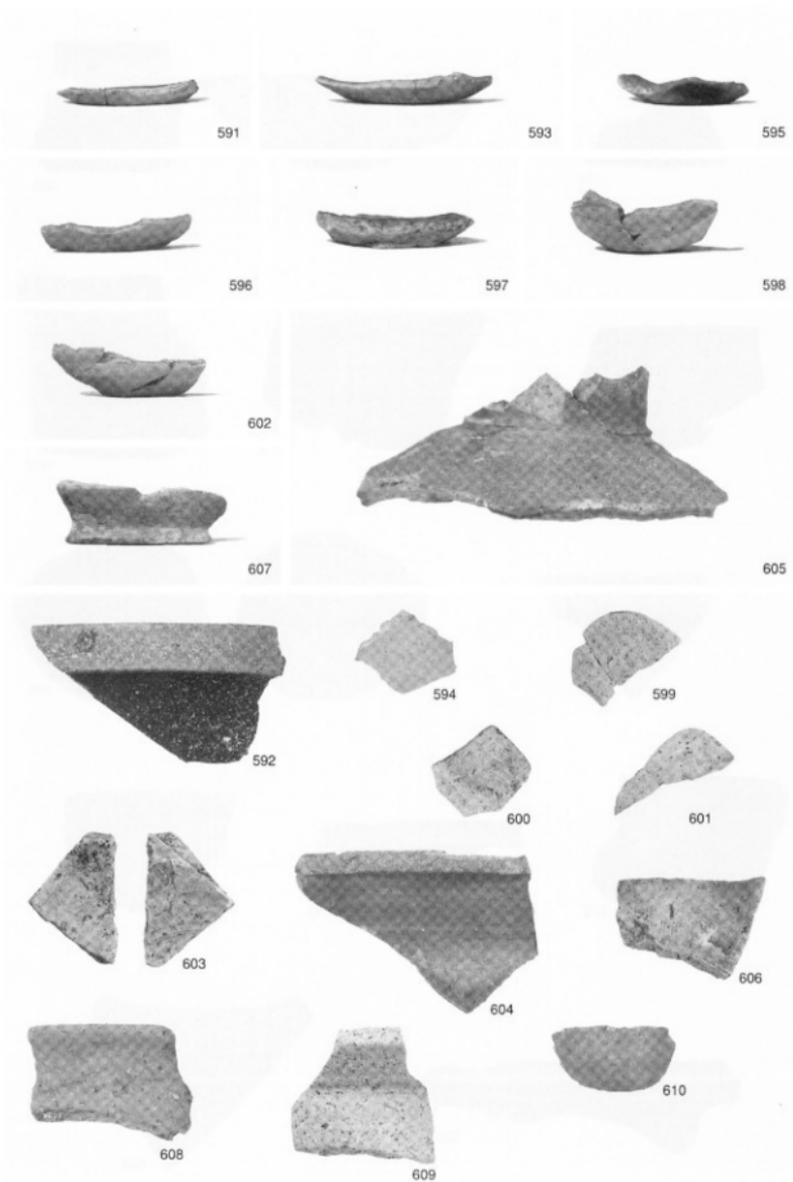


578

写真図版30 R Z 008出土土師器・須恵器 (1)



写真図版31 R Z 008出土土師器・須恵器 (2)



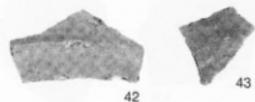
写真図版32 遺構外出土土師器・須恵器



13

14

RG006



42

43

RZ004



612



613



614



615



616



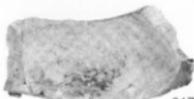
622



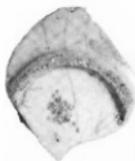
623



617



618



619



620



621



624



625



626



626

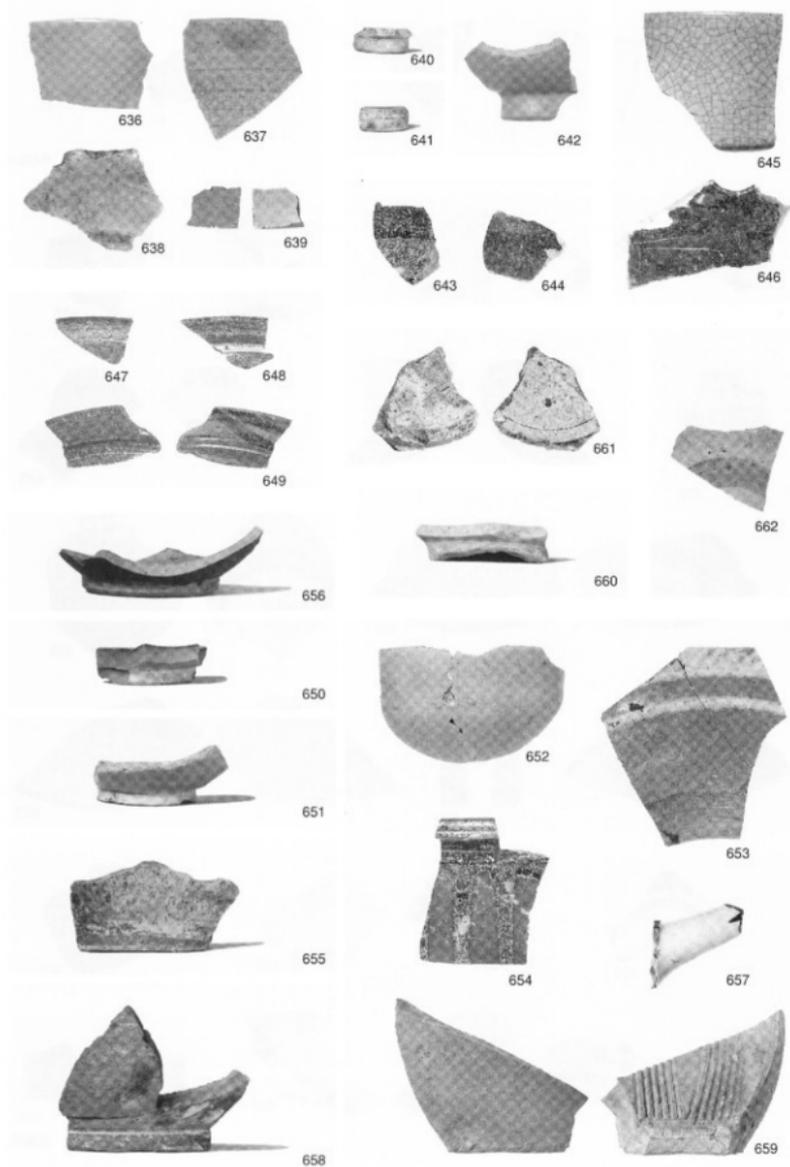


627

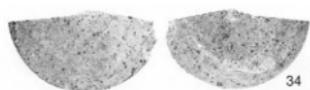


629

遺構外



写真図版34 遺構外出土陶磁器



34

RZ002



2

3

36



58

RZ006



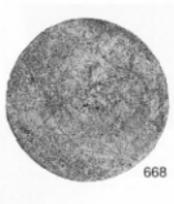
663

遺構外



611

遺構外



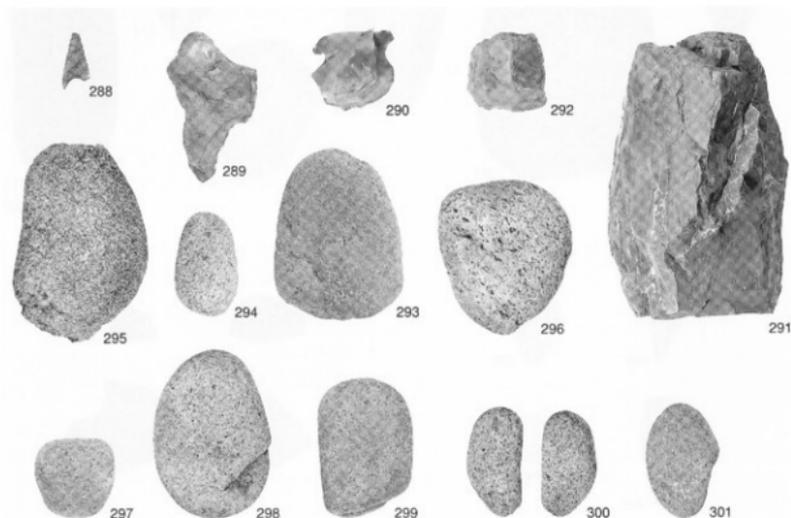
668

遺構外



35

RD010・RZ003



288

290

292

289

295

294

293

296

291

297

298

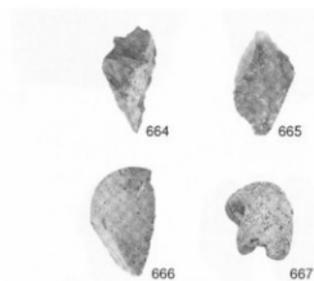
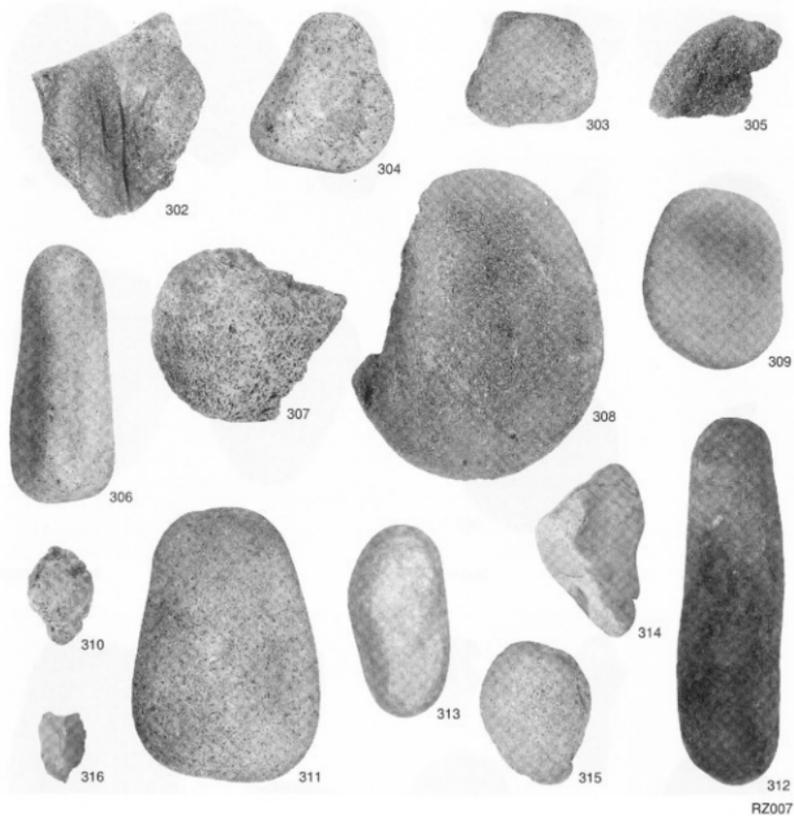
299

300

301

RZ007

写真図版35 出土製品・石製品・磁器製品・石器



遺構外

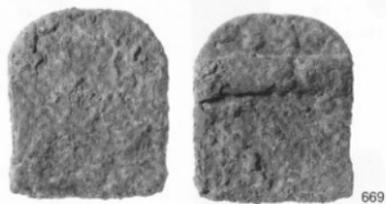


両面の縁が厚減した剥片状の礫

写真図版36 出土石器



RZ007



遺構外



写真図版38 R G 006・R Z 002出土木製品



写真図版39 R Z 007出土木製品 (1)



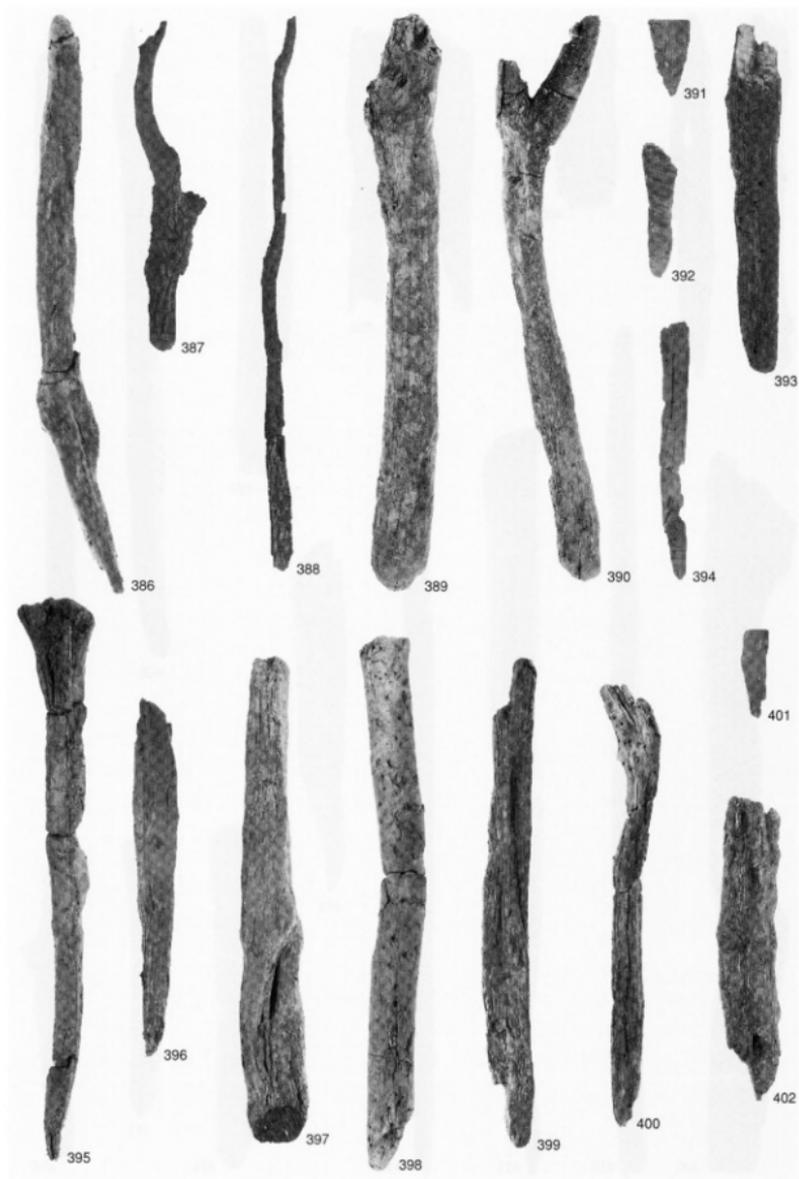
写真図版40 R Z 007出土木製品 (2)



写真図版41 R Z 007出土木製品 (3)



写真図版42 R Z 007出土木製品 (4)



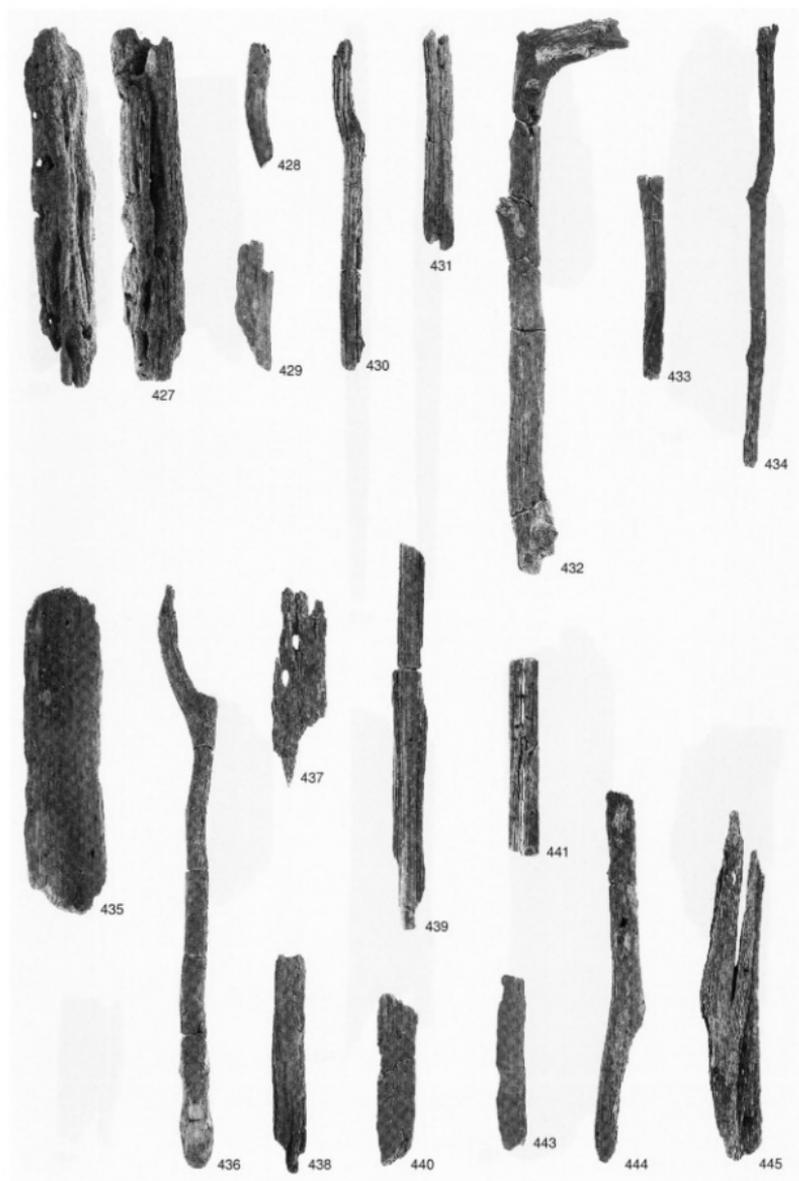
写真図版43 R Z 007出土木製品 (5)



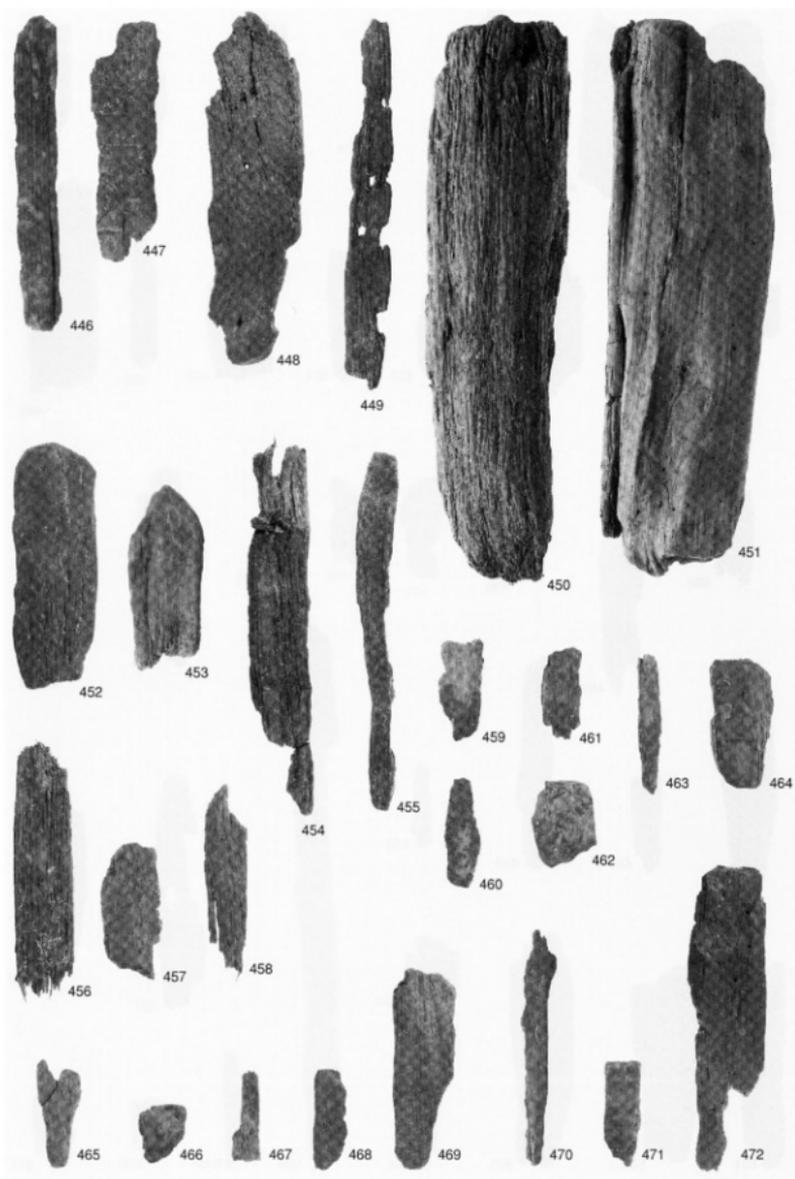
写真図版44 R Z 007出土木製品 (6)



写真図版45 R Z 007出土木製品 (7)



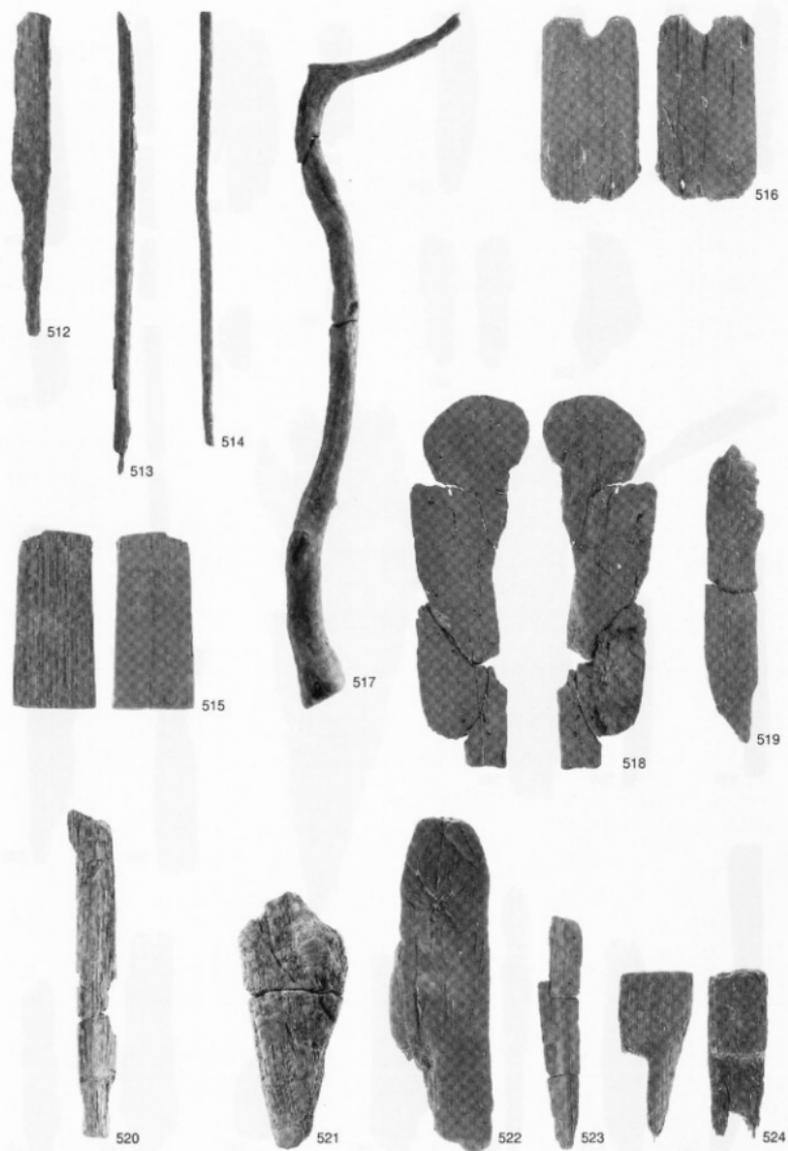
写真図版46 R Z 007出土木製品 (8)



写真図版47 R Z 007出土木製品 (9)



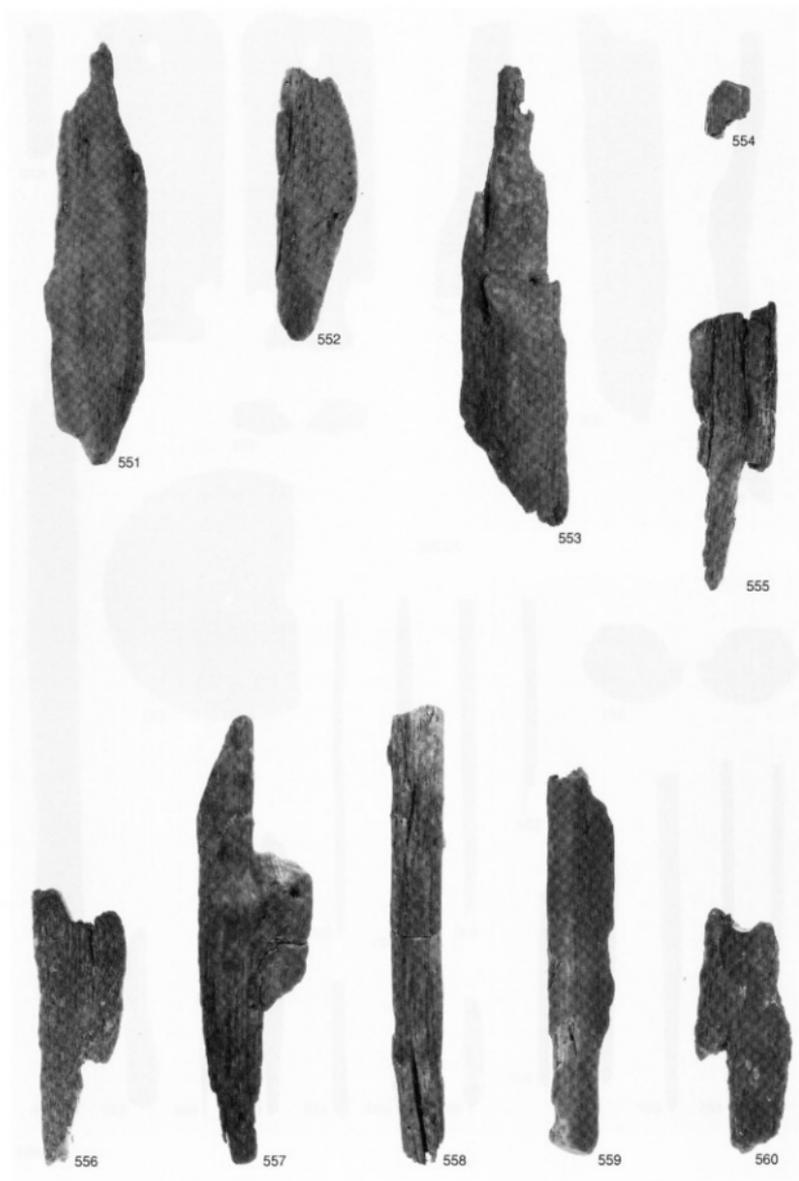
写真図版48 R Z 007出土木製品 (10)



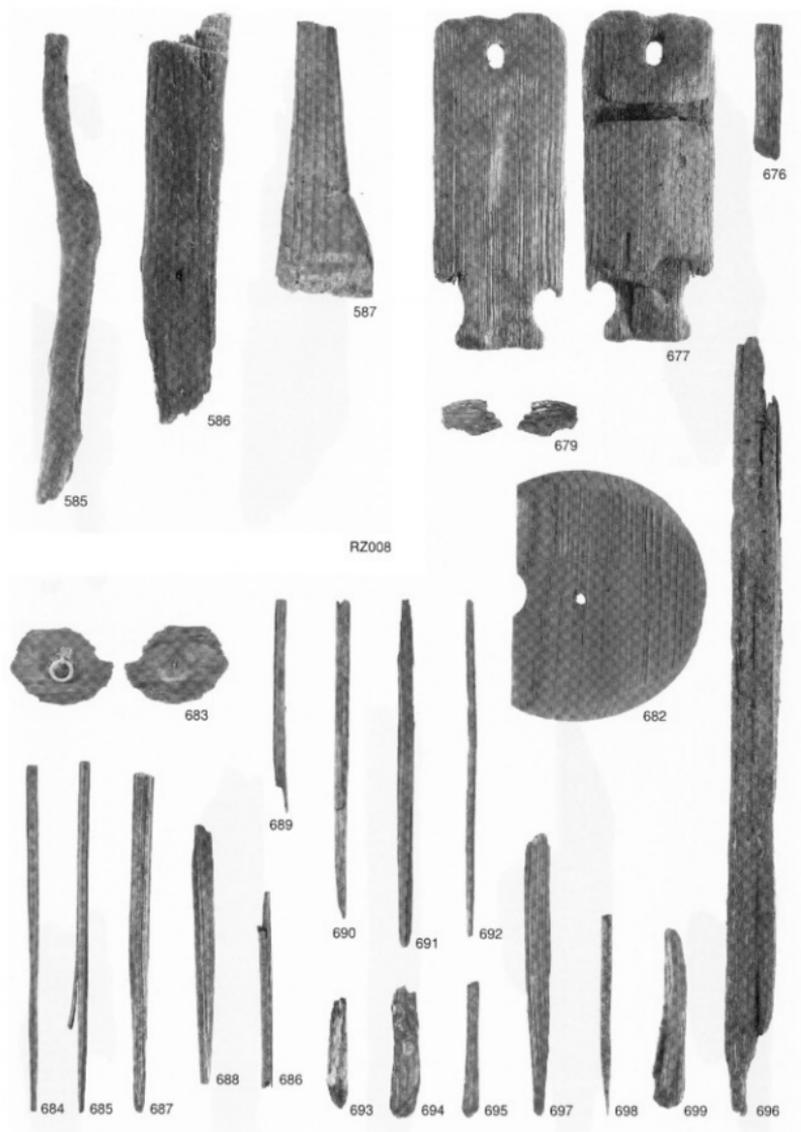
写真図版49 R Z 007出土木製品 (11)



写真図版50 R Z 007出土木製品 (12)



写真図版51 R Z 007出土木製品 (13)



遺構外

写真図版52 R Z 008・遺構外出土木製品（1）



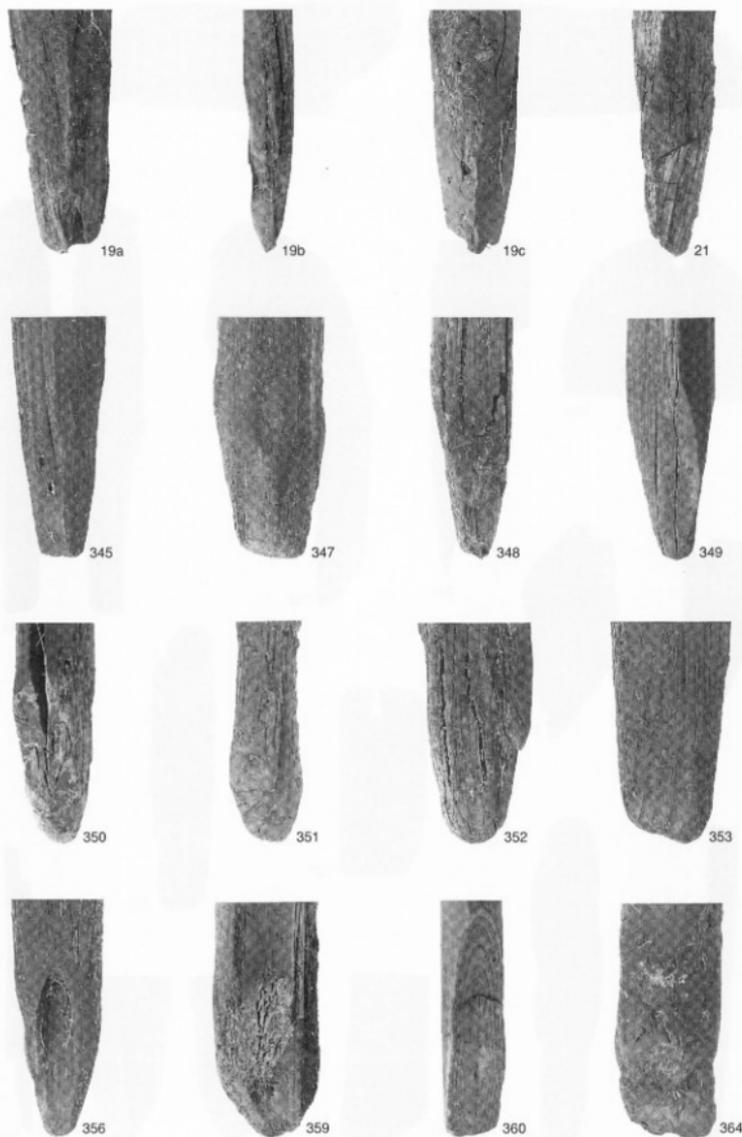
写真図版53 遺構外出土木製品（2）



写真図版54 遺構外出土木製品（3）



写真図版55 遺構外出土木製品(4)



写真図版56 杭加工部位アップ（1）



365



371



372



374



375



376



377



381



385



386



388



389



390



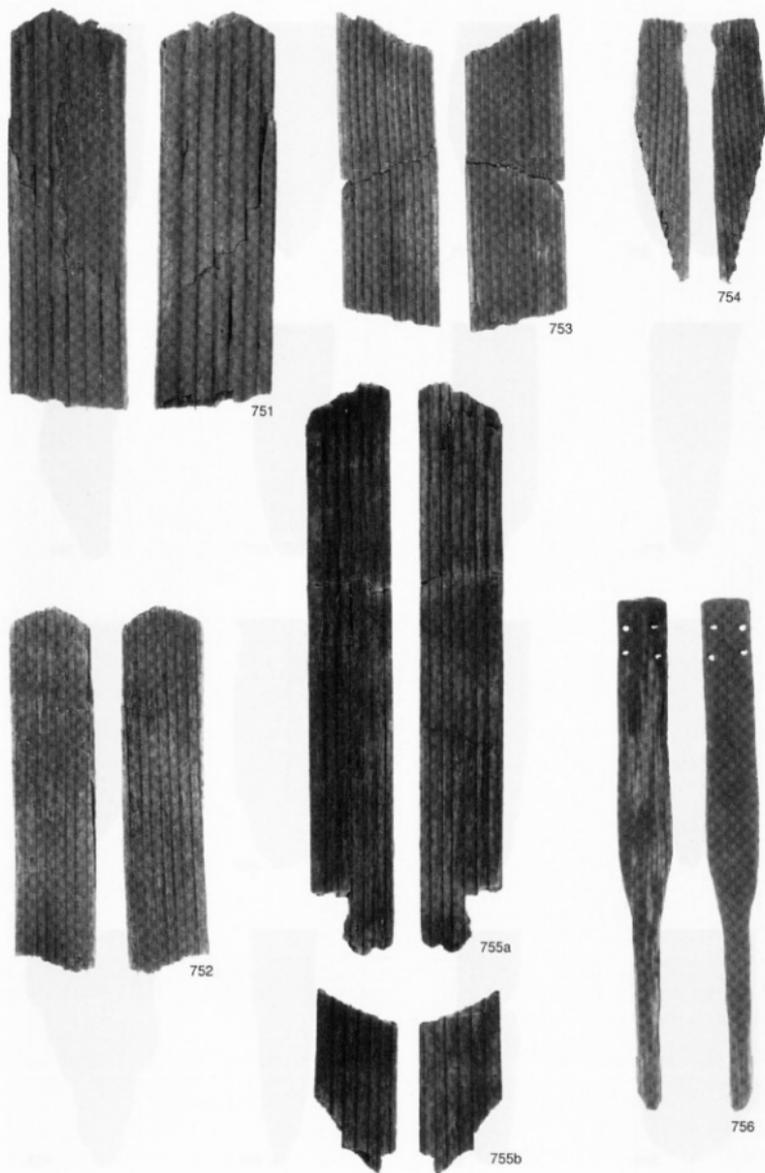
395



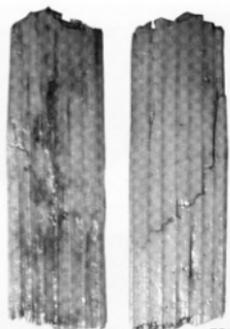
396



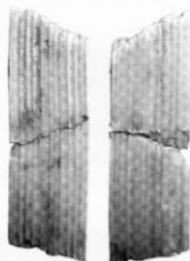
402



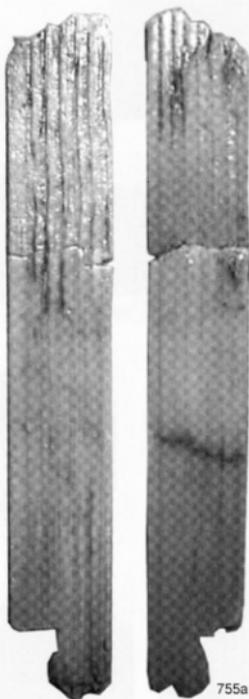
写真図版58 文字資料(1)



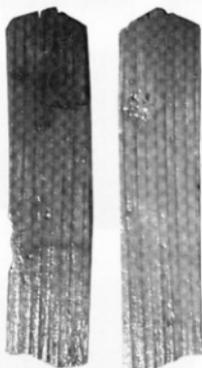
751



753



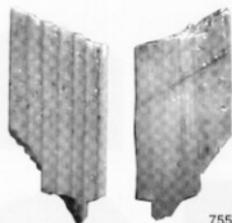
755a



752

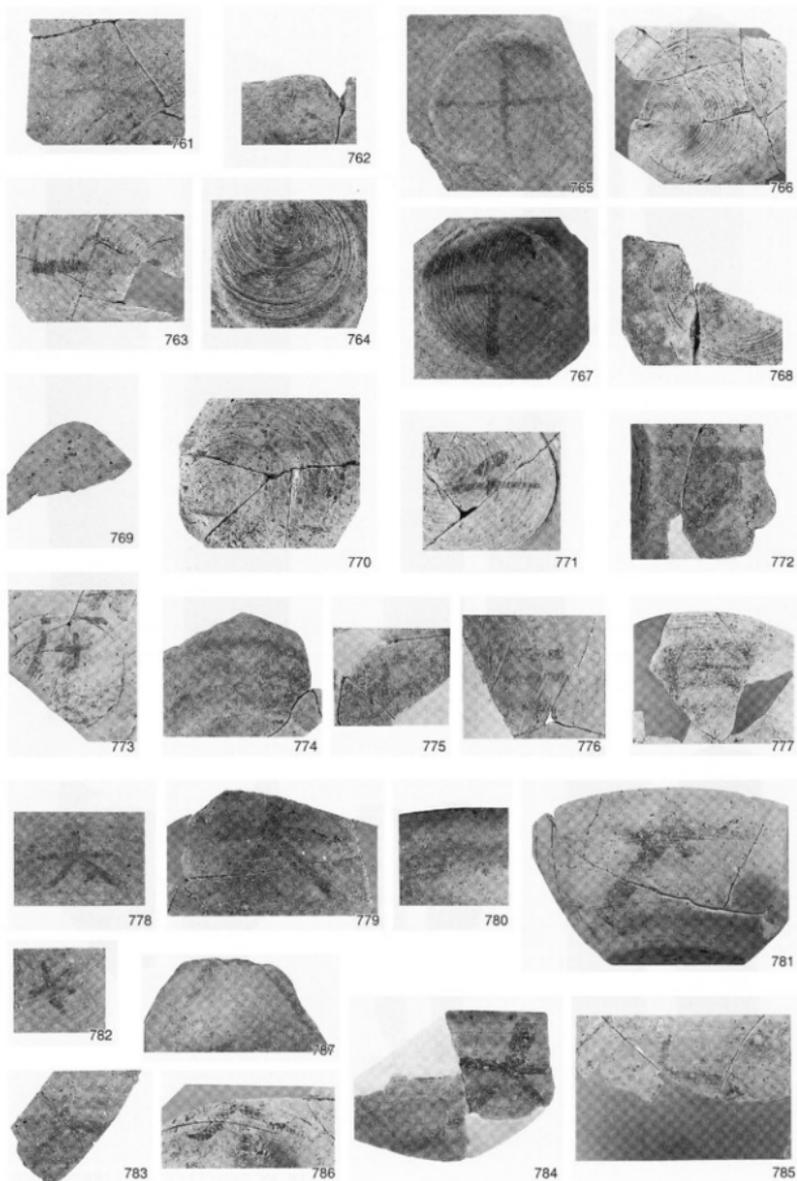


754

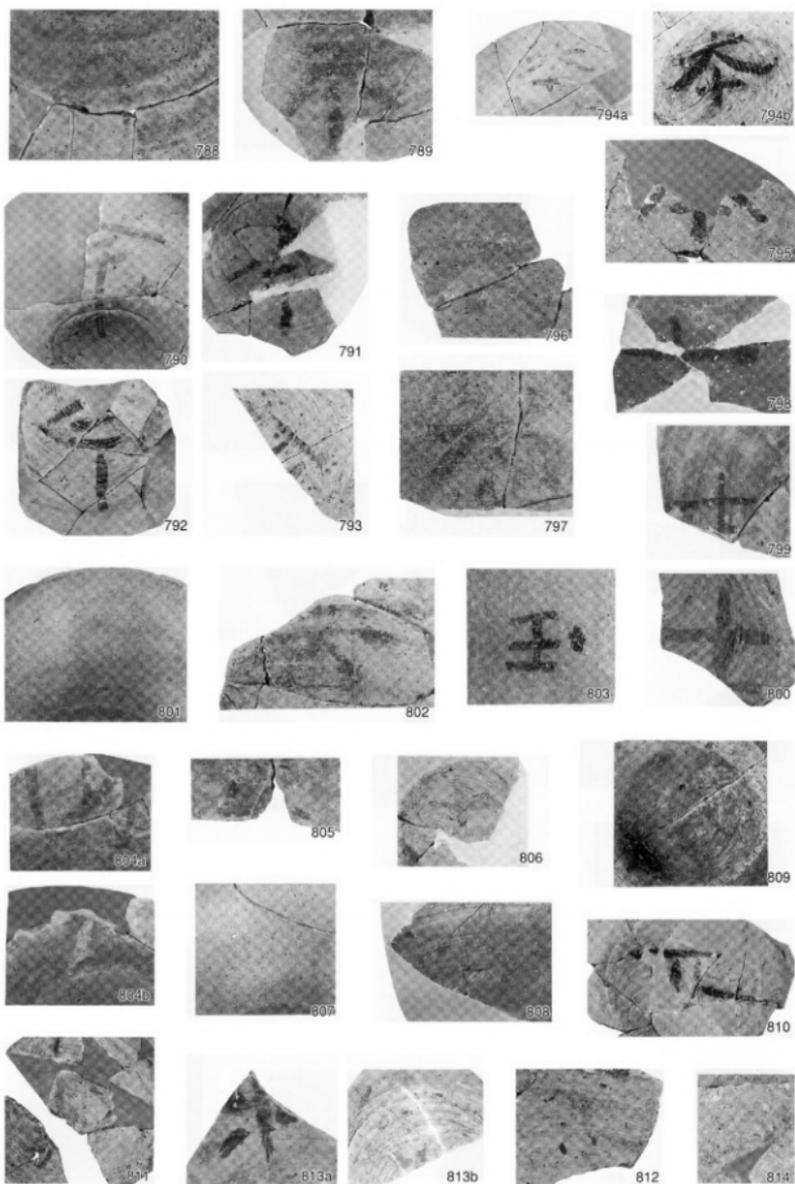


755b

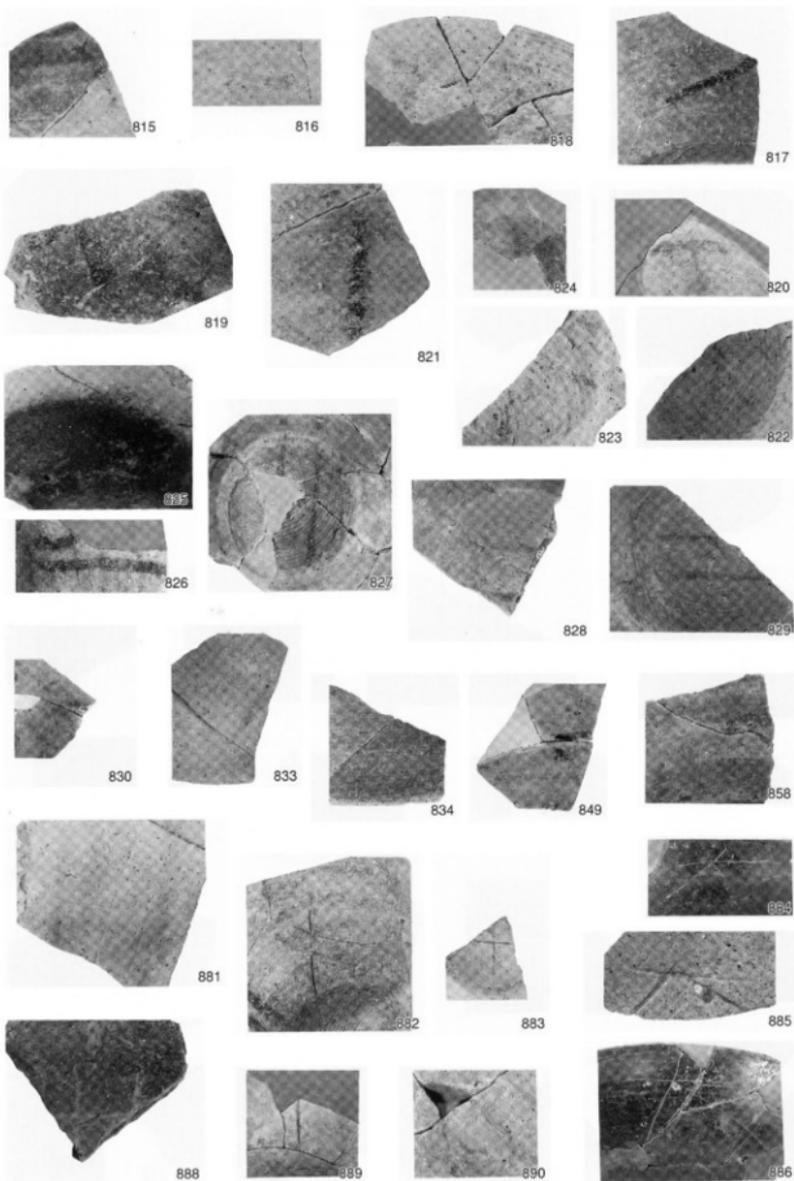
SONY製 DSC-F717のナイトショットモードで撮影(複製修正あり)



写真図版60 文字資料(3)



写真図版61 文字資料(4)



写真図版62 文字資料(5)



903



906



913



914



918



919



920a



920b



923



924a



924b



930



928a



928b



931



933

RZ007出土種子



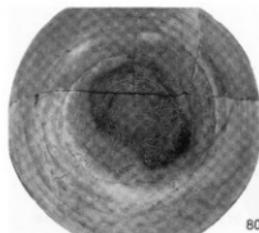
940

RZ008出土種子



747

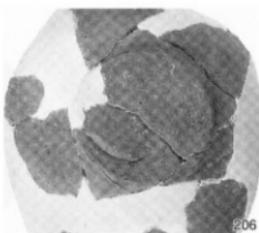
出土獣歯



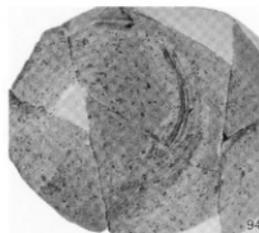
回転糸切り：环



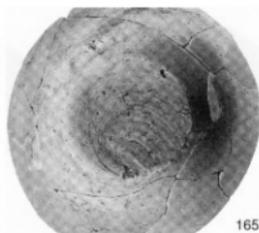
回転糸切り：环



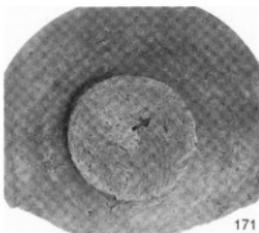
回転糸切り：环



回転糸切り：环



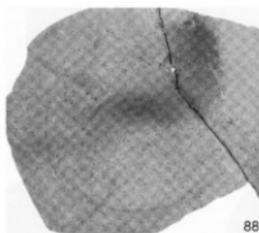
回転糸切り：环



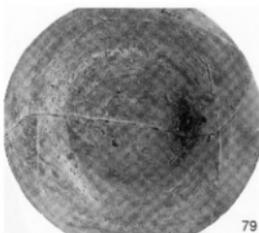
回転糸切り：环



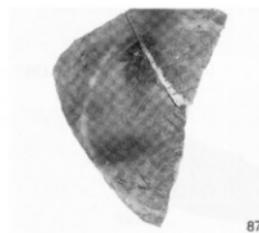
回転糸切り：环



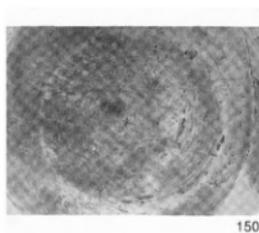
回転糸切り→ナデ：环



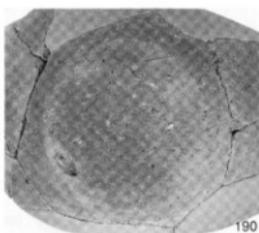
回転糸切り→回転ヘラケズリ：环



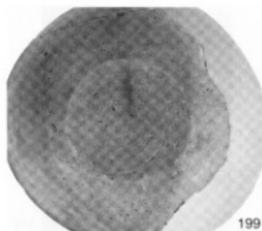
→回転ヘラケズリ：环



→回転ヘラケズリ：环

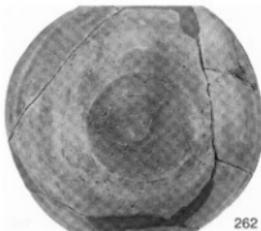


→回転ヘラケズリ：环



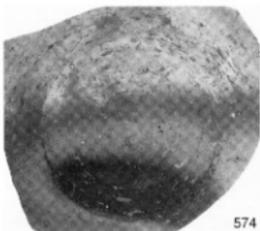
199

→回転ヘラケズリ：坏



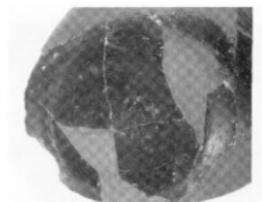
262

→回転ヘラケズリ：坏



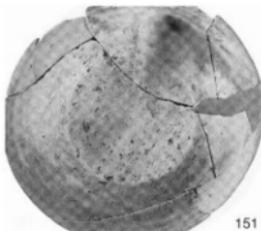
574

→回転ヘラケズリ：坏



92

回転ヘラケズリ、ミガキ：坏



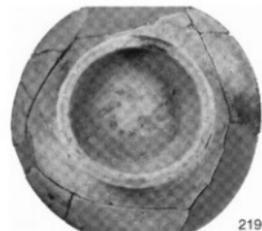
151

→ヘラケズリ：坏



220

回転糸切り→高台貼付：高台付坏



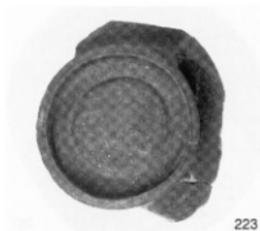
219

指オサエ→ナデ：高台付坏



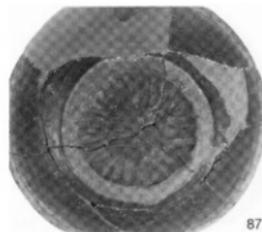
164

指オサエ→ナデ：高台付坏



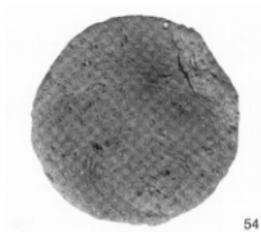
223

指オサエ→ナデ：高台付坏



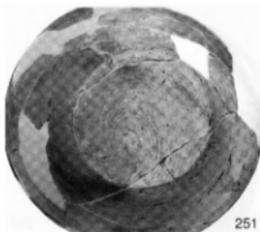
87

回転糸切り→指オサエ：土師器坏



54

回転糸切り：甕

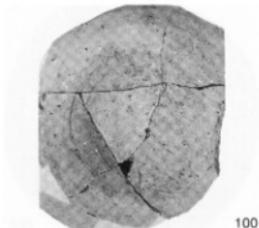


251

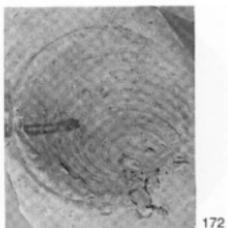
回転糸切り：甕



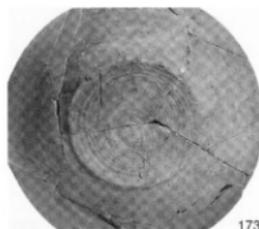
木葉痕：甕



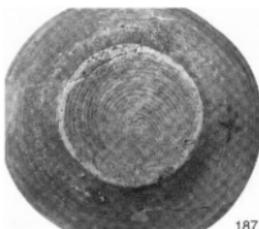
回転糸切り：坏



回転糸切り：坏



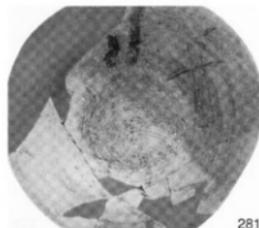
回転糸切り：坏



回転糸切り：坏



回転糸切り：坏



回転糸切り：坏



回転糸切り：甕



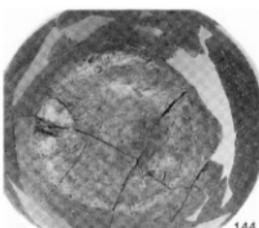
砂底：甕



砂底：甕



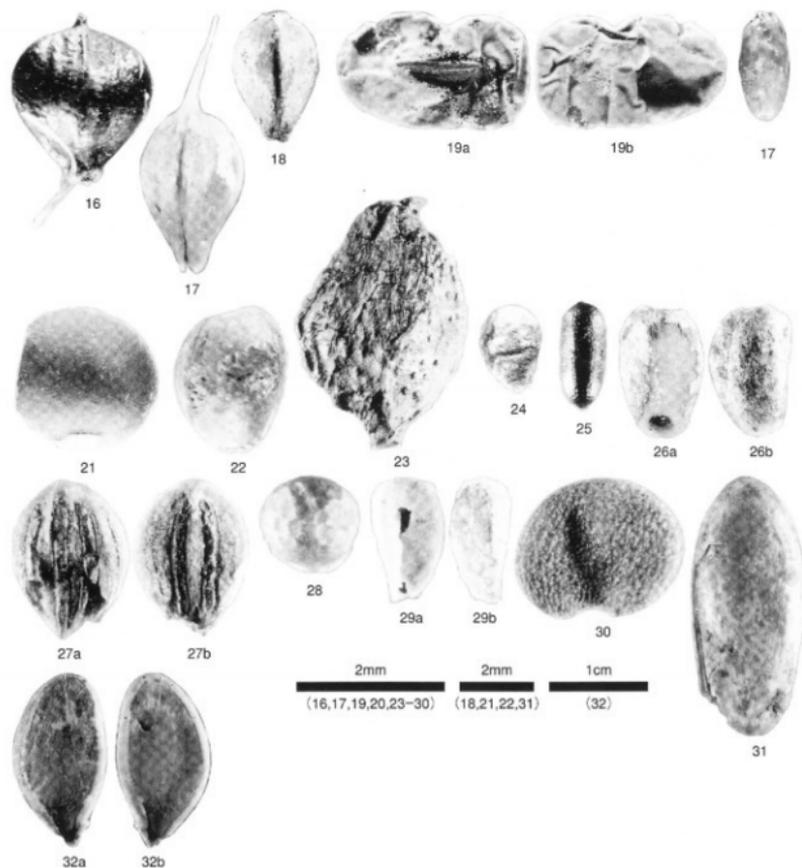
ハケ：甕



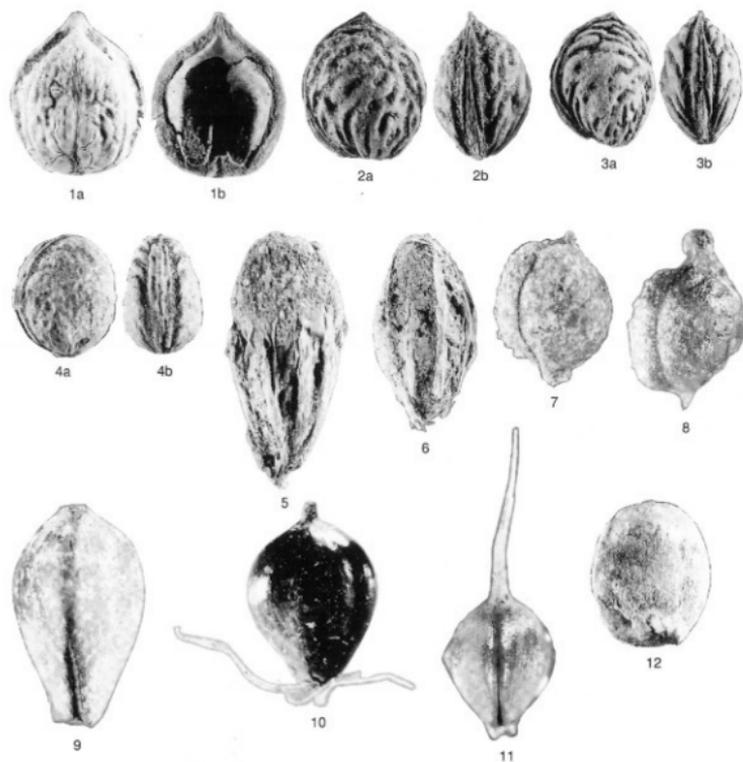
無調整：甕



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. オニグルミ 核 (単体No15 : RZ007・15層) | 2. ヤマグワ 種子 (土壌No1 : RZ007・6層) |
| 3. モモ 核 (単体No13 : RZ007・15層) | 4. モモ 核 (食害痕) (単体No28 : RZ002・層土上位) |
| 5. スモモ 核 (単体No13 : RZ007・15層) | 6. サクラ属 核 (単体No25 : RZ007・4~10層) |
| 7. クマヤナギ属 核 (単体No23 : RZ007・4~10層) | 8. ブドウ属 種子 (単体No23 : RZ007・4~10層) |
| 9. ニワトコ 核 (土壌No1 : RZ007・6層) | 10. ミクリ属 果実 (土壌No1 : RZ007・6層) |
| 11. ヒルムシロ属 果実 (土壌No1 : RZ007・6層) | 12. ヘラオモダカ 果実 (土壌No1 : RZ007・6層) |
| 13. オモダカ属 果実 (土壌No1 : RZ007・6層) | 14. オモダカ科 種子 (土壌No1 : RZ007・6層) |
| 15. イネ 胚乳・穎 (土壌No23 : RZ007・4~10層) | |

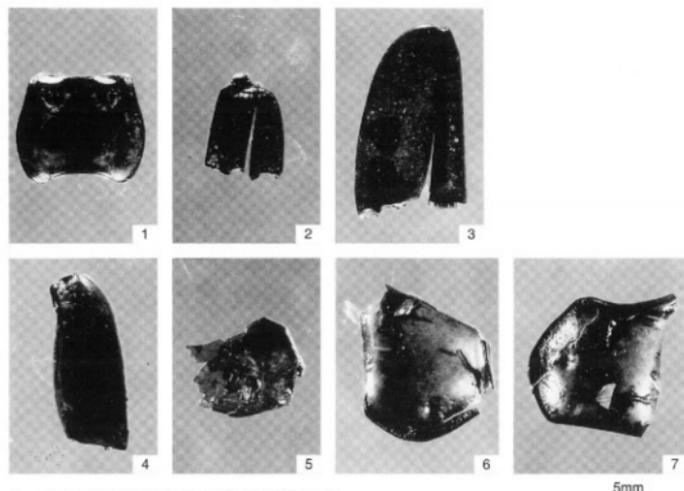


- | | |
|--|--------------------------------------|
| 16. ホタルイ属 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 17. カヤツリグサ科 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 18. カヤツリグサ科 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 19. イボクサ 種子 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 20. ミズアオイ属 種子 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 21. カナムグラ 種子 (単体No.23 : RZ007・4~10層) |
| 22. アサ 種子 (単体No.23 : RZ007・4~10層) | 23. タデ属 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 24. キジムシロ属-ヘビイチゴ属-オランダイチゴ属 核 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 26. フサモ属 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 25. オトギリソウ属 種子 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 28. イヌコウジュ属 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 27. セリ科 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 30. ナス科 種子 (土壌No.1 : RZ007・6層) |
| 29. シロネ属 果実 (土壌No.1 : RZ007・6層) | 32. ウリ科 種子 (単体No.21 : RG006・覆土下位) |
| 31. メロン類 種子 (単体No.26 : B区・Ⅵa層) | |

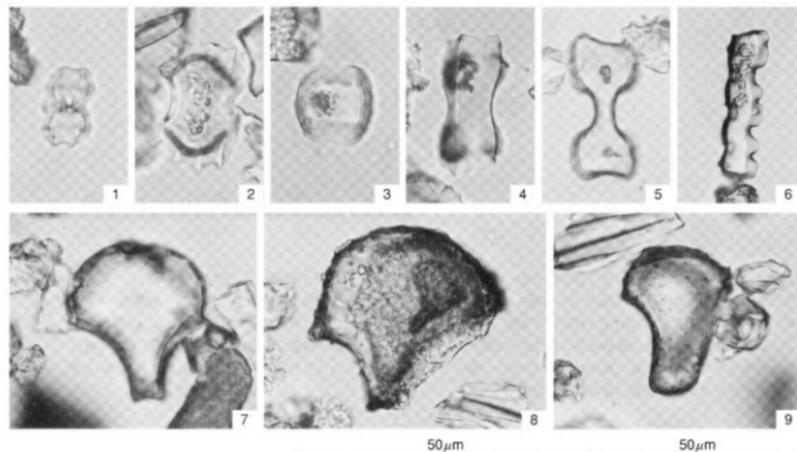


1. オニグルミ 核 (単体No.⑦: RZ007・3~4層)
 3. モモ 核 (単体No.①: RZ007・3~4層)
 5. ミクリ属 果実 (単体No.⑨: RZ007・4層)
 7. ヒルムシロ属 果実 (単体No.⑩: RZ007・6層)
 9. カヤツリグサ科 果実 (単体No.⑪: RZ007・4層)
 11. カヤツリグサ科 果実 (単体No.⑫: RZ007・6層)

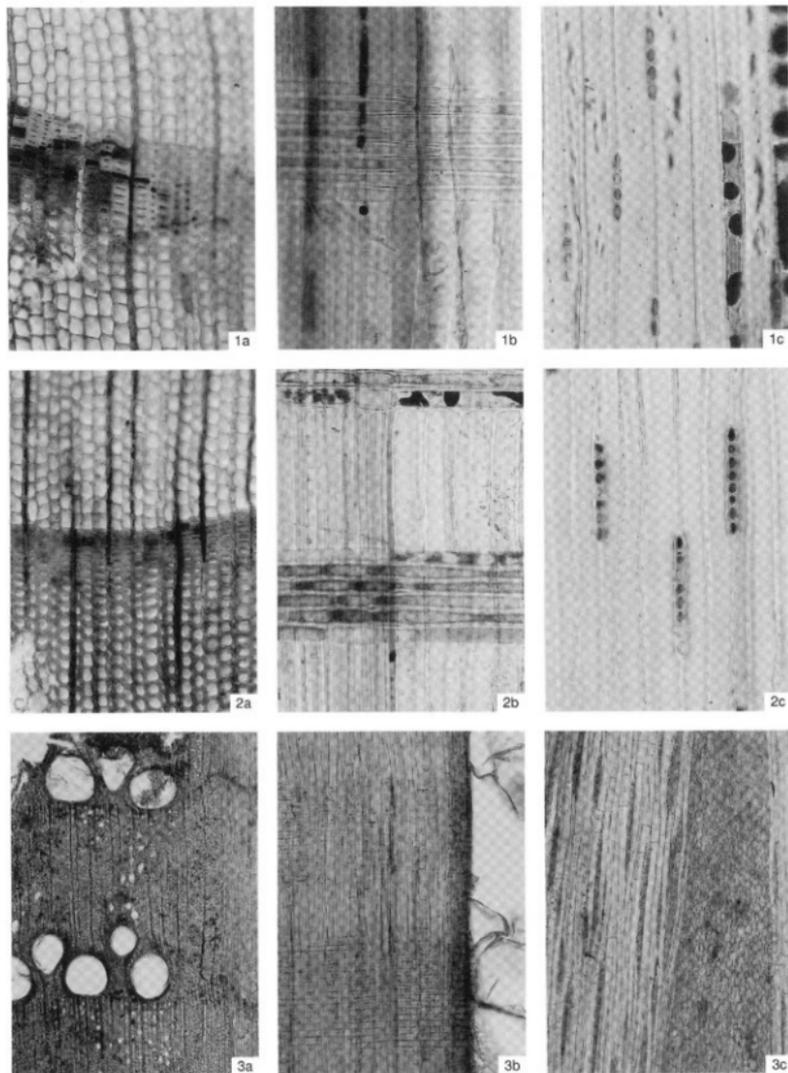
2. モモ 核 (単体No.①: RZ007・3~4層)
 4. スモモ 核 (単体No.⑤: RZ007・12層)
 6. ミクリ属 果実 (単体No.⑨: RZ007・4層)
 8. ヒルムシロ属 果実 (単体No.⑫: RZ007・6層)
 10. カヤツリグサ科 果実 (単体No.⑩: RZ007・6層)
 12. アサ 種子 (単体No.⑬: RZ007・4層)



1. アカガネオオゴミムシ (No.104: RZ007・12層)
 2. ナガゴミムシ属の一種 (No.108: RZ007・10~15層)
 3. ガムシ (No.111: A区・I b層)
 4. ガムシ (No.105: RZ007・4層)
 5. サクラコガネ属の一種 (No.110: RZ007・4層)
 6. センチコガネ-オオセンチコガネ (No.101: RZ007・4層)
 7. センチコガネ-オオセンチコガネ (No.101: RZ007・4層)



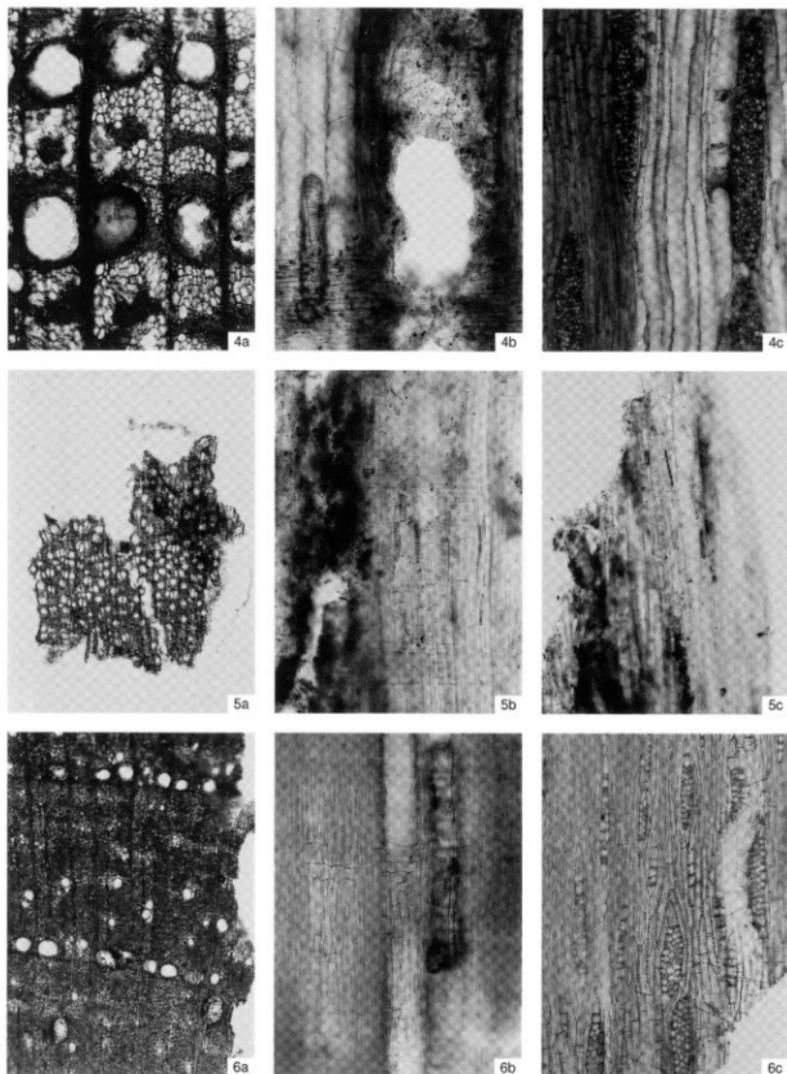
1. イネ属短細胞珪酸体 (No.2: RZ007・6層)
 2. チゴザサ属短細胞珪酸体 (No.2: RZ007・6層)
 3. ヨシ属短細胞珪酸体 (No.2: RZ007・6層)
 4. コブナグサ属短細胞珪酸体 (No.2: RZ007・6層)
 5. ススキ属短細胞珪酸体 (No.1: RZ007・4層)
 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (No.1: RZ007・4層)
 7. イネ属機動細胞珪酸体 (No.1: RZ007・4層)
 8. ヨシ属機動細胞珪酸体 (No.2: RZ007・6層)
 9. ウシクサ属機動細胞珪酸体 (No.1: RZ007・4層)



1. スギ (No.9 5次)
2. アスナロ (No.14 5次)
3. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (No.21 5次)

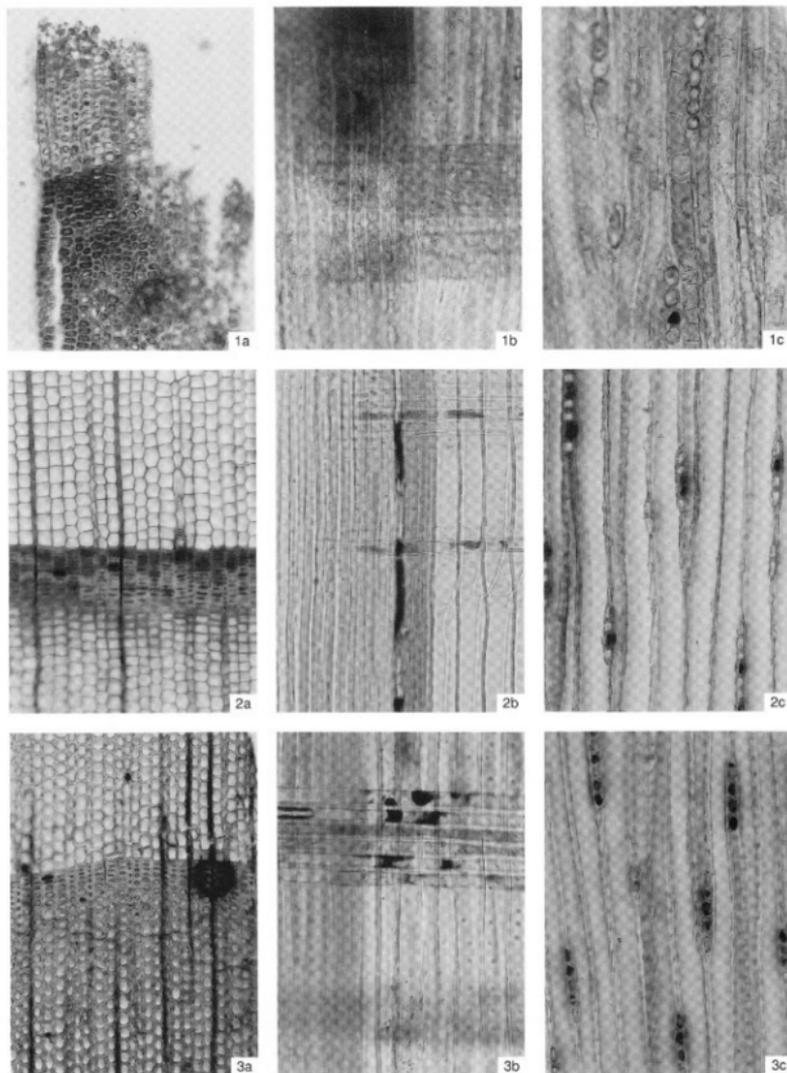
a: 木口, b: 径目, c: 板目

■ 200 μ m : 3a
 ■ 200 μ m : 1-2a-3b,c
 ■ 100 μ m : 1-2b,c



4. ケヤキ (No.7 5次)
 5. アジサイ属 (No.8 5次)
 6. スルデ (No.23 5次)
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μm : a
 200 μm : bc



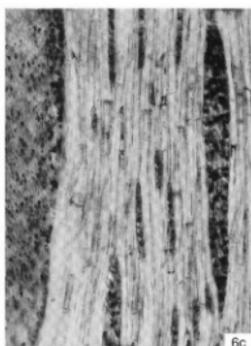
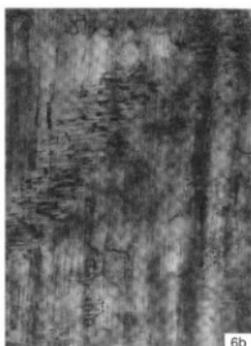
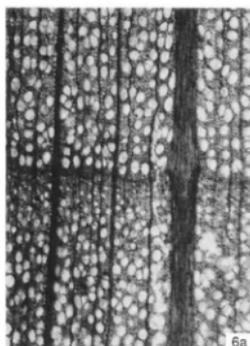
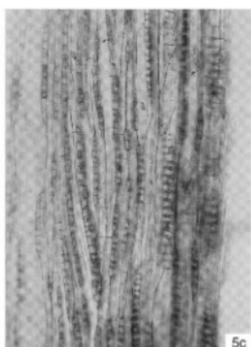
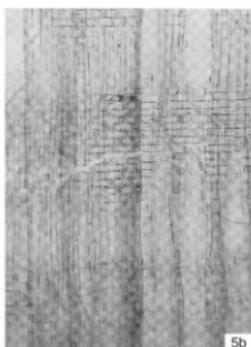
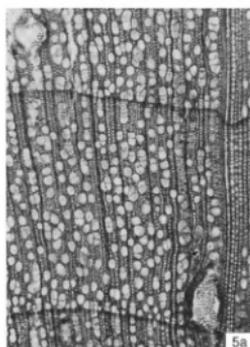
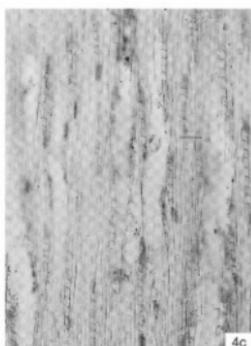
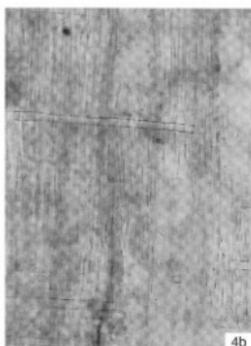
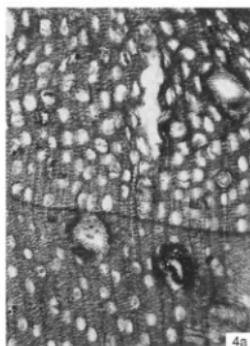
1. マツ属複維管束亜属 (No.39 6次)

2. スギ (No.16 6次)

3. アスナロ (No.21 6次)

a: 木口, b: 柎目, c: 板目

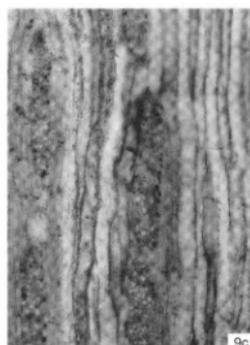
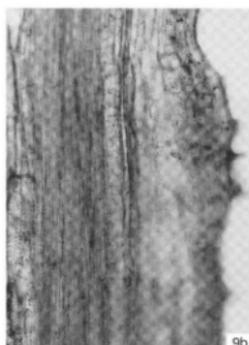
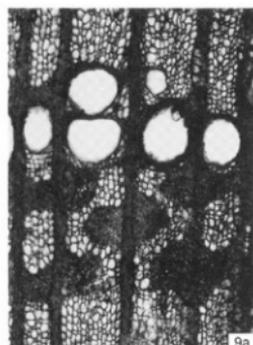
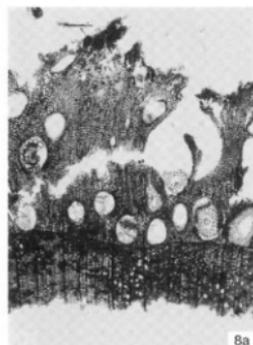
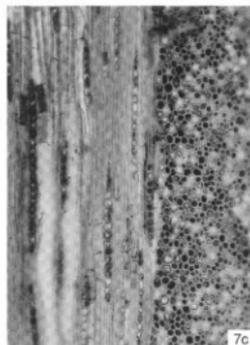
200 μm : a
100 μm : bc



4. ヤナギ属 (No.43 6次)
 5. ハンノキ属ハンノキ亜属 (No.63 6次)
 6. プナ属 (No.1 6次)

a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μm : a
 200 μm : bc



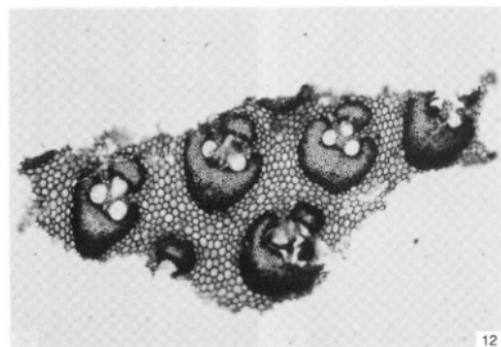
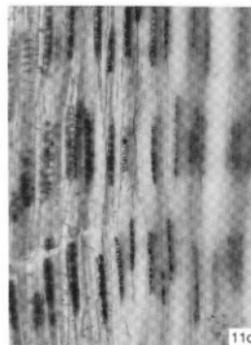
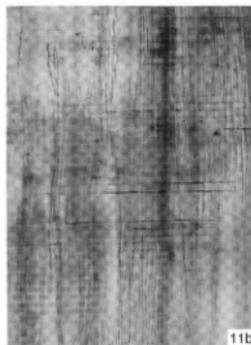
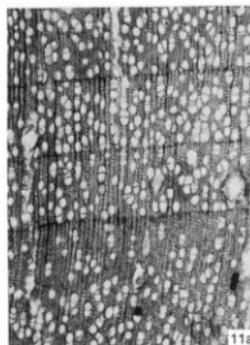
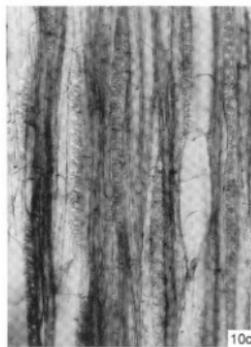
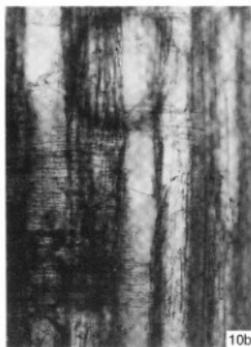
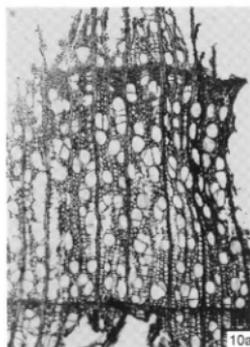
7. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (No.51 6次)

8. クリ (No.46 6次)

9. ケヤキ (No.10 6次)

a: 木口, b: 径目, c: 板目

200 μm : a
200 μm : bc



200 μm : 10・11a,12
 200 μm : 10・11b,c

10. モクレン属 (No.5 6次) a: 木口, b: 径目, c: 板目
 11. トチノキ (No.28 6次) a: 木口, b: 径目, c: 板目
 12. イネ科タケ亜科 (No.14 6次) 横断面
 a: 木口, b: 径目, c: 板目

報告書抄録

ふりがな	むかいなかのだていせきだい5・6じはくつちうさほうこくしょ							
書名	向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書							
副書名	盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第503集							
編者名	北村忠昭(編者) 早坂 淳 石崎高臣 パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	財団法人 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 Tel.019(638)9001							
発行年月日	2007年3月12日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°	°			
向中野館遺跡 第5次調査	岩手県盛岡市飯岡 新田2地割179-11ほか	03201	LE26-0205	39度 40分 41秒	141度 8分 19秒	20040715 ～ 20041008	467㎡	盛岡南新都市 開発整備事業 に伴う緊急発 掘調査
向中野館遺跡 第6次調査	岩手県盛岡市飯岡 新田2地割171 3ほか	03201	LE26-0205	39度 40分 41秒	141度 8分 18秒	20040607 ～ 20041008	3,074㎡	盛岡南新都市 開発整備事業 に伴う緊急発 掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
向中野館遺跡 第5次調査	集落跡	平安時代	包含層1箇所	土師器・須恵器			文字資料が多数出土。 9世紀後半を中心とする 時期の木製品が多量出土	
				石器				
	散布地			木製品 自然遺物(種子・昆虫)				
	集落跡	不明	溝跡1条	陶磁器				
向中野館遺跡 第6次調査	集落跡	平安時代	土坑1基 包含層1箇所 遺物集中部2箇所 帯状縦溝集部1箇所	土師器・須恵器			「町」と墨書された9世紀 前半の須恵器出土。 墨書土器・胡書土器出土。 木簡出土。 9世紀後半を中心とする 時期の木製品が多量出土	
				石器				
	城館跡			金銅製品(小刀・刀子) 木製品 木簡 自然遺物(種子・昆虫)				
	中區			陶磁器 石器 木製品 木簡				
	散布地	近世以降		陶磁器 土製品・磁器製品 金属製品(鉋、鋤管等) 古銭(寛永通宝) 木製品			堀跡から珠洲産と推定され る掘鉢出土。 堀跡から木簡2点出土	
	集落跡	不明	不明遺構3基	木製品				

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第503集
向中野館遺跡第5・6次発掘調査報告書

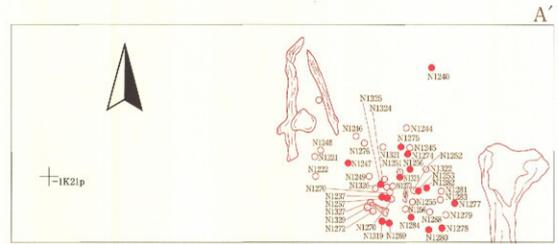
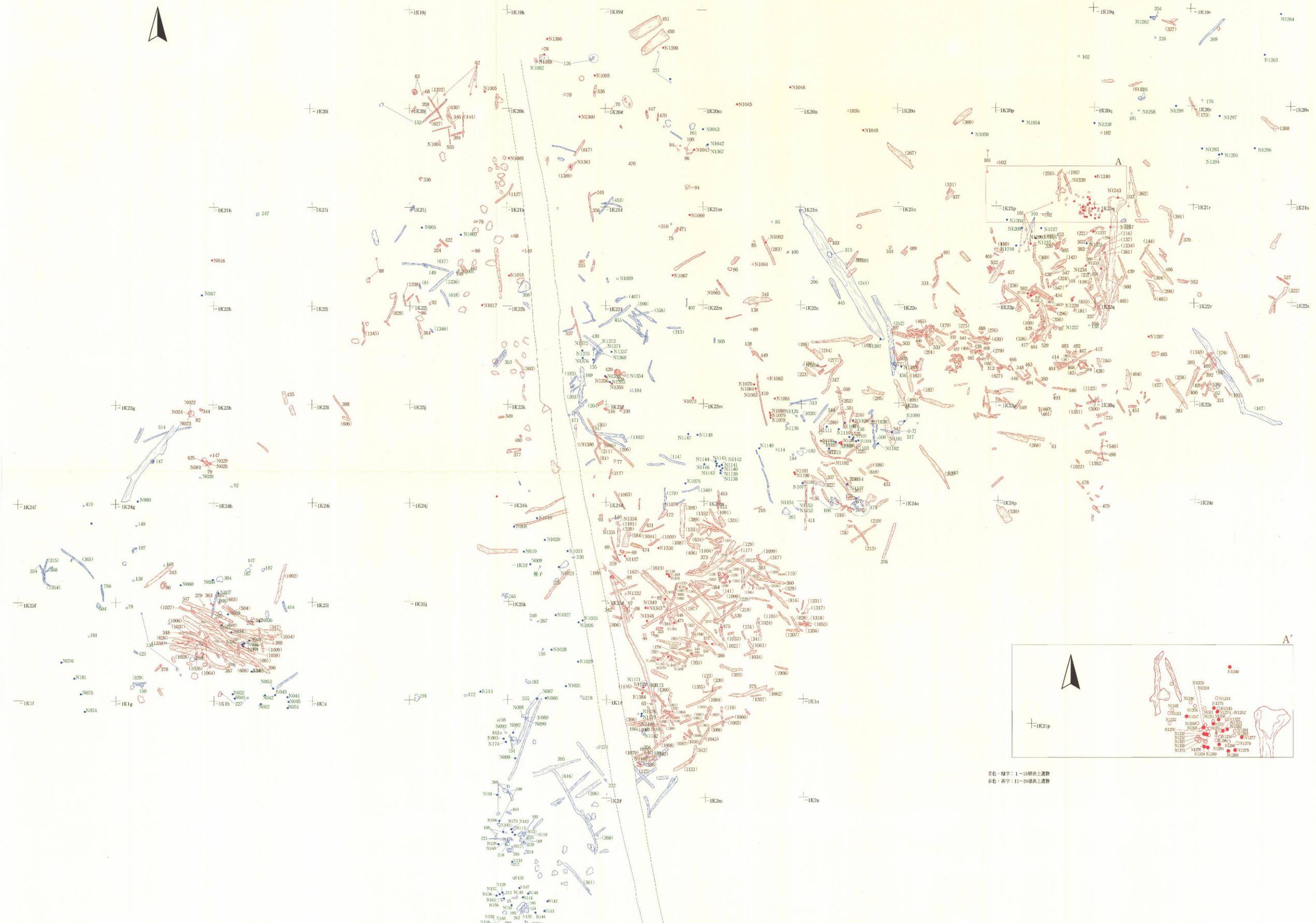
盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成19年3月6日

発行 平成19年3月12日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001
FAX (019) 638-8563

印刷 三陽印刷株式会社
〒020-0811 岩手県盛岡市川目町23-1 盛岡中央工業団地
電話 (019) 651-1321



青色・数字：1-10期出土遺物
 紅色・数字：11-20期出土遺物

附圖 R2007遺物出土狀況



